

平成 28 年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

生涯現役社会の構築に向けた、  
高齢者の社会参加や健康生きがいつくりのあり方に関する調査研究事業

## 報告書

平成 29 年 3 月

一般社団法人 全国老人給食協力会



## はじめに

地域包括ケアシステムの推進に向け、各市町村では介護予防・生活支援サービスの基盤整備が課題となっている。互助型の介護予防・生活支援サービスの担い手として元気高齢者の参加が期待されており、新たなサービス創出と、活動への参加拡大が求められる。

これまで全国老人給食協力は、住民参加による食事サービス団体相互の情報交換・支援と、担い手のスキルアップのための研修の他、実践を通じて把握されるサービスのニーズや課題にもとづく政策提言活動に取り組んできた。本会会員団体等約 130 の食事サービス団体では、多くの元気高齢者が食事サービス活動の第一線で活躍し地域福祉の増進に貢献していることから、高齢期において継続して参加できる生活支援活動の実践例として着目されよう。

本調査研究では、高齢期に地域で人と関わりながら、出番と役割をもって生活するための実践的手法の普及啓発をねらい、元気高齢者が多く参加する住民参加による食事サービス（配食・会食会）に着目し、アンケート調査及び訪問ヒアリング調査を実施した。さらに、ノウハウの整理・分析結果をもとに研修プログラムを開発し、協議体関係機関を主な対象に食支援の価値の共有化と地域資源の利活用を図るための研修会を 3 か所で行った。

本報告書は、食を通じた生活支援・介護予防活動の好事例収集、活動継続の手法の検討、普及啓発と関係機関の情報共有を図った一連の調査事業の成果である。本報告書および別添のリーフレットは、会員団体・関係機関に配布する他、当会公式ホームページにて電子版を公開予定である。

今回の調査研究事業の到達点と課題をふまえ、生活支援サービスの創出とより積極的な介護予防としての地域活動モデル・社会参加モデルの啓発を国・自治体他関係機関と協働で促すことで、生涯現役社会の基盤整備に貢献したいと考える。

平成29年3月吉日

一般社団法人全国老人給食協力は

代表理事 石田 惇子

# 目次

はじめに .....	1
目次 .....	2
第1章 調査研究事業の概略 .....	4
1 本事業の目的 .....	4
2 事業の内容 .....	4
第2章 食事サービス団体へのアンケート調査（「高齢者の食事サービスへの参加促進に関するアンケート調査」） .....	7
1 調査の方法 .....	7
2 結果1：各団体の概況 .....	7
3 結果2：ボランティアの募集等に関する状況 .....	9
4 結果3：活動種類ごとの集計結果 .....	13
5 まとめ .....	26
第3章 先進的サービス団体・地域への訪問ヒアリング調査 .....	29
1 調査の概要 .....	29
2 調査結果 .....	30
1) 特定非営利活動法人さっぽろ福祉支援ネット あいなび .....	31
2) 特定非営利活動法人いぶりたすけ愛 .....	34
3) 特定非営利活動法人ゆめみ〜る .....	38
4) 認定特定非営利活動法人あかねグループ .....	42
5) けやきグループ .....	46
6) 食事サービスふたばの会 .....	50
7) 実家の茶の間・紫竹 .....	54



8) 甲府・食事サービスをすすめる会 .....	58
9) 特定非営利活動法人支え合う会みのり .....	62
10) 特定非営利活動法人いきいき会 .....	66
11) 特定非営利活動法人フェリスモンテ .....	71
12) 東灘こどもカフェ .....	74
3  まとめ .....	78
第4章 研修会「食を通じた生活支援サービスの推進と高齢者の社会参加をすすめるために」 .....	82
1  研修会の概要 .....	82
2  実施後アンケートから .....	88
3  まとめ・・・グループ演習の結果から .....	100
【資料集】 .....	102
1. アンケート調査票 .....	103
2. 研修会チラシ(仙台会場).....	111
3. 研修会チラシ(東京会場).....	112
4. 研修会チラシ(長久手会場) .....	113
5. 研修会テキスト(仙台会場) .....	114
6. 研修会テキスト(東京会場) .....	138
7. 研修会テキスト(長久手会場) .....	183

#### 巻末資料

「食を通じた生活支援活動を始めよう！参加してみよう！」

## 第1章 調査研究事業の概要

### 1 本事業の目的

地域包括ケアシステムの推進に向け、互助型の介護予防・生活支援サービスに関する基盤整備が市町村の大きな課題となっている。互助型の介護予防・生活支援サービスの担い手としては、元気高齢者が期待されており、健康や生きがいづくりの一環としても継続的に取り組めるよう、参加のすそ野を広げていく必要がある。

本事業では、元気高齢者が多く活動する住民参加の食事サービス（配食・会食等）に着目し、1) 食事サービス団体におけるボランティアの状況、確保や継続のための働きかけ・工夫についてアンケート調査にて明らかにする 2) 好事例を収集し、担い手の募集や運営上の工夫など元気高齢者の参加を促すのに必要なノウハウを分析する 3) 市町村等関係機関および生活支援サービス提供団体を対象にした研修を行い、元気高齢者のボランティア参加を促すための連携・体制整備のあり方を共有する方法を開発する 4) 報告書を作成し、元気高齢者が生活支援サービスの担い手になることで虚弱高齢者を支援し、ひいては介護予防に資するような実践的手法を念頭に置き、ボランティアへの参加を促進していくための提案について普及啓発を図る。

以上の事業により、生活支援および積極的な介護予防活動の両面を持った地域活動モデル・社会参加モデルの啓発を促し、生涯現役社会の基盤構築に寄与することを目的とする。

### 2 事業の内容

#### 1) 研究委員会・作業委員会の開催

研究事業全体の方針・計画の確定、調査の企画・方針の策定、収集資料の検討とモデル形成、および報告書の内容等の検討を行うための研究委員会を設置して3回の会議を開催した。また、調査内容の検討、実施・分析のために作業委員会を設置し、6回の会議を開催した。

##### (1) 研究委員会

第1回：平成28年8月7日（日） 飯田橋レインボービル 2階2B会議室 14:00～17:00

議題：事業計画の協議、食事サービスにおける元気高齢者の参加状況と参加拡大に必要な運営の工夫について委員より事例報告

第2回：平成28年10月9日（日） 主婦会館プラザエフ 3階コスモス 14:00～17:00

議題：事業の進捗状況報告、活動支援の現状と課題についてオブザーバーより事例報告

第3回：平成29年2月19日（日） 飯田橋レインボービル 2階2C会議室 14:00～17:00

議題：事業の実施報告、報告書作成状況について、次年度の応募協議について

<委員長>

山崎 美貴子 神奈川県立保健福祉大学 名誉教授（外部委員）

<委員（五十音順）>

秋山 由美子 一般財団法人社会福祉研究所 研究員（外部委員）

石橋 智昭 公益財団ダイヤ高齢社会研究財団 主席研究員（外部委員）

石田 惇子 特定非営利法人支え合う会みのり 副理事長（法人代表理事）  
 井上 謙一 認定特定非営利活動法人じゃんけんぽん 理事長（外部委員）  
 井上 肇 特定非営利活動法人結いのき 専務理事（外部委員）  
 坂田 朱美 特定非営利活動法人いきいき会 代表理事（法人理事）  
 隅田 耕史 特定非営利活動法人フェリスモンテ 事務局長（法人理事）  
 長谷部 俊介 東京ボランティア・市民活動センター 副所長（外部委員）  
 武田 美江子 認定特定非営利活動法人あかねグループ 理事（法人理事）  
 武安 眞珠 公益財団法人調布ゆうあい福祉公社 事業課担当主幹（外部委員）  
 中野 智夫 長久手市役所福祉部長寿課 課長（外部委員）  
 奈良 環 一般社団法人ユニバーサル志縁社会創造センター  
 地域の支え合いの仕組みづくりアドバイザー（外部委員）  
 野村 知子 桜美林大学健康福祉学群 教授（外部委員）  
 平野 覚治 法人専務理事  
 牧里 每治 関西学院大学人間福祉学部 教授（外部委員）

## (2)作業委員会

第1回：平成28年7月8日（金） ふきのとう本部 14:30～17:00  
 議題：アンケート調査票案、訪問調査先および研修会の検討他  
 第2回：平成28年8月7日（日） 飯田橋レインボービル 2階2B会議室12:30～14:00  
 議題：アンケート調査票案、訪問調査先および研修会の検討他  
 第3回：平成28年9月25日（日） デイホーム赤堤 10:00～11:00  
 議題：アンケート調査の回収経過報告、訪問調査報告および研修会の検討他  
 第4回：平成28年10月9日（日） 主婦会館プラザエフ 3階コスモス 12:30～14:00  
 議題：アンケート調査の集計経過報告、訪問調査経過共有および研修会の検討他  
 第5回：平成28年11月26日（土） ふきのとう本部 9:30～11:30  
 議題：アンケート調査の集計経過報告、訪問調査のまとめ経過報告および研修会の検討他  
 第6回：平成29年2月19日（日） 飯田橋レインボービル 2階2C会議室 12:30～14:00  
 議題：事業の実施状況、報告書作成状況、次年度の応募協議他

### <委員長>

平野 覚治 法人専務理事

### <委員（五十音順）>

清水 洋行 千葉大学文学部社会学講座教授（法人理事）  
 内藤 佳津雄 日本大学文理学部教授（法人理事）  
 中島 智人 産業能率大学経営学部准教授（法人監事）  
 原田 晃樹 立教大学コミュニティ福祉学部教授（外部委員）

## 2) 食事サービス団体へのアンケート調査（第2章）

ボランティア活動による「食を通じた高齢者支援」を行っている団体に対して、活動におけるボランティアの参加状況やボランティアの募集・定着への方策の状況を明らかにするため、全国老人

給食協会の会員団体等で食事サービスを実施している 133 の団体に対して、郵送によって調査協力の依頼と調査票を送付し、郵送で返送を求めた。調査は平成 28 年 9 月に行い、63 団体からの回答を回収できた（回収率：47.4%）。調査結果については第 2 章に掲載した。

### 3) 先進的サービス団体・地域への訪問ヒアリング調査(第3章)

食事サービスや食を通じた通いの場など、介護予防・生活支援の活動であり、高齢者の社会参加に資する住民主体の取り組みを実施している先進的団体・地域を訪問して、ボランティアの募集と定着への方策の工夫や活動している高齢ボランティアの状況についての聞き取り調査を行った。

訪問調査は、9地域12団体において実施した。調査結果は第 3 章に掲載した。

### 4) 研修会の開催「食を通じた生活支援サービスの推進と高齢者の社会参加をすすめるために」(第 4 章)

調査の結果を生かして、自治体、生活支援コーディネーター等協議体関係機関を主対象に、活動団体のメンバーも交えながら、食をテーマにした活動とボランティア活動等の住民参加の意義を共有し、幅広い参加の創出を推進することを目的とした研修コンテンツを開発した。研修は、講義によって高齢者の社会参加の意義、食を通じた生活支援の実際について理解を深め、その後グループワークを行い、多様な主体間の規範的統合を図ることで、住民参加による食を通じた生活支援サービスの価値の共有を目指すものとした。研修の内容・評価は第 4 章に掲載した。

#### 【研修日時・会場】

仙台会場（宮城県仙台市）

平成 28 年 12 月 18 日（日） 10：00～16：00 東北福祉大学東口キャンパス 36 教室

参加者：65 名

東京会場（東京都港区）

平成 28 年 12 月 20 日（火） 10：00～16：00 ニッショーホール 大会議室

参加者：54 名

長久手会場（愛知県長久手市）

平成 29 年 1 月 25 日（水） 10：00～16：00 長久手市福祉の家 集会室

参加者：48 名

### 5) まとめ：食を通じた生活支援・介護予防活動への参加の促進(別添)

以上の 2) 3) 4) について、報告書において結果を掲載するとともに、研究委員会等での議論を踏まえ、事業の総括として、自治体・協議体が、食を通じた活動の普及啓発や高齢者の社会参加への呼びかけの場面で配布・使用することが可能なリーフレットを作成した。

<リーフレットの内容>

- ①高齢者の社会参加の意義
- ②食を通じた生活支援の実際
- ③ボランティアを広げていくために（募集の方法）
- ④ボランティアの活動を長続きさせるために（ノウハウ）

## 第2章 食事サービス団体へのアンケート調査

ボランティア活動による「食を通じた高齢者支援」を行っている団体に対して、活動におけるボランティアの参加状況やボランティアの募集・定着への方策の状況を明らかにするため、郵送調査を行った。

### 1 調査の方法

全国老人給食協会の会員団体等で食事サービスを実施している133の団体に対して、郵送によって調査協力の依頼と調査票を送付し、郵送で返送を求めた。調査は平成28年9月であった。調査票は章末に添付した資料を参照。

その結果、63団体からの回答を回収できた（回収率：47.4%）。

### 2 結果1：各団体の概況

#### 1) 設立年月日（問1）

設立年月日から、2016年末までの設立後年数を算出した。分布は表2-1の通りである。20年を超え30年までの団体が18団体（28.6%）と最も多く、次いで、15年を超え20年までの団体が15団体（23.8%）であった。設立後の経過年数の平均は16.6年（SD9.5）であった。

表1 団体の設立後経過年数

～3年	5	7.9%
～5年	6	9.5%
～10年	9	14.3%
～15年	5	7.9%
～20年	15	23.8%
～30年	18	28.6%
31年以上	5	7.9%
合計	63	100.0%

#### 2) 会員制度の有無（問2）

会費を伴う会員制度の有無については、「会員制度がある」と回答した団体が48件（76.2%）を占めていた。

表2 会員制度の有無

会員制度がある	48	76.2%
会員制度はない	15	23.8%

#### 3) 使用している拠点の種別（問3）

使用している施設・拠点（複数あるときは最も中心的な場所）について、以下の6つに分類して、あてはまるものを尋ねた。その結果、44団体（69.8%）が「団体所有または団体が賃借」であった。

表3 拠点の種別

選 択 肢	団体数	(%)
1 貴団体が所有ないし有償・無償で借りている施設・拠点を正在している	44	69.8%
2 貴団体の役員や会員などの個人が所有ないし有償・無償で借りている施設・拠点を正在している	12	19.0%
3 自治体等が所有ないし民間から借り上げている施設・拠点を継続的に借りている	1	1.6%
4 民間団体が所有ないし借りている（自治体の施設を管理・賃借している場合を含む）施設・拠点を継続的に借りている	0	0.0%
5 自治体等が所有ないし民間から借り上げている施設・拠点を使用時のみ借りている	2	3.2%
6 民間団体が所有ないし借りている（自治体から借りている場合を含む）施設・拠点を使用時のみ借りている	2	3.2%
不 明	2	3.2%

#### 4) 自治体との連携や協力関係（問4）

自治体とどのような連携や協力関係があるか、複数選択を求めた。その結果、刊行物の送付や定期的活動報告はそれぞれ約40%の団体が行っていた。

表4 自治体との連携・協力

選 択 肢（複数回答可）	団体数	(%)
1 刊行物を送っている	25	39.7%
2 定期的に活動報告を行っている	25	39.7%
3 必要に応じて活動報告を行っている	21	33.3%
4 活動の見学に来てもらう	20	31.7%
5 催事や周年行事に招待する	14	22.2%
6 その他	12	19.0%
7 特にない	9	14.3%
不 明	2	3.2%

#### 5) この1年間の新規のボランティアの参加人数(問5)

この1年間の有償・無償を問わず、新規のボランティア参加の人数について、全員と65歳以上に限定した場合の両方を質問した。全体で平均値を求めると、全員で17.6人、65歳以上で16.3人であった。しかし、ばらつきが大きかったため、100名以上のボランティア参加があったと回答した2団体を除外し、また65歳以上のボランティアに関する記載がなかった1団体を除いた51団体についての平均値を算出した。その結果、年代関係なく全員では3.4名、65歳以上では2.2名であった。



表5 ボランティアの新規参加

	全体	65歳以上
人数の平均	54	53
平均人数	17.6	15.4
SD	86.5	86.8
<hr/>		
100名未満のみ	51	51
平均人数	3.4	2.2
SD	3.7	3.4

#### 6) この1年間で、活動を辞めたボランティアの人数(問6)

この1年間で活動を辞めたボランティアの人数について、全員と65歳以上に限定した場合について聞いた。問5後半で集計対象とした51団体については、活動を辞めたボランティア数も回答しており、この51団体を対象にして人数の平均値を求めると、全員で2.0人、65歳以上で1.2人であった。新規に参加した人数と辞めた人数の差をとり、平均を求めると全体では1.4人の増加、65歳以上では0.9人の増加であった。また、全体では26団体が、65歳以上では21団体が差し引きで増加していたが、全体では9団体、65歳以上では10団体が減少していた。

表6 活動を辞めたボランティア数

	全体	65歳以上
辞めた人数について	51	51
平均人数	2.0	1.2
SD	2.9	2.1
<hr/>		
増減について	51	51
平均人数	1.4	0.9
SD	3.3	2.9
<hr/>		
増加した団体	26	21
変化なし	18	20
減少した団体	9	10

### 3 結果2：ボランティアの募集等に関する状況(問7)

ボランティア（有償・無償含む）の確保や活動継続のために行っていることについて、記述式で回答を求めた(複数回答可)。記述された内容については、分類しコーディングを行い、集計を行った。

#### 1) ボランティア募集・確保

ボランティアを新規に募集するための工夫がさまざまに行われている。ボランティアの募集・確保については、口コミ・知人の紹介が最も多かった。次いで、ホームページやFacebook等のインターネットを使用する方法であった。社会福祉協議会、ボランティアセンターや自治体といった機関との連携による募集・確保を行っている割合は20%以下であり、それほど多くなかった。

表7 ボランティア募集・確保の方法

口コミ・知人の紹介	38	60.3%
インターネット	27	42.9%
チラシ等の作成・配布	22	34.9%
地域活動への参加	16	25.4%
見学・体験の受け入れ	14	22.2%
広報誌の作成・配布	14	22.2%
社協・ボランティアセンターとの連携	12	19.0%
掲示板(公共等)	9	14.3%
自治体との連携	8	12.7%

## 2) 教育・学習の機会

ボランティアの定着および動機づけの向上のためには、作業等が上手に行えたり、自分自身に感じる価値が感じられたりすることで自己効力感(自信)が高まるような配慮が重要である。ボランティアに対する教育研修や学習機会の提供について行っていることについて、質問項目を設けた。

ボランティアに対する教育・学習の内容については、調理や配食の配達のための運転など「活動に関する内容」が最も多かった。次いで認知症についての研修受講が多く、特に認知症サポーター研修の受講が活用されているようであった。ほとんどの教育・学習の内容は、活動中に役立つような内容であったが、高齢のボランティアにあわせて、本人の生活や健康のための研修を実施したり、受講したりしている団体もあった。

表8 ボランティアへの教育・学習の内容

活動に関係した内容	29	46.0%	調理や運転などの実習
認知症について	14	22.2%	認知症サポーター研修が多い
救急救命について	11	17.5%	
利用者やケアの理解	11	17.5%	
食品衛生について	8	12.7%	
高齢者向け研修	8	12.7%	高齢者が自分の生活や健康について知る
ボランティア活動について	6	9.5%	
災害時対応について	5	7.9%	
制度について	4	6.3%	

## 3) 楽しみづくり・親睦

ボランティアの定着および動機づけの向上のためには、活動そのものだけでなく、参加することの楽しみやボランティア同士の人間関係が重要である。そこで、ボランティアの楽しみや親睦に関する働きかけについて、質問項目を設けた。49 団体から回答を得られた。回答は共通性が高く、「お茶会」、「食事会」、「小旅行」、「季節の懇親」などが行われていた。



#### 4) 人間関係の調整

ボランティアの定着および動機づけの向上のためには、ボランティア同士やコーディネーターとボランティア間の人間関係が重要である。そこで、ボランティアの人間関係の調整について、どのような活動、働きかけ、配慮をしているか質問を設けた。その結果、回答は様々な内容に分散したため、特徴的な取り組みを抽出することとした。その結果、都合や体調によって活動の間隔が空くときに連絡を絶やさないようにする働きかけやボランティア内の関係づくりを支援する取り組みとともに、その人に応じた参加可能な活動に配慮し、ボランティアとしての活動が円滑にできるようにすることがボランティア内の人間関係の調整に寄与するという意見があった。

表9 人間関係の調整のために行われていること(特徴的なもの)

分類	内容
都合や体調によって活動の間隔が空くときに連絡を絶やささない	メールや広報誌による情報提供を行う
	個人的な連絡やメールをする
	必要に応じて配食をする(体調が悪いときなど)
ボランティア内の人間関係づくりを支援する	お茶会等活動以外の交流へのお誘いをする
	小グループ活動の場作りを支援する
	コーディネーターによる相談を受ける
ボランティアとしての活動が円滑にできるようにする	その人に応じた参加可能な活動に配慮する

#### 5) モチベーションの維持向上

ボランティアのモチベーションの直接的な維持・向上のために、どのような活動、働きかけ、配慮をしているか質問を設けた。その結果、回答は様々な内容に分散したため、特徴的な取り組みを抽出して分類した。その結果、以下のような表彰、広報・紹介、感謝・評価、目標・理念、会議・意見反映の5つの取り組みに分類できた。

表10 モチベーションの維持向上のために行われていること

見出し	内容
表彰	大会で表彰、行政からの表彰
広報・紹介	活動者の写真撮影・ポスター作成、フリーペーパー等への掲載、新規ボランティアの会報での紹介、毎日の食事をHPで紹介
感謝・評価	利用者からの感謝の言葉を伝える、良かった点を評価して伝える、あなたが必要だということを言葉にして伝える
目標・理念	総会で目標を確認、活動を総括する、基本理念を常に確認する
会議・意見反映	打ち合わせをこまめにする、全員参加で運営会議を開催 会議ではモチベーションを上げるようなテーマを話し合う
その他	ボランティアの意思を尊重 他団体との交流

## 6) 経済的な負担軽減

ボランティアが参加を継続していくためには、経済的負担の軽減策が必要である。その方策について、どのような配慮をしているか質問を設けた。その結果、回答は類似の内容が重複して得られたので、特徴的な取り組みを抽出することとした。1つは有償ボランティア等へ謝金の支払いであった。2つめは必要的な経費として交通費やガソリン代（配食の配達ボランティア等）やボランティア保険の支払いをしているということであった。ただし、団体によって一定額と実費に分かれていた。3つめは必要な物品（調理の際のエプロン・マスク・帽子等）の配布によって本人の負担を増やさないということであった。4つめは食事サービスの特徴として、作成した食事や弁当の提供であった。

表 1 1 経済的な負担軽減策

	項目
活動への謝金	謝礼（有償ボランティア）
必要経費の支払い	交通費
	ボランティア保険
	ガソリン代
必要な物品の配布	エプロン・マスク・帽子等の支給
成果の提供	食事・弁当の提供（活動の中で、季節の行事で）

## 7) 意見集約・会議運営

ボランティアの動機づけの向上のためには、個々の意見を活動に反映していくための意見集約や会議の運営が重要であり、どのような会議運営をしているか質問を設けた。その結果、組織によって会議の形態や名称、頻度等は様々であった。そこで、会議の種類を「ボトムアップ型（メンバーの意見を収集し、運営管理者に伝える）」と「トップダウン型（運営方針を決定しメンバーに伝える）」に分けて、その主な方法の工夫について抽出した。

表 1 2 意見集約・会議運営の方法

<p>&lt;ボトムアップ型&gt;</p> <p>部門別の会議を行う</p> <p>定期的（1、2月に1回）に開催する</p> <p>ボランティアが参加できる会議で意見を出し合う</p> <p>人数が少ない場合には日常的な顔合わせの中で意見交換をする</p>
<p>&lt;トップダウン型&gt;</p> <p>定期的な理事会、運営委員会等で現場から上げられた問題について検討を行う</p> <p>グループ（部門、曜日等）のリーダーの会議で問題を共有する</p> <p>コアスタッフによる事務局会議を行う</p>

#### 4 結果3：活動種類ごとの集計結果

##### 1) 食事サービスの実施状況(問8)

食事サービスを大きく3つの類型に分けて実施状況について質問した。その結果、配食を実施している団体が最も多く、44団体であった。会食・サロン・ミニデイは32団体、新しい活動形態であるコミュニティカフェ・コミュニティレストランは17団体であった。

表13 食事サービス実施状況

配食サービス	44	69.8%
会食会・サロン・ミニデイサービス	32	50.8%
コミュニティカフェ・コミュニティレストラン	17	27.0%

##### 2) 食事サービスに付随する食事以外のプログラムやサービス内容

食事サービスに付随して行われている食事以外のプログラムやサービスは以下の通りであった。多くの支援やプログラムが行われていた。

###### <集合型のもの>

イベント・講座（寄席、講話、防災、自分ノート、エンディングノート等）

介護予防・健康維持（体操、バイタル測定、口腔ケア、認知症予防）

交流サロン

サークル活動（歌、フラ、ダンス、手芸、陶芸、織物、絵手紙、パッチワーク、子ども創作ひろば、パソコン教室、麻雀・囲碁・将棋、俳句、短歌、歌声喫茶、英会話、卓球、UNO、書道、絵手紙、薬膳等）

相談会（食事栄養、法律、介護等）

###### <訪問型の支援>

福祉有償運送

安否確認

買い物代行

家具の移動支援

草取り

清掃

電気器具の修復

病院付き添い

不要物の処分

## 【質問ア 配食サービス】について

配食サービスの実施団体(44 団体)について、サービスの状況とボランティア等の参加状況について質問した。

### 1) サービスの実施頻度

実施頻度については、週 5・6 日の団体が最も多かった。

表 1 4 サービスの頻度

	件数
1 毎日	9
2 週 5・6 日	21
3 週 3・4 日	9
4 週 1・2 日	4
5 月に数日	0
6 月に 1 日程度	0
7 年に数回程度	1
8 その他	0

### 2) 提供している食数

提供している食数について、1 回あたりおよび平成 27 年の 1 年間の合計について質問した。その平均値（および SD）を算出した。ばらつきが大きかったが、平均で 1 回あたり約 83 食、1 年で約 22000 食であった。

表 1 5 提供食数の平均

	1 回あたり	1 年間合計
回答団体数	44	40
平均	82.9	22042.4
SD	65.7	21532.3

### 3) 活動の担い手の年齢構成

活動の担い手となっている有給スタッフ、有償ボランティア、無償ボランティアについて、年代別の人数を質問した。それぞれの平均人数は以下の通りであった。平均像としては、有給スタッフは 60 歳未満が多く、有償ボランティアは 65～69 歳、無償ボランティアは 70～74 歳が最も多い年齢層であった。

表 1 6 活動の担い手の年代別の平均人数

	60歳未満	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
回答団体数	40	40	40	40	40	40
有給スタッフ 平均	2.9	1.2	1.2	0.8	0.4	0.1
SD	3.8	1.8	2.2	1.5	0.8	0.5
有償ボラ 平均	1.9	1.1	3.2	2.7	1.2	0.5
SD	3.2	2.1	4.8	4.6	2.2	1.3
無償ボラ 平均	0.9	1.6	3.0	3.4	1.6	0.9
SD	3.5	3.4	5.3	5.9	2.6	1.6

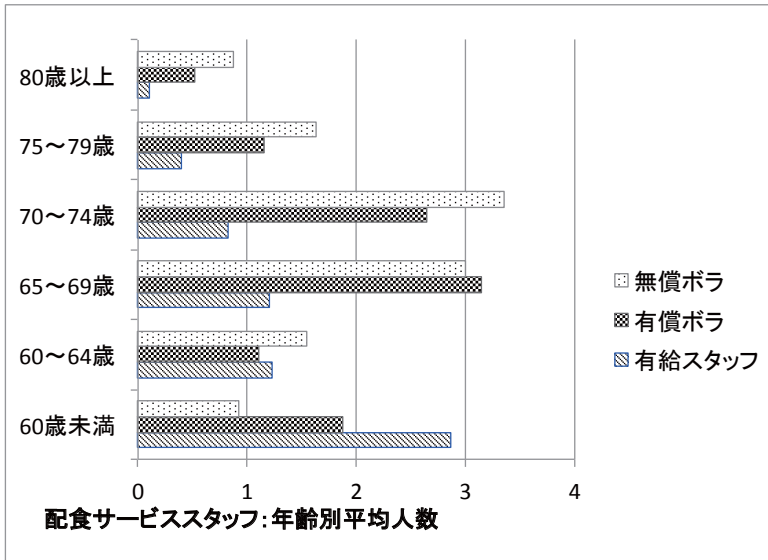


図 1 活動の担い手の年代別の平均人数

#### 4) 65歳以上の担い手の属性

65歳以上の担い手について、以下の6つの選択肢を設けて、該当者がいるかどうか、複数選択で質問した。その結果、一人暮らし高齢者は30団体で活動の担い手となっていた。

表 1 7 65歳以上の担い手の属性

1 一人暮らしの高齢者	30	68.2%
2 同居者がいるが昼間に独りになる高齢者（日中独居）	15	34.1%
3 要支援の高齢者	6	13.6%
4 要介護の高齢者	2	4.5%
5 要介護者の家族	11	25.0%
6 上記以外で生活に問題や困難を抱える高齢者	4	9.1%

## 5) 担い手の業務種別の年齢分布

調理、調理補助、配達、ボランティアコーディネート、事務・経理、食材調達・買出しの6つの業務について、性・年代別にその業務に就いている人がいるかどうか質問した。結果については、全団体(44団体)の中で「従事している人がいる」と回答した割合を算出した(以下、従事率という)。

①65歳以上の従事率は、調理と配達について80%を超えて、高かった。

②女性の65歳以上の従事率は、ボランティアコーディネート以外で40%を超えていたが、調理については80%に達していた。男性の65歳以上の従事率は、配達だけが80%に達しており、その他の業務は20%程度以下であった。

③75歳以上でも、従事率は調理と配達について約50%に達していた。

④調理については、女性の74歳までの各年齢層について、従事率が60%以上であり、75-79歳でも約40%、80歳以上でも約30%であった。

⑤配達については、女性では60歳未満と60-64歳で、男性では65-69歳と70-74歳で従事率が50%以上であった。また、女性では70-74歳、男性では75-79歳の従事率が約40%であった。

⑥事務・経理については、60歳未満女性と60-64歳女性で、食材調達・買出しについては、60-64歳女性と65-69歳女性で従事率が高く、約40%以上であった。ボランティアコーディネートは65-69歳女性で従事率が最も高かったが、それでも20%程度であった。

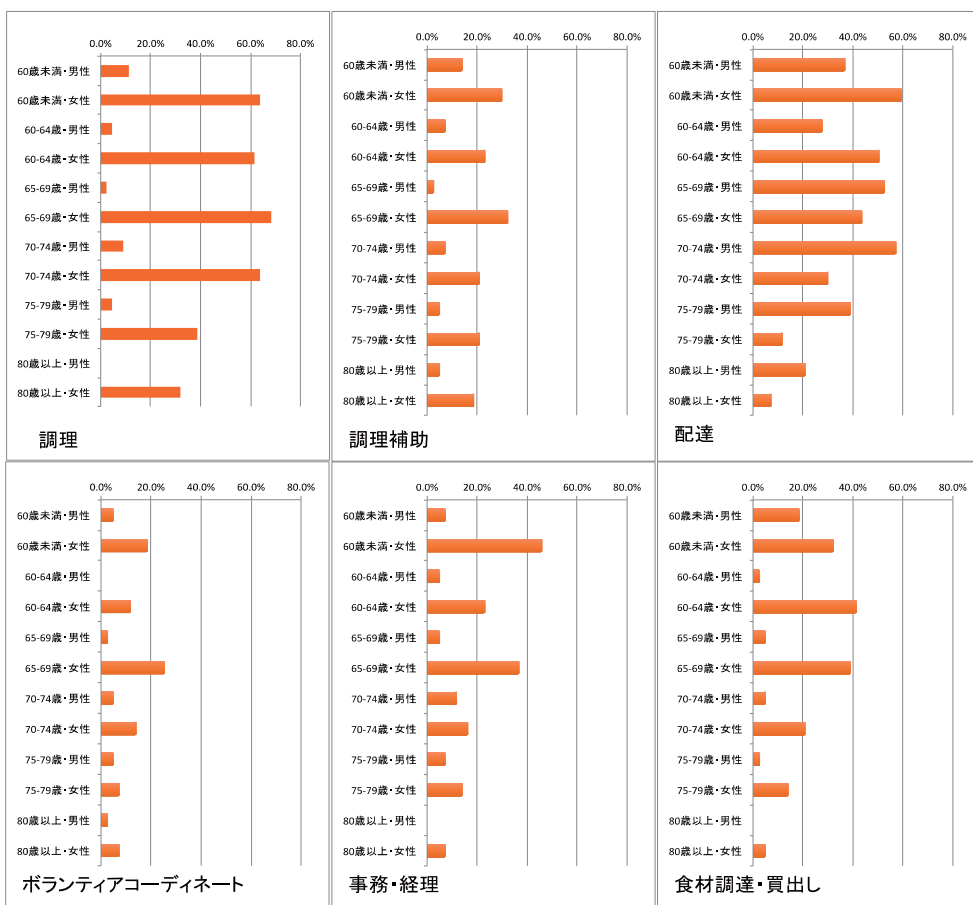


図2 配食の業務別の性・年代別従事者の有無(1)

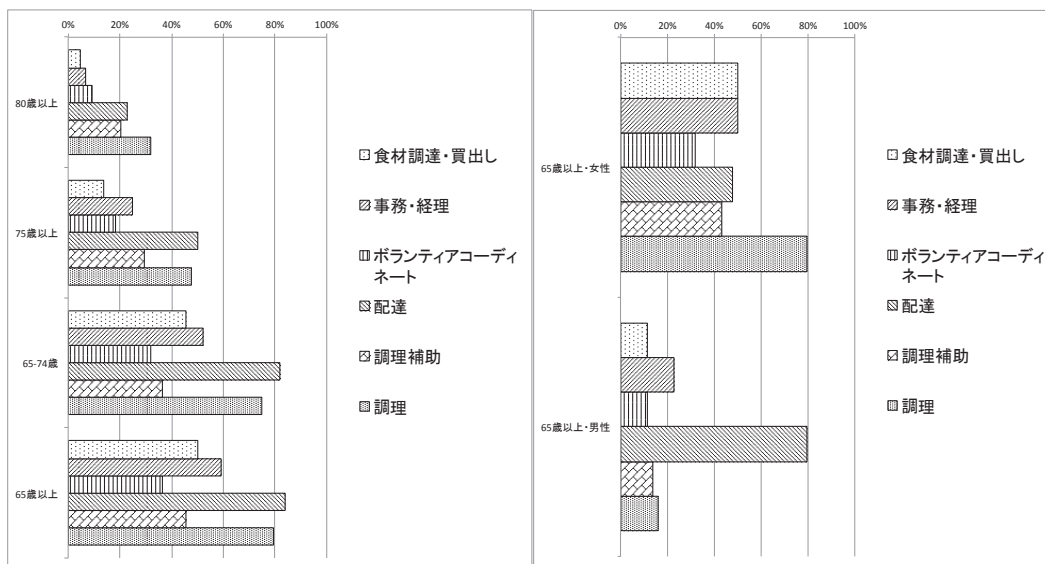


図3 配食の業務別の性・年代別従事者の有無（2）

### 6) 65歳以上の担い手の活動歴

65歳以上の担い手の活動歴(年数)について、性別に最も多い層を1つ選択する質問をした。その結果、女性では10～14年が20団体、男性では5～9年が17団体と最も多かった。

表18 65歳以上の担い手の活動歴(年数：性別に質問)

	活動歴	
	女性	男性
5年未満	2	8
5-9年	11	17
10-14年	20	10
15-19年	5	2
20年以上	1	0

### 7) 高齢や障害をもつ担い手が安全に負担なく活動を続けるうえで配慮していること

自由記入で回答を求めたところ、主なものとしては、以下のような記述があった。

表19 安全に負担なく活動を続けるうえでの配慮

項目	内容
職場の雰囲気	なじりあい、なすりあいをしない雰囲気、支え合う職場風土
身体状況への配慮	水分補給をこまめにする、十分に休憩をとる
	重いものを持たないように配慮、座ってできる作業に配慮
	その人の身体状況に応じた作業、表示や用具をわかりやすくする
コミュニケーション	こまめに声かけする
ゆとりをつくる	ゆとりを持った作業計画や人員配置をする
	休めるように交代体制

## 【質問イ 会食会・サロン・ミニデイサービス】について

会食会・サロン・ミニデイサービスの実施団体(32 団体)について、サービスの状況とボランティア等の参加状況について質問した。

### 1) サービスの実施頻度

実施の頻度について質問をした。その結果、実施頻度については、ばらつきが多かった。週1・2日の団体が最も多く(8 団体)、次いで週5・6日と月に1日程度(各7 団体)が多かった。

表20 サービスの頻度

	件数
1 毎日	0
2 週5・6日	7
3 週3・4日	5
4 週1・2日	8
5 月に数日	1
6 月に1日程度	7
7 年に数回程度	4
8 その他	1

### 2) 提供している食数

提供している食数について、1回あたりおよび平成27年の1年間の合計について質問した。その平均値(およびSD)を算出した。ばらつきが多かったが、平均で1回あたり約21食、1年で約1380食であった。

表21 提供食数の平均

	1回あたり	1年間合計
回答団体数	34	30
平均	21.1	1380.5
SD	14.8	2364.3

### 3) 活動の担い手の年齢構成

活動の担い手となっている有給スタッフ、有償ボランティア、無償ボランティアについて、年代別の人数を質問した。それぞれの平均人数は以下の通りであった。平均像としては、有給スタッフは少なく、有償ボランティアは70～74歳、無償ボランティアは65～69歳と70～74歳が最も多い年齢層であった。全体として無償ボランティアが多かった。



表 2 2 活動の担い手の年代別の平均人数

	60 歳未満	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80 歳以上
回答団体数	31	31	31	31	31	31
有給スタッフ 平均	0.3	0.2	0.3	0.1	0.0	0.0
SD	0.6	0.6	0.8	0.4		
有償ボラ 平均	0.7	0.5	1.1	1.5	0.9	0.4
SD	1.9	1.3	3.4	4.5	2.2	0.9
無償ボラ 平均	0.9	1.1	2.8	2.8	1.7	1.1
SD	1.6	1.6	3.7	4.5	3.1	2.0

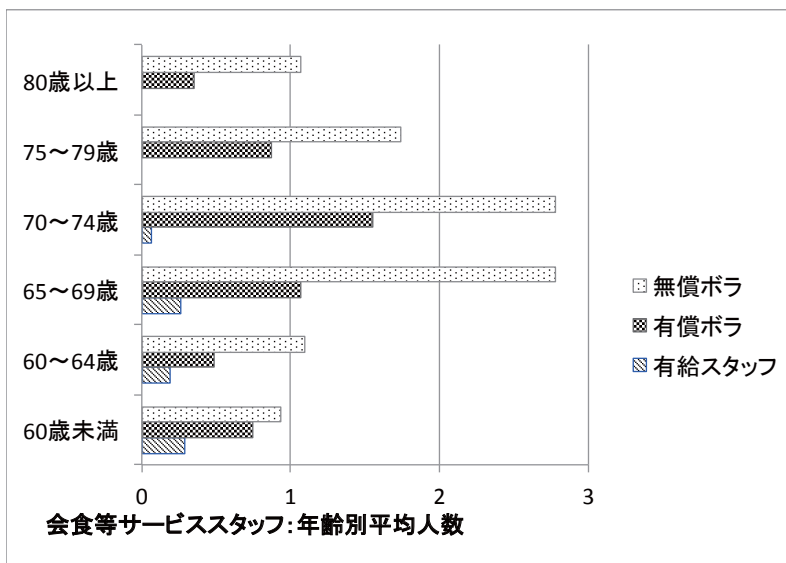


図 4 活動の担い手の年代別の平均人数

#### 4) 65 歳以上の担い手の属性

65 歳以上の担い手について、以下の 6 つの選択肢を設けて、該当者がいるかどうか、複数選択で質問した。その結果、一人暮らし高齢者は 21 団体で活動の担い手となっていた。

表 2 3 65 歳以上の担い手の属性

1 一人暮らしの高齢者	21	63.6%
2 同居者がいるが昼間に独りになる高齢者（日中独居）	15	45.5%
3 要支援の高齢者	3	9.1%
4 要介護の高齢者	1	3.0%
5 要介護者の家族	9	27.3%
6 上記以外で生活に問題や困難を抱える高齢者	0	0.0%

### 5) 担い手の業務種別の年齢分布

調理、調理補助、傾聴・話し相手、ボランティアコーディネート、事務・経理、食材調達・買出の6つの業務について、性・年代別にその業務に就いている人がいるかどうか質問した。結果については、全団体(33団体)の中で「従事している人がいる」と回答した割合を算出した(以下、従事率という)。

- ①65歳以上の従事率は、ボランティアコーディネート以外で50%を超えており、その間の差は小さかった。
- ②女性の65歳以上の従事率は、ボランティアコーディネート以外で40%を超えていたが、調理については60%に達していた。男性の65歳以上の従事率は、傾聴・話し相手だけが約40%に達していたが、その他の業務は20%程度以下であった。
- ③75歳以上では、従事率は傾聴・話し相手について約50%に達していた。
- ④調理については、女性の60歳未満、70-74歳、75-79歳の各年齢層について、従事率が50%以上であり、60-64歳と75-79歳では約40%であった。
- ⑤傾聴・話し相手配達については、女性では65-69歳で従事率が40%以上で最も高く、あとはばらばらであった。
- ⑥事務・経理については、60-64歳、65-69歳、70-74歳女性で従事率が約20%であった。食材調達・買出については、65-69歳女性と75-79歳女性で従事率が高く約40%以上、次いで60-64歳女性と70-74歳女性で従事率が約30%であった。ボランティアコーディネートは全体的に性・年代別従事率は低かった。

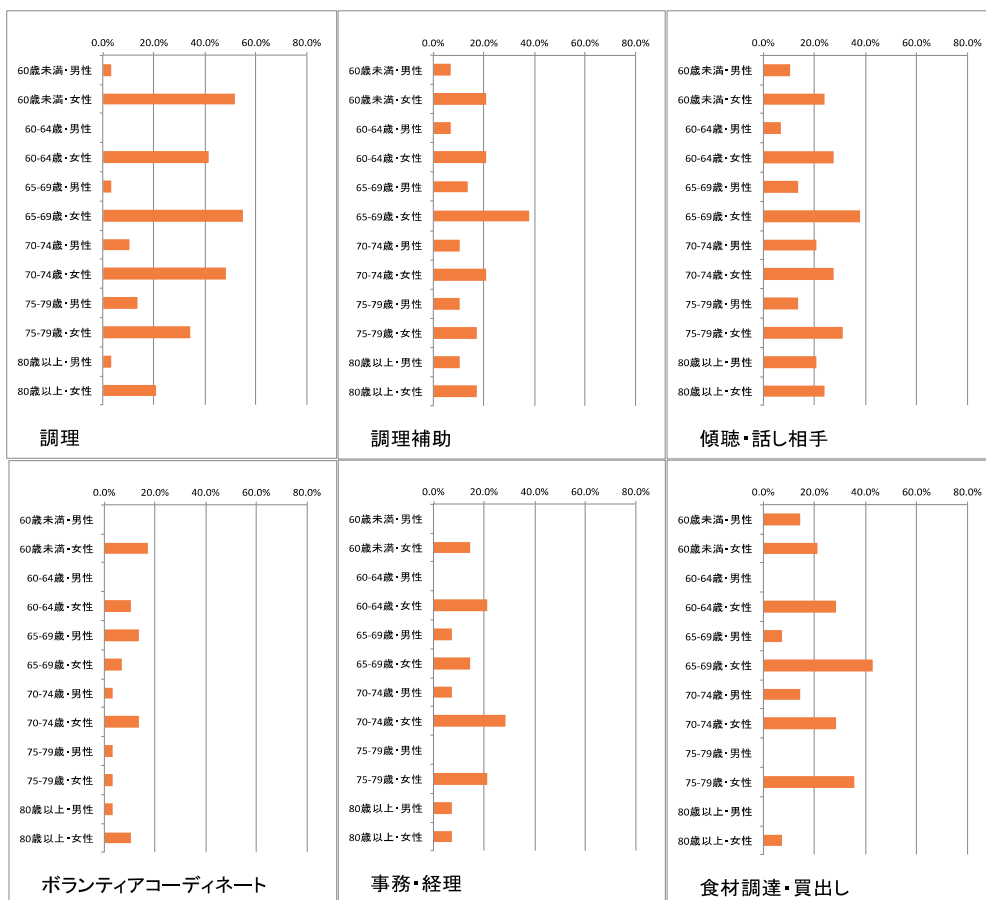


図5 会食等の業務別の性・年代別従事者の有無(1)

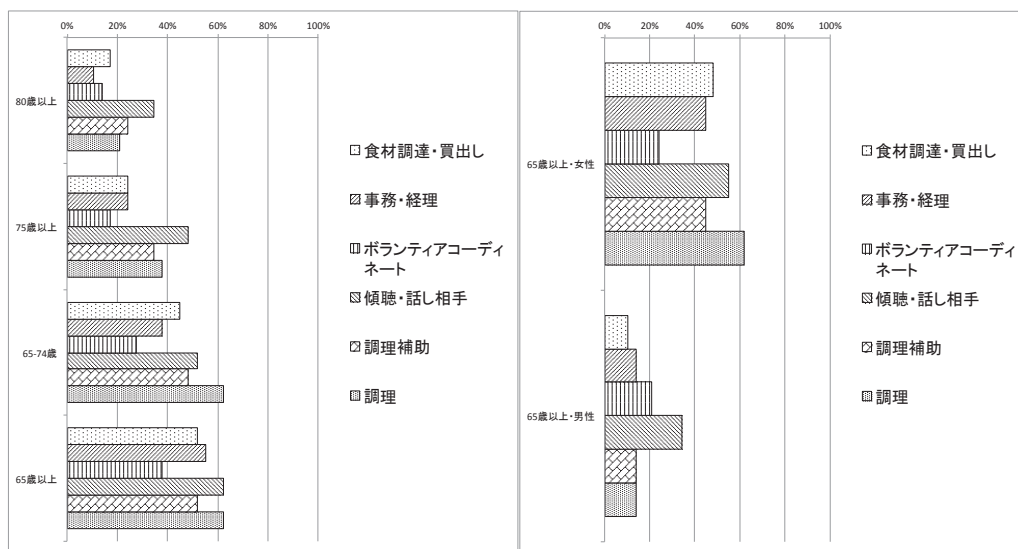


図6 会食等の業務別の性・年代別従事者の有無（2）

6) 65歳以上の担い手の活動歴

65歳以上の担い手の活動歴(年数)について、最も多い層を1つ選択する質問をした。その結果、女性・男性ともに5年未満が最も多かった。

表24 65歳以上の担い手の活動歴(年数：性別に質問)

	活動歴	
	女性	男性
5年未満	12	7
5-9年	5	6
10-14年	7	6
15-19年	3	1
20年以上	2	1

7) 高齢や障害をもつ担い手が安全に負担なく活動を続けるうえで配慮していること

自由記入で回答を求めたところ、主なものとしては、以下のような記述があった(配食との重複は除く)。

表25 安全に負担なく活動を続けるうえでの配慮

項目	内容
会食の雰囲気	きまりは作らない、人を傷つけないこと、
身体状況への配慮	車いすでの参加も可能とする
	配食でのボランティアを卒業した方に声をかける
	傾聴ボランティアは体力にかかわらず可能
コミュニケーション	参加者の年代とあわせた傾聴ボランティア
ゆとりをつくる	ゆとりを持った作業計画や人員配置をする
	休めるように交代体制

## 【質問ウ コミュニティカフェ・コミュニティレストラン】について

コミュニティカフェ・コミュニティレストランの実施団体(17 団体)について、サービスの状況とボランティア等の参加状況について質問した。

### 1) サービスの実施頻度

実施の頻度について質問をした。その結果、実施頻度については、ばらつきが多かった。週 5・6 の団体が最も多かった (8 団体)。

表 2 6 サービスの頻度

	件数
1 毎日	1
2 週 5・6 日	8
3 週 3・4 日	0
4 週 1・2 日	3
5 月に数日	0
6 月に 1 日程度	2
7 年に数回程度	1
8 その他	0

### 2) 提供している食数

提供している食数について、1 回あたりおよび平成 27 年の 1 年間の合計について質問した。その平均値 (および SD) を算出した。ばらつきが多かったが、平均で 1 回あたり約 18 食、1 年で約 1750 食であった。

表 2 7 提供食数の平均

	1 回あたり	1 年間合計
回答団体数	13	10
平均	17.6	1745.3
SD	5.2	1879.9

### 3) 活動の担い手の年齢構成

活動の担い手となっている有給スタッフ、有償ボランティア、無償ボランティアについて、年代別の人数を質問した。それぞれの平均人数は以下の通りであった。平均像としては、有給スタッフは少なく、有償ボランティアは 60 歳未満、無償ボランティアは 65～69 歳が最も多い年齢層であった。全体として無償ボランティアが多かった。

表 2 8 活動の担い手の年代別の平均人数

	60歳未満	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
回答団体数	17	17	17	17	17	17
有給スタッフ 平均	0.4	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0
SD	0.8	0.8	0.2	0.2		
有償ボラ 平均	0.9	0.2	0.6	0.2	0.1	0.1
SD	2.0	0.6	1.1	0.4	0.3	0.2
無償ボラ 平均	0.7	1.0	2.5	0.7	0.8	0.4
SD	1.9	1.5	2.5	0.9	0.9	0.5

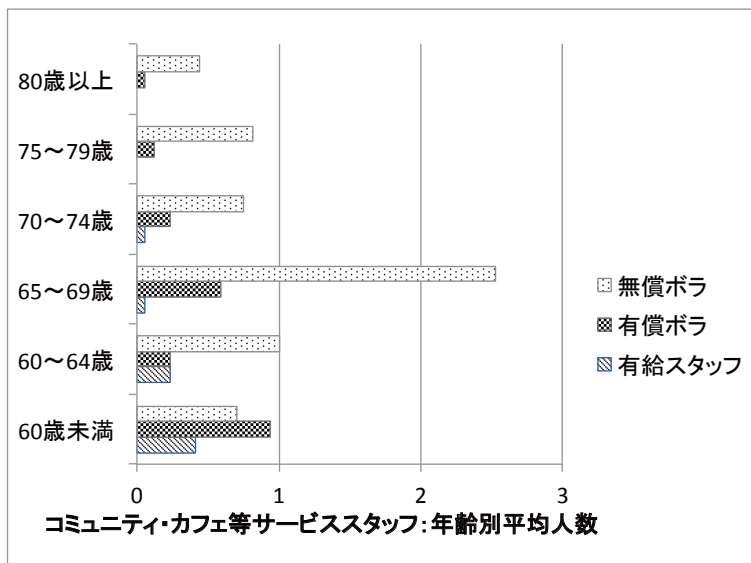


図 7 活動の担い手の年代別の平均人数

#### 4) 65歳以上の担い手の属性

65歳以上の担い手について、以下の6つの選択肢を設けて、該当者がいるかどうか、複数選択で質問した。その結果、一人暮らし高齢者は9団体で活動の担い手となっていた。

表 2 9 65歳以上の担い手の属性

1 一人暮らしの高齢者	9	52.9%
2 同居者がいるが昼間に独りになる高齢者（日中独居）	5	29.4%
3 要支援の高齢者	3	17.6%
4 要介護の高齢者	1	5.9%
5 要介護者の家族	6	35.3%
6 上記以外で生活に問題や困難を抱える高齢者	1	5.9%

## 5) 担い手の業務種別の年齢分布

調理、調理補助、傾聴・話し相手、ボランティアコーディネート、事務・経理、食材調達・買出の6つの業務について、性・年代別にその業務に就いている人がいるかどうか質問した。結果については、全団体(17団体)の中で「従事している人がいる」と回答した割合を算出した(以下、従事率という)。

①65歳以上の従事率は、調理、傾聴・話し相手、事務・経理、食材調達・買出において60%を超えていた。

②女性の65歳以上の従事率は、調理、傾聴・話し相手、事務・経理、食材調達・買出において、ほぼ横並びで約60%に達していた。男性の65歳以上の従事率は、20%程度以下と低かった。

③75歳以上では、従事率は傾聴・話し相手については40%を越え、食材調達・買出についても40%弱に達していた。

④調理については、女性の60-64歳において、従事率が50%以上であり、60歳未満と65-69歳では約40%であった。

⑤傾聴・話し相手配達については、女性の65-69歳で従事率が40%以上で最も高く、女性の70-74歳、75-79歳が約30%と次いでいた。

⑥事務・経理については、60歳未満の従事率が約40%であった。食材調達・買出については、60歳未満、60-64歳女性、65-69歳女性、70-74歳女性で従事率が約20%と横並びであった。ボランティアコーディネートは、60-64歳女性、65-69歳女性が約20%で並んでいた。

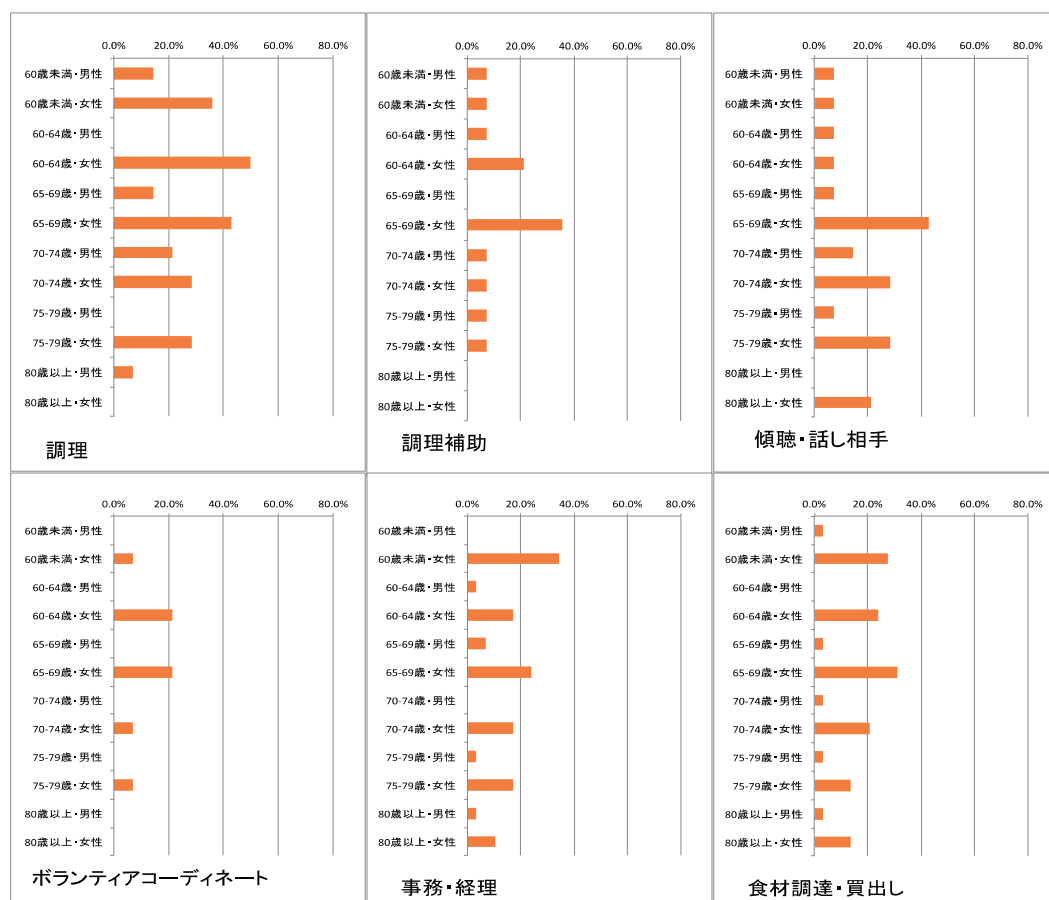


図8 コミュニティカフェ等の業務別の性・年代別従事者の有無(1)

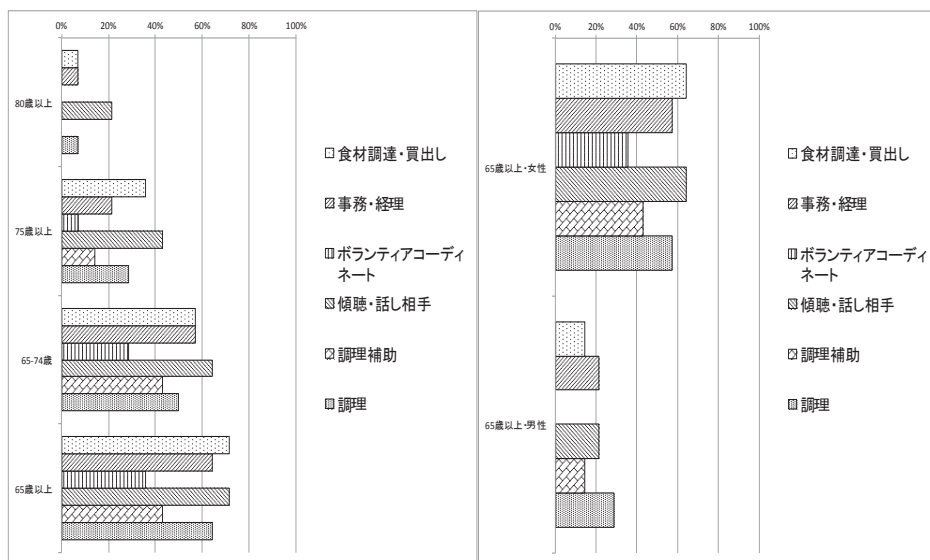


図9 コミュニティカフェ等の業務別の性・年代別従事者の有無（2）

### 6) 65歳以上の担い手の活動歴

65歳以上の担い手の活動歴(年数)について、最も多い層を1つ選択する質問をした。その結果、女性・男性ともに5年未満が最も多かった。

表30 65歳以上の担い手の活動歴(年数：性別に質問)

	活動歴	
	女性	男性
5年未満	6	5
5-9年	2	1
10-14年	1	2
15-19年	2	0
20年以上	1	0

### 7) 高齢や障害をもつ担い手が安全に負担なく活動を続けるうえで配慮していること

自由記入で回答を求めたところ、活動上配慮していることについては、配食や会食等と同様の内容が得られた。しかし、カフェ特有の活動の工夫が記述されていたので、主なものを以下に列挙する。

表31 コミュニティカフェの特徴的活動

項目	内容
カフェの雰囲気	自由な雰囲気、誰でも参加できるような雰囲気づくり
参加者の多様さ	認知症グループホームの利用者がカフェママをする日を設けている
	車いすでの参加が可能
	一人暮らしの人が多く
	世代間交流をしている
カフェに加えた企画	囲碁将棋等もできるようにしている
	包括支援センターとつながる会、健康に関する講座などを開催している



## 5 まとめ

### 1) 「食を通じた高齢者支援」の活動状況

今回の調査における調査対象団体は、10年以上の活動歴がある団体が約7割を占めていた。ボランティア活動による食を通じた高齢者支援の活動を長く継続させてきた団体の活動状況は、ボランティア活動を継続することについて多くのノウハウを有していることが期待される。一方で各団体からは、最近ではボランティアが集まらず活動の行方に不安があるという声もよく聞かれる。調査結果の中でも、ボランティアの新規参加から辞めた人数を差し引いた人数は、平均で1.4人程度、うち65歳以上の高齢者は0.9人の増加に留まり、全体としてボランティア数が減少した団体も10団体あった。

### 2) ボランティアの募集・定着についての取り組み

調査対象団体がボランティアの募集のための取り組みおよびその後長期間活動できるように定着を図る取り組みについての自由記述の回答を分析した。

#### (1) ボランティアの募集

ボランティアの募集については、「口コミ・知人の紹介」が回答した団体の約6割を占めており、直接的な参加者募集は、その活動への理解を図り、メンバーとの関係をつないでいくには有効な手法であるといえよう。しかし、前述のような新規ボランティアの参加が低調な状況では各団体のメンバーによる口コミによる募集は拡大しにくいものと考えられる。そこで、現況では少数派である地域活動への参加、社会福祉協議会やボランティアセンターとの連携、自治体との連携などに直接的な参加者募集の範囲を広げることが今後の大きな課題であると考えられる。また、最近ではインターネットの活用による広報やボランティアの募集についても広がっており、ホームページ、ブログ、Facebook、ツイッター等のツールを使った方法を約4割の団体で取り入れていた。今後ますますインターネット上で情報が公開されていることが活動の広報や信用に影響を与えていくと推測される。しかし、小規模な活動団体では、必ずしもインターネットを用いた方法に精通しているメンバーがいない場合も多い。地域の中で、こうした技術に得意な人につないだり、立ち上げや更新を支援したり、技術的な指導を行ったりすることが、今後は必要になるものと考えられる。

#### (2) ボランティアの定着に向けた取り組み

ボランティアが長期間活動を継続し、団体に定着できるような働きかけとして、教育・学習、楽しみづくり・親睦、人間関係の調整、モチベーションの維持向上、経済的な負担軽減、意見集約・会議運営に分けて、それぞれの自由記述の回答を分析した。

**教育・学習**としては、多くは活動に関係する内容として、食を通じた支援に直接的に関連する内容（調理、運転、食品衛生など）と間接的に関連する内容（認知症、救急救命、ケアの理解、食品衛生、災害時対応、制度など）が行われていた。また、「ボランティア活動とは」という基本的な理念や姿勢に関する学習機会を設けていたり、高齢者向けに自らの生活や健康に役立つ内容の学習機会を設けていたりする団体もあった。とくに、間接な関連性の内容としては認知症に関する学習機会を設けている団体が2割を超えていた。多くの場合には認知症サポーター研修を活用しているようであったが、今後の生活支援の活動において、認知症の理解や対応は非常に重要であると考えられる。



**楽しみづくり・親睦**としては、「お茶会」「食事会」「小旅行」「季節の懇親」などが多くの団体で行われていた。活動自体での連携や楽しみだけでなく、人間関係も重要な要素であることから、活動の企画・運営者はメンバーが参加できる楽しみづくり・親睦を目的とした活動を実施することを念頭に置くことが必要である。

**人間関係の調整**としては、通常の活動の中でボランティア間の人間関係づくりを支援する内容として、楽しみづくり・親睦に誘ったり、そうした活動をする小グループ形成を支援したりするといった取り組みが行われていた。また、都合や体調によって活動に間隔が空くときに連絡を絶やさないことが重視されていた。さらに、ボランティアとしての活動が円滑にできるようにその人に応じた参加可能な活動に配慮することが人間関係の調整につながるという意見もあった。

**モチベーションの維持向上**としての直接的な働きかけとしては、表彰、広報・紹介、感謝・評価、目標・理念、会議・意見反映等に関する内容が行われていた。ボランティア活動においては、感謝されるということは強いモチベーションとなるため、利用者からの評価を伝え、会の運営を担っている人から感謝を表明することは非常に重要である。また、こまめに打ちあわせする、全員参加で運営会議を開催、会議でモチベーションを上げるようなテーマを話し合う、などの会議・意見反映がモチベーションの維持向上に記載されていた。この点については後の項目で詳細に述べる。

**経済的な負担軽減**としては、有償ボランティアの場合の謝金のほかに、交通費、保険、ガソリン代といった必要経費の支払いとエプロン、マスク、帽子などの必要な物品の配布が行われていた。また、製作した食事や弁当を活動の中で食べることで御礼に代えるということも行われていた。

**意見集約・会議運営**については、運営組織の形態は様々であり、さまざまな会議が行われているようであったが、前述の通りモチベーションの維持向上に重要な役割を果たす。会議の機能をメンバーの意見を集約して運営管理者に伝える「ボトムアップ型」と、運営方針を決定しメンバーに伝える「トップダウン型」に分類して、その工夫について検討した。ボトムアップ型では、ボランティアの意見が活動に反映されることが重要であると考えられる。そのために、ボランティアが参加できる会議を行い、定期的に意見が反映されるように小さい単位で行うといった工夫が見られた。トップダウン型の会議では、現場から上げられた問題を検討して現場に返すことが必要であり、問題を共有して解決するために、それぞれの組織形態に応じた会議が行われていた。

### 3) 食を通じた生活支援・活動の形態別の高齢者の参加状況

食を通じた生活支援について、居宅に食事(弁当)を届ける「配食」、食事を中心とした活動にある程度決まったメンバーが参加して行う「会食・サロン・ミニデイサービス」、食事を中心とした活動への自由な参加が可能な「コミュニティカフェ・コミュニティレストラン」の3つの類型に分けて、それぞれの形態の支援における役割への高齢者ボランティアの参加状況を中心に検討した。

**配食**(実施団体数44)では、週5・6日または3・4日のサービスを実施している団体があわせて30団体と多かった。スタッフの平均人数としては、無償・有償問わずボランティアは65～74歳の前期高齢者層が多かったが、有償ボランティアは60歳代が多く、無償ボランティアは70代が多い傾向があった。調理、調理補助、配達、ボランティアコーディネート、事務・経理、食材調達・買出しの6つの役割別の参加(性・年齢別に参加している人がいる団体の割合=以下従事率)をみると、とくに調理と配達の65歳以上の人の従事率が高く、75歳以上でみてもこの2つの役割は従事率が5割近かった。女性では、調理以外の役割も65歳以上の人の従事率が高かったが、男性は配達について65歳以上の人の従事率が高かった。配食については、一定以上の食数の弁当を作成し、届

けるという点で生活援助の重要な役割を担っているが、すぐに組織的に実施できるわけではなく、現在活動を行っている団体も歴史を重ねてきている。しかし、調理と配達という2つの大きな役割があり、65歳以上の人について、女性だけでなく、配達において男性の参加も行われているということは参加を促進するという点で重要である。

**会食・サロン・ミニデイサービス**（実施団体数32）では、月に1日（7団体）、週1・2日（8団体）、週5・6日（各7団体）と活動頻度がばらついていて、このことは、多様な頻度の活動が可能ということであり、それぞれの団体の状況に応じた活動が可能だということでもある。1回あたりの食事数も平均で21食であり、配食に比べると少ない食数の準備でも活動が可能である。スタッフの平均人数としては、65～79歳の無償ボランティアが多く、有償スタッフや有償ボランティアは少なかった。調理、調理補助、傾聴・話し相手、ボランティアコーディネート、事務・経理、食材調達・買出しの6つの役割別の参加（性・年齢別に参加している人がいる団体の割合＝以下従事率）をみると、ボランティアコーディネート以外の65歳以上の人の従事率は5割～6割で横並びであった。75歳以上でみると傾聴・話し相手の従事率が5割に近く、他の役割よりも高かった。65歳以上の女性では、ボランティアコーディネート以外の役割で従事率が概ね5割内外であったが、65歳以上の男性では最も従事率が高い傾聴・話し相手で4割弱であり、それ以外は2割以下で参加が少なかった。会食については高齢者の無償ボランティアを中心に運営されている様子が窺えた。配食に比べて1回あたりの食数も少ない団体が多く、調理の負担度については参加のハードルが低いと考えられる。また、会食を楽しく行う「場」の運営が必要であり、それは運営に参加する人の個人的資質のみに依存するのではなく、雰囲気作りやルールの明確化が必要であるといえよう。また、こうした集団型の活動では、男性の参加が少ないという傾向が見られた。男性も参加しやすい雰囲気や活動内容や「男の料理教室」のような呼び水となる活動も重要である。

**コミュニティカフェ・コミュニティレストラン**（実施団体数17）は、実施している団体数がまだ少なかった。それでも週5・6日の活動を行っている団体が8団体と最も多かった。しかし、週に1.2回、月1日程度という団体もあり、それぞれの団体の状況に応じた活動が可能である。1回あたりの食事数も平均で約18食であり、会食等と比べてさらに少ない食数でも活動が可能である。スタッフの平均人数としては、有償スタッフや有償ボランティアは少なく、65～69歳の無償ボランティアが他の層と比べ、突出して高かった。調理、調理補助、傾聴・話し相手、ボランティアコーディネート、事務・経理、食材調達・買出しの6つの役割別の参加（性・年齢別に参加している人がいる団体の割合＝以下従事率）をみると、ボランティアコーディネートと調理補助以外では、65歳以上の人の従事率が6割を越えていた。75歳以上でみると傾聴・話し相手と食材調達・買出しの従事率が5割に近く、他の役割よりも高かった。65歳以上の女性がボランティアの大半を占めているため、65歳以上全体の傾向と同じく、ボランティアコーディネートと調理補助以外の役割で従事率が概ね6割内外であった。65歳以上の男性では最も従事率が高い調理でも3割弱と全体に低調であった。コミュニティカフェ等については、高齢女性の無償ボランティアを中心に運営されている様子が窺えた。会食に比べても1回あたりの食数が少ない団体が多く、調理の量的な負担度についてはさらに参加のハードルが低いと考えられる。しかし、さまざまな人が来訪する場であることから、質的な要求は高くなることも考えられる。また、居心地がよかったり、イベントや催し物を開催したりする活動もあり「場」の運営が必要であるが、メンバーがほぼ固定している会食とは違う場づくりが必要になると考えられる。また、男性の参加がさらに少ないという課題があった。会食と同様に、男性も参加しやすい活動をつくるのが大きな課題である。

## 第3章 先進的サービス団体・地域への訪問ヒアリング調査

### 1 調査の概要

#### 1) 目的

食事サービスや食を通じた通いの場など、介護予防・生活支援の活動であり、高齢者の社会参加に資する住民主体の取り組みを実施している先進的団体・地域を訪問して、ボランティアの募集と定着への方策の工夫や活動している高齢ボランティアの状況についての聞き取り調査を行った。

#### 2) 聞き取り調査項目

- ・地域の課題と活動概要
- ・高齢者が担い手として参加している状況
- ・高齢者が参加する上での工夫や配慮
- ・高齢者など多様な地域住民が参加している状況



甲府・食事サービスをすすめる会訪問の様子

#### 3) 訪問調査先 一覧

訪問日	所在地	団体名	応対者	調査委員
8月31日	東京都稲城市	稲城市福祉部高齢福祉課	窪田由利子氏（係長）	原田、平野
8月31日	東京都稲城市	特定非営利活動法人支え合う会みのり	中村陽子氏（理事長）、藤森良子氏（副理事長）、石田惇子氏（副理事長）	平野
9月13日	大阪府高槻市	特定非営利活動法人いきいき会 高槻市健康福祉部長寿いきがい課	坂田朱美氏（代表理事）、井上亮氏（副主幹）、小寺和彦氏（社会福祉士）	事務局
9月13日	大阪府大阪市	特定非営利活動法人フェリスモンテ	隅田耕史氏（事務局長）	事務局

9月14日	兵庫県神戸市	東灘こどもカフェ	中村保佑氏（代表）	内藤、平野
9月15日	北海道札幌市	特定非営利活動法人さっぽろ福祉支援ネットあいなび	下川原清美氏（理事長）	平野
9月16日	北海道登別市	特定非営利活動法人ゆめみ～る 登別市役所保健福祉部社会福祉グループ/高齢・介護グループ	山田正幸氏（副理事長）、 鳴海文昭氏（理事）、岡田正彦氏（総括主幹）、北村光教氏（主査）	清水、平野
9月17日	北海道登別市	特定非営利活動法人いぶりたすけ愛	星川光子氏（理事長）、高井暁子氏（コーディネーター）	清水、平野
9月26日	新潟県新潟市	実家の茶の間	河田瑠子氏（代表）	清水、平野
10月6日	宮城県仙台市	けやきグループ	斉藤幸子氏（代表）、佐藤涼子氏（ほっとサロン将監責任者）他	平野
10月6日	宮城県仙台市	仙台市健康福祉局保険高齢部高齢企画課	星努氏（包括支援係長）、庄司寛子氏（主事）、菖蒲英樹氏（企画係長）、朝妻良太氏（主事）	平野
10月7日	宮城県仙台市	食事サービスふたばの会	市橋章子氏（代表）、高橋順子氏（副代表）他 計7名	清水、平野
10月7日	宮城県仙台市	認定特定非営利活動法人あかねグループ	清水福子氏（理事長）、武田美江子氏（理事）	清水、平野
11月5日	山梨県甲府市	甲府・食事サービスをすすめる会	剣持英子氏（会長）、数野裕子氏（副会長）、出山治子氏（副会長）	平野

## 2 調査結果

次頁より、12団体の訪問ヒアリング調査の概要をまとめ、掲載する。



## 1) 特定非営利活動法人 さっぽろ福祉支援ネット あいなび

理事長：下川原清美氏 所在地：北海道札幌市南区南 34 条西

調査日：2016 年 9 月 16 日（金）

調査者：平野覚治、斉藤友歌里

応対者：下川原清美氏（理事長）

### ①活動概要・活動のひろがり

#### ○事業設立目的

- ・団体設立・法人格設立：2006 年 12 月。
- ・札幌圏での増加する緊急性のない救急事案対応や高齢化社会に伴う交通弱者に対する移送提供事業者の不足の現状から、移送事業の早期構築の必要性を感じ当団体設立。介護保険適用外で緊急に搬送する必要のない救急事案を支援するとともに外出困難な方々が自由に外出する事によって生活の幅を広げ、生きがいの有る生活ができる様な地域社会にする事が目的としている（福祉移動支援事業：国土交通大臣認定）。
- ・障がいの有無に関わらず乳幼児から高齢者まで、誰もが集える場所を提供する共生型の地域交流支援事業を行い、障がい者雇用促進支援活動も行っている。

#### ○事業形態

- ・会員数約 200 人。
- ・福祉移動支援事業：介護保険適用外。車椅子、ストレッチャー、家族同乗可。入会金 2,000 円、年会費 3,000 円。移送料金：札幌市内タクシーの半額程度（福祉有償運送法の基準による）。
- ・域交流支援事業：札幌市シニアサロンモデル事業であり「地域交流サロンふじのカフェ&あらいぶ」・「地域交流サロンくるみな」を運営。「ふじのカフェ」では、食事サービスあり（利用料なし。お茶無料。コーヒー等有料。食事 600 円。「くるみな」は学習支援時のときのみ食事提供）。
- ・生活支援事業：付き添い、通入院介助、お散歩、買い物、家事、話し相手、住宅補修等。入会金 1,000 円、年会費 1,000 円、出張料 1,000 円、作業料 1,000 円～。
- ・福祉有償運送運転者講習事業：国土交通大臣認定講習。講習は 2 日間。  
費用は会員 6,000 円、非会員 10,000 円、団体会員入会金 3,000 円、テキスト 1,500 円。
- ・マルシェを月 1 回、10 時から開催。可能な限り地元で生産されてものを取り扱い、地域の人を対象としている。
- ・土曜には高齢者の買い物支援として町内会館の前で朝市を年に数回実施。
- ・地域交流サロンくるみなで、ルチア学習塾開催（学習・食育支援）。
- ・wam 助成金による都市における孤立防止ネットワークづくり活動の一環で、現在、お弁当作りの NPO など約 20 団体と連携し買い物支援実施している。
- ・収入源を確保することも活動運営維持には必要だと考え、運転者講習での収入を得るようにし採算が合わない事業等を賄うようにしている。

○食事提供の実際

- ・地域交流サロン：祝日以外の月～金曜日（お盆、年末年始を除く）。一回あたり約 15 食。2015 年度の合計食数：3000 食。  
安心、安全の食材を利用。

○食事サービス付随する食事サービス以外の活動

- ・フラサークル、ダンス、手芸、カラオケ、アロマ教室、簡単着物体験会、そば打ち、福祉ショップ等。

○ボランティアについて

- ・活動担い手は会員ではなく、各地に点在している登録（有償）ボランティアを依頼に応じてマッチングしている。

○高齢者や障害のある参加者への配慮

- ・自分ができることをするように声をかけている。

②ボランティアの確保や活動継続のための工夫（アンケートより一部抜粋）

**ア. ボランティア募集・確保**

- ・最寄りの町内会の回覧板にチラシをいれる。
- ・チラシのポスティング

**イ. 教育・学習の機会**

特になし

**ウ. 楽しみづくり・親睦**

- ・懇親会（カラオケ大会、BBQ）。

**エ. 人間関係の調整**

- ・事務局と調整役で話し合い、ボランティアの配置を調整している。

**オ. モチベーションの維持向上**

- ・ボランティアの話やアイデアを聞く。

**カ. 経済的な負担軽減**

- ・有償ボランティア代の支給。

**キ. 意見集約・会議運営**

- ・月 1 回程度の運営会議を開催している。

〈その他〉

- ・活動継続のために必要なこと：活動で収入を得ようとする継続は困難であり、別口の稼ぎ口が必要である。家賃保障があると望ましいし、家を提供してくれる人がいると活動しやすい。

### ③自治体との関係や問題提起

- ・札幌市シニアサロンモデル事業を展開。
- ・札幌市は、要支援の対応を平成 29 年度は現行の若干の減額で、指定訪問介護事業所や指定の通所で行うと決定。その金額では実施していく団体がなくなってしまう可能性があり、さらに平成 29 年度からは地域のボランティアでの新総合事業で実施のため、小さい事業所を淘汰していこうという国の方向性に札幌市が追随しているよう見える。

#### ○活動を行っている中でみえてくる課題

- ・介護保険制度改正での新総合事業で、住民何千人単位の町と 200 万人都市という事情が異なる地域性がある中で、どのような「たすけあい」ができるのか。

#### ○今後の活動の方向性

- ・現在行っている制度内外の活動、高齢者対象の活動、子どもや障害者対象の活動を合流させて展開していく予定。いずれ託児活動も創設し、札幌式の多世代型として展開していきたい。
- ・トワイライトステイも将来的には展開し、一緒にご飯を作り食べる、入浴、勉強、時には宿泊するなど、子どもが家庭的な雰囲気を楽しむような場を創設していきたい。

#### ○参考資料

- ・NPO 法人（特定非営利活動法人） さっぽろ福祉支援ネットあいなびパンレット
- ・NPO 法人（特定非営利活動法人） さっぽろ福祉支援ネットあいなび HP  
<http://www7.plala.or.jp/ainabi/index.html>（2016. 11. 17 閲覧）
- ・CANPAN HP より  
<http://fields.canpan.info/organization/detail/1494822198>（2016. 11. 17 閲覧）



地域交流サロン「ふじのカフェ」



月 1 回開催のマルシェ

## 2) 特定非営利活動法人 いぶりたすけ愛

理事長：星川光子氏

所在地：北海道登別市桜木町 3-3-10

調査日：2016年9月16日（金）

調査者：平野覚治、清水洋行、斉藤友歌里

応対者：星川光子氏（理事長）、高井暁子氏（コーディネーター）

### ①活動概要・活動のひろがり

#### ○事業設立目的

- ・1995年4月設立。法人格の取得：1998年3月。
- ・たすけあいの精神に基づき、地域市民が相互に、対等平等な立場で、自主的な福祉サービス活動を行い、誰もが安心して、その人らしく暮らしていける長寿社会を創設することによって福祉の増進に努めることを目的とする。
- ・設立当初から、高齢者が高齢者を支える会として設立した。

#### ○事業内容・形態

- ・たすけあい事業で地域の高齢者の在宅サービス。
- ・グループリビング。
- ・福祉有償運送サービスで地域の高齢者の通院等の移送、送迎。（1km100円、介助料片道300円）。移動サービスは有資格者の職員が行っている。
- ・食事サービス（配食、会食）。
- ・サロン活動：カラオケ、麻雀、囲碁、パソコン、俳句、歌声喫茶、英会話、卓球、薬膳等。
- ・会員制：正会員入会金1万円。運営会員入会金15,000円。賛助会員：個人2,000円、団体5,000円（現在会員数：約800人）。
- ・サービスの利用者は、チケット（1点100円）で支払う。

#### 会員制以外

- ・介護保険事業で、高齢者の在宅支援、訪問介護事業。障がい者の訪問介護。
- ・行政の基盤型整備事業で建物を建て、地域で起業を目指す人たちの支援。（カフェレストラン、ものづくり、駄菓子屋、子育てスペース）。

#### ○食事提供の実際

- ・配食サービス：週7日。一回あたり約20食。  
（グループリビングに住んでいる方がいるので食事は365日提供）
- ・会食会等の食事サービス：月～金曜日（祝日を除く）。1回あたり約13食。  
2015年度の合計食数：11,803食。（配食・会食の合計）
- ・コミュニティカフェ：月～金曜日（祝日を除く）、月1回の土曜日。一回あたり約15食。

#### ○ボランティアについて

- ・ボランティア担い手は、60代・70代が多い。
- ・訪問型家事援助は、サービス提供者は1時間あたりの点数（6点600円）がたまったら清算



し支払いを受けとる（1点600円の内1点100円は事務手数料）。

- ・ 当会での食事作りは1時間500円に交通費。

#### ○高齢者や障害のある活動者への配慮

- ・ 調理：長時間にならないように時間差で活動時間を決めている。（9：30～13：30・10：30～16：00・13：30～18：00・16：30～18：30のように）出来る時に出来ることを、の活動なので各自の都合を聞いてシフトを決めている。また、コミュニティカフェでは、ワンデイシェフ方式にして週1度の活動にしている。
- ・ 配達：配達数と配達地（近隣）の調整。
- ・ 事務局：出来るとき出来ることを、の活動なので無理のないように配慮している。
- ・ 作業の人員をおおくなるようにしている。
- ・ 訪問型家事援助は足腰がつかないなど身体的負担があるときは、男性数人に行ってもらっている。サービスに入る方の送迎をしている。

#### ○地域性

- ・ いぶりたすけ愛は志縁型であり、会を創った中心的な人は登別以外の人が多かった。お手伝いをしてくれる人は地域の広い範囲から集まっている。

### ②ボランティアの確保や活動継続のための工夫（アンケートより一部抜粋）

#### ア．ボランティア募集・確保

- ・ 口コミ（通信を持って見せる、行事のお誘い、そこで知り合いを連れてくる。それぞれが友人を連れてくる）。
- ・ パンフレットを公共施設に置く。
- ・ 「ちょいボラ」制度。チケット制になっている。
- ・ 講座参加にきた人が参加するようになった。
- ・ 市の広報は行事案内のみ（人材募集はしてはいけないため）。

#### イ．教育・学習の機会

特になし

#### ウ．楽しみづくり・親睦

特になし

#### エ．人間関係の調整

- ・ サロン等への参加を促す。

#### オ．モチベーションの維持向上

- ・ お手伝いを受ける人が感謝を伝えてくれる。

#### カ. 経済的な負担軽減

- ・ 1時間 500 円の謝礼、交通費
  - ・ エプロンの支給 (1 回のみ)
- いぶりたすけ愛の食事作りのみ

注) ワンデイシェフはそれぞれが事業主

#### キ. 意見集約・会議運営

- ・ ワンデイ会議を実施。
- ・ グループリビング生活者から食事の意見を聞く。
- ・ 1ヶ月に1回シェフ会議を実施し、備品のことなど情報共有を行っている。

#### 〈その他〉

- ・ 「できる時にできる事を」と無理のない活動にしている。楽しく続けられるように困ったことは率直に事務所に伝えてもらう。
- ・ 困った事には即対応する。

#### ③自治体との関係

- ・ 刊行物の送付を行っている。
- ・ 広報紙掲載の依頼している。

#### ○活動を行う上での課題

- ・ 担い手の募集方法の検討が必要。
- ・ 訪問型家事援助の掃除の身体的負担が大きく、掃除サービスの対応が難しい。

#### ○参考資料

- ・ いぶりたすけ愛パンフレット
- ・ のぼりべつ NPO ネットパンフレット
- ・ CANPAN HP より

<http://fields.canpan.info/organization/detail/1090852656> (2016.11.7)

いぶりたすけ愛「ちよいボラ」

多様な層をボランティアに巻き込む工夫

# ちよいボラでかえる

### 暮らし

**グループリビング**  
高齢者生き生きグループリビング「たすけ愛の家」では、自立と共生を合言葉に、入居者9人が自分らしく仲間と一緒に暮らしています。

**朝のラシャ体操**  
花畑代もちよいボラさん

**掃除、窓ふき、草取り、雪かきなどを手伝ってほしいな。クログロ。**

**サロン**  
サロンの先生も歌声喫茶のピアノの先生もちよいボラさん

### 訪ねる

**在宅サービス**  
誰もが地域で安心して生活できるように、掃除・洗濯・炊事・買い物・草取り・話し相手などのお手伝いをします。

**自宅前**  
家の掃除、病院の付き添い、買い物などに行ってくると助かるよ。クログロ。

**訪問先**  
お掃除してくれるちよいボラさん

## かえる

### 開ける

**調理、お食事の配達（運転）にぜひ来て〜。お願い。クログロ。**

**配食**  
配達も無理もかたさんちよいボラさん

**お食事**  
厨房では調理の好きな方々が、安心・安全に心がけながら、おいしい家庭の味をお届けしています。

### 【いぶりたすけ愛の沿革】

- 1995年 「ライフケアを考える会」 発足 在宅サービス開始
- 1997年 「いぶりたすけ愛」へ名称変更
- 1999年 NPO法人の認証おける
- 2000年 介護保険事業 居宅介護支援・訪問介護開始
- 2001年 サロン「たすけ愛の家」開始
- 2002年 配食事業開始
- 2006年 グループリビング「たすけ愛の家」開始 福祉有償運送開始
- 2011年 社会福祉事業団「ともかな」開始

平日、たすけ愛サロンではいろいろな会を行っています。

会員の方であればあなたでも参加でき、仲間と過ごす時間を楽しんでいます。カラオケや囲碁・麻雀・絵手紙・習字・短歌・俳句・卓球・パソコン・楽譜料理などがありますので、参加してみませんか？（体験も可）

## ちよいボラ？ ... できる時にできる事をボランティア。

## かえる？ ... 自分をかえる。地域をかえる。未来をかえる。帰りたいくなる街に。

毎日の暮らしの中で、困った時に気軽に電話でサービスが頼めます。また、自分の空いている時間に、自分の出来ることで、自由にサービス活動に参加できます。

**★会員制**  
<正会員> 入会金 1万円  
この会の趣旨に賛同し、ご入会ください。サービスを受けることも、提供することもできます。

<運営会員> 入会金 1万5千円  
総会に参加し、会の運営を考えます。

<賛助会員> 年会費  
個人 1口 2千円以上  
団体 1口 5千円以上

**★サービスはチケット制**  
1時間 6点（1点100円）  
\*サービスの範囲は、会が執行するチケットで決めます。

電話：0143-88-2626

### 3) 特定非営利活動法人 ゆめみ〜る

理事長：對馬敬子氏 所在地：北海道登別市幌別町 5-18-1

訪問日時：2016年9月16日（金）

訪問者：平野覚治・清水洋行・斉藤友歌里

応対者：山田正幸氏（副理事長）、鳴海文昭氏（理事）

#### ①活動概要・活動のひろがり

##### ○事業設立目的

- ・団体設立：2008年10月。
- ・高齢者・障がい者・子どもの見守りと、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりをめざし、高齢者自身が主役となって運営する「ふれあいいいきサロン」や、障がい者が活動できる「地域の事業・行事」への参加及び、子育てを地域で支える「ふれあい子育てサロン」及び、当事者同志が楽しく生きがいをもって、積極的に社会参加を進める仲間づくりを行うため地域食堂事業等を行っている。それにより地域の人達が気楽に集まる居場所づくりと、地域が実施する文化芸術及び安全活動を中心に福祉活動に参画し、また公共施設の運営管理を行うことにより、地域福祉や福祉のまちづくりに貢献することを目的としている。
- ・町内会代表者を中心とする理事10人、地域住民有志スタッフ30人、賛助会員100人の支援を受けて事業を開始した。

##### ○事業形態

- ・主な収益事業：地域食堂、配食。
- ・NPO事業：ふれあい・いきいきサロン（見守り配食活動、買物支援活動、朝市）。  
地域支援活動（福祉施設行事、パソコン教室、そば打ち教室、訪問美容）。  
ふれあい・子育てサロン（子育てサロン活動、放課後児童クラブ、放課後子ども教室）。

##### ○食事提供の実際

- ・地域食堂：地域の主婦など10人のスタッフで調理担当。活動時間は月～土曜日10時～16時（祝日を除く）。「特製定食」はコーヒー付で550円。そば打ち同好会の協力であるそば400円、そば定食550円、数量限定でそばの持ち帰りあり。食べ終わっても数時間雑談する人や来訪するのみの人もいる。  
一回あたり 約30食。2015年度合計食数 約8,898食。
- ・配食：昼食または夕食の配食を行い、一食550円。高齢者や障がい者へ見守りもかねて配食をしている。配食は2人体制で3台の配食車で市内各方面に配達。会話による安否確認を行い、気付いたことを配食日誌に記録をしている。  
一回あたり約50食。2015年度合計食数 約14,820食

##### ○ボランティアについて

- ・社会福祉協議会が運営するボランティア保険に加入（年間300円程度）。町内会の役員のボランティアの分は市が負担（共済保険）。

## ○新しい事業であり移動サービスについて

- ・鉄南地区：買い物が不便な地域であるため、8つの町内会から構成される検討委員会で検討し移動サービスを開始する。
- ・まずは、水・金で1日2回、10月から来年3月まで実施予定。利用者は無料で、各町内会で、支援が必要な人を抽出してモニターとする。8人の乗りの車を業者から25,000円でリース。運転主と添乗員は各町内会から各1名ずつでお手伝いする。
- ・4月からの利用料は有料にして、維持費にする。
- ・この事業は、登別市でははじめての取り組みであり、協働のまちづくりが開始している。

## ②ボランティアの確保や活動継続のための工夫（アンケートより一部抜粋）

### ア. ボランティア募集・確保

- ・特別募集活動は行っていない。
- ・本人からの要望で受け入れている。

### イ. 教育・学習の機会

- ・ゆめみ～る独自の教育実習は行っていない。
- ・ボランティア同志の意見を重視して各人の自覚で活動している。  
但し、手始めには、ゆめみ～るの決まりごとについては伝えている。

### ウ. 楽しみづくり・親睦

- ・配食後、明日のメニューをみんなで考案することが楽しみのひとつになっている。
- ・旅行会（1回／年）を開催。費用の2分の1は個人負担。
- ・親睦会（3回／年）を開催。個人負担はなし。

### エ. 人間関係の調整

- ・事業ごとにリーダーを決めて、各々が調整を行い、ゆめみ～るとしては、ボランティアの人にとっても居場所として活動する状況を作っている。

### オ. モチベーションの維持向上

- ・事業の会計（仕入れ、売り上げ、決算）は事業別に行い、各々が日々の決算を事務局長に報告する仕組みにしている。そのため、経営内容が見えることがモチベーションの向上になっている。

### カ. 経済的な負担軽減

- ・ボランティアの人は、経済的なことで対応する必要は特に無いと判断している。中には、他では働まらないため、ゆめみ～るで働かせてほしいという人もいる（家族の依頼）。

### キ. 意見集約・会議運営

- ・毎日昼食時にミーティングを実施し、意見の集約や対策を全員で実施している。そのため、特別会議等は実施していない。



## 〈その他〉

- ・「ゆめみ〜る」は、ここに活動をしにきている人の居場所にもなっている。

### ③自治体との関係

#### ○活動継続へ向けての課題

##### ＜人材について＞

- ・理事、役員、ボランティアで核になる人が70代でもあり、新しい人にバトンタッチの必要性あり。しかし、現在80代で活躍している人の対処をどうするかという課題がある。
- ・新しく加入しようとする人は、やる気はあるが尻ごみする傾向があるため、どのように対応していくかという課題がある。

##### ＜事業の方向性について＞

- ・要支援1・2の方々をどのように受け入れるかという課題がある。対人支援になるため、担い手にとってハードルが高い。
- ・近所で、要支援の援助をしようとしているところがあるから、食事はここで担当など連携をとる話もある。
- ・配食を必要にする人が増えていくだろうが、配食と食堂の両立は難しいという現実がある。事業所継続のために経営方法を変えるか、できるだけ人材を確保するかという岐路にもある。人材募集は可能な限り地域の人をしたい。

#### ○参考資料

- ・内閣府 NPO ホームページ  
<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/001000812> (2016年11月17日閲覧)
- ・ゆめみ〜る HP <http://yumemiruhp.web.fc2.com/> 2016年12月6日閲覧
- ・社会福祉法人 全国福祉協議会 地域福祉部『平成28年度 支え合いをひろげる住民主体の生活支援フォーラム』pp.62-78.



配食弁当 (敬老の日)



地域食堂  
(手打ちそば)



担い手のボランティア



#### 4) 認定特定非営利活動法人 あかねグループ

理事長：清水福子氏

所在地：宮城県仙台市若林区遠見塚 1-5-35

調査日：2016年10月7日（金）

調査者：平野覚治、清水洋行、斉藤友歌里

応対者：清水福子氏（理事長）、武田美江子氏（理事）

##### ①活動概要

- ・1982年2月設立。法人格の所有：1999年4月。
- ・地域の福祉拠点として、だれでもが参加しやすいボランティア活動の場と生涯学習の場を提供し、地域福祉の発展を目的に活動。
- ・赤ちゃんから高齢者まで、共に支え合いながら安心して暮らせるまちづくりを目指す。
- ・設立当初、主婦10人で立ち上げ、女性の自立と社会参加、福祉のまちづくりを目指していた。ボランティアというより自分たちが働いていこう、「仕事をつくる」という視点が当初からあり、収入が得られない部分はボランティアとして分けて活動を展開していった。
- ・現在は代表を引き継ぎながら行ってきた。

##### ○事業内容・形態

- ・配食サービス事業。
- ・介護保険訪問介護サービス事業。
- ・居宅介護支援事業【あかねケアプランセンター】。
- ・ファミリーサポート。
- ・サロン活動（ふれあいサロン：送迎+食事つきで利用料1,800円。居場所づくり）。
- ・コミュニティ活動・啓発活動・サロン活動 軽食喫茶 あかね食堂 わいわいランチ
- ・会費制：会員（サービスを提供する側）も利用会員（サービスを受ける側）も、ともに納めて運営資金にしている。  
正会員：月額500円  
賛助会員＝個人：年間3,000円～。団体：10,000円。  
ボランティア会費なし（現在約23名）。  
現会員数：94名（うち男性12名）。

##### ○活動の広がりや継続について

- ・リーダーの交代が行われた。現在は5代目。
- ・設立の創設者の講演、歴代代表が設立や活動経緯や理念を語るOG会などの機会がある。
- ・あかね誌への記録つづり、名本の発行。

##### ○食事提供の実際

- ・配食サービス：
  - ・毎日実施。1回あたり昼約50食、夕約160食。2015年度の合計食数：62,000食。
  - ・昼食と夕食を取っている人もいるので、おかずのメニュー主食・副菜・デザートを変えて

いる。

- ・食事形態、対応食、嗜好、調理方法の指定、量の調節など細かく応える。
- ・利用料金：委託は500円（市の補助：300円）、自主は720円から823円。
- ・ミニデイサービス：週3日実施。1回あたり平均10食（実施場所で調理）。
- ・コミュニティカフェ：週5日実施。1日あたり約10食（日替定食）。
- ・お正月に5日間休業するが、それ以外の約360日は配食活動を行っている。12/31にお節を届けている。2015年はじめは、2段のお節を171食配達した。

#### ○高齢者や障がいのあるに活動者への配慮

- ・調理：洗浄室を個室にしてあるのでコミュニケーションの苦手の方でも活動しやすい。  
重いものの洗浄は交代に（ガスカマ等）。10:45と15:30には休憩と水分補給、声かけ。
- ・配達：狭い道路、安否確認のため二人体制で配達。市内から田園の方にコースを変更。狭い住宅地には軽自動車の方にしてもらおう。配達数を減らす。

#### ②ボランティアの確保や活動継続のための工夫（アンケートより一部抜粋）

##### ア. ボランティア募集・確保

- ・あかね掲示板の利用。ホームページ・ブログ、近所へチラシ配布。
- ・ボランティアセンター・サポートセンターへのチラシ依頼。
- ・ボランティア体験受け入れ実施。

##### イ. 教育・学習の機会

- ・活動の理念を伝える。
- ・有償ボランティア約束書の読み合わせ。
- ・配達・カーボランティア・厨房マニュアルの読み合わせと配布。
- ・あかね例会への参加（衛生講習会、学習会、カーボラ会、配食会議等含む）。
- ・各研修会への参加（高齢者の食事作り料理教室、調理器具研修会など）。

##### ウ. 楽しみづくり・親睦

- ・新年会、納涼会、忘年会等、ふれあい会食会、各事業の交流会（勉強会+飲食会）。
- ・バザーの開催（どの担当も全員ボランティアで参加。会員の参加度が高いイベント）。

##### エ. 人間関係の調整

- ・あかねサロンでの交流（イベント時など）。
- ・あかねまつりへのお誘い（年一回）。
- ・OG会（あかねを卒業した方々）の開催（年一回）。

##### オ. モチベーションの維持向上

- ・総会時に活動歴の表彰。

## カ. 経済的な負担軽減

- ・ 交通費・ガソリン代の支給、会員価格での食事提供。
- ・ ボランティア保険加入。
- ・ エプロン・マスク・帽子支給。

## キ. 意見集約・会議運営

- ・ 例会：年に4～5回開催。
- ・ 運営委員会：毎月1回開催。各部門の長が出席。報告、情報交換、提案の場。
- ・ 理事会：決定の場。
- ・ 各部門で年に4回程度の会議がある。
- ・ あかね例会や各会議で参加者には一言話してもらうようにしている。
- ・ 意見箱の活用。

### 〈その他〉

- ・ 月に一度の例会（全会員集会）に必ず出ることが会員の条件であった。

## ③自治体との関係

- ・ 食の自立支援サービス（高齢者）、配食サービス（障害者）の委託事業を受託している。
- ・ 必要時に活動報告を行っている。
- ・ 催事や周年行事に招待する。
- ・ 敬老の日のお弁当作り、各会議、イベント時の仕出し。

### ○食事サービス以外のプログラム、サービス

- ・ 安否確認後、必要時に包括・ケアマネ・家族へ報告。
- ・ お弁当にお手紙をつける（献立名、材料名、栄養量、情報交換）。
- ・ 食事や栄養に関する個別相談（電話等）。

### ○活動する際における自治体への要望等

- ・ 市に何度も人材育成に関して苦しい状況を伝え続けているが、人材育成やボランティア研修会の開催にはまだ至っていない。
- ・ 団塊世代はボランティアにあまり関心がないように見受けられるため、市による人材育成研修を開催してほしい。
- ・ 消費税の負担は大きい。消費税に値する委託費の値上げを検討してほしい。

### ○参考資料

- ・ あかねグループ情報誌 あかねいろ
- ・ 認定 特定非営利活動法人あかねグループ HP (<http://npo-akane-group.jimdo.com/> 2016.11.7 閲覧)

# あかねグループの多彩な活動です！

東北の配食サービスの草分けとして、真心とともに手作りのお弁当をお届けしています。

**あかねグループの理念**  
地域の福祉拠点として、住民誰もが参加しやすいボランティア活動の場の提供と、特に高齢者が在宅で暮らすことの出来るサービス提供事業等を行って、福祉の発展と住民の生涯学習に寄与することを目的としています。

生涯学習の場、シンポジウムの開催、生徒・児童のボランティア体験の場の提供など、さまざまな活動を通して、地域とつながっています。また会員は多くの勉強会・講座等へ積極的に参加し、知識・技術の研鑽を続けています。



語りあい味わう「ふれあい会食」も不定期開催！



ご高齢者が集える「ふれあいサロン」開催中！（週3回）



## 配食サービス事業

### お弁当配達

高齢者の方向けに栄養バランスのよい家庭的なお弁当をお届けしています！

#### \*仙台市委託サービス\*

概ね65歳以上で、仙台市の委託認定を受けた方へ1食500円でお届けします。

#### \*あかねグループ自主サービス\*

仙台市の認定が受けられない方へ、1食720円(料金667円+消費税53円)・823円(料金762円+消費税61円)でお届けします。



ご高齢者の良が痛み、安心・安全に食べられる弁当を心がけています。食へのこだわりが、手作りの家庭的なお弁当が好評をいただいで、長く続けてくださる利用者さんも多くいらっしゃいます。

## サロン活動

事務所1階に喫茶&いこいの場「あかねサロン」を開いています！

#### \*利用時間\*

月～金 10:30～15:00

どなたでもご利用いただけます。

地域交流・憩いの場・情報発信の場としてご利用ください。

コーヒーや軽食で茶飲み話はいかが。



## 介護保険訪問介護サービス事業

65歳以上の介護保険の認定を受けた方へ訪問介護をしています！

経験豊富なヘルパーが多く在籍しています。常に自己研鑽に努め、あかねグループの理念のもと、真心こめた温かいサービスを提供します。

## ケアプラン作成

### あかねケアプランセンター

ご相談に基づき、きめこまやかなケアプランを作成します。

利用者の自立を願い、きめ細やかな心こもったあたたかいプランを作成し、利用者さん・ご家族・介護者の力になります。

## ファミリーサポート活動

ヘルパー、託児、庭木の剪定と草取り、産前産後の家事手伝いなどのサービスをしています。

介護保険外の駆け合い活動です。詳しくはご相談ください。

#### \*ふれあいサロン\*

月・水・金 10:30～15:00

ご高齢者のための介護予防、おしゃべり茶サロンです。



## あかねグループの活動概要

## 5) けやきグループ

代表：斉藤幸子氏

所在地：宮城県仙台市泉区将監 1-11-12

調査日：2016年10月6日（木）

調査者：平野覚治、斉藤友歌里

応対者：斉藤幸子氏（代表）、佐藤涼子氏（ほっとサロン将監責任者）他

### ①活動概要・活動のひろがり

#### ○事業設立目的

- ・1998年4月設立。
- ・家庭の味を届けたいというのが活動当初からの理念。
- ・高齢になっても、住み慣れた地域で暮らせるよう「安心安全」な食事を届けることで、食を通じた福祉的支援を行う。
- ・戸別配達による安否確認等のコミュニケーションを図る活動である。
- ・地域住民の誰もがボランティアとして関わりあうことの出来る場づくりを目指す。

#### ○事業内容

- ・65歳以上の高齢者で食事の支度に困っている方々に週4回（火・水・木・金）夕食の配食サービスを実施。一食500円。
- ・配達地域は仙台市泉区の東半分、青葉区の一部。
- ・有償で借りている施設で活動を展開。

#### ○食事提供の実際

- ・配食サービス：1回あたり約80食。2015年度の合計食数：約15,000食（助成金対象者）。
- ・会食会等：1回あたり約15食。2015年度の合計食数：約620食。  
→助成金以外を仕出し扱いとしている（障害者、助成金対象外の家族など）。

#### ○ボランティアについて

- ・全員がボランティアで運営（現在は33名。主に主婦が多く、配達に男性ボランティアが数名いる）。その中で代表など役職があり。時間給300円。事業所在地外から来ている人も多い。
- ・配食配達ボランティアにはガソリン代（年間走行量分：1リットル20円で計算）と時間給を支給。車の持ち込み料を捻出したいが、困難な状況。
- ・ボランティア会費：年会費がある。1,000円／年。利用者も担い手も同額。
- ・担い手平均年齢：約69歳。

#### ○利用者について

- ・利用者は120名程度。
- ・利用者平均年齢：約79歳。認知症の利用者も若干名いる。
- ・二人暮らしと独居が多い。
- ・住居環境的に買い物にいけない人が多い（店が遠方、個人商店の閉店）。

### ○配食サービスの実際での工夫点

- ・作業工程が細かく表示している 100 人分献立のレシピがあり、食数にあわせて調理量を調整しやすいように工夫している。また人が変わって作業ができるようにしている。
- ・コーディネーターは一日 1 人で担当。4 人が交代で行い、厨房、事務、配達、訪問（アセスメントシートもあり）を行っている。

### <ほっとサロン将監>

#### ○事業設立目的

- ・2015 年 6 月、「平成 27 年度仙台市市民協働事業提案制度居場所づくり事業」として活動開始。現在、けやきグループの三人の歴代代表たちが活動に携わっている。
- ・誰もが利用でき、出入り自由であり、持ち込み可能な「お休み処」としても使用できる地域の「居場所」、「出会い・学び合いの場」。
- ・開催場所：「老人憩いの家」（将監市民センター隣）。老人会が管理委託している。
- ・運営は、「けやきグループ」の人が担っている。
- ・運営費は、平成 26 年度は仙台市より福祉振興助成金が決定した。また、真如苑（活動費として利用可）から助成を受けている。会場費は無料。そのほか、毎週開催時の清掃の請負費用を得ている。

#### ○事業内容

- ・毎週木曜日 10:30～14:30 に開催。
- ・参加費 100 円：コーヒー・紅茶無料（お代わり自由）。
- ・ランチ 400 円：20 食限定で「けやきグループ」のランチを提供。
- ・「学び合いの場」として「楽習講座」を実施。（ex. いつまでも住み慣れた将監で暮らし続けるために認知症サポート養成講座、特殊詐欺防止の講話（県警）、傾聴講座、終活についての講演など）。

#### ○ボランティア

- ・ボランティア平均年齢：69.9 歳。
- ・担い手は、概ね男女同等の割合で参加しており協力的である。

### ②ボランティアの確保や活動継続のための工夫（アンケートより一部抜粋）

#### ア. ボランティア募集・確保

- ・口コミ。
- ・社会福祉協議会掲示板、ボランティア協議会の掲示板。

#### イ. 教育・学習の機会

- ・衛生講習会。
- ・食事サービスネットワークみやぎの交流会参加等。



#### ウ. 楽しみづくり・親睦

- ・親睦会、食事会。

#### エ. 人間関係の調整

特になし

#### オ. モチベーションの維持向上

特になし

#### カ. 経済的な負担軽減

- ・活動費・交通費・配達時のガソリン代の支給。
- ・ボランティア保険への加入。

#### キ. 意見集約・会議運営

- ・運営委員会（60代で運営）。
- ・チーフ会議（調理）、献立会議（調理）、コーディネーター会議。

#### 〈その他〉

特になし

### ③自治体との関係・要望

- ・定期的に活動報告を行っている。

#### ＜自治体への要望＞

- ・配食サービスについて、現時点で活動している団体には助成金が出ているが、新規では助成の募集を行っていない。活動グループが増えていかないのではないかと懸念している。一方、ほっとサロン将監はモデル事業として、市から福祉振興助成金を受けることが決定した（平成26年度）。行政には、常設型や頻度の高い会食の場が必要だと考えるなら、継続的な助成を検討してほしい。

#### ○高齢者や障害のある活動者への配慮

- ・弁当箱洗いだけの仕事。
- ・その都度の助けあい。

#### ○活動をしていて楽しいこと

- ・人と交流できるし、地域に知り合いがきているから、活動外で出会ってもおしゃべりできる関係が作れる。また、地域の情報が集まる。

#### ○活動の中で抱えている課題：人材確保

- ・ボランティアのみならず運営委員も地域外の人が多く、今後若い人や新たなボランティアやNPOの力を借りるなど外的なエネルギーがその日の活動のみならず事務や買出しなどにも関



わってくれないと運営の継続できるかわからない。

- ・ロコミもしているが同年代にしか伝えられず、お互い高齢であり活動に参加できない相手の状況も理解ができる。特に、カーボラは事故にあう確率も高く人材不足。
- ・周囲には、ボランティアは時間給が安く責任もあるため 60 代ならパートに行ったほうがいいという考えもあり、新たな人材確保が難しいことにつながっている。
- ・ボランティアには、子育て世代など空く時間はあるが定期的に働けない人が参加できるようにするなど工夫が必要。

○参考 HP (2016. 11. 4 閲覧)

・みやぎ NPO ナビ <http://miyagi-nponavi.jp/dantai.cgi?id=2272>

・万華鏡 :

<http://izumifukushiguide.com/mangekyou%202023.pdf#search='%E3%81%BB%E3%81%A3%E3%81%A8%E3%81%95%E3%82%8D%E3%82%93+%E5%B0%86%E7%9B%A3'> : 2016. 11. 4 閲覧



ほっとサロン将監 (老人憩いの家を活用)



## 6) 食事サービス ふたばの会

代表：市橋章子氏

所在地：宮城県仙台市太白区若葉町 20-7

調査日：2016年10月7日（金）

調査者：平野覚治、清水洋行、斉藤友歌里

応対者：市橋明子氏（代表）、高橋純子氏（副代表）他 計7名

### ①活動概要・活動のひろがり

#### ○事業設立目的・ひろがり

- ・1995年9月設立。
- ・高齢になっても住みなれた地域で安心して暮らし続けることができるように「食」の部分での支え合いを実現する活動が目的。
- ・たすけあいながら暮らしていける仲間作りも設立目的にあった。
- ・設立当初は徒歩で配食し、週1回が3年続き、4年目に週2回になり頻度高まり、現在の週6食になっていった。その活動の広がり背景にはニーズに応えないと助成対象から外れてしまうということもあった。

#### ○事業内容

- ・配食サービス

#### ○食事提供の実際

- ・配食サービス：1回あたり60食。
- ・キザミ食、アレルギー食、嗜好など個別的な対応も行っている。
- ・配食サービス：週6回配食サービスを実施（昼食40食程：月・水・金、夕食80食程：火・木・土）。
- ・利用者：概ね65歳以上で食事作りが困難になった高齢者。
- ・利用者平均年齢：83歳。
- ・仙台市から一食分300円の事務活動費の助成を受けサービス提供している。

#### ○ボランティアについて

- ・活動者40名（減少傾向）：調理30名（事務＋運転兼業に人も有）、運転10名。
- ・担い手平均年齢：73歳。
- ・ボランティア活動費
  - ・調理ボランティア：時給400円 昼食（活動時間4時間半）、夕食（活動時間5時間半）。
  - ・配達ボランティア：全部混みで1回1,000円（ガソリン代、保険代）。車は持ち込み。

#### ○配食サービスの実際での工夫点

- ・その日の責任者としてリーダーがおり、メニューや発注から仕入れの会計まで担当している。
- ・年に一度総会に向けて利用者アンケートを実施している。
- ・高齢者や障害のある活動者への配慮。

- ・特別の配慮はしていないが複数人数制をとっている。
- ・調理：6人程度のチーム。調理終了時間は決まっているが、開始時間は裁量になっているため、各チームで状況が無理ない範囲で実施している。
- ・配達：二人体制（ドライバー＋添乗者）配達添乗者に転倒の不安が出てきたら屋内の仕事へ移動してもらうよう促す。

## ②ボランティアの確保や活動継続のための工夫（アンケートより一部抜粋）

### ア. ボランティア募集・確保

- ・口コミ。
- ・掲示板を見てくる人もいる。調理者の募集は口コミ・掲示板を見てく傾向がある。
- ・配達者は口コミや行事時（講座や市民祭り）の勧誘、地域包括支援センターで行うセミナー等へ協力要請依頼。
- ・ボランティアセンター（太白区長町南にある社協事務所）で募集はかけていない。
- ・地域包括ケアセンターが当団体の忘年会に参加をしてから、配食の依頼やボランティア募集も気にかけてくれている。
- ・「男の台所」（賢和会）から、配達ボランティアを協力してもらっている。

### イ. 教育・学習の機会

- ・活動マニュアルの作成、衛生講習会の実施。

### ウ. 楽しみづくり・親睦

- ・交流会、文化活動。
- ・1年に1～2回美味しいものを食べに行く。新年会など。

### エ. 人間関係の調整

特になし

### オ. モチベーションの維持向上

特になし

### カ. 経済的な負担軽減

- ・活動費・配達時のガソリン代の支給。
- ・ボランティア保険の加入。
- ・調理者への白衣・マスク・帽子・手袋の支給。

### キ. 意見集約・会議運営

- ・運営委員会：月1回第二水曜日実施（14時から17時くらいまで）。構成メンバーは代表、副代表、曜日ごとのリーダー、会計。主な議題は、運営、行事、会の問題や課題、備品管理、運営の方向性など。
- ・メニュー会議：月1度実施。各リーダー参加。全員がメニューを出し、調整を図る。

- ・リーダーは、調理指導、買い物、献立作成、会計を行う。

### 〈その他〉

特になし

### ③自治体との関係

- ・年に一度活動報告をしたり、担当者が変わるごとに説明を行ってきたりしたこともあり、行政に活動の必要性を伝わってきている。
- ・助成金を受けている。

#### ＜自治体への要望＞

- ・助成金の値上げと、ボランティア募集をしてほしい。
- ・町内に集会所がないため、要支援者を支えるためにも全町内に1つずつ空き家を借りて拠点を作ってほしい。
- ・市の職員にもボランティア体験（調理、配達など）をして、地域の高齢者の暮らしぶりを見てほしい。

### ○活動する際の課題

#### ＜ボランティアに関すること＞

- ・自分たちが利用できるまでは活動は続いてほしいが、新規ボランティアが入ってこない。これまでは地域限定で活動し、ボランティアも地域の人で、担い手不足で困ることは少なかったが、昨今状況が変わってきている。
- ・とくに配達ボランティアの不足がある。立地上山坂の多さや冬季の雪が深く、高齢化による転倒などの懸念がある。また配達は、山坂があるのでコースを統合できない。
- ・男性にボランティアの協力を依頼すると、運転が伴うため配偶者の許可がでないという声を聞く。
- ・配達ボランティアは配達のみのため（お弁当を一緒に食べたりしない）、それを担うことの多い男性同士のつながりが弱い。

#### ＜その他の課題＞

- ・一般の人からはお当屋だと思われており、大手企業との違いが伝わらない。
- ・社会福祉協議会や町内会との関係づくり。

### ○参考資料

- ・ふたばの会パンフレット
- ・みやぎ NPO ナビ <http://miyagi-nponavi.jp/dantai.cgi?id=2272> (2016.11.4 閲覧)

食事サービス  
ふたばの会

仙台市の助成事業です



地域のボランティアで運営しています

事務所 (兼・作業所)  
所在地  
〒982-0822  
仙台市太白区若葉町20-7  
電話・FAX  
229-2585  
代表者 いち ぼし しょう こ  
市橋 章子

設立の目的

住み慣れた地域で、安心して暮らし続ける為に、地域の支え合い活動として始めました。

事務所付近図



募集

ボランティア

活動しているボランティアさんの高齢化が進み、現状ですと活動持続が難しくなります。応募をお願いします！

調理ボランティア

調理活動費など、支給  
調理活動、弁当の盛り付け

運転ボランティア

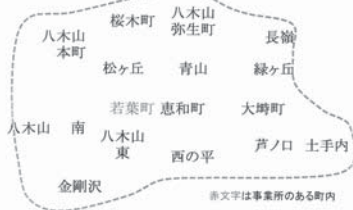
配食運転活動費など、支給  
配食などの運転活動

配食助手ボランティア

配食、見守り活動費  
支給  
利用者宅へ添乗して弁当をお届けし、合せて見守り活動

ボランティア申込時は、お名前、住所、電話番号、生年月日、活動希望などを伺います。

配食地域



西多賀

ご利用出来る方は

- ※ おおむね65歳以上であること
- ※ 食事作りが困難な高齢者
- ※ 1食 500円 お支払いできる方 (代理支払い可)
- ※ 受け取り対応のできる方 (代理受領可)
- ※ その他は、御相談下さい

食事サービス  
ふたばの会  
TEL 229-2585

曜日と昼夜食別



お休み: 日曜日・年末年始・お盆

お弁当の特色

- ご飯は、粥、軟らか飯にも対応致します
- 主菜(肉・魚)の変更は相談下さい
- 主菜・副菜の刻み食に応じます
- アレルギー食に対応します
- 旬の野菜をたっぷり使用しています
- 栄養バランスをしっかりと考えております
- 食べやすい手作り家庭料理です
- 季節にあった行事食で彩を添えています

お知らせ

利用申し込みは、配食開始の3日以上前をお願いします

申込時は、お名前、生年月日、ご住所電話番号、必要曜日などを伺います

料金はお弁当と引き換えでお願い致します、前受け管理相談致します

お休みや変更の連絡は、2日前まで、電話で連絡お願い致します  
見守り時の異変は、ご家族などに連絡いたします

食べ物の「刻み食」などの希望連絡は、随時電話でも受け付けます

献立は20日過ぎに翌月分をお知らせいたします

電話連絡は昼食が午前9時から午後2時、夜食午後1時から午後5時までお願い致します

食べ終わったお弁当容器の回収にご協力お願いします

食事サービス ふたばの会 活動概要



## 7) 実家の茶の間・紫竹

代表：河田瑠子氏（実家の茶の間）

所在地(実家の茶の間・紫竹)：新潟県新潟市東区紫竹 4-21-62

調査日：2016年9月26日（月）

調査者：清水洋行、平野覚治、斉藤友歌里

応対者：河田瑠子氏

### ①活動概要・活動のひろがり

#### ○事業設立目的

新潟市東区の空き家を活用し、2014年10月にオープンした新潟市の地域包括ケア推進モデルハウス<sup>1</sup>内で「実家の茶の間・紫竹」を運営。週2日、赤ちゃんからお年よりまで、障がいの有無を問わず誰でも集える居場所として開いている。「実家の茶の間」（河田瑠子代表）と新潟市との協働運営であり、市は家賃と光熱水費を負担する。

生活支援コーディネーターの研修ほか高齢者クラブ、子ども会、町内会の会合などでも使用し、「地域包括ケア推進モデルハウス」として地域の皆さんの助け合いを支援している。

「茶の間」の目的は、人と人との知り合うことによって、お互いの不自由に気づき、距離感を学び、「お互い様」と助け合いのある地域づくりにつなげることである。

#### ○活動の背景（代表・河田瑠子氏の経歴を参照）

1991年	有償による市民相互の助け合い「まごころヘルプ」と「居場所」を開始
1993年	財団法人新潟市福祉公社設立に伴い自主事業として参画
1995年	安否確認と毎日夕食を届けるために、業者、下越婦人会館、郵便局等を拠点に、退職後の男性100人を中心に「まごころ夕食」開始（安否確認、食の安心、退職後の男性の活動とつながり）
1997年	山二ツ会館で個人として自治会や老人クラブと一緒に「地域の茶の間」開始、その後、福祉公社まごころヘルプの自主事業として貯金事務センター、万代シティバスセンターでも開始
2000年	“断らない”を目的にネットワーク「ごちゃまぜネット」を開始
2003～ 2013年	東区栗山で、空き家を活用した泊まることもできる常設型地域の茶の間「うちの実家」を開始 バリアのある家を活用しての公民館事業の介護実技講習、赤ちゃんからお年寄りまで、障がいの有無を問わず参加でき、誰をも、受身にしない居場所の確立、小学校の子供の居場所、全国からの視察を受け入れる

<sup>1</sup> 子どもからお年寄りまで、市民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちの実現を目指し、支え合いのしくみづくりを進めるための拠点として、新潟市独自の事業として設置。「地域の茶の間」の創設者である河田瑠子氏のノウハウを継承・波及していく新潟市の地域包括ケアシステム構築の要である。今後、市内全8区での開設を目指している。（新潟市ホームページ参照）。

2007～ 2016年	異業種交流「夜の茶の間ネットワーク」
2008年	公民館での研修受講者と地縁づくりを目的に「ご近所談義」開始
2013年	石山地区公民館で地域の茶の間「実家の茶の間」代表
2014年	新潟市から「うちの実家」の再現依頼を受け、市との協働事業として新潟市の地域包括ケア推進モデルハウス内で「実家の茶の間・紫竹」を新潟市紫竹で開始、生活支援コーディネーター研修、各団体の実習、研修受け入れ等も実施している。
2016年	「地域の茶の間」の立ち上げ方と継続の方法、運営のノウハウを伝える短期集中講座「茶の間の学校」開始

#### <実家の茶の間・紫竹の拠点について>

- ・平屋建ての木造家屋。施設に入所した人の家族が活動を理解し、貸してくれた。空き家を探していることを聞いた周りの人が見つけてきた。食器・調理器具は山二ツ会館での茶の間で使っていたものをそのまま活用している。
- ・新潟市との協働で運営。新潟市は開設の準備費用、毎月の家賃、光熱費を負担。日々の運営は任意団体「実家の茶の間」（「夜の茶の間」メンバーを中心に立ち上げた）が担う。
- ・屋内外の片づけや大掃除、襖貼りなどは手伝いを募り、自分たちで行った。

#### <運営資金>

- ・一口1万（年会費2,000円、寄付8,000円）出資してくれる「夢買人」を募った→150万円、寄付100万円（ある会員が、いつかこういう日がくると思ったと用意してくれた）。
- ・家賃、光熱水費は新潟市が負担。
- ・年会費、茶の間利用者の参加費、バザー収益・寄付金を資金とする。
- ・冷蔵庫、エアコンは寄付。
- ・実家の茶の間メンバー、参加者、地域住民、企業、エイボン女性年度賞金で、チラシ、家の修理、花壇整備、写真に充当。

#### ○事業内容：

**開設日時** 毎週月曜・水曜午前10時から午後4時。祝日も開設。

**参加費** 1回300円、中学生以下無料。

※希望者は別途300円（中学生以下は無料）で昼食付き。居住地が紫竹以外の人は、賛助会員（任意）2,000円（使途：駐車場の借り上げ費として）。

#### ○利用者について（2016年9月時点）

利用者：平均42人/回。

利用者総数（年間）：2016年9月末時点5,662人（開設から2年で累計1万人を突破）。



利用者層：ご近所の方が昨年より増加。地区外（視察含む）の人と半々程度。年間で子ども 525 人、大人 5,137 人が利用し、多世代交流が促されている。

#### ○ボランティアについて

食事作りと当番（鍵の管理・全体の目配り・事務）の各 2 人/1 日。

サポーター：名刺があり、自らサポーターと名乗って作っている自主のもの。

#### ②運営での工夫点

- 来る人の情報を掲示しておく。自分達が来る日を選択してこられるように。
- 自分の意思で何事も選択してもらえるように広報を充実している。
- 世話する人・される人を分けない。役割はみんなにあるので役割はつけない。そのためエプロン着用は台所だけ。
- 紙コップの利用。感染予防になる。茶碗を洗ってもらうことになるという利用者の気遣いをなくすとともに、紙コップに名前を書くことで名刺代わりになる。
- 食事は具だくさんの汁物を中心に、20 種類の品目を取り入れ、1 日に必要な栄養をなるべくここで全部摂取できるように工夫する。

#### ○地域や関係機関とのかかわりなど

- ・ほとんどは近隣との関わりであるため、つながりを大事にしている。
- ・新潟市役所、東区役所、町内会、老人クラブ、民生委員、子ども会、小学校、保育園、保健センター、地域包括支援センター、県、市社会福祉協議会、公民館、大学、消防署、交番、新潟県、さわやか福祉財団など。
- ・つながりのある団体と集まりのなかで、情報共有や今後必要なことなど話し合う場を持っている。
- ・もともと代表は地域にゆかりがなかったが、説明会を開き、回覧板を回し、両隣からあいさつ回りをし、行政や民生委員などへも挨拶をした。
- ・近隣の方から理解されるのに半年ほど時間がかかった。
- ・過去には騒音に対する市への苦情もあったが、じっくり時間をかけて地域包括ケアを推進していった。
- ・実家の茶の間参加者の間で、参加券と併用した「実家の手」を使って、ちょっとした助け合いを始めている（例：除雪、ストーブの給油、縫い物、ペットの世話、買い物など）。

#### ③自治体との関係

- ・立ち上げ時の改装費 40 万円補助。
- ・新潟市の地域包括ケア推進モデルハウスとして運営している。
- ・支え合いの地域をつくる茶の間の担い手育成研修を市・公民館と連携して開催している
- ・「地域の茶の間」は現在、県内約 2,000 ヶ所（新潟市内は約 400 か所）で様々な形で開設されている。
- ・保健師、地域包括支援センター、作業療法士が月 1 回訪れ、健康相談や生活相談を実施している。

○茶の間の学校について

- ・地域の茶の間を運営する人材を育成することなどを目的として、任意団体「実家の茶の間」・公民館・市の三者協働で開催する。公民館にて、全6回の集中講座。参加者は40名程度。
- ・「茶の間の学校」の修了生がサポーターとして入り始めている。

○参考 HP

新潟市

[http://www.city.niigata.lg.jp/shisei/koho/kohoshi/shiho/backnumber/h26/shiho141102/1\\_01.html](http://www.city.niigata.lg.jp/shisei/koho/kohoshi/shiho/backnumber/h26/shiho141102/1_01.html)

さわやか福祉財団

<http://www.sawayakazaidan.or.jp/ibasyo/case/04koushinetsu/uchinojikka.html>

### 地域に支え合いの拠点を「茶の間の学校」が開校

6月3日、石山地区公民館で「茶の間の学校」が開校しました。


これは「地域の茶の間」＝囲み＝を立ち上げる人材をさらに増やそうと実施するもの。6月3日～7月8日に全6回の講座を、地域の茶の間の創設者・河田瑠子さんが代表を務める団体「実家の茶の間」と市が協働で行います。校長は実家の茶の間の運営委員である清水義晴さんが務めます。

当日は、清水さんや河田さんが茶の間の意義などを、エピソードを交えながら紹介。参加者52人は熱心に話を聞きながらメモを取っていました。

開校式で篠田市長は「地域づくりを実践している熱意とノウハウのある講師から茶の間づくりを学んで、地域で実践してほしい。行政や地域が総力を挙げて、地域の新しい支え合いの仕組みづくりを新潟市全域で進めていきたい」と話しました。

「茶の間の学校」は秋にも開校する予定です。

◻地域の茶の間について…地域包括ケア推進課(☎025-226-1281)  
▷茶の間の学校について…石山地区公民館(☎025-250-2930)



#### 地域の茶の間とは

子どもから高齢者まで、誰もが利用できる居場所のこと。地域住民同士の支え合い活動を広げるきっかけ作りの場として開設を進め、現在、市内の400カ所以上で運営されています。

支え合いの人材養成を担う「茶の間の学校」  
『市報にいがた』  
2016年6月19日 2573号

## 8) 甲府・食事サービスをすすめる会

会長：剣持英子氏

所在地：山梨県甲府市宝 2-8-19 旧穴切小敷地内

調査日：2016年11月5日（土）

調査者：平野覚治

応対者：剣持英子氏（会長）、数野裕子氏（副会長）、出山治子氏（副会長）

### ①活動概要・活動のひろがり

#### ○事業設立目的

1992年に生協のお手伝いグループが県ボランティア協会の指導で、他の人も参加して発足（設立メンバーは20名程度）。市から資金面の支援を受け週に2回試行的にはじめ、後に社協も加わり毎日型へ移行。市の社協と一緒に弁当を作り配送するだけではなく、拠点作りにも携わる。

2000年に市からの委託を離れ、土曜日も入れた配食サービスを開始。現在は週3日（月・水・土の夕食）。2005年からは祝祭日の食事サービスも開始。今年で24年目。

#### ○拠点の背景

- ・最初は福祉センターを借りて調理をしていたが、鍋・釜もって移動するのは大変だったので廃保育園の調理所を使うようになった。耐震問題があり、市に協力を仰いで旧小学校の調理場へ2015年に拠点を移した。
- ・ボランティアは広域的な活動と捉え、公共の施設を使いたいと思っている。
- ・発足時のボランティアは20名程度。研修会を開催しボランティアを集めた。
- ・初代代表がアメリカ・オレゴン州の取り組み（週5回の配食サービス）を見聞きして甲府市にも導入。
- ・甲府市のまわりでは既に配食を取り組まれているところがあった。
- ・現在、賃料の75%、水道料金の基本料金に関しては市から補助してもらっている。

#### ○事業内容

- ・配食サービス

#### ○食事提供の実際

- ・月・水・土 約100食/日。一食500円（国産のものを使用、冷凍食品不使用）。
- ・市委託の配食サービスは利用者負担1食400円で、補助あり。地域包括支援センターのアセスメントあり。週4日以上利用（月～金）、ひとり世帯・高齢者のみ世帯なら利用可能。市委託の配食サービスの食事は揚げ物が多く、利用者が当会に移るケースもある。
- ・昔は原材料が530円かかっていたこともあった。今もぎりぎりで行っている。
- ・事業として収益を上げるには、お弁当の金額をあげなくてはならず、利用できなくなる地域住民がいるため、今は検討していない。
- ・アレルギー対策はしているが（例：青魚NGなど）、きざみ食などはしていない。

#### ○ボランティアについて

- ・ボランティア平均年齢：高齢化がすすんでいる。
- ・継続年数の長いボランティアが多い。
- ・デイサービスなどボランティアを掛け持ちしている人もたくさんいる。
- ・人数増減なし。地域の参加 10 人。65 歳以上は 8 人。元気な方々が参加されている。
- ・活動を辞めるきっかけ：加齢。体調悪化、運転をやめた、腰が痛い等。  
ご主人の介護で 20 年程ボランティアを休んでいて復活される方も。
- ・辞めた後のきっかけづくり⇒最初は利用者だったけど、今は自分のお弁当をとりよせて徒歩で他の利用者宅へ配達を引き受けてくれる（80 歳代男性）。
- ・配達ボランティア）ライオンズクラブからの支援あり。男性ボランティアも活躍している。  
山梨英和中学校・高等学校のボランティアサークルの学生（週 2 回）  
ボランティアサークル部員が 25 人いるので、ローテーションで回る。
- ・栄養士のボランティア）月 2 万円謝礼を渡している。
- ・その他のボランティア）お便りを編集・作成してくださる遠方（横浜）にお住まいのボランティアがいて、1 万円／年お礼をしている。

\*有償ボランティアの概念はない。

#### ○利用者について

- ・利用者もボランティアも会費制（強制はしていない）。一律 3,000 円。その他賛助会員あり。
- ・利用者数：124 人。会員数：265 人。

#### ○配食サービスの実際での工夫点

- ・配達時、本当は 2 人体制が望ましいが、今のところ 1 人。
- ・奥様と一緒にやったださる方もいる。2 人の方が安心。

#### ○地域とのかかわりなど

- ・山梨英和中学校・高等学校のボランティアサークルの学生との交流機会あり。
- ・小中学校のボランティア体験はなし。
- ・以前の拠点と比べ、町の中に拠点が移ったので地域の人が呼びやすい環境になった。
- ・ふれあい訪問(年に 1 度)、調理の人やボランティアと一緒に利用者さん宅を訪問して話たり、お弁当のご要望を伺う。ふれあい会食会も年に 1 回あり。
- ・お年寄りと接することで、献立のアイデアが生まれることがある。
- ・栄養士会には、衛生講習会の依頼などを行っている。

#### ②ボランティアの確保や活動継続のための工夫（アンケートより一部抜粋）

##### ア. ボランティア募集・確保

- ・主にイオンスーパーでのチラシ配布。
- ・年に 1 回 NHK ボランティアボードへの掲示（県のボランティアセンター伝手に）。
- ・利用者から担い手に代わるケース：ボランティアからの声かけ。

- ・市ボランティアセンター主催ボランティア博（毎年9月）で活動紹介、パネル展示。  
\*ボランティアセンターや社協との連携は殆どなし。

#### イ. 教育・学習の機会

- ・調理と配食について、それぞれ配布できるマニュアルがある。
- ・外部研修（認知症サポーター養成研修など）の開催、参加。

#### ウ. 楽しみづくり・親睦

- ・曜日ごとで遠出・交流をはかっているところもあれば、プライベートとわけて距離感をはかっているところもある。調理・配食ボラ全員で研修旅行に行くこともある。
- ・今度他の団体でおせち料理を作っている社協のグループが見学を訪れる予定。

#### エ. 人間関係の調整

- ・ボランティアの曜日による偏りの調整はしていない。

#### オ. モチベーションの維持向上

- ・厚労省から表彰されたことあり。ボランティアへは、辞めるといった人にねぎらいの気持ちをこめて感謝状を送る。市の表彰を希望される方については、推薦している。

#### カ. 経済的な負担軽減

- ・ボランティア手当てはなし。交通費もなし。配達のガソリン代もなし。
- ・20年に1回くらい配給したことがある程度。
- ・ボランティア保険は会にかけている。1人500円。補助なし。
- ・賃料26万（年間）、水道料金の基本料金は免除してもらっている。

#### キ. 意見集約・会議運営

- ・献立委員会（毎月1回）。出席者：調理担当・代表者。
- ・配食コーディネーター会。出席者：各曜日のコーディネーター。  
内容）新規利用者の状況共有、登録ボランティアの確認。
- ・運営委員会（毎月1回）。出席者15人程度：各曜日のコーディネーター他。  
内容）情報共有、利用者の統計や様々な決め事、会計など。  
\*記録などは事務局で残している。事務局も完全なボランティア。  
\*そのほか、研修委員会。

#### 〈その他〉

特になし

#### ③自治体との関係・要望

＜自治体との関係＞

- ・調理場の拠点を市に貸していただいた。都市計画で潰れるまでは借りられる。



- ・ 400 万円の工事は団体負担（20 年の積み立てと、寄付を募った）。
- ・ 賃料交渉の結果、75%市で負担してもらえることになった。
- ・ 県ボランティアセンターでは協働の視点で声かけがある。例）生活困窮者支援。
- ・ 今年から地域包括担当の課が出来て、少し風通しがよくなりそうな兆しがある。
- ・ 22 年前立ち上がったときから、県ボランティア協会はとても協力的で印刷機の提供や精神的にも応援してもらっていた。

<自治体への要望>

- ・ 拠点の賃料を公的に無償にしてくれたらいいなと思う。
- ・ 趣味の活動ではなく、ボランティア活動として市に認めてもらいたい。
- ・ ボランティア募集の協力。拠点周辺の駐車スペースの確保。

○活動の中で抱えている課題：

- ・ 費用面での施設維持、人材確保、担い手（代表のなり手）。  
（これ以上食数が増えると、お断りしなくてはいけなくなる）。
- ・ ボランティアの高齢化とともに賛助会員の高齢化による会員減少⇒会費収入減少。

○参考 HP

甲府・食事サービスをすすめる会 <http://www9.plala.or.jp/kofu-shokujisabi/>



調理風景



配達ボランティア

## 9) 特定非営利活動法人 支え合う会みのり

理事長：中村 陽子氏

所在地：東京都稲城市矢野口 364-3

調査日：2016年8月31日（水）

調査者：平野覚治、斉藤友歌里

応対者：中村陽子氏（理事長）、藤森良子氏（副理事長）、石田惇子氏（副理事長）

### ①活動概要・活動のひろがり

#### ○事業設立目的

1983年 公民館主催講座「老後問題を考える」等を受講して勉強会を1973年から継続したのち実践活動の場「稲城の老後を支える会」として発足。

1984年 会食会スタート（福祉センター）。

1989年 毎日型食事サービススタート。「稲城の老後を支え合う会」と名称変更。

1996年 ミニデイサービス「たまりば」開設。

2000年 特定非営利活動法人取得。「支え合う会 みのり」に名称変更。

- ・高齢者の福祉を自分の問題として考え、支え合いの精神で、在宅福祉活動を行い、支える者と支えられる者が対等な立場を保ち、住み慣れた地域に安心して、生き生きと住み続けられる地域社会づくりに寄与することを目的とした団体である。在宅福祉サービスの一端として、食事中心の支援活動を行っている。
- ・会費と補助金を財源に運営している。主な事業として、高齢者への配食（毎日型食事）サービス、訪問サービス、会食会サービス、クッキングクラブ梨穂、ミニデイサービス『たまりば』、稲城市委託事業（高齢者食生活改善事業）介護予防・日常生活支援総合事業Aなどに取り組んでいる。

#### ○食事サービスの実際

- ・配食サービス：週に5日実施。一回あたり約100食、2015年度合計食数22,661食。会の車を使用して配達。産前・産後、病後の方も利用可。
- ・会食会：公共施設9会場で月に延べ11回。一回あたり約17食、2015年度合計食数4,806食（会場によって食数に幅がある）。
- ・コミュニティカフェ：月に一度開催。一回あたり約18食、2015年度合計食数274食。

#### ○食事サービスに付随する食事以外のプログラムやサービス

- ・配食サービスにおける安否確認。
- ・会食会時における口腔ケア体操、体操、歌、カードゲーム（UNO）、地域で活動しているさまざまなグループ（オカリナ、マジックなど）を招いて、グループの発表の場を提供すると同時に交流を深めている。
- ・コミュニティカフェでの法律相談・ケアマネによる相談会。

#### ○高齢者や障がいのあるスタッフへの配慮

- ・配食と会食の兼任をすることもあり、配食作業が困難になってきたら、会食のみのボランテ



ィアとして参加してもらおう。そのときに人手不足のところがあれば他から応援に行くこともある。

- ・配達については、悪天候時には二人体制にする。
- ・調理では水分補給を呼び掛けている。
- ・余裕のある時間配分や場所で作業をしてもらう。
- ・役割分担も考慮する。
  - ・重いものを持たないようにしてもらい、食器洗いを担当してもらう。
  - ・立ち仕事が難しい方は、受付担当、お茶サービス、話し相手担当をしてもらう。
  - ・決まった作業だけを担ってもらう。
- ・会食会では、リーダー会計係を設置している。
- ・年齢が高くなってくると、有償ボランティアを担うことは厳しい。それにより少し若い世代に負担が回るとは避けたいので、お互いに負担にならないような調整が必要。
- ・ボランティアだからこそ、ちょっとした関わり方でもいいというスタンスがある。

## ②ボランティアの確保や活動継続のための工夫（アンケートより一部抜粋）

### ア. ボランティア募集・確保

- ・口コミ。
- ・広報誌・ブログで募集。
- ・ボランティア体験・見学の受け入れ。
- ・友達が友達を連れてくると、身元がわかってお互いに安心でもある。

### イ. 教育・学習の機会

- ・年に一回、ボランティア研修会・リフレッシュ研修・食品衛生講習会・上級救命講習会を実施。
- ・リーダーになった人が責任をもって学習会に参加するようにしている。結果的には、学習会に参加してよかったという反応がある。また、学んだことを会食会のメンバーに伝えることにしているので責任感が伴っている。ただし、リーダーのカラーがでる。
- ・制度の変化や世の中の動き、他の団体の状況を知ること、なぜ学ぶことが必要なのかを説明する人が団体内には必要である。

### ウ. 楽しみづくり・親睦

- ・活動のグループごとに交流会をしている。
- ・「製本たまりば」という活動で手作業をしながら会話を楽しむ。会に貢献していると認識を持てる。
- ・配達メンバーはお花見してその後交流会を開催するというのが恒例になっている。
- ・会議費（1人200円）で、美味しいもの食べに行くことをしている。
- ・みのりパーティー：180名（会員）が年に一度一同に集う恒例行事。

受付担当など役割を割り振っている。役割があったり、直接声をかけたりするほうが、参加しやすい様子。

## エ. 人間関係の調整

- ・会食会でボランティアとして参加するが、無理になった人達が自分達で作って、自分達で食べるミニ会食会グループとして活動できる場をつくった。

## オ. モチベーションの維持向上

- ・会報誌でボランティアの紹介を行う。
- ・25周年で長期ボランティアの表彰。
- ・活動歴バッチを作りたいが、経費の面で踏み切れないでいる。

## カ. 経済的な負担軽減

- ・配達車を会が所有しており、ガソリン代も会で負担している。
- ・ボランティア保険加入。
- ・エプロン支給。

## キ. 意見集約・会議運営

- ・月一回、リーダーミーティングで意見・情報交換。うまくいっていない点でもさらけ出して報告しあい、それを他の会食会のメンバーにも伝えている。
- ・担当者グループごとに情報交換・共有。

## 〈その他〉

- ・広報誌を多方面に配布・および設置している。

## ③自治体との関係

- ・刊行物を送っている。
- ・必要に応じて活動報告を行っている。
- ・活動の見学に来てもらったり、催事や周年行事に招待したりしている。
- ・拠点について要望している。
- ・市社協に対しても毎年、補助金継続を要望。
- ・市役所の人と話す、これまでの活動や補助金の経緯が引き継がれていないように思える言動がある。

## ○活動の継続のための工夫や今後の課題

- ・拠点を越えて手伝いあう循環がある。会食会の全体ミーティングを年1回。リーダーミーティングを(月1回、第4火曜日 10~12時)で拠点を越えたヘルプについても各リーダーの話し合いで調整している。
- ・補助金は本部に入り、各支部への分配する方法をとっている。本部と支部の経済的やりとりはない。
- ・今後活動が広がるためには、新しい事業を開始し、それに伴う補助金の獲得という財政面が課題である。

<参考資料>

- ・ 特定非営利活動法人 支え合う会みのり HP

<http://blog.canpan.info/sasaeaukai/> (2016年12月12日閲覧)

- ・ CANPAN FIELDS HP

<http://fields.canpan.info/organization/detail/1539575595> (2016年12月12日閲覧)



会食会の様子



## 10) 特定非営利活動法人 いきいき会

代表理事：坂田朱美氏

所在地：大阪府高槻市土室町 36-5

調査日：2016年9月13日（火）

調査者：斉藤友歌里

応対者：坂田朱美氏（代表理事）、井上亮氏（高槻市健康福祉部長寿生きがい課 副主幹）、  
小寺和彦氏（高槻市健康福祉部長寿生きがい課 社会福祉士）

### ①活動概要・活動のひろがり

#### ○事業設立目的

- ・生協の福祉活動のなかで高齢社会における食の重要性を感じるようになった。この指とまれ方式で私募債を募り、平成2(1990)年から配食サービス 시작했다。2001年に法人化。活動しながら利用者の実態調査を行い、その内容を定期的に高槻市に報告、市として配食サービス事業に取り組んでほしいと10年に亘って訴えつづけた。
- ・2000年4月、高槻市が配食サービス事業を開始。最初とても慎重だった。その理由としては市民団体が活動に行き詰まったら簡単に放り出してしまうのでは？との懸念事項があったからとのこと。坂田氏が統計資料を持参したり、先駆的に活動されている団体を呼んで講演会を催したりなど市との信頼関係を築いていった。

#### ○事業内容

- ・高槻市（担当：長寿生きがい課）より配食サービス事業を受託（月～土曜日の夕食）。  
内容：安否確認・栄養面、エネルギー量の基準を遵守することが条件。  
※高槻市からの委託事業者は8か所（NPO法人4、企業2か所、社会福祉法人2か所）。
- ・会員への配食サービス（夕食・昼食）。
- ・協力関係にあるデイサービスに昼食を提供。
- ・会食会：地域の居場所、「えにし庵」（コミュニティカフェ）月1回程度。

#### ○食事提供の実際

- ・配食サービス
  - ・自主事業：月～金曜日の昼食、1日平均食数50食、1食720円。
  - ・委託事業：月～金曜日の夕食、1日平均食数110食、1食870円。
- ・デイサービス：月～金曜日 昼食を提供1日平均25～30食 1食300円（委託料別）。
- ・会食会：月1回昼食、15～20人参加、1食600円。

#### ○スタッフ（ボランティア）について

- ・“働く”場として地域参加のきっかけを作っていくことを意識して指導している。
- ・団体内でも助け合いが大事。スタッフ間の関係がよくないと美味しいお弁当は作れない。役割分担を上手にしてもらう。

## ○利用者について

- ・在宅の認知症高齢者が増えてきている。根気強い付き合いが大事。
- ・市からの委託事業になり、配食サービスの認知度が高くなり、幅ひろく受け入れられてきている。

## ○配食サービスの実際での工夫点

活動開始時はステーションとなる1箇所へお弁当を配達し、そこから各世帯へ運んでもらっていた。そのことで地域のつながりや顔の見える関係ができていくことをめざしたが長くはつづかなかった。そのわけは、近くの人に届けてもらうことを嫌がり受け入れられない利用者多く断念。個別配達に切り替えた。

## <いきいき会>

- 事業設立目的 上記参照。
- 事業内容 上記参照。

## ○スタッフ（ボランティア）

- ・平均年齢：56才
- ・担い手：28名

その人にあった働き方をしてもらっている。保育園に入ったころから、お母さんが活躍しやすい環境づくりを。子どもが熱を出したりしたら、すぐ他の人と交替できるなど、事業所内での支え合いが遠慮なくできる環境づくりを。今も小学生のお母さんが栄養士として活躍（2名）。

65歳以上の担い手（配達）で一人暮らし、週2日の活動をしながらも互いが見守りあいの機能を有している。

## ○他団体との連携

- ・市内のほかのNPO団体とも連携しあい、メニュー交換したり課題を共有したりなど互いにはぐくみ成長できる関係ができています。
- ・2014年に発足した1回大阪食事サービス連絡会は年に1回の学習会を開催している。会員は14団体。
- ・2012年9月 遊休民家で地域の居場所「福祉ステーション」を開設。つながりのある団体、個人に呼びかけ任意団体「やっぱりここで暮らそう会」を設立し運営にかかわっている。  
※活動内容：地域の高齢者（70才台が中心）がボランティアで運営。  
コミュニティカフェ・趣味の会・こども支援事業・コンサート・映画界 等々を開催。  
高齢者向けの課題解決のための講座の開催。

## ②ボランティアの確保や活動継続のための工夫（アンケートより一部抜粋）

### ア. スタッフ（ボランティア）募集・確保

- ・口コミ、掲示板、チラシ配布。

- ・高齢の方、若い方が隔たりなく自然体で、共に社会参加できるようにしていきたい。

## イ. 教育・学習の機会

- ①活動理念を説明する（総会の時）。
- ②1年に1回程度、活動マニュアルを見直して総会の時に意見交換を行っている。
- ③毎日のミーティング（調理）15分程度。

## ウ. 楽しみづくり・親睦

- ・昼食時間を利用して随時交流を行う（ティータイム）。
- ・年1回全員で会食会を持つ。
- ・配達スタッフが帰ってきたら、ねぎらいの言葉と共にお茶やお菓子で楽しい時間を。

## エ. 人間関係の調整

- ・常に対等の人間関係を保つようお互い気遣いを。
- ・仲間の人格を尊重し合う環境づくりを心がける。
- ・まずスタッフ間の助け合い、支え合いの気持ちが持てるような働きかけを。

## オ. モチベーションの維持向上

- ・利用者からの感謝の言葉や、いきいき会の評価、取材の紹介を「スタッフつうしん」に載せて共有をはかる。
- ・出来上がったお弁当のよかった点を評価し、直接担当したものに伝える。“あなたが必要です”を折々に言葉にする。

## カ. 経済的な負担軽減

- ・活動シフトの工夫・メニューの工夫・スタッフの職種の兼任。

## キ. 意見集約・会議運営

- ・1年に1回調理・配達に分かれて全員参加の会議をもち、意見交換、交流、共有を図る。
- ・担当者会議は必要に応じて適宜行う。
- ・スタッフの要望や内容に応じて、個人的又はグループで話し合いの機会を随時に設ける。

### 〈その他〉

- ・多世代の参加を視野に入れて、シフトを細かくわけ、子どもの成長に応じて又は当事者のその時期の優先順位を（介護、子どもの病気）考慮する。
- ・お互い様！ありがとう！の気持ちを大切に共有の精神が根付くよう日々努力を重ねている。

## ③自治体との関係・要望

### ＜自治体での取り組み＞

- ・高槻市の人口35.5万（高齢者率27%）であり、人口は減少傾向。



- ・福祉関係は積極的に取り組んでいる。
- ・配食サービス団体と市の間では、何でも話し合える良好な協力関係ができている。

#### <担い手育成>

市としては、市社会福祉協議会に生活支援サポーター事業を委託し、買い物代行等を担える高齢者の人材養成をしている。

#### <行政としての今後の課題>

- ・地域活動に参加する人が固定化されているように感じる。参加人数の底上げと出てきてない人たちへの工夫や配慮が必要。
- ・出て行ける場所に出ていけない人へのアウトリーチを両輪で行っていきたい。
- ・カフェへの出入りは強制的ではない点で、気軽さや受け入れられる度量が広いところに可能性があると思う。
- ・外に出られていない人をどう見守っていくかを地域で考えるには？が課題。

#### <坂田氏より>

##### ○活動をしていて楽しいこと

スタッフは原則、有償にしている。(調理・配達・コーディネーター・事務)が大掃除や洗車、回収した弁当箱の整理などはボランティアで関わってそれぞれが達成感を感じてもらえていることを受け止めたとき。

配食サービス活動に係わりながら、社会に必要とされていることを実感し、やがては自分の問題・・・と認識し、いま出来ることへの喜びを共有できたとき。

##### ○活動の中で抱えている課題：担い手、人材確保。

##### ○これからの活動の展開

こども食堂を教会でやってみてはどうかと、一週間に1回夕食をみんなで作れる場を設けようと動いている。

##### ○参考 HP いきいき会HP <http://npo-ikik.sakura.ne.jp/>

## いきいき会がお届けする食事は・・・

主婦たちの参加により、  
まごころをこめた手作りの家庭の味です

- ★ 出来るかぎり安全で安心できる材料を選び、添加物・保存料は使用していません。
- ★ おかずは主菜の他、野菜、豆類、海藻など三種類以上の副菜が付きます。
- ★ 毎週 献立表をお届けしています。旬の食材を取り入れ、カロリーや蛋白質も計算してお知らせしています。
- ※ お弁当は高齢者向けに柔らかく調理していますが、より軟らかいご飯やおかず、一口大や刻みも対応しています。
- ※ アレルギー食、治療食などには対応していません。

### ☆ご利用について・・・

#### 1. 夕食の配達

- ☆ 月曜日から土曜日の間でご希望の日を選べます(日曜日は休み)
- 配達時間(時間指定はできません)
- 4月～10月⇒ 15時30分～18時00分
- 11月～3月⇒ 15時00分～17時30分

#### 2. 昼食の配達

- ☆ 月曜日～金曜日(土曜日・日曜日・祝日は休み)地域限定です
- 配達時間: 11時30分～12時30分

#### 3. 料 金

- ① 高槻市の補助制度が適用される方は  
1食 510円(消費税込み)
- ② 自費による夕食と昼食の利用はいきいき会の会員として登録、  
月会費 500円が必要です。入会金は不要。  
1食 720円(消費税込み)

#### 4. お届けにあたって

- ① お弁当のお休みは・・・前日の午後5時迄の連絡で無料です。
- ② 電子レンジにかけられます・・・500ワットで2～3分(目安です)
- ③ 容器は洗ってお返し下さい。回収は次回の配達の際にします。

## 高齢者・障がい者・その他 食事作りの困難な方々へお届けします

自費で利用される方は  
会員として入会  
☆ 利用会員として登録  
して頂きます  
☆ 月額 500円の  
会費が必要です

高槻市の制度を利用  
される方  
☆ 長寿生きがい課に  
申請が必要です  
☆ 制度の適用を受け  
られる方は入会の  
必要はありません

お問い合わせは

でんわ 696-1425

受付: 月曜日～金曜日 午前10時～午後5時  
ご利用にあたっては担当者がご説明に伺います



### いきいき会は・・・

「いきいき会」は1990年に活動を始めました。  
生活の基本である「食の保障」をめざして、食事作りの困難な人々に栄養  
バランスのとれた食事を自宅までお届けしています。  
活動の中心は主婦達で、その生活体験から生まれる知恵と工夫により、  
手作りで、自然の味を生かした体に優しい、そして「食」による介護予防を  
考えた食事サービス活動を実施しています。  
高齢者、障がい者の生活を支え、自立を支援する地域支え合いの連携を  
めざしている市民参加型の非営利団体です。

## いきいき会の活動概要

### 「えにし庵」はこんな場所

- ☆ 人と人が交差する自由な空間
- ☆ あらゆる情報の交差点となる場所
- ☆ 人的ネットワークを広げられる場所
- ☆ もっと柔軟な生き方にチャレンジする  
きっかけになる場所

#### こんな活動をしています

- ・ 福祉なんでも相談 情報提供
- ・ 学習会・お楽しみ会
- ・ 子育て支援
- ・ 食事会
- ・ その他 ご要望をお聞かして



#### えにし庵は

地域の人々による支え合い組織<やっぱりここで暮らそう会>が  
運営しています。年会費 1000 円で入会できます。

### 「福祉ステーション」

## えにし庵

～人と人のつながりができる場に～



## コミュニティカフェ えにし庵の活動概要

## 1 1) 特定非営利活動法人 フェリスモンテ

理事長：山王丸由紀子氏

所在地：大阪府大阪市旭区太子橋 1-23-15

調査日：2016年9月13日（火）

調査者：斉藤友歌里

応対者：隅田耕史氏（事務局長）

### ①活動概要・活動のひろがり

#### ○事業設立目的

- ・誰もが住み慣れた地域で最期まで暮らし続けられる地域づくり目的に活動。現在、5箇所の拠点で活動展開している。会員制である。

1999年 2月に団体設立し、同年9月に法人格を取得。

2000年 ヘルパー派遣事業所を開設。訪問介護・居宅介護支援事業所の指定を受ける。

2002年 配食事業所を開設。大阪市より生活支援型食事サービスを受託。

2003年 ヘルパー派遣事業所を開設。通所介護事業所を開設（2011年1月廃止）。

2004年 高齢者賄いつき下宿を開設。

2007年 2箇所の訪問介護事業所が大阪市より自立支援法にもとづく指定を受ける。

コミュニティ喫茶を開設。

2009年 地域子育て支援拠点事業を開始。

2010年 新拠点に通所介護事業所を開設。

2011年 幼児の一時預り事業を開始。

2015年 地域共生型デイサービスモデル事業開始。

2015年 配食事業所を統合し、今里に新施設を設置。

#### ○事業形態

- ・介護事業：訪問介護・介護予防訪問介護、福祉有償運送、居宅介護・重度訪問介護、生活支援型食事サービス、高齢者賄いつき下宿、通所介護・介護予防通所介護。
- ・ケアマネジメント事業：居宅介護支援。
- ・地域交流事業：昼食・喫茶、相談、サロン、地域子育て支援拠点、たすけあいサービス、安否確認コール、絵手紙教室等。

※以下は、10月9日 第1回調査委員会での報告よりまとめた。

#### ○食事提供の実際

- ・配食サービス：月～土曜日の昼食と夕食。1回あたり約100食。2015年度の合計食数：約57,540食。配食サービス時に、服薬の声かけやポスト内の郵便物を手渡す。道の狭いところは、自転車で配達をしている。配達担い手はシニアの男性が多い。そのほか、就労の段階まではいかない障がいのあるいろいろな年代の方も携わっている。
- ・コミュニティカフェ：月～土曜日。一回あたり約15食。2015年度の合計食数：約5,230食。
- ・そのほか、会食会・サロン等を月数回開し、抹茶と和菓子でのお茶会を開催。

○高齢者や障がいのある参加者への配慮

- ・昼食の配達のみにして、夕方の配達を行わないようにする。
- ・配達コースを頻繁に変更しない。
- ・可能なかぎり近距離の配達にする。
- ・さまざまな年代・性別・障がいの人と一緒に作業を行う。

②ボランティアの確保や活動継続のための工夫

ア. ボランティア募集・確保

- ・口コミ。
- ・障がい福祉サービス事業所（相談支援事業、就労継続支援 B 型事業所（知的障がい、精神障がい、発達障がい）、ホームレス自立支援センター、生活困窮支援事業所、就労支援事業所などとの連携。

イ. 教育・学習の機会

- ・ボランティア研修の実施（年 1 回）。

ウ. 楽しみづくり・親睦

- ・研修交流会、忘年会、総会交流会、食事会、地域行事への出店、日常の飲食など。

エ. 人間関係の調整

- ・就労支援担当者の設置、他団体支援者のミーティングなど。

オ. モチベーションの維持向上

- ・会報誌での活動者紹介、来客時の紹介、会議後の飲食、日常の飲食など。

カ. 経済的な負担軽減

- ・自転車の弁当配達／1 回の配達約 10 個／1 時間程度／500 円
- ・洗い物・片付け等／1 時間程度／500 円
- ・配達用自転車の用意（以前は持込であった）。
- ・ボランティア保険の加入。

キ. 意見集約・会議運営

特になし

〈その他〉

特になし

③自治体との関係

- ・刊行物の送付。
- ・活動や NPO 等のネットワーク・連絡会等へのオブサーブ。

## ○活動する上での困難

無償ボランティアから有償ボランティアに代わり、大阪市の委託をうけることや金銭が介在することで、活動者との関係性の変化（仲間関係から雇用関係へ）活動の仕方の意識（労働なのか、ボランティア活動なのか）にずれが生じてやめていった人達もいた。活動理念の伝えかたや研修開催の必要性を感じている。

## <参考資料>

- ・特定非営利活動法人 フェリスモンテ HP

<http://www.otasha.jp/index.html>（2016年12月13日閲覧）

- ・CANPAN FIELDS HP（2016年12月13日閲覧）

<http://fields.canpan.info/organization/detail/1857068199#basicinfo>



コミュニティ喫茶の活動

## 12) 東灘こどもカフェ

代表：中村保佑氏

所在地：兵庫県神戸市東灘区甲南町3-7-14 城野ビル1F

調査日：2016年9月14日（水）

調査者：内藤佳津雄、平野覚治、斉藤友歌里

応対者：中村保佑氏（代表）

### ①活動概要・活動のひろがり

○配食サービス：年間1万2千食の配食。

○コミュニティカフェ：363日開設（10～18時）、利用者数：4,700人。

273回イベントの開催 参加者1,800人。

- ・バザーの品は無料で持ってきてくれる。バザー収益は年間約20万円となっている。
- ・はじめから意図してこういうことを始めたのではなく、料理教室をたまたま開催していたが、食を通じた地域の絆の必要性を感じたのがきっかけ。助走期間として1年間講座をはじめたが、手ごたえがなくやっぱり場が必要だと感じ8畳間を駆りスタート。狭くまって、現在の拠点に移り、5年目。
- ・カフェでは、毎日幕の内弁当の食事を提供している。
- ・「まちなか食堂」小さなこどもから高齢者までコープ神戸からロス食品の提供もあり。こども200円/食。子どもは約20名前後/日。乳児連れのママによる子育て広場になることもあるが、実際は高齢者中心。

○拠点の背景

- ・東灘こどもカフェとあたふたクッキングで賃料を折半している。72,000円/月。
- ・初期投資は東灘カフェが負担。

○カフェ利用者状況

【会員数】555名 【年会費】1,000円（こども会員500円）

【参加費】150円（お茶つき、お弁当・おもちゃなど持込OK）

※会員はお弁当割引あり。

○配食サービスについて

【食数】50～60食（多い日は80～90食）/日 500円/食

【配達先】事業所や個人宅（個人宅は毎週月・水・土 \*お盆・祝日お休みなし）。

- ・調理器具と人員もあるので過去最高でも96食。
- ・学校の休暇期間に開かれる学童・英語教室、イベント時は増えることも。
- ・当日変更OKにしている（キャンセルは当日9時半まで）。
- ・マヨネーズNGなどのアレルギーも対応している。
- ・細かい要望に応じていることで信頼関係を築いている。
- ・朝8時から仕込み、10時過ぎ～配達。



○ボランティアについて

**【調理ボランティア】**

月～金 30 人（男性 1 人）、長い人で 17 年。

各曜日のリーダーが献立を決めるが、作るのはみんなの得意なものを生かしあいながら。

ボランティアは有償。8～12 時 1,000 円／日、交通費、昼食付（試食もかねて）。

**【配達ボランティア】**

車で 2 名にお願いしている。現在 70 歳代男性 2 人で交代制（週 2, 3 日）。事業所中心 5～6 軒。運転する人は一人。

個人宅は 2～3 軒。

配達時間は約 1 時間。2 人とも 7～8 年続けてくれている。

手当て：日当 1,000 円＋ガソリン代 850 円。

決まった時間午前中で終わるので生活リズムになっているのでは。

**【その他のボランティア】**

名称：サポーター。 役割：買出し、会計、ハード面の修理など。

人数：男性 10 名くらい。

手当て：サポート隊は月 1,000 円。

**②ボランティアの確保や活動継続のための工夫（アンケートより一部抜粋）**

**ア. ボランティア募集・確保**

- ・CS神戸で研修を受けた 40～50 歳代の方を紹介してもらうことが多く、今年も 4、5 名いる。
- ・カフェのところにチラシを貼っておくだけで活動したいと来てくれる。
- ・月 1 から OK と敷居を低くする。
- ・学生さんが休暇中に学びたいと来られることもある。

**イ. 教育・学習の機会**

特になし

**ウ. 楽しみづくり・親睦**

- ・「こもれど淡路」…みんなで発展を願って淡路島を第二のフルサトに！ということで、都市と田舎を結ぶ多世代交流の居場所が増えた。

**エ. 人間関係の調整**

特になし

**オ. モチベーションの維持向上**

- ・最高齢は 81 歳。以前は 90 歳代の方もいたが、今は辞められた。
- ・ボランティアの年齢層が 50～70 歳代と幅があるので、自分で好きなことをしながら、人の家の味を覚えることができ料理教室みたいになっている。
- ・献立を考えるのは各曜日のリーダーさんたち。互いに料理に関する情報交換ができる場に

なっている。

- ・食べられる方の喜んでいる顔を思い浮かべながら作る。
- ・大体週1回なので、体力的な負担が少ない
- ・ちょっと遅く来る人、早退したい人はOK、勤怠管理はしない
- ・働きやすい環境をサポートする

#### カ. 経済的な負担軽減

- ・あたふたクッキングは有償性が強いのにたいし、東灘こどもカフェは無償性が強い
- ・無償の方がいいという人もいる。
- ・働くことに程よい有償性がある、勤務時間も含め。
- ・自分達も勉強できる、利用者の声も聞ける、楽しく作れる、社会の役に立つ
- ・有償と無償が混在しているので、選択してもらう。

#### キ. 意見集約・会議運営

- ・月1回運営・会計状況を公開する会議の開催

#### 〈その他〉

- ・活動を辞めるきっかけ
  - ・体調悪化
  - ・本当はまだ来たいけど年齢的に他の人に迷惑をかけてはいけないと気を遣われて辞められる方もいる
  - ・今回、拠点を移動したときに世代交代があった。

#### ③自治体との関係・要望

##### ＜自治体との関係＞

- ・補助の申請で問い合わせたこともあるが、新規事業とはみなされなかった。
- ・配達先の融通が効かなくなるので、今は自分達のできる範囲で行政の力を借りずにやっている。



あなたの・居場所・出場所です。  
共立(ともだち)まちなかりビングです。  
こども・親子・昔の子供・どなたでもどうぞ。



手造り健康・お弁当屋食用意

予約なしでどうぞ! 会員配達も。  
弁当は一般500円会員350円。  
ドリンクは一般150円会員100円。

毎日昼食・ドリンク(珈琲・紅茶など)

毎日(月曜~日曜) 10時~18時オープン

あなたの好きなことを自由に。

150円で遊び・勉強。休憩できます

(お茶付) 弁当・おもちゃなどなんでも持ち込みOK!

- ・こどもの自由な勉強遊びができます。TVも見れます。
- ・おもちゃ・絵本・童話の読み聞かせ・紙芝居もあります
- ・手作り手芸や絵の作品なども展示販売しています。
- ・絵手紙も自由にどうぞ。料理の相談・おやつ作り方。
- ・囲碁・将棋・もできます。パソコン相談など。
- ・新聞数紙や、漫画や週刊誌、本などもあります。
- ・お年寄りの方の生活サポート何でもご相談どうぞ。

美味しい本格コーヒーの喫茶オアシスが新規オープンしました

- ①月曜日・昼食弁当・カフェどなたでも。
- ②火曜日・昼食弁当・子育て広場どなたでも
- ③水曜日・昼食弁当・朝カフェどなたでも。
- ④木曜日・昼食弁当・子育て広場どなたでも
- ⑤金曜日・昼食弁当・囲碁(13時~)など。
- ⑥土曜日・昼食弁当・カフェどなたでも。
- ⑦日曜日・カフェ・お手伝い活動。

キッチン付のお部屋をご利用下さい。  
家族で・友達と・会議・パーティに。



愉快で楽しい多世代交流新備子。  
カフェのあゆみ・500円

現在会員は517名。

みんなで楽しく。無理のないように運営しています。  
会員募集中! 年会費1000円。子ども会員は500円  
会員特典①食事カフェが割安です。②講師になれます。  
③希望なら、会の運営にも参加出来ます。  
あなたが主役の居場所出場所です。お待ちしております

こもれど淡路交流館  
洲本、宿泊利用可!  
会員利用1500円  
淡路の中心地豪華な  
庭の広い別荘です。

お困りごと相談ください!

A:なんでもお手伝いセンター三村

- ・植栽剪定・庭の手入れ・清掃お手伝い
- 荷物移動・水道電気修理、簡単修繕・
- 家事手伝いなどいろいろ困りごと・
- ☆庖丁研ぎ、寸法直しお手伝い
- ★生活のなんでも相談どうぞ。
- お手伝いメンバーも募集中です!
- ☆センターは2015年一般社団法人に。

B:パソコン・子どもの勉強相談

こども自習・国語算数・・・夏休み課題など  
パソコン・どなたでもどうぞ。(三村・置田)

C:自分史をつくりませんか

備子にまごめさず。チーム(田所)

D:絵手紙を楽しみませんか、300円

・第1木曜2時~3時半(講師:内田)

E:バザーや環境にやさしい活動を

・玄関前で、皆さんからの支援の品を  
リサイクル提供しています。(郷出しものあり)

F:デザイン・印刷お手伝い(岸

・名刺や店舗案内、デザイン相談を。

G:図書室でこどもの勉強を。(三村

本の貸出や勉強、漢字検定も教えます。

H:カーマカフェ(世界の食と文化)

10月23日(日)12時~14時  
今回はフランス料理の予定!

I:高齢者の方へ昼食を配達します

あたふたクッキング活動、3食から受付  
調理スタッフも募集中です8~12時

### 3 まとめ

#### はじめに

生涯現役社会の構築に向けた、高齢者の社会参加や生きがいづくりを考えるうえでのあり方について、各団体による「食」の活動での取り組みに関して、下記のような重層的な視点でとらえて整理することとする。

- (1) まず、担い手という視点から、高齢者を含む住民・市民が「食」の活動の担い手となることをめざして、各団体でどのような取り組みがなされているかを考察することである。ここには、ボランティアほかの担い手の募集や人材育成、参加の継続促進に関わる取り組みが含まれる。
- (2) 次に、活動という視点である。事例調査の対象は、高齢者を含む住民・市民らによって担われる、「食」に関わる自発的活動であるが、そこには既存の活動の存続、新しい活動の創出、新しい活動形態の開発などが含まれる。新しい形態の活動は、既存の活動団体によって運営される場合と、その運営のために新たな活動団体が設立される場合がある。
- (3) 最後に、サービスという視点である。上述してきた、高齢者を含む住民・市民らによって担われる、「食」に関わる自発的活動は、地域で不特定多数が利用しうる公共サービスとしての一面をもつことから、地域で必要とされるサービスを各自治体の政策を通じてどのように持続・創出するかという課題となる。ここには、既存の活動が、自治体の既存の／新規のサービスとして位置付けられる場合と、新たなサービスを創出するために新たな活動の創出がめざされる場合がある。

#### 1) 担い手について

「食」の活動の担い手には多様な形態がある。例えば、無償ボランティア、有償ボランティア、パート・アルバイト、職員といった具合である。地域の自治的な住民活動のように、必ずしも「ボランティア」として捉えられていない場合や、居場所やサロンのように、利用者として来ている人が、ある状況において役割を得て担い手となるといった場合もある。このように、多様な関わり方ができることが、市民活動の強みといえる。そして、このような担い手になることは、単にその活動や団体に参加するというだけでなく、そこでの役割を担うことを通じて地域や社会とつながることを意味する。言い換えると、担い手となることは、活動参加であるとともに、地域参加や社会参加という意味をもちうる。すなわち、「食」の活動には、高齢者を含む住民・市民に対して、地域や社会への多様な関わり方を提供するという価値があるといえる。このような価値をふまえて、担い手の形態について柔軟に捉える必要がある。

担い手の募集や育成は、「食」の活動の創出・持続の条件の一つであるが、活動の種類によって必要となる役割やその組み合わせはさまざまである。例えば、配食サービスには、調理、盛り付け、洗浄、献立作り、コーディネートなどのほかに、お弁当に添える手紙を書く、調理の補助、盛り付けの補助など多様な役割がある。活動団体の中には、このように役割を小さく切り出し、参加希望者の体力や志向に応じてマッチングすることで、多様な参加希望者に「出番」が創りださしているところがある。また、ボランティアら担い手の体力の低下を補完するため、その役割を担う担い手の人数を増やしているところもある。これらは、活動者一人当たりの作



業量などを計算する「効率性」という観点からすれば非合理的であるともいえるが、より広い立場からとらえ、多様な社会参加の機会を地域に作っていくという観点からみれば合理的な取り組みである。ここで、市民参加による「食」の活動における人材募集や人材育成の一つのポイントは、担い手の個性や条件に応じた参加機会の創出・維持に向けた、コーディネートや工夫、配慮にあるといえる。

## 2) ハードルが高い活動とハードルが低い活動

「食」の活動には、いわば、ハードルの高い活動とハードルの比較的低い活動とがある。前者は、活動頻度が高い、活動時間が長い、専門的な知識技術や技能の熟練、作業のための体力が必要といったものである。これらのハードルの高い活動とハードルの低い活動とをつなぐことは、以下のように、二つの方向性で担い手づくりに寄与する。

まず、既存の担い手が参加し続けられる条件を生み出すことである。特定非営利活動法人 支え合う会みのり（東京都稲城市）では、長い活動歴の中で、配食サービス、会食会、ミニ・デイ「たまりば」、製本たまり場、コミュニティカフェなど、多様な活動が行われるようになっていく。当団体の場合、多様な活動の中で配食サービスは他よりも体力を要するなどハードルの高い活動にあたる。そこは、長年参加しているボランティア各人にとって、単なる活動の場にとどまらず、重要な帰属先（居場所）、楽しみ、生きがいの場であり、その人の人間関係のかけがえのない核の一つでもある。加齢などに伴いその参加をやめることは、同時に、社会とのつながりの少なからぬ部分を失うことでもある。そこで、当団体では、会食会や、会報を作る「たまり場」、居場所など、比較的ハードルが低い活動への参加につなげるコーディネートが行われている。

もう一つは、新しい担い手の参加を促す条件を生み出すことである。上記とは反対に、ハードルの低い活動から、ハードルの高い活動へと参加を促すコーディネートが、特定非営利活動法人 いぶりたすけ愛（北海道登別市）で見られる。当団体では、グループリビング、福祉有償運送サービス（移送サービス）、配食サービス、会食会、訪問家事援助などが実施されているが、参加の場として見たとき、これらはハードルが高い活動となっている。これらとは別に、当団体には、高齢者や障がいを持った人たちが、自分の知識や特技を活かして事業や活動を行える「ともかな」という場が創設されている。ここでは、コミュニティカフェ、男性料理教室、ものづくり、英会話教室、「長生き寄席」、駄菓子屋、子育てサロンなど、自己実現や社会起業をめざす活動が行われている。それらの活動の担い手に、法人が実施している「ハードルの高い活動」への参加を呼びかけることも行われている。

## 3) 人材募集の場

人材募集に関する活動団体の取り組みのなかで、多くの団体からあげられるのが口コミである。ここで着目すべきは口コミが伝わるために必要な人々の繋がりである。繋がりの一つは、活動の担い手を起点とした個人的な関係（パーソナル・ネットワーク）である。そこで一つの問題は、担い手の活動歴が長くなるにつれて、活動の中心となっている層のパーソナル・ネットワークが増えないことである。例えば、小学校などに通う子どもを持つ主婦層を中心に設立された活動では、当初は、子どもを介したパーソナル・ネットワークが自然と広がりを持ったが、子どもの成長とともにそれは目減りしていく。そこで、活動の担い手が、他の社会的活動

やイベントなどへの参加を通じて、自分たちの活動への参加を呼び掛けることも行われている。

活動の広がりに向けた広報では、地域の中で中間支援機能を果たすセンターの活用がある。ここでは、社会福祉協議会、ボランティアセンターなど福祉分野の比重が大きいものだけでなく、市民の学びを介した参加促進やマッチングなどを行う生涯学習センターや、市民活動支援センター・NPO センター、大学や大学内のボランティアセンターなど、福祉に限らない中間支援組織やセンターが役割を果たすことも期待される。具体的には、パンフレットの配布、掲示、活動紹介、講座・学習会などが含まれる。同様に、「食」の活動が、地域で必要な生活支援サービスなどとして創出・位置づけられる場合、生活支援体制整備事業や総合事業等を主導する介護・福祉部局や地域包括支援センターのみでなく、生涯学習・社会教育や市民自治・市民協働などの担当部局との連携が行政の課題といえる。

#### 4) 地域の連携・ネットワークで活動を創る・支える

##### (1) 既存のつながりとつながる

活動の創出やそこに参加する担い手の募集について、地域の特性をふまえることも重要である。町内会が「食」の活動を支えている事例として、特定非営利活動法人 ゆめみ〜るの活動がある。

当団体は、上述した、特定非営利活動法人 いぶりたすけ愛とは、JR の線路を挟んで反対側にあるが、地縁が強い地域である。8 つの町内会が連合町内会を構成し、それが1つの小学校区と重なる。当団体は2008年に設立され、閉鎖されたコンビニエンスストアの店舗を用いて地域食堂の開設のほか、配食や朝市を行っている。これらの担い手は、各町内会から出ている。さらに、当法人では、線路の反対側で買い物などをするため週2回の移動サービスを始める構想が進んでおり、運転手・添乗員などの担い手と利用者は各町内会で選ぶという。人材募集について、当該地域では地域のつながりが強いことから、活動団体が直接個人へアプローチする方法とは別に、既存の活動やコミュニティを取り込むのではなく、それらを持続させつつ、つながる方法といえる。

##### (2) ネットワークで活動の継続を支える

食事サービスネットワークみやぎ（仙台市）は、1996年5月に5団体で結成され、現在7団体が参加している。月1回の定例会議のほか、調理講習会、施設見学、お弁当交流会、研修会（年1回）、献立表、レシピの交換、仙台市への要望などが行われている。このような同様の活動を行う団体どうしのネットワーク（領域特定のネットワーク）は、学びや価値観の共有、スキル・アップなどを通じた、活動の質の向上や担い手のモチベーションの維持に有効といえる。

#### 5) 市との協働事業によるサービスの創出

「実家の茶の間・紫竹」（新潟市東区）は、2003年から自主的な活動として「地域の茶の間」を創設した河田瑛子氏らの活動と新潟市との協働事業である。市内には既に約400か所の居場所・サロンがあるが、多くは月1回であることから、常設型の居場所・サロンをひろげるため、地域包括ケア推進モデルハウスとして設置されたものである。市が施設を借り上げるなどし、そのなかで、「茶の間」を実際に運営する取り組みであるまた、これまでの活動での経験をマニ



マニュアル化した『河田方式 「地域の茶の間」ガイドブック』の刊行も、既存の活動の「可視化」といえる。そこには、「地域の茶の間」の目的、参加費について、参加者の約束事、始めるにあたっての準備、居心地のいい場所づくりのための作法など、細かなことが言語化されている。さらに、「実家の茶の間」と地域包括ケア推進課との協働事業として、参加への水路となる学びの場である「茶の間の学校」が行われている。このように、サービスの創出にむけて、既存の活動を、市との協働事業によるモデル事業、マニュアルづくり、学びの場づくりなどを通して「可視化」し、その普及・充実（頻度の増大）を図る取り組みといえる。

「ほっとサロン将監」は、複数の活動団体で設立されたネットワーク組織であるNPO福祉ねっと宮城と仙台市との協働事業として開設された居場所である。ここでは、上述した食事サービスネットワークみやぎの構成団体でもある市民活動団体の「けやきグループ」（週4回夕配食を実施）が、配食用と同じ食事を当サロンに提供するといったように、既存の活動を核として別の形態のサービスを生み出している点が着目される。また、当サロンの運営には、上記2団体のほかに、市社協、地区社協、会場となっている地区老人憩の家の運営委員会、地域包括支援センター、関連する地域の町内会などが関わるように、市の協働事業を介して、広域的に活動する中間支援組織と地域の諸活動・諸機関が連携して、地域に必要とされるサービスを創出した事例としても着目される。

## 第4章 研修会

### 「食を通じた生活支援サービスの推進と高齢者の社会参加をすすめるために」

#### 1 研修会の概要

##### 【日時・会場】

仙台会場（宮城県仙台市）

平成 28 年 12 月 18 日（日） 10：00～16：00 東北福祉大学東口キャンパス 36 教室

参加者：65 名

東京会場（東京都港区）

平成 28 年 12 月 20 日（火） 10：00～16：00 ニッショーホール 大会議室

参加者：54 名

長久手会場（愛知県長久手市）

平成 29 年 1 月 25 日（水） 10：00～16：00 長久手市福祉の家 集会室

参加者：48 名

#### 1) 目的

生活支援体制整備事業および総合事業への移行に伴い、互助型の介護予防・生活支援サービスの創出に向けた高齢者の「参加の場づくり」「担い手の確保」が目下の課題である。団体・自治体への調査からは、「担い手としての高齢者」が待たれる一方、参加を期待する人材に関する情報や募集を地域で共有できていない現状が明らかになった。そのことによって活動の継続性に不安を抱え、それによって食を通じた生活支援サービスが持っている価値を関係者間で共有できていない現状が見えてきた。

そこで調査結果を生かして、自治体、生活支援コーディネーター等協議体関係機関を主対象に、活動団体のメンバーも交えながら、食をテーマにした活動とボランティア活動等の住民参加の意義を共有し、幅広い参加の創出を推進することを目的とした研修コンテンツを開発した。研修は、講義による高齢者の社会参加の意義、食を通じた生活支援の実際について理解を深め、その後グループワークを行い、多様な主体間の規範的統合を図ることで、住民参加による食を通じた生活支援サービスの価値を共有することを目指すものとした。



講義「高齢者の社会参加の意義について」

## 2) 対象者

市町村職員および第1層および第2層の協議体構成員・関係諸機関  
 (地域包括支援センター、社会福祉協議会、食事サービス団体(会食・配食・サロン等)、生活支援サービス提供組織・団体、生活支援コーディネーター等)

【参加者の属性】

### 〈仙台会場〉

エリア別		所属別		
宮城県内	仙台市	53	NPO・住民参加型組織	48
	多賀城市	2	地域包括支援センター	5
	富谷市	1	行政機関	3
	大崎市	1	民生員・地縁団体	3
	東松島市	1	社会福祉協議会	3
	登米市	1	生活協働組合	1
	岩沼市	1	その他	1
	柴田郡村田町	1	不明	1
	柴田郡川崎町	1	合計	65
県外	福島県	1		
	山形県	1		
	不明	1		
合計		65		

### 〈東京会場〉

エリア別		所属別		
東京都23区	世田谷区	4	行政機関	11
	港区	4	社会福祉協議会	11
	千代田区	3	NPO・住民参加型組織	11
	中央区	2	地域包括支援センター	7
	荒川区	2	その他非営利法人	4
	新宿区	2	企業・営利法人	3
	練馬区	2	議員	3
	足立区	1	研究者・研究機関	2
	大田区	1	不明	2
	中野区	1	合計	54
東京市部	立川市	3		
	昭島市	2		
	稲城市	3		
	西東京市	2		
	調布市	2		
	三鷹市	1		
	町田市	1		
	狛江市	1		
都外	埼玉県	5		
	茨城県	3		
	群馬県	2		
	神奈川県	2		
	新潟県	1		
	千葉県	1		
	兵庫県	1		
	広島県	1		
	不明	1		
合計		54		

〈長久手会場〉

エリア別		所属別		
愛知県内	長久手市	7	行政機関	15
	知多郡東浦町	4	地域包括支援センター	9
	日進市	4	社会福祉協議会	6
	名古屋市	3	NPO・住民参加型組織	5
	一宮市	2	企業	5
	海部郡蟹江町	2	社会福祉法人(社協除く)	1
	江南市	2	生活協同組合	1
	常滑市	3	その他	1
	新城市	1	不明	5
	瀬戸市	2	合計	48
県外	知多郡武豊町	2		
	豊田市	1		
	北名古屋市	1		
	岐阜県	4		
	島根県	1		
	不明	9		
	合計	48		

3) プログラムの構成

講義Ⅰ 高齢者の社会参加の意義について

高齢者がボランティア活動に参加することの効果、地域に参加の場をつくる意義について、アンケート調査結果を踏まえて講義を行った。

講師：内藤 佳津雄氏（日本大学文理学部 教授）

講義Ⅱ 住民参加を促す生活支援サービスの取り組み

自治体および団体の協力を得て、取り組みの情報共有の場とした。

- 〈仙台会場〉
- ・ 仙台市健康福祉局保険高齢部高齢企画課より施策説明
  - ・ けやきグループ(仙台市泉区)より「ほっとサロン将監」の事例報告、食事サービスネットワークみやぎ（市内7団体）より住民参加の食事サービスについて事例報告



食事サービスネットワークみやぎより事例報告（仙台会場）

- 〈東京会場〉
- ・世田谷区の住民参加の取り組み支援について報告
  - ・食を通じた支え合いのコミュニティ推進とボランティアの参加について  
NPO 法人地域たすけあいの会（熊本県玉名市）より報告



世田谷区の住民参加の取り組み支援の事例（東京会場）

- 〈愛知会場〉
- 尾張東部 4 市 1 町（日進市、みよし市、豊明市、長久手市、東郷町）が  
取り組みを報告し各市町が情報共有



4 市 1 町が食を通じた生活支援の取り組みを報告（長久手会場）

### 講義Ⅲ “食”をテーマに 生活支援サービス推進のノウハウについてグループワーク

#### （１）ガイダンス（30分）

- ・「ボランティア」に参加してほしい人たちを理解する
- ・「自分たち」を理解する：食を通じた活動の「価値」とは
- ・活動の負担を軽減し、高齢者の参加を促す工夫について（聞き取り調査結果から）

#### （２）グループ演習「どうしたら新しいボランティアが参加できるのか —協議体メンバーで考えよう！—」

##### 〈進め方〉

- ・全体進行は、講師およびファシリテーターが行う。
- ・1 グループは、6～8 人程度。

- ・幅広く意見交換を促すため、様々な所属・地域で構成されるよう座席指定とした。

### ①演題、目的の説明（5分）

- ・高齢者の参加による「食を通じた生活支援」の価値、それをどのように立ち上げ、ボランティアの参加を促すのか、考える。
- ・ボランティアが参加できる活動を地域で生み出すための議論の方法を持ち帰ってもらう。

### ②自己紹介・進行役と記録役の選出（10分）

- ・全員立って、班のメンバー一人ひとりと握手して、所属・氏名だけ名乗って挨拶する。終わったら着席。
- ・リーダー・記録役選出。じゃんけんで1番目に勝った人が進行役、2番目の人が記録役。記録役はグループ用のワークシートを記入する。

### ③グループ演習（80分）

#### 演習Ⅰ

「あなたは、どんな活動ならば、ボランティアとして参加したいと思いますか？」（20分）

- ・ボランティア活動に参加している人は現在参加している活動の良いところ、参加への意欲が高まることをあげる。
- ・今、ボランティア活動に参加していない人は、どんな活動だったら、参加への意欲が高まるか、考える。
- ・個人で付箋紙に書き出したあと、全員の意見が出たら、出された意見の中からグループで価値があると共有できる3枚の付箋紙を選ぶ。選んだ付箋紙はワークシートに記入。

演習Ⅱ「食を通じた生活支援サービス」が持っている「価値」を考えてみましょう。（35分）



グループ演習（仙台会場）

- ・現在、参加している方は、自分たちが感じている価値をもう一度考える。
- ・現在、参加していない人は、「食を通じた活動」に対する自分自身が感じる価値やメリットを考える。

- ・個人で付箋紙に書き出したあと、全員の意見が出たら、出された意見の中からグループで価値があると共有できる3枚の付箋紙を選ぶ。選んだ付箋紙はワークシートに記入。
- ・演習Ⅰ、Ⅱの結果をあわせて、いくつかのグループから発表してもらう。



演習Ⅲ 皆さんがチームだとしたら、どうすればこのような価値のある「食を通じた生活支援の活動」を作ることができるか考えてみましょう。(40分)

- ・まずは週1回の会食会つくることを想定する。現在の立場に応じて、できそうなことを考えてもらう。
- ・ワークシートに沿って、次の項目について個人で書き出す。

1) 場所

2) 元気な高齢者に参加してもらうための工夫

3) その他の担い手として考えられる人、集める方法の工夫

4) 高齢ボランティアの参加が長続きする工夫

<皆さんが選んだ「参加したくなる価値」を実現する活動にするには?>

5) その他にも良い方法があれば、「その他」の欄に記入

〈(2) → 4) → 3) → 1) → 5) の順に考えてもらう。特に2) 4) 3) を中心に考えてもらう〉

- ・他の人の意見で、自分と違う意見は自分のシートにメモしてもらう。
- ・全員の意見が出たら、グループとしての方針を選びましょう。記録役はワークシートに結果を記入。
- ・いくつかのグループから演習Ⅲで出された意見を発表してもらう。

※仙台研修では、参加者の多くが活動団体であったため、演習Ⅰを活動の価値、演習Ⅱを「①人材となりそうな人たちがいる活動・団体・機関 ②担い手募集や育成に関わってくれそうな活動・団体・機関をあげてみてください」、演習Ⅲを「新たな人材に食を通じた生活支援の「価値」・「メリット」をどのように伝えていくのか考えてみましょう」のテーマで行った。

(3) 講評、まとめ (5分)

- ・演習Ⅰ～Ⅲを通して出された意見をもとに講師がコメントをし、まとめを行った。

## 2 実施後アンケートから

3会場にて参加者アンケートを実施した。

仙台会場	65名	回答者数	46名	(回収率 70.8%)
東京会場	54名	回答者数	51名	(回収率 94.4%)
長久手会場	48名	回答者数	40名	(回収率 83.3%)

### 1) 本日の研修会をどこで知ったか

仙台会場は行政や社会福祉協議会へ直接広報をしたものの、結果として当会と食事サービスネットワークみやぎを通じて知った人が7割を占め、参加者の層にも反映された。

一方、東京会場・長久手会場は都・県および厚生局より広報を依頼したことから、自治体等から知った割合が高かった。

表5-1 開催情報の入手元

(複数回答)

開催情報入手先	会場		
	仙台会場 (N=46)	東京会場 (N=51)	長久手会場 (N=38)
全国老人給食協力会から	39.1%	33.3%	18.4%
食事サービスネットワークみやぎから	37.0%		
都・県・自治体から	6.5%	17.6%	47.4%
社会福祉協議会から	2.2%	17.6%	13.2%
NPO団体から	21.7%	3.9%	
インターネットから	2.2%	7.8%	7.9%
メールマガジン・メルマガリストから	2.2%	2.0%	
その他	4.3%	17.6%	13.2%

### 2) 研修会の内容全般についての評価

4段階評価で「満足」との回答が仙台会場では39.5%と低調であった。原因として、参加者が団体に偏ってしまったこと、研修時期の開催が年末に近い日曜日だったため、自治体等が参加しづらかったことが考えられる。

東京会場では74.5%、長久手会場は68.4%と満足度を持ち直した。東京会場では回答者全員が「満足」「やや満足」と3会場の中で最も高い評価であった。要因として、県・都、厚生局に広報を依頼したことで、幅広い関係機関が参加することができ、グループワークでの意見交換が新鮮に感じられたこと、また自治体の事例・実践団体の事例がバランスよく構成されたことなどが考えられる。

総評としては、「満足」「やや満足」を合わせると、いずれの会場も95%を超えたことから、満足度のきわめて高い研修であったといえる。

表5-2 研修会の満足度

満足度	会場		
	仙台会場 (N=43)	東京会場 (N=51)	長久手会場 (N=38)
満足	39.5%	74.5%	68.4%
やや満足	55.8%	25.5%	28.9%
やや不満足	4.7%	0.0%	2.6%
不満足	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%

### 3) 研修会に参加してよかった点

参加者のほとんどが団体であった仙台会場では、「他の参加者との交流・情報交換が図られた」(57.8%)・「高齢者の社会参加の意義について理解が深まった」(53.3%)の順に回答率が高かった。

行政機関が中心であった東京会場、長久手会場では「食支援の役割について理解がすすんだ」との回答率が64%台と共通して高く、東京会場では「高齢者の社会参加の意義について理解が深まった」(74.5%)、長久手会場では「他の参加者との交流・情報交換が図られた」(59.0%)が最も高い項目であった。

一方、3会場に共通して「抱えていた問題・不安の解消につながった」との回答は他の項目に比べかなり少なかった。

だが今回の研修の主題が「食をテーマに住民参加を考えよう」であり、具体策の前にまずは協議体に関係する多様な機関が高齢者が参加する食支援の価値を共有し、推進のための情報交換を活発に図ることであったことを考えれば、研修のねらいとプログラムは整合的であったといえる。

表5-3 参加してよかった点

参加してよかった点	会場		
	仙台会場 (N=45)	東京会場 (N=51)	長久手会場 (N=39)
高齢者の社会参加の意義について理解が深まった	53.3%	74.5%	48.7%
市民参加による生活支援サービスについて理解がすすんだ	40.0%	54.9%	38.5%
食支援の役割について理解がすすんだ	37.8%	64.7%	64.1%
関係機関との連携について理解がすすんだ	15.6%	17.6%	20.5%
自分たちの地域でやるべきことが分かった	28.9%	27.5%	17.9%
抱えていた問題・不安の解消につながった	8.9%	11.8%	0.0%
他の参加者との交流・情報交換が図られた	57.8%	39.2%	59.0%
その他 - 良かった点を具体的に教えてください (別記載)	35.6%	27.5%	35.9%

以下に、自由記述を整理した。

### 〈高齢者の社会参加の意義について理解が深まった〉

#### 仙台会場

- ・ボランティアの意義を考え、知ることができた。
- ・ボランティアなどに参加する事で自分自身の健康寿命をのばし、認知症の予防などにもつながるという事を改めて認識しました。
- ・ボランティアの役割、広め方を分析できた。
- ・社会における高齢者の現状がよくわかった。今後の課題が何か少しながらわかったように思う。
- ・内藤先生のお話、大変分かりやすく、拝聴できて良かったです。
- ・マーケティングの1.0、2.0、3.0の視点での人材募集という視点、とても参考になりました。

#### 東京会場

- ・ボランティア活動でかかわる意義や評価についても共通の情報が必要であることがわかった。

#### 長久手会場

- ・高齢ボランティアの方 活躍場、参加する場所について考えた。
- ・高齢者の活用が必要な理由、またなぜ“食”なのか、理論的に解説いただき、自分の中ですっきり落とし込めた感じがした。

### 〈市民参加による生活支援サービスについて理解がすすんだ〉

#### 仙台会場

- ・行政とのかかわりの薄さを痛感した。
- ・ボランティアが不足している現状が理解できた。
- ・役割を細分化し、できることを行っていく、ということで、ボランティアがより身近に協力しやすくなるように感じた。

#### 長久手会場

- ・生活支援の方法がこの様にある事に感謝です。運営の経費はどの様にしているかを聞きたかったです。
- ・他市町の生活支援体制整備事業の取り組み状況を知ることができ、持ち帰って、これからの参考としたい。
- ・介護予防・日常生活支援総合事業と生活支援体制整備事業についてもよくわかった。行政の方もしっかりと自分の市を支えるために必要なことを考え取り組んでいることを聞き、自分もやる気が出た。自分の働く行政職員にも聞いてもらいたかった。
- ・突然出て来た生活支援サービスについて少し理解出来ました。

あらためて自分たちの活動が見えてきました。

#### 〈関係機関との連携について理解がすすんだ〉

##### 仙台会場

- ・行政とのかかわりの薄さを痛感した。

##### 東京会場

- ・（事例報告で）若い人や大学とのつながりを大切に続ける工夫がすばらしい。

#### 〈自分たちの地域でやるべきことが分かった〉

##### 仙台会場

- ・自分の活動への新たなヒントをもらえた。
- ・価値の共有（社会へのアピール）を確認することが大切と感じました。
- ・社会とのつながりを感じ働く事を決めることができた。

##### 長久手会場

- ・あらためて自分たちの活動が見えてきました。

#### 〈抱えていた問題・不安の解消につながった〉

##### 仙台会場

- ・自分の活動への新たなヒントをもらえた。
- ・役割を細分化し、できることを行っていく、ということで、ボランティアがより身近に協力しやすくなるように感じた。

##### 長久手会場

- ・活動の価値を伝えることが新しいメンバーを集めるため、現在のメンバーのモチベーションを保つために必要であると学びました。
- ・今、たずさわっている事業に役立つ意見が参考になった。
- ・今後の方向性がわかって良かったです（現在「居場所」作りにかかわっているので勉強になりました）。
- ・長く続けていくことに必要なことがわかりました。集まって話すこと、親睦会など。

#### 〈他の参加者との交流・情報交換が図られた〉

##### 仙台会場

- ・グループのひとりひとりが、よく意見をもっていることが分かりたためになった。
- ・地域包括支援センターの方も良く地域を理解していることを知った。

## 東京会場

- ・事例紹介も含めいろいろな取組みが為されていることを知ることができ、たいへん勉強になりました。
- ・具体的活動、想いを聞くことができ嬉しく思いました。

## 長久手会場

- ・他の自治体の活動が聞けた。
- ・いろいろな活動事例が聞けて参考となった。

### 〈その他 感想、意見等〉

## 仙台会場

- ・他の団体も、これからの人材不足と言う事でなやんでいるが、次につながる活動を継続して皆でこれから高齢に向かう私達の課題を、今後も勉強していきたいと思えます。
- ・特にグループワークが楽しかった。清水先生、中島先生のリードをでスムーズに活発に意見を出せた。
- ・グループワークの時間が多くて良い。

## 東京会場

- ・今回のように分野を特定して、話し合った方が、深い議論が出きるのだと実感しました。
- ・講師のお話が大変よかったです。今後のご活躍を期待します。
- ・いずれの講師の方からも、パワーをいただきました。活動や仕事の中で、まよったときに、こういったお話がきけると、「またがんばろう」と思いますね。
- ・自分達が先頭で牽引していくのではなくひっぱって、共働作業を念頭において活動して行く。

## 長久手会場

- ・参考になることが多かった。

### 4) 演習、グループワークを体験して良かった点

自由記述の内容を大まかに分類した。

### 〈立場を超えた情報交換が図られた〉

## 仙台会場

- ・自分ひとりでは考えつかないことがたくさんわかり勉強になった。
- ・どのグループもかかえている悩みが同じことが分かった。
- ・課題はすべて共通。各参加者の所属の立場のちがいが、考え方を聞いてよかった。気づきの発見ができた。
- ・実際活動を担う上での、それぞれに考えを聞くことができてよかったです。
- ・自分の頭にはない様々な意見が聞けたことが勉強になりました。今回の研修内容について



事業所でも話し合いたいと思います。

- ・他の分野の人達の意見が聞けて良かった。
- ・同じ価値を持っていることがわかってうれしかった。
- ・演習の内容について、一歩先を進んでいる方多く、その現状の深いところをきくことができました。
- ・他の参加者との交流が出来て、たくさんの意見が聞くことが出来て大変良かった。男性の方の意見を聞くことができて、良かったです。
- ・みんなからアイデアをいただいた。
- ・いろいろな意見が聞けて良かった。他の班からの意見も参考になった。
- ・既に担い手となっている方が4名いましたが、私と発想や視点が異なっていて、それがブレインストーミングに表れていておもしろかった。

## 東京会場

- ・社協、自治体と立場と年齢の中もあるグループだったので、いろいろな意見を伺うことができた。視野が広がった。
- ・他の方の意見は大変に貴重でした。今後のつながりが持てそうで幸いです。
- ・自分では考えていなかった意見が聞けたり、事例等を知ることができてよかったです。
- ・それぞれ異なる立場からの視点が聞け良かった。
- ・多方面に渡る考え方や方法を知ることができた。
- ・いろいろな意見に出合えること。
- ・皆さんの様々な意見を聞き、また自分の持っていた疑問などにも答えていただいたので、とても勉強になりました。
- ・立場による発言の違いがおもしろかった。
- ・様々な意見を聞くことができて良かった。行政でやること、市民がやること、役割分担を明確にしていけると、負担感が少なくなるのではないかな。
- ・違った地域の話が聞けた。
- ・それぞれの立場の方たちの意見をうかがうことができるよい機会でした。
- ・実際に、活動されている方の意見や情報を得ることも出来たので、大変為になりました。
- ・いろいろな自治体の立場が異なる人たちとの意見がきけて、とても参考になりました。
- ・色々な考えが聞けてよかった。食だけでなく、他の事にも生かさせていけたらと思った。
- ・今まで考えていない様な意見が聞けてとても良かったと思います。
- ・各種のバックグラウンドから意見が出てきて、とても参考になった。
- ・行政や社協の人の意見を聴くことができた。
- ・色々な立場の方からの様々な意見をきくことができて良かったです。
- ・他所の課題や工夫を拝聴できた。
- ・いろいろなアイデアがきけて、明日からの活動にいかせると思いました。
- ・それぞれの地域で頑張られている方々と交流が出来、実際にお話が聞けて良かったです。一緒に考えて、こんかいのテーマを深めることが出来ました。

- ・ちがった視点で意見がきけてよかった。
- ・みなさまの意見すべて。

## 長久手会場

- ・ほかの参加者と一緒に演習を体験して、よかったと思います。実際に活動している方の意見は大変参考になりました。
- ・自分とは違った意見が出てとても参考になりました。
- ・体験者からの生の声 提案も含めて参考になりました。
- ・「食」を通した生活支援の価値について、いろいろな意見を聞くことができ、とても参考になりました。
- ・情報交換ができたことが良かったです。
- ・いろいろな立場の方のお話が聞けてよかった。
- ・実際に行っている方や他市の方々の意見がきけて参考になりました。ありがとうございました。
- ・他の所の色々な意見を聞く事ができた。
- ・いろんな役割の方と意見交換することができなかった。
- ・色々な職種の方との交流で違った視点でみることでより新たな発見ができた。
- ・立場により発想が異なり、よい気づきとなりました。
- ・意見が出せても、実際に現場で働いている方の話はとても貴重だった。
- ・他の自治体の活動をきけた。いろいろなアイデアがきけた。
- ・実際に行っている活動を具体的に聞け、今後の活動の参考になった。
- ・他の市町村での取り組みを聞く事ができ、とても参考になりました。「食」をひとつとっても、生かし方はいろいろありますね。
- ・自分で思いつかない意見を聞くことができた。
- ・実際の活動者の話をうかがうことができた。
- ・実際に活動されている方など、いろいろな立場の方の意見が聞けてよい勉強になりました。
- ・立場の違う方からの意見がとても新鮮でした。
- ・いろんな立場の方の意見が聞け参考になった。ヒントがたくさん得られました。
- ・複数の意見をきいて、自分が気づかなかったことに気がついた。
- ・いろいろな団体、地域の方の話が聞けて良かったです。
- ・いろんな視点で考えられたこと。他施設の活動について知ることができた。
- ・他地域の自治体の方とも、話が出来、活動内容を知ることができてよかった。

### 〈今の立場からの気づき〉

## 仙台会場

- ・行政職として、実際に NPO 活動をしている人の話しが聞けて良かった。困っていること、弱み、強み、やりがいを聞いた。

## 〈グループワークの利点〉

### 仙台会場

- ・特にグループワークが楽しかった。清水先生、中島先生のリードをスムーズに活発に意見を出せた。
- ・考えをまとめやすくなった。
- ・グループワークの時間が多くて良い。
- ・チームワークが良くなりうまくまとまりました。
- ・時々このようなグループワークに参加する事が大切なのだと考える。
- ・色々、共同作業をする中で、新しいつながりが感じられ、よかったです。

### 東京会場

- ・グループで考えることによって、様々なアイデアが出て考えを発展させることができました。
- ・肩の力を抜いた話しあいの場になりよかったです。

## 〈その他、グループワークを通しての気づき〉

### 仙台会場

- ・福祉関係者とボランティアだけとの格差 考え方が薄々解った。
- ・配食サービスの運営について理解できました。ご苦労されている様子がよくわかりました。
- ・改めて、福祉が大切な事がわかった。
- ・民生委員に相談することも大切。人材も担当しているとのこと。
- ・問題点が発見できた。
- ・伝える先（仲間募集）の新しい発見・気づき。
- ・食べる事は生きる事。将来の担い手も参加していることが今後につながると思った。ありがとう、と感謝を頂ける活動である。沢山の皆様と共有できる言葉が聞けて良い経験でした。
- ・情報交換ができたとともに、演習を行ったことで、まだまだPR不足である部分も多いように感じた。今日出た意見の中から持ち帰り、地域での活動に生かしていきたい。

### 東京会場

- ・自分の気づかない所に気づかせてもらえる。
- ・班の方々のお話が少しずつ分かった。
- ・具体的なイメージができた。
- ・具体的にやった方がいいことが見えたので実践的だった。地域性から入らずサービスの価値に焦点を置いた意見交換で参考になった。

### 長久手会場

- ・長く宅配弁当を続けておられる方のお話の中で、“強い自信”を教えられました。

食に対する関心の度合は、人によってちがうことであり、共有できることであることがわかった。

- ・同じグループの中に永年、ボランティアをされていた方がみえ、活動のご苦労や、生きがい等、続けて来られた経験を伺うことができました。大変、有意義な会で当市でも参考となりました。活動には、団体の方が持ち出しのこともあり、金銭面でのフォローも、自治体には協力して頂きたいと思いました。
- ・活動から価値を生む、作っていくという観点がなかったので新しい発見だった。
- ・他市町の活動、進捗状況がわかり、持ち帰れるアイデアをいただきました。
- ・食提供の担い手養成へのアプローチがわかった気がします。
- ・「食」を切り口にする視点のワークの方法を学びながら、様々な立場の方の意見を聞くことができたのは良かったです。
- ・地域でどう活動してよいか、具体的にイメージできた。
- ・交流、情報交換ができてよかった。実際に活動されている方のお話しも聞けて、自分の働く地域でもつくっていけるよう、取り組んでいきたいと思いました。ありがとうございました。

#### 〈要望、改善点〉

##### 仙台会場

- ・常に考えていること、悩みが同じで、そこから一步ふみこんだ解決策は生まれなかった。配食サービス事業は本当にすばらしい活動だと思うが、先生たちの本音はどうなのか聞きたかった。
- ・グループワークが大変よかったが、希望としては、フリートークの時間をもう少し取ってもらいたかった。
- ・取り組みとしては大変有意義でした。時間をかけたらもっと面白かったと思います。

##### 東京会場

- ・具体的に業務に活用できないようなヒントがあった。

#### 5) 今後、このような生活支援サービスや協議体形成、中間支援機能等に関する研修会・セミナーに他のスタッフを参加させたいと思うか

3 会場で「ぜひ参加させたい」との回答率は 6~7 割であり、「どちらかと言えば参加させたい」を合わせると、3 会場で全員の回答者が参加させたいと答えていることから、研修に対するニーズの高さがうかがえる。

表5-4 他のスタッフに参加を勧めたいか

参加を勧めたい	会場		
	仙台会場 (N=45)	東京会場 (N=45)	長久手会場 (N=38)
ぜひ参加させたい	62.2%	73.3%	68.4%
どちらかと言えば参加させたい	37.8%	26.7%	31.6%
あまり参加させたくない	0.0%	0.0%	0.0%
参加させたくない	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%

## 6) 研修全体に関する意見・感想・要望

### 〈内容・時間について〉

#### 仙台会場

- ・実際の活動を、ご本人の口から聴くことが出来、大変大きな学びとなりました。ありがとうございました。
- ・様々な団体が多くの苦勞をしながら活動を継続していることを知れた。
- ・参考にする意見が多く聞かれた。
- ・より具体的にまとめられた。
- ・「食」に関する研修会は初めてでしたが、悩みを共感し合うことができたとともに、まだまだやるべきことが見えたように感じた。今後、担い手の確保、世代交代しながらも続いている団体の事例等があれば、ぜひ参加したいです。
- ・男性の方の参加を望みます。
- ・男性のボランティアの担い手をつくるには、お酒があると良いようですので、懇親会を開くことも必要であると思いました。
- ・「ありがとう」の感謝の気持ちがとても必要であると思いました。
- ・ボランティア活動を続けることの難しさをつくづく感じました。でもがんばれそうです。

#### 東京会場

- ・生活支援に関することが、シンプルに説明され、理解できました。講師の方々がそれぞれの丁寧な説明でよく理解できました。
- ・熊本の団体のお話が良かった。もっと聞きたかった。
- ・取り組み事例の2例のすばらしさに頭が下がりました。更に勉強していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・地域福祉をすすめるためには、社協として色々な所に出て行って顔見知りを作り、つながりをつくっていくことが大切だということを改めて実感しました。

## 長久手会場

- ・男性が、活躍できると良いと思いました。これは当市の課題でもあります。
- ・食事サービスの問題は高齢化すればするほど大きな問題となります。今回の研修で情報交換できて、大きな問題に取り組むいろいろなヒントが得られてとても有意義でした。
- ・講師の方々の事例を聞くことに新しい発見があった。
- ・食を通じた活動は利用者の栄養面の改善のみならず、参加者の健康促進のメリットがあると学びました。
- ・介護保険の改正によって、具体的にどのような社会になっていくのか考える機会になりました。ありがとうございました。
- ・食べることは生きること、私共のささやかな配食サービス事業（1日70食位）ですが、改めてこの地方の食の支援のさまざまな姿を勉強し、食と人のつながり方の多様性を思いました。
- ・分かりやすい内容でした。

### 〈要望〉

## 仙台会場

- ・元気な高齢者が利用している福祉サービスである老人福祉センターが仙台市内に8ヶ所あります。センター主催の各種教室や講座、あるいは利用者自身が運営しているサークル活動を行っています。介護予防、生活総合支援事業が始まっていく上で、生活支援サポーター養成（ボランティア養成）課題が市にもセンターにもあるので、ボランティア活動を提供することにつながるのではないのでしょうか。
- ・開催日程の調整。講義時間が長すぎる。
- ・長時間なので疲れました。
- ・開催時期、時間はむずかしい問題だが考えてほしい。たくさんの人に出席してみんなで考えてほしい問題なので。
- ・可能なら祝日以外の開催日にしていただきたい。その方が、多くの人に参加しやすい。
- ・長時間になり、午前中で帰ってまった方々も多かった様です。申し訳なく存じます。皆様大変お疲れ様でした。
- ・仙台市の現状については、講義の内容と重複する部分が多かったので、取り組みについての内容についてもう少し詳しく聞きたかった。
- ・食と高齢者の関係性についてフォーカスした話を企画してほしい。
- ・内容はとても勉強になりました。ただ、内輪感が強いです。それ以外の方に多く参加していただけるといいと思います。講義が、住民が聞くにはなかなか難しくスピーディだったように感じました。
- ・今後定期的に参加したいが今回のようにFAX等でお知らせをしていただけると助かります。私自身、配食サービス担当（社協）をしています。今日の団体さんたちと同じく次世代のボランティア育成がなかなかできない現状です。  
この配食サービス事業は、行政、社協、包括、他機関が連携し、もう少し行政が本気で考え取り組まなければならないと思います。そのため、仙台市の現状や方針をもう少し深く聞き



たかったです。また、今日の団体が大半参加していましたが、いつも同じ悩みを共有している団体が集まり、何の解決になったのか疑問が残ります。もう少しいろいろな地域によびかけをしてもよかったですのではないのでしょうか。

### 東京会場

- ・もっとグループワークをやりたかった。配食、会食両方でワークをしたかった。
- ・グループワークの時間がもう少し欲しい。
- ・自己紹介のスタイルに、もう一工夫あってもよいのでは？（ひとり 60 秒内にはするべきですが）
- ・10：00～16：00 だと半端なので、9：00～か、～17：00 にしてほしいです。
- ・来賓挨拶の都福祉保健局の方のお話も資料があると良かったかもしれません。

### 長久手会場

- ・高齢者の参加は課題が多い。予算の問題や衛生面の課題などもう少し具体的な内容もこれから知りたくなった。
- ・“全員参加”という理論は良くわかりましたが、協力を求めるためのテクニク的な話も聞けるとありがたいです。
- ・食と生活支援サービスのつながりがよくわかった。しかし、デメリットについても知りたい。
- ・実際の活動者の話をもっと聞けるといいと思います。
- ・グループ内でもう少しお互いの意見交換をしたかった。
- ・模造紙 2 枚をもう少し有効に使い発表してもよかったのかなと思いました。
- ・大変参考になりました。ありがとうございました。実際にボラをされている方たちの話をゆっくりきければなおよいとおもいます。
- ・班のメンバーが市関係ばかりであり参考にならなかった。
- ・担い手の高齢化、つなげることについて学習したい。
- ・行政の支援に期待したい。
- ・食の重要性は理解できましたし、活動の価値を伝えることはできそうですが、食の関係の活動の働きかけをすると、衛生問題などの話になり、先になかなか進みません。まずはサロンなどを実際もらう→会食会へステップアップという形が働きかけ方として考えられるのですが、なかなかそこまですすまず悩むところです。

### 〈その他感想〉

#### 仙台会場

- ・今後、高齢化が進む中で地域の生活支援がどのようになっていくか心配です。

#### 東京会場

- ・講師の方のように現場など(実情)、よく理解されて福祉にかかわってくださる上司がほしい。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。

・たくさんの良いお話がきけました。ありがとうございます、パワーをもらいました。

### 3 まとめ ・ ・ ・ グループ演習の結果から

3 か所で実施した研修はいずれの会場でも、満足度が高く、参加を勧めたいという割合も高く、食を通じた活動の価値を再認識し、その活動を通じて高齢者の社会参加を促進するということの意義や方法について普及するという研修目的に対する効果があったことが示唆された。

その成果として、グループ演習のうち、演習Ⅰ・Ⅱで行った参加したい「価値」あるボランティア活動、食を通じた生活支援の「価値」について、ワークシートに記載があった内容を単語または句単位に分解し、類似の概念は併合・整理した。さらに、それを分類し、分類グループごとに名称をつけた結果を以下に示した。この結果は、参加者が講義を聴いた後にボランティア活動や食を通じた(互助型の)生活支援に対して感じた価値を示すものであり、研修の成果を示すとともに、今後高齢者の参加を期待する活動の企画者やその参加者が共感しうる価値観を示すものであると考えられる。

#### 1 支援の受け手が得られる価値

##### ①食の価値と楽しみ

栄養バランスのよい食事

暖かい物が食べられる

四季折々の食事

食の楽しみ・喜び

おいしい食事

安心な食事

笑顔にする食事

生活基盤として大切

##### ②健康の維持・向上

健康づくり

健康の確認

##### ③安心な生活

安否確認・見守り

孤立防止

困りごとの解決

安心な生活につながる

##### ④人とのつながり

人との関わり・つながり

コミュニケーション

交流・会話の楽しみ

## 2 支援の担い手が得られる価値

### ①社会貢献・参加

役割・社会参加・貢献  
人のためになる  
他者への貢献  
普段からの助け合い  
地域課題の解決

### ②生きがい

生きがい  
得られるものがある  
自分も楽しい  
感謝される

### ③多様な人とのつながり

仲間ができる  
つながり  
グループで活動できる  
社会とのつながり  
同年代の人がいる  
男性も参加できる  
地域の人顔がわかる  
知り合いが増える  
多世代との交流  
顔が見える関係  
コミュニケーション

### ④健康づくり

健康づくりになる

### ⑤スキルアップ・得意を生かす

得意なことを生かせる  
好きなことができる  
スキルアップ・勉強になる  
新しい献立を知ることができる

### ⑥負担なく参加できる

参加が負担にならない  
近くで参加

## 資料集

1. アンケート調査票.....	103
2. 研修会チラシ(仙台会場) .....	111
3. 研修会チラシ(東京会場) .....	112
4. 研修会チラシ(長久手会場) .....	113
5. 研修会テキスト(仙台会場) .....	114
6. 研修会テキスト(東京会場) .....	138
7. 研修会テキスト(長久手会場) .....	183

### 巻末資料

「食を通じた生活支援活動を始めよう！参加してみよう！」

## 平成 28 年度 高齢者の食事サービスへの参加促進に関するアンケート調査

平成 28 年度 厚生労働省 老人保健事業推進費等補助事業

「生涯現役社会の構築に向けた、高齢者の社会参加や健康生きがいづくりのあり方に関する調査研究事業」によるアンケート調査

この調査は、全国老人給食協力が、標記の厚生労働省老人保健事業推進費等補助事業の補助を受けて実施しています。

今日、地域包括ケアシステムの推進に向け、介護予防・生活支援サービスが一体的に提供されるための基盤整備が市町村の課題となっています。さらに各自治体では、生活支援サービスの担い手として元気高齢者の地域参加を期待するにあたり、健康や生きがいづくりの一環として継続的に取り組める仕組みづくりが求められています。

そこで本調査は、住民参加の食事サービスにおける担い手の参加状況や運営上の工夫など、元気高齢者の参加を促し、活動継続を支えていくのに役立つ情報収集を目的として実施します。本調査の成果は、自治体を主な対象とする研修を実施し、食事サービス等の住民参加による生活支援サービス推進のために活用します。

ご記入いただいた内容について追調査をさせていただく場合がありますのでご了承ください。なお、報告書等で団体名を明らかにさせていただく場合には、別途個別に確認の上、公表いたします。何卒、ご理解とご協力の程、お願い申し上げます。

### 1. 調査対象団体

全国老人給食協力の加盟団体、食事サービス連絡会加盟団体、関係団体 他

### 2. 調査実施主体

一般社団法人 全国老人給食協力が

### 3. 集計及び発表の方法

本アンケート調査の結果は取組みの事例としてまとめ、基本的に団体名が特定できないように配慮します。報告書等で団体名を明らかにする場合には、個別に確認の上、公表いたします。考察の結果は、年度内に報告書を作成して公表します。また厚生労働省や市町村に研修および報告書を通じて情報提供するとともに、web公開を行い、住民参加による食事サービス推進のために活用します。

### 4. お問い合わせ先・送付先

アンケートの記入についてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

一般社団法人 全国老人給食協力が (担当：平野、斉藤)

電話 03-5426-2547 ファクス 03-5426-2548

Eメール infomow@mow.jp (祝日除く月～金 9:00～17:00) <http://www.mow.jp>

### 5. 回収について

ご記入が終わりまりましたら、回答用紙を三つ折りにし、返信用封筒に入れてご返送ください。

### 6. 回収の締めきり

お忙しいところ恐縮ですが、**2016年9月7日(水)までにご投函ください。**

### ご記入にあたってのお願い

◆このアンケートには、団体の事業・活動の状況をよくご存じの方がご記入下さい。お一人での記入が困難な項目については、そのことに関してよくご存じの方がご記入くださるようお願いいたします。

◆「具体的に」とある場合は、その内容を( )内にご記入下さるよう、お願いいたします。

貴団体の連絡先をご記入ください。

団体名	団体住所		
調査の記入者	調 査 者	ふりがな	●調査内容について確認をさせていただく場合に、ご都合の良い連絡方法について、ご連絡先をご記入ください 電話 ・ F A X ・ e m a i l (〇をつけてください)
	記 入 者	お名前	
		役職名	

### ■用語の定義について

(1) ここでは、住民が担う助け合いの食支援活動を「食事サービス」と定義し、行政等からの委託・補助・助成の他、自主的に行う活動・事業も含まれます。

### 「食事サービス」の例

配食サービス、会食会、食事付の居場所・ミニデイサービス・サロン、コミュニティカフェ、コミュニティレストラン、高齢男性などを対象とした料理教室 等

(2) 活動・事業の「担い手」には、無償ボランティア・有償ボランティアのほか、雇用契約を結んでいる有給スタッフも含まれます。

はじめに、貴団体の事業・活動の実施状況についておたずねします。

問1 貴団体が設立されたのはいつですか。法人格をもつ場合はその取得年月日も記入してください。

団体設立 西暦 年 月

法人格の取得 西暦 年 月

問2 貴団体には、会費を伴う会員制度がありますか。あてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください（1つ選択）。

- 1 会員制度がある
- 2 会員制度はない

問3 使用している施設・拠点について、次の1～6の中で最もよくあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください（1つ選択）。

※複数の拠点があるときには、最も中心的な場所についてお答えください。

- 1 貴団体が所有しないし有償・無償で借りている施設・拠点を**使用している**
- 2 貴団体の役員や委員などの個人が**所有しないし有償・無償で借りている施設・拠点を**使用している****
- 3 自治体等が**所有しないし民間から借り上げている施設・拠点を**継続的に借りている****
- 4 民間団体が**所有しないし借りている（自治体の施設を管理・賃借している場合を含む）施設・拠点を**継続的に借りている****
- 5 自治体等が**所有しないし民間から借り上げている施設・拠点を**使用時のみ借りている****
- 6 民間団体が**所有しないし借りている（自治体から借りている場合を含む）施設・拠点を**使用時のみ借りている****

問4 貴団体は、自治体とどのような連携や協力関係がありますか。次の中であてはまる選択肢の番号すべてに○をつけてください（複数選択可）。

- 1 刊行物を送っている
- 2 定期的に活動報告を行っている
- 3 必要に応じて活動報告を行っている
- 4 活動の見学に来てもらう
- 5 催事や周年行事に招待する
- 6 その他

【具体的に：

7 特にない

問5 この1年間で、新規のボランティア（有償・無償含む）はどの位参加しましたか。

新規参加  人 うち 65歳以上  人

問6 この1年間で、活動を辞めたボランティア（有償・無償含む）は何人ですか。

活動を辞めた  人 うち 65歳以上  人

問7 貴団体の事業・活動の**ボランティア（有償・無償含む）**の確保や活動継続のために行っていることについておたずねします。

次のア～キの項目として取り組んでいることを具体的に記入してください。

ア ボランティア募集・確保

例) 口コミ、市町村掲示板・広報紙、ホームページ、ブログ、チラシ配布、ボランティアセンターを通じて、ボランティア体験・見学の受け入れ 等

イ 教育・学習の機会

例) 活動の手引きを説明する、活動マニュアルの作成、ボランティア研修の実施、救急救命講習、認知症サポーター養成研修に参加する 等



ウ 楽しみづくり・親睦

例) お茶会、旅行、交流会、文化活動、スポーツ大会 等

[ ]

[ ]

カ 経済的な負担軽減

例) 謝礼の支給、交通費の支給、ガソリン代の支給、ボランティア保険への加入、食事代の支給、エプロン・ユニフォームの支給 等

[ ]

[ ]

エ 人間関係の調整

例) コーディネーター、ボランティア相談係など、調整役の配置について  
また、活動に参加できなくなっても食事を食べに来るように誘うなど、長く人間関係を保つために心掛けていることがありますらご記入ください。

[ ]

[ ]

キ 意見集約・会議運営

例) ボランティアリーダー会議、コーディネーター会議、食事サービスタワー会議等、ボランティアの意見や現場感覚を活かす仕組みについて

[ ]

[ ]

その他、ボランティアの確保や活動継続のために行っていることがありましたらご記入ください。

[ ]

[ ]

オ モチベーションの維持向上

例) 活動歴の表彰、会報誌でのボランティア紹介、取材記録の紹介 等

[ ]

[ ]

問8 次のア～ウの食事サービスの実施について、あてはまる選択肢の番号に1つずつ○をつけてください。

	実施している	実施していない
【実施状況】についてあてはまる選択肢に○ (各項目ごとに1つの選択肢を選んでください)		
ア 配食サービス	1	2
イ 会食会・サロン・ミニデイサービス	1	2
ウ コミュニティカフェ・コミュニティレストラン	1	2

問9 問5のア～ウの食事サービスに付随する**食事以外**のプログラムやサービス内容があれば記入してください。

例) 配食サービス：配達時の雨戸閉めや電球交換、お弁当に手紙をつける  
会食会：体操、歌、朗読、脳トレ、手芸、相談窓口 など

問8のア～ウの食事サービスについて「1 実施している」と回答した場合には、それぞれの内容に関する質問がありますので、回答をお願いいたします。

※権数実施されている場合は、可能であればすべて回答をお願いできれば幸いです  
ご負担が大きければ1つだけ選んで回答していただいても構いません。

ア 配食サービス 8 ページ「質問ア」にご回答ください。  
イ 会食会・サロン・ミニデイサービス 11 ページ「質問イ」にご回答ください。  
ウ コミュニティカフェ・コミュニティレストラン 14 ページ「質問ウ」にご回答ください。

【質問ア 配食サービス】について

(1) 配食サービスの実施頻度について、あてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください(1つ選択)。

- 1 毎日 2 週5・6日 3 週3～4日 4 週1～2日  
5 月に数日 6 月に1日程度 7 年に数回程度  
8 その他( )

(2) 提供する食数(どれくらいですか)。

1 回あたり 約  食

2015 年度の合計食数 約  食

配食サービスの担い手についておたずねします。

(3) 当事業・活動の**担い手**について、2016年7月時点での年齢構成を教えてください。

	60 歳未満	60 歳～64 歳	65 歳～69 歳	70 歳～74 歳	75 歳～79 歳	80 歳以上
有給スタッフ (雇用契約を結んでいる方)	人	人	人	人	人	人
有償ボランティア	人	人	人	人	人	人
無償ボランティア	人	人	人	人	人	人

(4) **65歳以上の【担い手】**に、1～6に該当する方がいますか。あてはまる選択肢の番号すべてに○をつけてください(複数選択可)。

- 1 一人暮らしの高齢者
- 2 同居者がいるが昼間に独りになる高齢者(日中独居)
- 3 要支援の高齢者
- 4 要介護の高齢者
- 5 要介護者の家族
- 6 上記以外で生活に問題や困難を抱える高齢者  
(具体的に )

(5) 担い手は、次の1～6のうちどの業務を担っていますか。1人でもいる場合は、表に○をつけてください。

	60歳未満		60～64歳		65～69歳		70～74歳		75～79歳		80歳以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1 調理												
2 調理の補助的な仕事												
3 配達												
4 ボランティアのコーディネーター												
5 事務・経理												
6 食料調達・買い出し												

(6) 担い手である65歳以上の女性の活動歴について、最も多いのはどれですか。あてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください（1つ選択）。

1 5年未満 2 5～9年 3 10年～15年 4 15～20年 5 20年以上

(7) 担い手である65歳以上の男性の活動歴について、最も多いのはどれですか。あてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください（1つ選択）。

1 5年未満 2 5～9年 3 10年～15年 4 15～20年 5 20年以上

(8) 高齢の担い手や障害をもつ担い手が安全に、負担なく活動を続けるうえで、配慮していることについて、具体的にご記入ください。

① 調理

例) 表示やサインを明確にする、作業時間にゆとりをもつ、高い所に上らない、重いものをもたない、水分を取るよう呼びかける、食器洗いだけでも参加できる 等

② 配達  
例) 二人体制で配達する、コースの分担に配慮する、車種の工夫、年齢制限を決める 等

③ 事務局体制  
例) 活動の手引きの作成、視点や設備の改修・改装、ボランティア保険 等

④ その他に工夫などあればご記入ください

次の事業・活動を実施している場合は、下記ページの質問にお答えください。

食会・サロン・ミニデイサービス 11 ページ「質問イ」にご回答ください。  
 コミュニティカフェ・コミュニティレストラン 14 ページ「質問ウ」にご回答ください。  
 ※複数実施されている場合は、可能であればすべて回答をお願いできれば幸いです  
 ご負担が大きければ1つだけ選んで回答していただいても構いません。

いずれも実施していない場合は、以上で回答は終了です。

【質問 1 会食会・サロン・ミニデイサービス】について

(1) 会食会・サロン・ミニデイサービスの実施頻度について、あてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください(1つ選択)。

- 1 毎日 2 週5・6日 3 週3～4日 4 週1～2日  
 5 月に数日 6 月に1日程度 7 年に数回程度  
 8 その他( )

(2) 提供する食数はどれくらいですか。

1 回あたり 約  食  
 2015 年度の合計食数 約  食

会食会・サロン・ミニデイサービスの担い手についておたずねします。

(3) 当事業・活動の担い手について、2016年7月時点での年齢構成を教えてください。

	60歳未満	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳以上
有給スタッフ (雇用契約を結んでいる方)	人	人	人	人	人	人
有償ボランティア	人	人	人	人	人	人
無償ボランティア	人	人	人	人	人	人

(4) 65歳以上の【担い手】に、1～6に該当する方がいますか。あてはまる選択肢の番号すべてに○をつけてください(複数選択可)。

- 1 一人暮らしの高齢者  
 2 同居者がいるが昼間に独りになる高齢者(日中独居)  
 3 要支援の高齢者  
 4 要介護の高齢者  
 5 要介護者の家族  
 6 上記以外で生活に問題や困難を抱える高齢者  
 (具体的に )

(5) 担い手は、次の1～6のうちどの業務を担っていますか。1人でもいる場合は、表に○をつけてください。

	60歳未満		60～64歳		65～69歳		70～74歳		75～79歳		80歳以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1 調理												
2 調理の補助的な仕事												
3 傾聴・話し相手												
4 ボランティアのコーディネーター												
5 事務・経理												
6 食材調達・買い出し												

(6) 担い手である65歳以上の女性の活動歴について、最も多いのはどれですか。あてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください(1つ選択)。

- 1 5年未満 2 5～9年 3 10年～15年 4 15～20年 5 20年以上

(7) 担い手である65歳以上の男性の活動歴について、最も多いのはどれですか。あてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください(1つ選択)。

- 1 5年未満 2 5～9年 3 10年～15年 4 15～20年 5 20年以上

(8) 高齢の担い手や障害をもつ担い手が安全に、負担なく活動を続けるうえで、配慮していることについて、具体的に記入ください。

① 調理

例) 表示やサインを明確にする、作業時間にゆとりをもつ、高い所に上らない、重いものをもたない、水分を取るよう呼びかける、食器洗いだけでも参加できる 等

② 傾聴・話し相手

例) 立ち仕事が難しい方も、傾聴ボランティアで参加できる 等

[ ]

③ 事務局体制

例) 活動の手引きの作成、拠点や設備の改修・改装、ボランティア保険 等

[ ]

④ その他にあればご記入ください

[ ]

次の事業・活動を実施している場合は、下記ページの質問にお答えください。  
 ※複数実施されている場合は、可能であればすべて回答をお願いできれば幸いです  
 ご負担が大きければ1つだけ選んで回答していただいても構いません。

コミュニティカフェ・コミュニティレストラン 14ページ「質問ウ」にご回答ください。

実施していない場合は、回答は以上で終了です。

【質問ウ コミュニティカフェ・コミュニティレストラン】について

(1) コミュニティカフェ・コミュニティレストランの実施頻度について、あてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください(1つ選択)。

- 1 毎日 2 週5・6日 3 週3～4日 4 週1～2日  
 5 月に数日 6 月に1日程度 7 年に数回程度  
 8 その他 ( )

(2) 提供する食数はどれくらいですか。

1 回あたり 約  食

2015年度の合計食数 約  食

コミュニティカフェ・コミュニティレストランの担い手についておたずねします。

(3) 当事業・活動の担い手について、2016年7月時点での年齢構成を教えてください。

	60歳未満	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳以上
有給スタッフ (雇用契約を結んでいる方)	人	人	人	人	人	人
有償ボランティア	人	人	人	人	人	人
無償ボランティア	人	人	人	人	人	人

(4) 65歳以上の【担い手】に、1～6に該当する方がいますか。あてはまる選択肢の番号すべてに○をつけてください(複数選択可)。

- 1 一人暮らしの高齢者
- 2 同居者がいるが昼間に独りになる高齢者(日中独居)
- 3 要支援の高齢者
- 4 要介護の高齢者
- 5 要介護者の家族
- 6 上記以外で生活に問題や困難を抱える高齢者  
(具体的に )

(5) 担い手は、次の1～6のうちどの業務を担っていますか。1人でもいる場合は、表に○をつけてください。

	60歳未満		60～64歳		65～69歳		70～74歳		75～79歳		80歳以上	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1 調理												
2 調理の補助的な仕事												
3 傾聴・話し相手												
4 ボランティアのコーディネーター												
5 事務・経理												
6 食材調達・買い出し												

(6) 担い手である65歳以上の女性の活動歴について、最も多いのはどれですか。あてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください(1つ選択)。

1 5年未満 2 5～9年 3 10年～15年 4 15～20年 5 20年以上

(7) 担い手である65歳以上の男性の活動歴について、最も多いのはどれですか。あてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください(1つ選択)。

1 5年未満 2 5～9年 3 10年～15年 4 15～20年 5 20年以上

(8) 高齢の担い手や障害をもつ担い手が安全に、負担なく活動を続けるうえで、配慮していることについて、具体的に記入してください。

① 調理

例) 表示やサインを明確にする、作業時間にゆとりをもつ、高い所に上らない、重いものをもたない、水分を取るよう呼びかける、食器洗いだけでも参加できる 等

② 傾聴・話し相手  
例) 立ち仕事が多い方も、傾聴ボランティアで参加できる 等

③ 事務/局体制  
例) 活動の手引きの作成、視察や設備の改修・改装、ボランティア保険 等

④ その他にあればご記入ください

回答は以上で終了です。アンケート調査へのご協力ありがとうございました。



平成28年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業 研修会

# 食を通じて生活支援サービスの推進と 高齢者の地域参加をすすめるために

## 12月18日

会場 東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス  
3階 36教室



〒981-8501 仙台市宮城野区榴岡2-5-26 ☎022-766-8833  
ク ● JR仙台駅 徒歩3分  
セ ● 地下鉄東西線宮城野通駅 徒歩3分  
ス … お越しの際は、公共交通機関をご利用ください…

食をテーマに住民参加をみんなで考えよう

- ・会食、配食、サロン
- ・自治体、地域包括支援センター
- ・協議体関係機関
- ・生活支援サービス提供組織・団体

### プログラム

(10:00～10:15) 主催者挨拶

(10:15～11:00)

#### I 高齢者の社会参加の意義について

講師：内藤 佳津雄さん（日本大学文理学部 教授）

(11:00～12:30)

#### II 住民参加を促す生活支援サービスの取り組み

講師：仙台市健康福祉局保険高齢部高齢企画課  
仙台の食支援 ▶ 食事サービスネットワークみやぎ による事例報告

(13:30～15:50)

#### III “食”をテーマに生活支援サービスの推進のノウハウについてグループワーク

「どうしたら新しいボランティアが参加できるのか」協議体メンバーで考えよう！-」

講師：清水 洋行さん（千葉大学文学部社会学講座 准教授）  
中島 智人さん（産業能率大学経営学部 准教授）

\*プログラムは一部変更する場合があります。

### 主催

一般社団法人 全国老人給食協会の

☎ 03-5426-2547（祝日を除く月～金・9～18時） FAX：03-5426-2548  
E-Mail：infomow@mow.jp 〒158-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21



## 参加申込書 12月18日（日曜日）仙台会場

お申込みは FAX：03-5426-2548 または E-mail:infomow@mow.jp（件名 仙台研修申込）

全国老人給食協会の事務局までお願いします

FAX送信先：03-5426-2548 申込締切12/12(月)

所属	ふりがな	職責	備考
氏名	ふりがな		
	ふりがな		
	ふりがな		
団体住所	〒 (参加者が複数の場合：連絡担当者)		
TEL / FAX	TEL FAX		
E-Mail			
連絡事項			

\* 定員100名/申込者多数の場合は、先着順とさせていただきます。ご了承ください。

\* 座席とグループをあらかじめ指定させていただきます。

\* 受付後、申込確認のFAXまたはメールを返信しますので、内容のご確認をお願いいたします。



主催・お問合せ先 一般社団法人 全国老人給食協会

☎ 03-5426-2547（祝日を除く月～金・9～18時）  
FAX：03-5426-2548 E-Mail：infomow@mow.jp  
〒158-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21

全国老人給食協会は、在宅高齢者の食支援活動の推進を目的とした個人・団体がつくる非営利のネットワーク組織です

平成28年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業 研修会



# 食を通じた生活支援サービスの推進と 高齢者の地域参加をすすめるために



会場 ニッショーホール(日本消防会館)  
5階 大会議室



受付開始 9:15

10:00 ~ 16:00

食をテーマに住民参加をみんなで考えよう

- ・ 会食、配食、サロン
- ・ 自治体、地域包括支援センター
- ・ 協議体関係機関
- ・ 生活支援サービス提供組織・団体

## プログラム

(10:00~10:15)

主催者挨拶/来賓挨拶 東京都福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課

(10:15~11:00)

### I 高齢者の社会参加の意義について

講師：内藤 佳津雄さん (日本大学文理学部 教授)

(11:00~12:30)

### II 住民参加を促す生活支援サービスの取り組み

講師：秋山 由美子さん (一般財団法人社会福祉研究所 研究員)

▶ 生活支援サービスに関する制度設計を自治体施策の視点から

北本 節代さん (NPO法人地域たすけあいの会 副代表)

▶ 熊本県・玉名市で住民が食支援に取り組む事例を報告

(13:30~15:50)

### III “食”をテーマに生活支援サービス推進のノウハウについてグループワーク

「どうしたら新しいボランティアが参加できるのか - 協議体メンバーで考えよう! -」

\*プログラムは一部変更する場合があります。

## 主催

一般社団法人 全国老人給食協会の

〒03-5426-2547 (祝日を除く月~金・9~18時) FAX: 03-5426-2548  
E-Mail: infomow@mow.jp 〒158-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21



# 参加申込書 12月20日(火曜日)東京会場

お申込みは FAX: 03-5426-2548 または E-mail: infomow@mow.jp (件名 東京研修申込)  
全国老人給食協会事務局 までお願いします

FAX送信先: 03-5426-2548 申込締切12/12(月)

所属	ふりがな	職責	備考
氏名	ふりがな		
	ふりがな		
	ふりがな		
団体住所	〒		
TEL / FAX	(参加者が複数の場合: 連絡担当者)		
E-Mail	TEL FAX		
連絡事項			

\* 定員100名/申込者多数の場合は、先着順とさせていただきます。ご了承ください。

\* 座席とグループをあらかじめ指定させていただきます。

\* 受付後、申込確認のFAXまたはメールを返信しますので、内容のご確認をお願いいたします。



主催・お問合せ先 一般社団法人 全国老人給食協会

〒03-5426-2547 (祝日を除く月~金・9~18時)

FAX: 03-5426-2548 E-Mail: infomow@mow.jp

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21

全国老人給食協会は、在宅高齢者の食支援活動の推進を目的とした個人・団体がつくる非営利のネットワーク組織です

# 食を通じた生活支援サービスの推進と 高齢者の地域参加をすすめるために



会場 長久手市福祉の家 2階 集会室



受付開始 9:15

10:00～16:00

**協議体  
関係者  
向け**

- ・自治体  
・協議体関係機関  
・生活支援サービス  
提供団体 等

## プログラム

(10:00～10:15)  
主催者挨拶

(10:15～11:00)

### 講義Ⅰ 高齢者の社会参加の意義について

講師：内藤 佳津雄さん (日本大学文理学部 教授)

(11:00～12:30)

### 講義Ⅱ 住民参加を促す生活支援サービスの取り組み

長久手市および近隣市町より施策説明を予定

(12:30～13:30)

昼食休憩

(13:30～15:50)

### 講義Ⅲ グループワーク 食を通じた生活支援サービスの推進と高齢者の地域参加をすすめるために

「どうしたら新しいボランティアが参加できるのか - 協議体メンバーで考えよう! -」

講師：清水 洋行さん (千葉大学文学部社会学講座 准教授) 他

\*プログラムは一部変更する場合があります。

## 主催

一般社団法人 全国老人給食協力量

☎ 03-5426-2547 (祝日を除く月～金・9～18時) FAX: 03-5426-2548

E-Mail: infomow@mow.jp 〒158-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21



# 参加申込書 1月25日 (水曜日) 長久手会場

お申込みは FAX: 03-5426-2548 または E-mail: infomow@mow.jp (件名 長久手研修申込)  
全国老人給食協力量事務局 までお願いします

FAX送信先: 03-5426-2548 申込締切1/16(月)

所属	ふりがな	職責	備考
氏名	ふりがな		
	ふりがな		
	ふりがな		
団体住所	〒 (参加者が複数の場合: 連絡担当者)		
TEL / FAX	TEL	FAX	
E-Mail			
連絡事項			

\* 定員70名/申込者多数の場合は、先着順とさせていただきます。ご了承ください。

\* 座席とグループをあらかじめ指定させていただきます。

\* 受付後、申込確認のFAXまたははメールを返信しますので、内容のご確認をお願いいたします。



主催・お問合せ先 一般社団法人 全国老人給食協力量

☎ 03-5426-2547 (祝日を除く月～金・9～18時)

FAX: 03-5426-2548 E-Mail: infomow@mow.jp

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21

全国老人給食協力量は、在宅高齢者の食支援活動の推進を目的とした個人・団体がつくる非営利のネットワーク組織です

厚生労働省 平成 28 年度老人保健健康増進等事業 研修会

## 食を通じた生活支援サービスの推進と 高齢者の地域参加をすすめるために

【仙台会場】 平成 28 年 12 月 18 日 (日)

東北福祉大学  
仙台駅東口キャンパス 3 階 36 教室  
仙台市宮城野区榴岡 2-5-26

受付 9:15 開講 10:00 閉講 16:00

### プログラム

- I 高齢者の社会参加の意義について
- II 住民参加を促す生活支援サービスの取り組み
- III “食”をテーマに生活支援サービス推進ノウハウについてグループワーク  
「どうしたら新しいボランティアが参加できるのか」  
- 協議体メンバーで考えよう -」

【主 催】 一般社団法人 全国老人給食協力会  
東京都世田谷区上用賀 6-19-21  
電話 03(5426)2547 FAX03(5426)2548

## ープログラムー

9:15	受付開始
10:10	主催者挨拶
10:15	I 講義 「高齢者の社会参加の意義について」 講師 内藤 佳津雄 さん 日本大学文理学部 教授
11:00	II 取り組み事例 「住民参加を促す生活支援サービスの取り組み」 報告 星 努 さん 仙台市健康福祉局 保険高齢部 高齢企画課 食事サービスネットワークみやぎ 佐藤 涼子 さん けやきグループ ほっとサロン将監責任者
12:30	昼食休憩
13:30	III “食”をテーマに生活支援サービス推進の ノウハウについてグループワーク 「どうしたら新しいボランティアが参加できるのか」 - 協議体メンバーで考えよう! -」 講師 清水 洋行 さん 千葉大学文学部社会学講座 准教授 中島 智人 さん 産業能率大学経営学部 准教授
16:00	閉会

1 講義

## 高齢者の社会参加の意義について

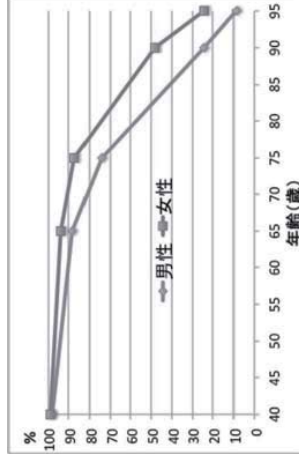
講師 内藤 佳津雄 さん  
日本大学文理学部教授

## 高齢者の社会参加の意義について

日本大学 内藤佳津雄

1

生命表上の特定年齢まで生存する者の割合  
(平成27年度簡易生命表)



平均寿命  
男: 80.79歳  
女: 87.05歳

65歳平均余命  
男: 19.46年  
女: 24.31年

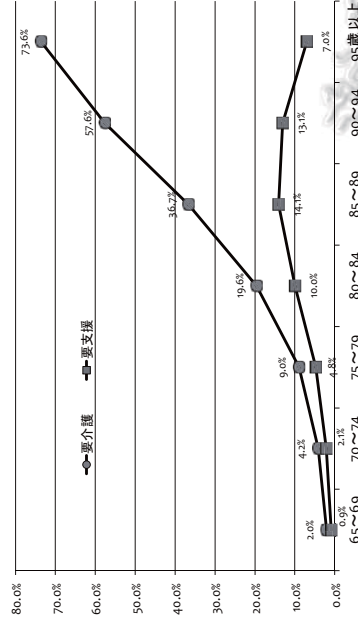
寿命中位数  
(左図の50%  
にあたる年齢)  
男89.79年  
女83.76年



年次	総人口・年齢3区分(0～14歳、15～64歳、65歳以上)別人口・人口比				
	人口(1,000人)				
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	割合(%)
平成22(2010)	128,057	16,839	81,735	29,484	13.1
23(2011)	127,753	16,685	81,303	29,764	13.1
24(2012)	127,498	16,493	80,173	30,831	12.9
25(2013)	127,247	16,281	78,996	31,971	12.8
26(2014)	126,949	16,067	77,803	33,080	12.7
27(2015)	126,597	15,827	76,818	33,952	12.5
32(2020)	124,100	14,568	73,408	36,124	11.7
37(2025)	120,659	13,240	70,845	36,573	11.0
42(2030)	116,618	12,039	67,730	36,849	10.3
47(2035)	112,124	11,287	63,430	37,407	10.1
52(2040)	107,276	10,732	57,866	38,678	10.0
57(2045)	102,210	10,116	53,531	38,564	9.9
62(2050)	97,076	9,387	50,013	37,676	9.7
67(2055)	91,933	8,614	47,063	36,257	9.4
72(2060)	86,737	7,912	44,183	34,642	9.1

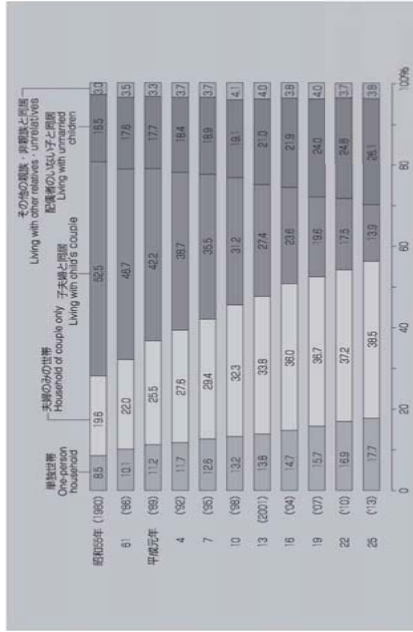
国立社会保障人口問題研究所(平成24年1月推計)：出生中位(死亡中位)推計

### 年齢階層別の要介護認定率(推計)



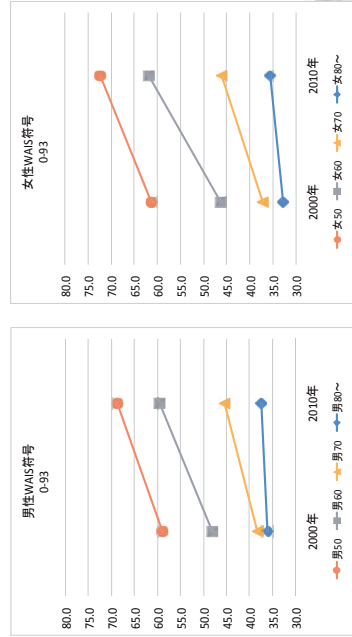
社会保障人口問題研究所(平成27年10月)及び介護給付調査(平成27年11月審査分)

### 家族形態別にみた65歳以上の者の構成割合の年次推移



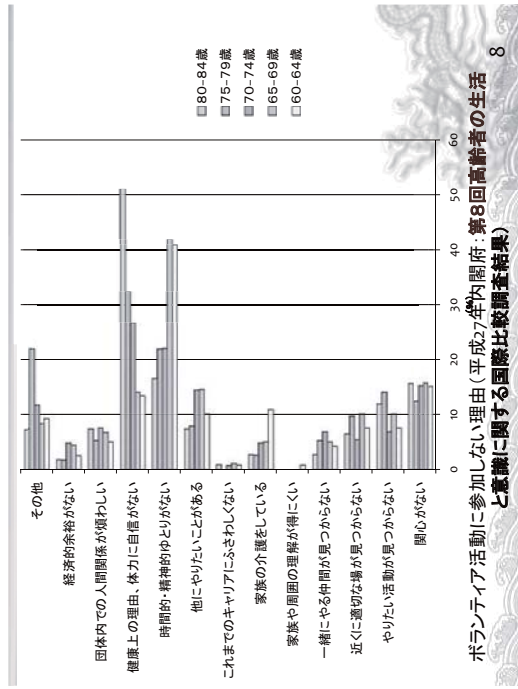
厚生省統計情報部「グラフで見る世帯の状況」  
国民生活基礎調査(平成25年)の結果から

### WAIS-Rの「符号」問題の年齢別の平均得点：10年間の変化



国立長寿医療研究センター・老化に関する長寿縦断疫学研究(National Institute for Longevity Sciences - Longitudinal Study of Aging: NILS-LSA)：約2,400名を対象とした縦断的調査の結果(10歳刻みでの集計結果、公表済)





ボランティア活動に参加しない理由(平成27年内閣府:第8回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果) 8

## プロダクティブ・エイジング

高齢になっても一様ではない(個人差)  
老化の程度、疾病や障害、価値や経験の差

高齢者になっても、それ以前と急激な変化は少ない  
知能、性格、価値観など

個人差に応じて自分の人生を選択できる  
生産に寄与することもできる  
社会参加を継続可能である  
自分の人生を自分で決めることができる

©プロダクティブ・エイジング(生産的な老化)  
高齢者の就労環境整備、社会参加(ボランティア、生涯学習)  
日常生活…「生活の継続性」「自己決定」

## プロダクティブ・エイジング運動の実例

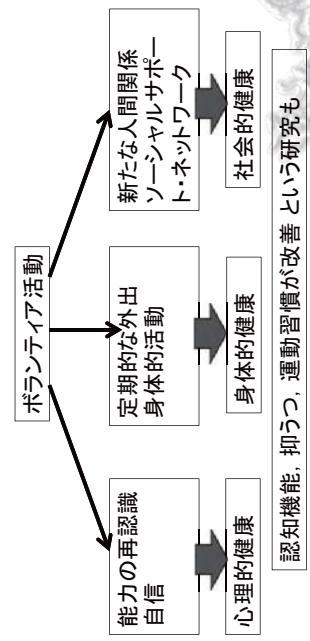
2012年 European Year for Active Ageing and Solidarity between Generations

高齢者の雇用、社会参加、生活の自立(自律)  
社会の一員としての市民参加  
生活の質(Quality of Life)の向上

※「自立」

…可能な限り、自分自身の生活を自ら決め、行うこと

## ボランティア活動の健康への効果



藤原・杉原・新開(2007) ボランティア活動が  
高齢者の心身の健康に及ぼす影響 日本公衆  
衛生雑誌, 52, 293-307.

## 地域包括ケアシステムの構築

- ◆ 2025年＝団塊の世代が70代後半になることを目標に、国、都道府県、市町村の「地域包括ケアシステム」を構築することを推進することに努める。
- ◆ 可能な限り、住み慣れた地域で有する能力に応じて自立した生活を営むことができるように包括的に支援する
  - 介護、介護予防、日常生活支援、医療、住宅
  - 公助・共助・互助・自助の組み合わせ
  - …連携を図って総合的推進

### <日常生活支援>

- ※ 地域で暮らし続けるには日常生活支援が必要
  - ※ これまで生活支援を担っていた同居家族の不在
  - 地域での日常生活支援の基盤構築が大きな課題
- ### <介護予防>
- ※ 疾病や要介護の予防が重要
  - ※ 身体的な機能向上→生活上の活動・参加による「生活機能」向上
  - 地域での活動や参加の基盤構築が大きな課題

12

## 活動と参加の場をつくる

- ◆ 元気高齢者…活動・参加の場
  - ◎ 活動すること自体が介護予防につながる
  - ※ 多くの人が参加できること→多様な活動(内容、グループ)
  - ※ 長く活動できること→人間関係を継続できる活動
- ↓
- ※ 社会的価値がある活動として、「生活支援」とマッチできるのか？
- ↓
- ◎ 要介護者等向けの日常生活支援の互助基盤をつくる
  - 生活支援、見守り、参加の場など
  - 要支援者向け「総合事業」は要支援の人の生活支援から始めてみようという「経過」に過ぎない。将来的には、要介護の人への生活支援を準備しないと地域包括ケアは成功しない

13

## 28年度老健事業による調査

- ◆ 食事サービス団体への調査(N=63)
- ◆ 高齢ボランティアの状況
- ◆ ボランティアの募集と定着への方策の工夫

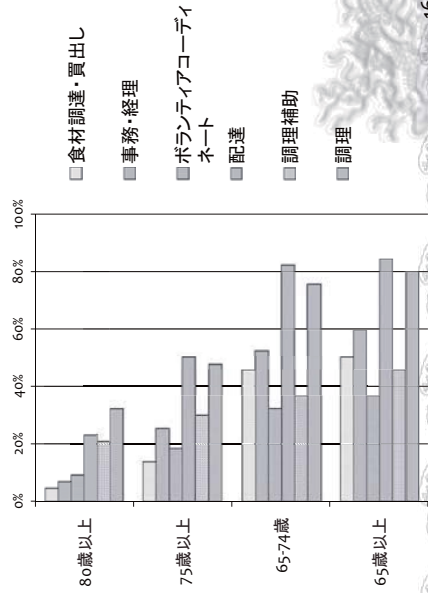
14

配食サービス団体：  
高齢ボランティアの活動年数(最も人数が多い年数)

	活動歴	
	女性	男性
5年未満	2	8
5-9年	11	17
10-14年	20	10
15-19年	5	2
20年以上	1	0

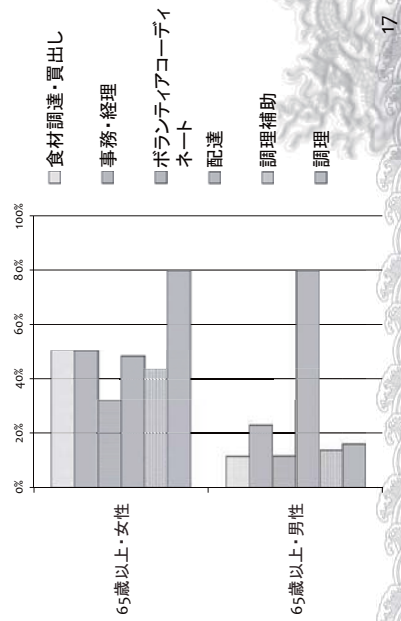
15

配食サービス団体(63団体)の高齢ボランティアの状況



16

配食サービス団体(63団体)の高齢ボランティアの状況



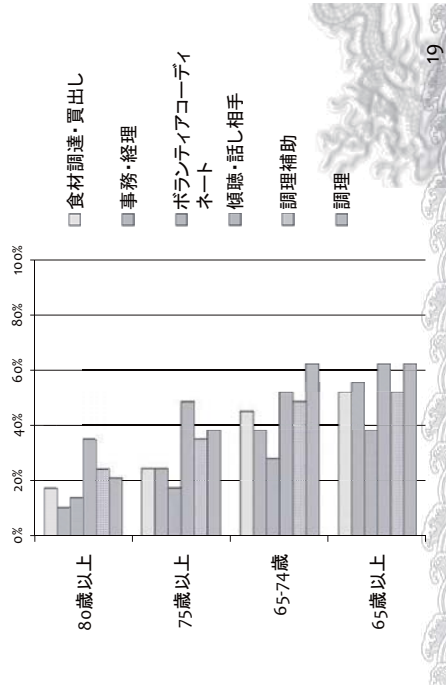
17

会食(サロン・ミニデイ)実施団体:  
高齢ボランティアの活動年数(最も人数が多い年数)

	活動歴	
	女性	男性
5年未満	12	7
5-9年	5	6
10-14年	7	6
15-19年	3	1
20年以上	2	1

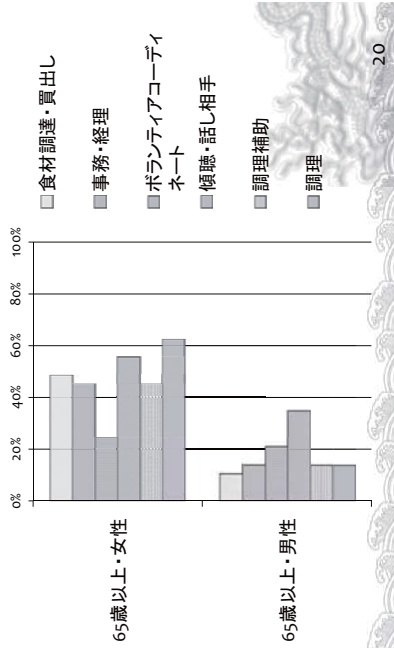
18

会食(サロン・ミニデイ)実施団体(29団体)の高齢ボランティアの状況



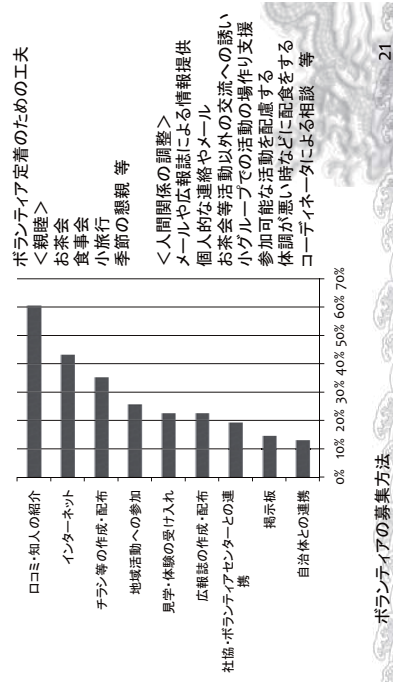
19

## 会食(サロン・ミニデイ)実施団体(29団体)の高齢ボランティアの状況



20

## ボランティアの募集と定着



ボランティアの募集方法

21

## ボランティア定着のための工夫

- ＜モチベーションの維持向上＞
  - ◆ 大会で表彰
  - ◆ 他団体との交流
  - ◆ 利用者からの感謝の言葉を伝える
  - ◆ あなたが必要だということを折り返しを見て言葉にする
  - ◆ 打ち合わせをこまめにする
  - ◆ 全員参加で運営会議を開催
  - ◆ 毎日の食事をHPで紹介
  - ◆ 行政からの表彰
  - ◆ 活動者の写真撮影・ポスター作成
  - ◆ フリーペーパー等への掲載
  - ◆ ボランティアの会報での紹介
  - ◆ 総会で目標を確認、活動を総括
  - ◆ 基本理念を常に確認する
  - ◆ ボランティアの意思を尊重
- ＜意見集約・会議運営＞
  - ◎ポトムアップ型
    - ◆ 部門別の会議を定期的(1、2月に1回)に開催する
    - ◆ ボランティアが参加できる会議で意見を出し合う
    - ◆ 日常的な顔合わせの中で意見交換できる
  - ◎トップダウン型
    - ◆ 定期的な理事会、運営委員会等で現場から上げられた問題について検討を行う
    - ◆ グループ(部門、曜日等)のリーダーの会議で問題を共有する

22

## まとめ

- ◎高齢者のボランティア活動・介護予防と生活支援基盤
  - ◆ ボランティアへの参加は健康の維持向上に寄与する
  - ◆ 地域での高齢者の参加の場を積極的に作っていくことを支援することが政策課題
  - ◆ (全ての活動が生活支援を必須としなくても良い(介護予防効果だけでも十分)・・・活動に対して、生活支援の活動も動きかけていく)
  - ◆ 多くの参加を得るために多様な活動が必要
  - ◆ ボランティアの募集について協議体で行なっていくことも有効
  - ◆ ボランティア定着への工夫を共有する
  - ◆ 食に関する活動は幅広い参加が可能であり、定着もよい
  - ◆ 高齢者だけを対象にするのではなく、他世代への支援も可能(参加への興味を広げる)

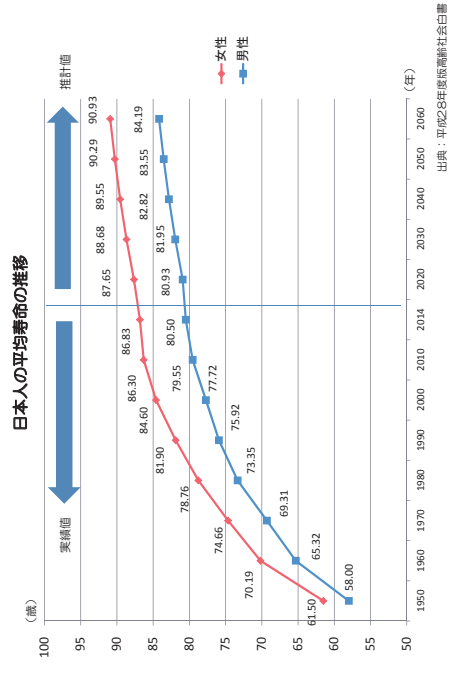
23

食を通じた生活支援サービスの推進と  
高齢者の地域参加をすすめるために

平成28年12月18日(日)

仙台市健康福祉局 保険高齢部 高齢企画課

仙台市の現状について①



II 取り組み事例

住民参加を促す生活支援サービスの取組み

報告

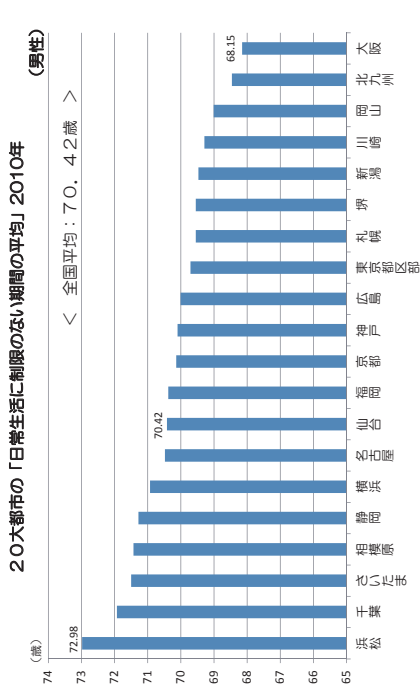
星 努さん 仙台市健康福祉局 保険高齢部 高齢企画課

食事サービスネットワークみやぎ

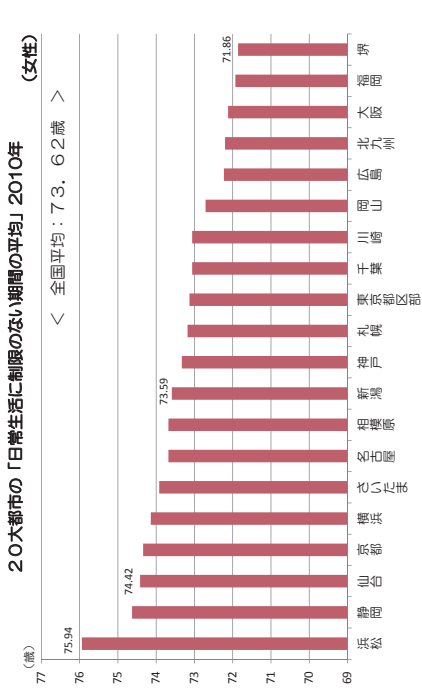
あかねグループ/グループゆう／ふたばの会  
ぽけっとはうす／けやきグループ／ほっと亭  
ポッケの森

佐藤 涼子さん けやきグループ ほっとサロン将監 責任者

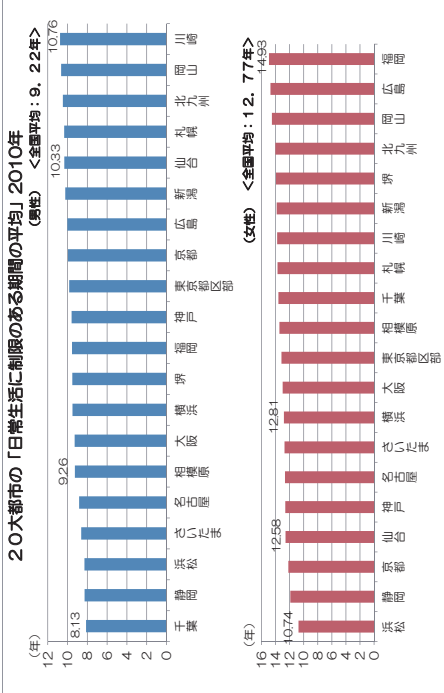
### 仙台市の現状について①



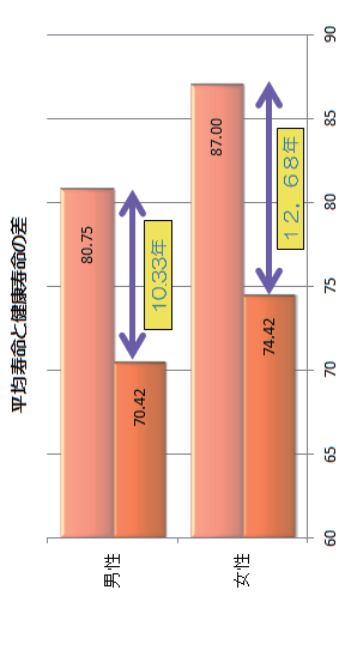
### 仙台市の現状について②



### 仙台市の現状について③

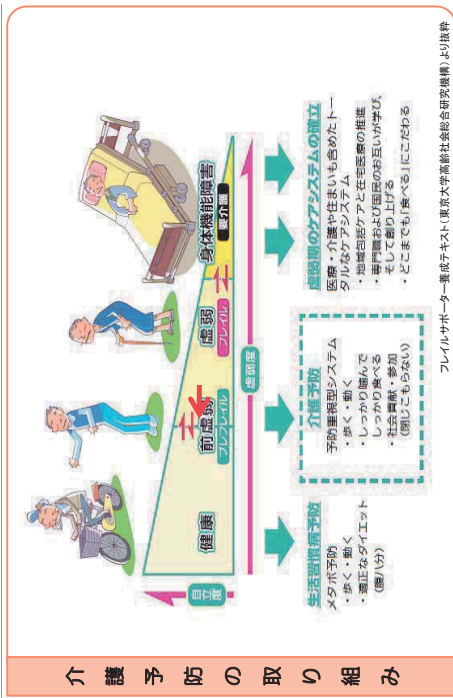


### 仙台市の現状について④





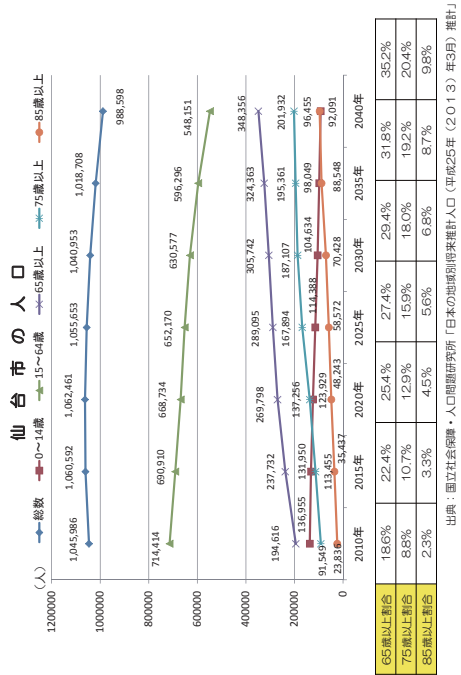
### 社会参加と介護予防の関係について



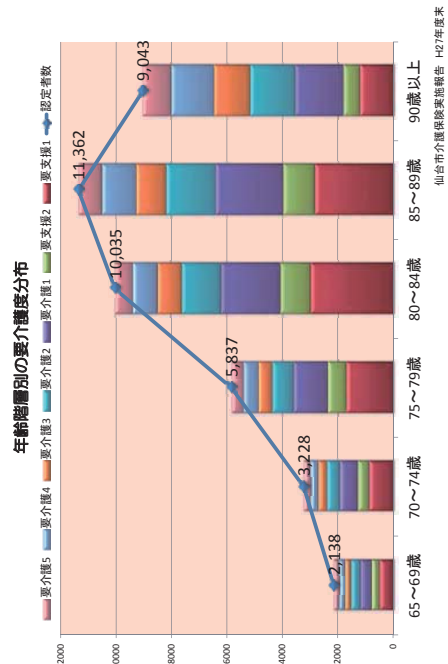
### 社会参加と介護予防の関係について



### 仙台市の現状について②

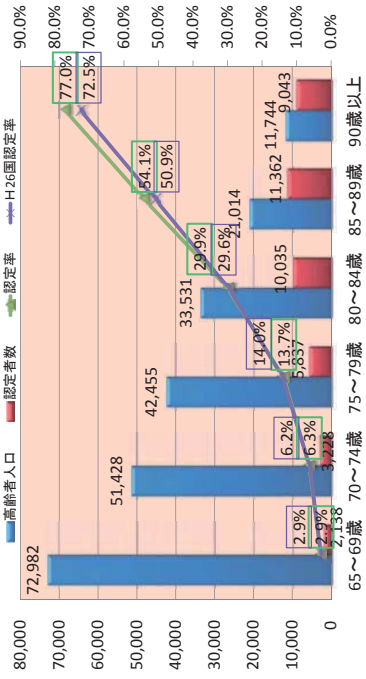


### 仙台市の現状について②



## 仙台市の現状について②

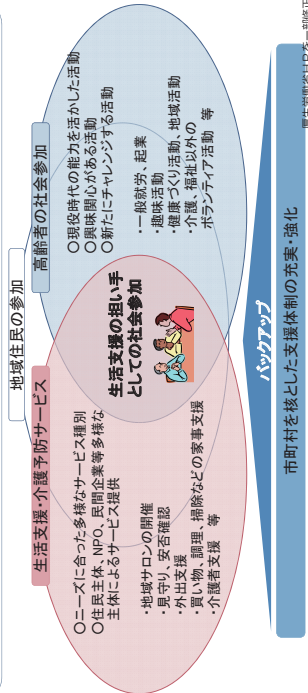
仙台市の年齢層別人口、認定者数、認定率



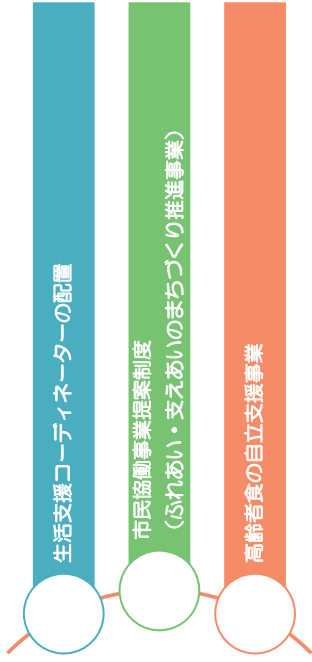
仙台市介護保険実施報告 H27年度末

## 生活支援・介護予防サービスの充実と高齢者の社会参加

- 単身世帯等が増加し、支援を必要とする程度の高齢者が増加する中、生活支援の必要性が増加。ボランティア、NPO、民間企業、自治体等の多様な主体が生活支援・介護予防サービスを提供することが必要。
- 高齢者の介護予防が求められているが、社会参加・社会的役割を持つことが生きがいや介護予防につながる。
- 多様な生活支援・介護予防サービスが利用できるような地域づくりを市町村が支援することについて、制度的な位置づけの強化を図る。具体的には、生活支援・介護予防サービスの充実に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発やそのネットワーク化などを行う。**「生活支援コーディネーター」の配置などについて、介護保険法の地域支援事業に位置づける。**



## 仙台市の生活支援・介護予防サービスの充実に関する取り組み(例)



平成28年度 食事サービスネットワークみやぎ 活動状況一覧表

グループ名	住所・連絡先	食ネット 担当者	連絡先		配食日							配達エリア
					月	火	水	木	金	土	日	
あかねグループ	〒984-0823 若林区遠見塚1-5-35	清水福子	TEL 285-0945		○	○	○	○	○	○	○	若林区、青葉区・ 宮城野区の一部
			FAX 282-4788		○	○	○	○	○			
グループゆう	〒981-3213 泉区南中山2-2-3	丸登志子	TEL 376-7665									泉区、青葉区北部
			FAX "		○	○	○	○	○			
ふたばの会	〒981-0822 太白区若葉町20-7	市橋草子	TEL 229-2585		○	○	○	○	○	○	○	太白区八木山周辺 向山、西多賀の一部
			FAX "									
ぽけとほうす	〒982-0011 太白区長町1-6-3	栗原孝	TEL 249-1522									太白区長町近辺 ひより台(月、水、金)
			FAX		○	○	○	○	○			
けやきグループ	〒981-3132 泉区将監1-11-12	斎藤幸子	TEL 773-0749									泉区東半分 青葉区旭ヶ丘
			FAX "									
ほっと亭	〒982-0101 太白区長町4丁目2-18	寺島知子	TEL 247-9463									太白区郡山、八本松 長町、中田、四郎丸
			FAX "		○	○	○	○	○			
ポッケの森	〒982-0222 太白区人来田2-2-1	星野幸	TEL 243-7280		○	○	○	○	○	○	○	太白区四郎丸、袋原 東郡山、秋保町、中田
			FAX 243-7281		○	○	○	○	○			

## 食事サービスネットワークみやぎ活動概要

1994年	7月	仙台市高齢企画課より高齢者配食サービスモデル事業受け入れ打診説明会参加
1994年	11月	仙台市高齢者配食サービスモデル事業開始・週2回以上
1995年	3月	仙台市高齢者配食サービスモデル事業廃止
1995年	4月	仙台市ボランティア団体等、賛同的配食サービス事業に助成金制度開始(週3回以上) 4グループが活動開始
1996年	5月	食事サービスネットワークみやぎ代表者会議結成(5団体参加)
1998年	4月	三ネット連絡協議会結成(配食サービスネット、在宅福祉ネット、在宅連絡会)
2003年	4月	仙台市高齢者配食サービス委託事業開始(2団体受託)
2005年	9月	老人給食協力会全国セミナーIN仙台開催(配食サービスネットワークみやぎ主催)
2010年	12月	現在ネットワークのメンバーは7グループで配食担当者会議として継続
2011年	3月	東日本大震災
2011年	4月	3月11日の震災時活動報告会
2011年	11月	「ボランティアフェアスティバル」災害の際の在宅支援活動 ～食事サービス活動を通じて～ 参加 食事サービスネットワークみやぎ事例報告
2011年	12月	食事サービスセミナーIN仙台 ～災害時における高齢者の食を考える～ (食事サービスネットワークみやぎ主催)
2015年	4月	フォーラム「市民参加による食事サービスと在宅福祉サービスの推進に向けて」
2015年	10月	宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会員

## 食事サービスネットワークみやぎ活動内容

会議開催回数	月1回	年1回調理講習会	年1回施設見学・お弁当交流会・研修会
会議開催場所	仙台市福祉プラザ会議室	・ 他	
会議内容	情報交換 (システム、食材情報、調理器具など)	各研修会、講習会の企画	仙台市への要望、配食サービスに対する動向調査、説明会の検討 各グループの献立表、レシピの交換



お年寄りに弁当作り手も高齢化

# 需要増 厳しい事業継続

## スタッフ世代交代進まず

10人ほどのスタッフが手際よく総菜を盛り付ける。仙台市若林区選見塚十丁目の認定NPO法人あかねグループの調理場には、おいしそうなお年寄りがあふれる。この日の夕食は175食。仙台市の食の自立支援サービスに14人が8割を占める。

### ●個々の希望に対応

管理栄養士がバランスを取り、献立を月単位で組み立てる。持病を抱える利用者も多く、糖や塩分、油、ご飯の量など希望にも応じる。種類が増えれば、その分手間もかかる。あかねグループは1982年「地

域のために女性ができることをやる」と主婦10人で結成した。84年春から東北で初めて民間の食事宅配を始め、2003年から市のサービスを受託する。地域に根差した活動が評価され、総務大臣表彰も受けた。

現在の調理、配達スタッフ約90人の平均年齢は60代半ばで、活動1年以上のベテランも多い。大半の報酬は2時間1000円だ。理事長の清水穂子さんは「高齢者の増加で食を巡る環境が多様化し、弁当の需要は高まる一方、同時にスタッフの高齢化が進み、事業継続の難しさを痛感する」と明かす。

市の事業の利用者負担は1食300円。事業者には別に300円の委託料が支払われるが、金額は16年間据え置かれたまま。8%への消費税率引き上げ分は、作り手側が被る。配達のガソリン代と昨今の野菜高騰が、経費のやりくりを追い打ちを

掛ける。市のサービスは、弁当の手渡しで安否確認も担うため、留守の場合は何度も出向くことになる。この日の食材は、高値が続くキャベツから大根に変わった。

### ●非営利団体が支え

清水さんの負債は現実となった。泉区田中山十丁目の認定NPO法人「グループゆう」は今年4月、やむなく配達個数とエリアを縮小した。昼と夕食を調理、配達してきたが、昼食の業務をやめ、平日の弁当は約90食から約50食に減った。利用者には事情を説明して、他の業者に切り替えてもらった。

仙台市内の高齢者向け配食事業はボランティア団体が支えてきた。あかねとゆう、ポッケの森など団体は連携組織を結成、市の助成以外を含め、年間計約14万食を提供している。

グループゆうは1995年、主婦らが旗揚げした。理事の丸登志子さん(仮)は「担い手の世代交代は進まず、経費負担は増すばかり。規模縮小は苦渋の選択だった」と語る。



- 給食サービスを行うボランティア団体
- 19 食事サービス心ばいの会
  - 20 高齢者配食サービスほけっと・はつす
  - 21 けやきグループ
  - 22 高齢者配食サービス「ほっと亭」
  - 23 NPO法人 輪っか



仙台市の助成で高齢者配食サービスを展開する事業所

食の自立支援サービスを受託する事業所	食の自立支援サービスを受託する事業所
1 宅配クック123 仙台中央店	19 特別養護老人ホームハルシア
2 宅配クック123 仙台宮城野店	20 軽費老人ホームケアハウス大宮
3 宅配クック123 仙台泉店	21 就労継続支援B型事業所 ポッケの森
4 味の金魂	
5 表参道あたま茶や	
6 三膳	
7 ひるさと	
8 ニコニコキッチン 仙台泉・青葉店	
9 ニコニコキッチン 仙台宮城野店	
10 認定NPO法人 あかねグループ	
11 認定NPO法人 グループゆう	
12 まごころ弁当 仙台宮城野店	
13 まごころ弁当 仙台太白店	
14 まごころ弁当 仙台泉店	
15 ライフテリ 仙台・仙塩店	
16 特別養護老人ホームハルシア	
17 軽費老人ホームケアハウス大宮	
18 就労継続支援B型事業所 ポッケの森	

で約1700人が認定を受け、年間約31万食を5提供。他に限られた地域でボランティアを実施する。市が市の助成を受け給食サービスを実施する。ともに利用者負担は1食500円で、事業所には市から別に300円の委託料が支払われる。



「あかねグループ」の調理場。多様な要望に応じた弁当が並ぶ



Evening Wide

子ども

ベクトル

フォーカス

ライフ

リチャード

### お年寄りに弁当作り手も高齢化<sup>3</sup>

仙台市内で高齢者向け配食サービスを手掛けるボランティア団体の運営組織「食事サービスネットワークみやぎ」が18日、月1回の情報交換会を開いた。講話は各団体に共通する悩み、担い手の高齢化と人手不足が中心だった。

●年間14万食を提供  
「スタッフの平均年齢は70歳近くになる」とはもう超えている。一人がなみ息だりに話した。若い人が入ってこないね。

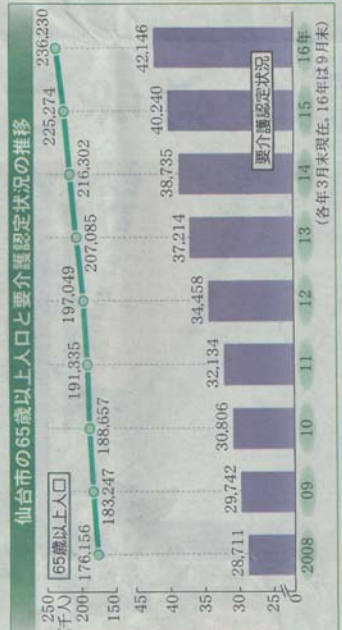
仙台でも、特に都市部では地域とのつながりが薄れている。行事に参加するのは高齢者ばかり。配食の高齢者構成も変わらない。配食事業に困ることも、ボランティアの参加は少ない。

「はちきり」(愛)の代表理事宮本まゆみ氏は「私たちが聞かされたことをしていると思われている」と苦笑する。

7団体のボランティアを募集している。メンバーは飯じまを増す事業運営の方で、日々の活動と調理配食まで多くの負担も担った。

「自分たちが食べたいものを作り、列を食卓に一人一人の希望にもできるのは心ざらぬ。『孫真真報の民間企業ならこころ遣っている。顔も分かるお年寄りが持っていると思うから標準にはあてられない』」

●体のいい受け皿  
国は2015年、介護報酬を全体で2.1%引き上げた。同年に施行した改正介護保険法施行では、ボ



改正介護保険法より軽度の要支援者に対するサービスを全国一律に介護保険給付から切り離し、18年度までに各自治体による「介護予防・日常生活支援総合事業」(総合事業)方式に切り替えることにも柱の1つ。高齢者に対するケアへの傾向は従来より低く、要支援者への生活支援現場からは「要支援者への生活支援が上がる」との声が上がる。



スタッフの高齢化と人手不足が指摘された「食事サービスネットワークみやぎ」の情報交換会=18日、仙台市青葉区の市福祉プラザ

# 地域支え合い見通せず

## 実態伴わぬ介護法の理念

ランテアやNPO、民間企業など多様な活動主体の活用を強調して「地域の支え合い体制づくりを推進する」と掲げた。狙いは、16年度推計で年間10兆近くに達する介護給付費を抑えることにある。

仙台市が09年度に始めた「食の自立支援サービス」の総額は16年間1食300円で据え置かれている。事業者は増額を要望するが、報酬が低く抑えられる傾向の中で市に具体的な見直しは動きはない。市職企画課の担当者は「高齢者にとって栄養バランスの取れた食の重要性は認識している」と述べるにとどまる。

仙台市の65歳以上人口と要支援・介護認定状況の推移、16年9月末現在の要介護度別構成比はさうこの通り。高齢者の食への意識は高く、市のサービスは年間約1万食に止る。

ネットワークみやぎメンバーで「ほと亭」(太白区)の代表寺島知子さん(73)は強調する。「配食事業を食の介護、支援サービスは担い手がいて初めて機能する。コストを減らすため、非営利団体が体のいい受け皿にされたのでは構わない」

### 都市部つながり希薄

加えるのは常連とお年寄りばかり。階層の差は構成員も変わらない。配食事業に困ることも、ボランティアの参加は少ない。

「はちきり」(愛)の代表理事宮本まゆみ氏は「私たちが聞かされたことをしていると思われている」と苦笑する。

7団体のボランティアを募集している。メンバーは飯じまを増す事業運営の方で、日々の活動と調理配食まで多くの負担も担った。

「自分たちが食べたいものを作り、列を食卓に一人一人の希望にもできるのは心ざらぬ。『孫真真報の民間企業ならこころ遣っている。顔も分かるお年寄りが持っていると思うから標準にはあてられない』」

国は2015年、介護報酬を全体で2.1%引き上げた。同年に施行した改正介護保険法施行では、ボ



スタッフの高齢化と人手不足が指摘された「食事サービスネットワークみやぎ」の情報交換会=18日、仙台市青葉区の市福祉プラザ

千980-8660仙台市青葉区五橋1の2の28、河北新報社夕刊編集部へ。フアックスは022(211)1255、電子メールアドレスはyoucan@po.kahoku.co.jp

「週刊せんだい」へのご意見、ご感想、取り上げたいテーマをお寄せください。



老いても住み慣れた地域で  
自分らしく生活を続けてほしい

## けやきグループ

仙台市  
先導的ボランティア  
事業助成金

平成10年4月発足



1

参加費100円

(コーヒー・お茶はお替り自由)

ランチ 400円



3

## ほっとサロン将監

平成27年6月25日開始



2

## 活動しているところ



4

## 活動しているところ



5

## サロン開設のきっかけ

1. 仙台市の市民協働事業提案制度に応募した「NPO福祉ねっと宮城」との出会い
2. ボランティアリーダー2人の「みんなで集うサロンをつくりたいなあ」という思い
3. 地域の多様な組織との連携
4. コーディネーターの存在

### 《市民協働事業の提案とは》

- ・担い手養成とそのプロセスを検証するための住民参加型の福祉拠点の運営
- ・居場所づくりハンドブックの作成

6

## 活動を始めるといふあたり協力していただいた組織・団体

- NPO福祉ねっと宮城
- 市民活動団体 けやきグループ
- 仙台市社会福祉協議会、泉区事務所
- 将監地区社会福祉協議会
- 将監地区老人憩の家運営委員会
- 将監地域包括支援センター
- 各町内会

7

## けやきグループとの関わり

- 通常は夕食の配食活動だが、サロンの日は、ランチ提供のため、スタッフ体制を変更して11時半に20食を準備。1食4品（主菜・副菜2品・デザート）
- 今年度より、地域貢献活動として総会で承認され、予算を計上。
- 大掃除やボランティア不足等の際の協力。

8

毎週木曜開催

## サロンの一日の流れ(10時半～14時半)

- ・9:00 リーダー2人が活動開始(交代で食事係・受付係になる)  
《食事係》 ご飯・味噌汁を担当  
前回使用した食器類(大皿、小鉢、ご飯茶碗、お椀、カップ)を煮沸消毒。お米のセット。  
《受付係》 トイレ2ヶ所清掃。空気の入れ換え。部屋3の掃除機かけ。  
長机のセット。コーヒー等やお茶菓子、花の用意。  
機4ヶ所設置。イーゼルに献立を貼って玄關横に設置。
- ・10:15 受付開始(名札を準備。参加費等の受け取り)
- ・11:30 けやきグループにランチを受け取りに車で行く(約5分)
- ・12:00 食事
- ・14:30 終了(後片付け、掃除、戸締り、会計処理など)
- ・15:30 解散

9

## ランチ



32

## ボランティアの確保について

- ボランティア説明会開催のチラシを全戸2,000枚配布  
↓
- 参加者10名、関係者6名の中、6名が登録
- ボランティアリーダー及びボランティア自らによる身近な住民への誘い。
- 体調不良による休み等、緊急時の場合は「けやきグループ」に依頼。

11

## ボランティアの育成について

- 一般参加者とボランティアの区別をなくし一緒にサロンを楽しむ雰囲気づくり
- 必要な講座を企画  
認知症体験講座、傾聴講座、  
サロン活動の出席、福祉に関する知識講座等
- 開店前の打ち合わせ

12

33

## ボランティア講座



**認知症サポーター養成講座**  
(講師: 将監地域包括支援センター)



**健康床省講座**  
(講師: 将監地域包括支援センター)

13

## ほっとサロン将監 (一般参加者とボランティア参加数)

- 実施期間: 平成27年6月末～平成28年度11月末
- 実施時間: 10時30分～14時30分(毎週木曜開催)
- 平成27年度: 38回 参加数819名  
(男240、女294、ボラ285)
- 平成28年度: 30回 11月末現在623名  
(男229、女207、ボラ187)
- 総 数 : 68回 参加数1442名  
(男469、女501、ボラ472)

15

## ボランティア講座



**サロン出前講座**  
(講師: 認定NPO 法人あかねグループ)



**傾聴講座**  
(講師: NPO 法人仙台傾聴の会)

34

## 波及効果

- ・他の町内会でサロンを始めたところもあり、また検討中のところもあってサロンに対する関心が高まってきた。
- ・配食サービスでの見守り活動のような意識がサロンの参加者やボランティアの中に芽生えてきた。
- ・市民センターや他施設から認識され交流するようになった。

## 今後の課題

- ・送迎の問題
- ・若手のボランティア(地域に眠っている人材)確保と育成
- ・地域包括ケアに向けた地域との連携
- ・継続して運営していくための有償体制づくり(財源の確保)
- ・コーディネーターの確保

16

35

---

Ⅲ ”食”をテーマに  
生活支援サービス推進のノウハウについてグループワーク  
どうしたら新しいボランティアが参加できるのか  
- 協議体メンバーで考えよう -

講師

清水 洋行 さん  
千葉大学文学部社会学講座 准教授

中島 智人 さん  
産業能率大学経営学部 准教授

---

食を通じた生活支援サービスの推進と  
高齢者の地域サービスをすすめるために  
どうしたら新しいボランティアが参加できるのか

---

講義Ⅲの流れ

13:30～14:00 ガイダンス

「ボランティア」に参加してほしい人々を理解する  
「自分たち」を理解する：食を通じた活動の「価値」とは

14:00～グループ演習

食を通じた生活支援の活動の価値を確認して、新たなボラン  
ティアの参加を促す方法について考えてみよう。



### 午前の講義の振り返り(1) 活動への多様な関わり方

- 「食を通じた生活支援サービスの推進」には、担い手づくりが必要です。
- 担い手(地域参加・社会参加のかたち)には多様なかたちがあります。
  - 無償ボランティア
  - 有償ボランティア
  - パート・アルバイト
  - 職員
  - 担い手
- 多様な関わり方ができることが、市民活動の強みです。

3

### 午前の講義の振り返り(2) 活動の多様なかたち

- 「食を通じた生活支援サービス」には、いろいろなかたちがあります。
  - 配食
  - 会食
  - ミニデイ
  - サロン
  - 居場所
  - コミュニティカフェ
- 地域のニーズや、活動条件などをふまえて、新しいサービスを創出したり、現行のサービスのあり方を見直してみることも必要です。

4

### 午前の講義の振り返り(3) 役割の多様なかたち

- サービスの種類によって必要な役割は異なります。
- それぞれの活動で、いろいろな人が、いろいろな役割を通じて活動に関われるようにしています。
- [活動] [役割]
  - 調理 調理、盛り付け、洗浄、献立作り、コーディネート
  - 配達 運転、配達、見守り、お手紙づくり、コーディネート
  - 会食・サロン 話し相手、プログラム実施、調理…
- 役割を小さく切り分けることができ、その人の体力や志向に応じていろいろな人が参加できます。

5

### 講義Ⅲのポイント

- (潜在的な)ボランティアとは誰か、について理解する
- ボランティアの理解にもとづいて、提供する活動を設計する
- ボランティアが活動に参加するためのコスト・障壁を理解する
- 自分たちが提供する価値とは何か、について理解する
- ボランティアに対して、自分たちの価値をどのように伝えるか理解する
- 価値を提供することを通して、ボランティアを獲得する
- 地域とのつながり(ネットワーク)を考える
- 地域とのつながりを通して、ボランティアを確保する

6



## ボランティアの参加・活動の動機を考える

- 外発的動機: 他人や社会のために
- 内発的動機: 自分のために
- ・ 7つの動機モデル
  - ① 「自分探し」動機
  - ② 「利他心」動機
  - ③ 「理念の実現」動機
  - ④ 「自己成長と技術習得・発揮」動機
  - ⑤ 「レクリエーション」動機
  - ⑥ 「社会適応」動機
  - ⑦ 「テーマや対象への共感」動機  
(桜井政成)

7

社会への貢献	困っている人の手助けがしたいから 地域社会をよりよくしたいから 社会への不正や矛盾に怒りを感じるから 社会への問題解決に知識・技術・学問を役立てたい 新しい人と出逢いたいから
自分の発見	自分の経験や技術などを生かしたいから 新しく感動できる体験がしたいから 自分のやりたいことを発見したいから 授業や仕事として位置づけられているから
キャリアづくり	進学や職場で活動を通してスキルを身につけるから 大学や職場で資格取得のために必要だから 進学・就職・昇進に有利にしたいから
癒しセラピー	自分自身を見失っているような不安や喪失感から 自分自身の生き方に自信がもてないから 不安な気持ちや傷ついた心を癒したいから 人とのコミュニケーションや集団での生活に自信がもてないから

出典: 興沼寛著「希望への力」(2003年、光生館)より

40

## 対象を具体化する方法(1) 対象者をイメージする

### ペルソナ(Persona)

#### - 対象者の具体的イメージ

- 氏名
- 年齢・職業・家族構成
- 居住地
- ライフスタイル、価値観、趣味など
- イメージされた対象者がとりそうな行動にもとづいて、モノ・サービスを企画する



赤堤 はるおさん  
66歳、昨年、企業を定年後、あまり出かけたくなかった。仙台市郊外の一軒家で妻と二人暮らし。趣味はとくにない。家事は妻任せ。



上用賀 なつさん  
60歳、主婦、東京近郊のマンションに夫と二人暮らし。  
子どもが独立し、自由な時間ができた。これから、自分の時間を楽しみたい。

## 対象を具体化する方法(2) “まとまり”として考える

### 参加ニーズや選好の異なるグループ(まとまり)を特定し、その特徴を明らかにする(マーケティングの考え方を参考に)

- ・ 地域の特徴や変化(地理的変数、人口動態変数)
  - 人口、人口密度、人口の変化
  - 年齢、性別、所得、世帯規模、家族のライフサイクル(子育て中など)、仕事、教育水準など
- ・ 地域住民の志向性や行動パターン(心理的変数、行動変数)
  - ライフスタイル(〇〇志向)、パーソナリティ(〇〇的)、価値観など
  - 利用場面、使用量・使用頻度、ロイヤルティの程度、準備段階、製品・サービスに対する態度など

10

41

### 事例調査から(1) 団体の工夫・配慮

- ハードル(敷居)の高い活動
  - 頻度が高い、時間が長い、技術・熟練、体力
- 参加し易い活動
  - 楽しみ・生きがいの場(支え合う会みのり/東京都稲城市)
  - 自己実現の場(いぶりたすけ愛/北海道登別市)



11

### 事例調査から(2) 人材募集の場

- 活動団体による取り組み
  - 口コミ
  - パンフレットの配布、掲示
  - 活動紹介
  - 講座・学習会
  - ボランティア体験の受け入れ
- 他の団体・機関による取り組み
  - 社会福祉協議会
  - 生涯学習、社会教育
  - 市民活動支援センター

12

### 事例調査から(3) 地域のネットワーク

- 自治会どうしのつながり
  - 地域食堂(ゆめみ〜/北海道登別市)
- 地域と活動との橋渡し
  - 市との協働事業によるモデルハウス(実家の茶の間/新潟市)
  - 市との協働事業による連続講座「茶の間の学校」

13

### 演習 I

「食を通じた生活支援サービス」が持っている「価値」を考えてみましょう。

- 新たに参加する人に伝えることができる良いところを探してみよう。
- 現在、参加している方は、自分たちが感じている価値をもう一度考えてみましょう。
- 現在、参加していない人は、「食を通じた活動」に対する自分自身が感じる価値やメリットを考えてみましょう。

14

## 演習Ⅱ

他の部署・事業所・団体・機関で、

- ① 今後、人材となりそうな人たちがいる活動・団体・機関
- ② 「食を通じた生活支援サービス」の担い手募集や育成に関わってくれそうな活動・団体・機関をあげてください。

- ・ あなたが個人的にかかわっているものも含めて、あげてください。

15

## 演習Ⅲ

演習Ⅱであげた、人材募集・人材育成しているところや、人材がいそうなどと、今後、つながっていくために、貴部署・事業所・団体では、それらの組織や人々に向けて、どのようにして、その価値・メリットを伝えることができるでしょうか？

- ・ 自分たちの活動する地域には、どのような地域とのつながり（ネットワーク）があるか考えてみましょう。
- ・ そのネットワークを通して、新たなボランティアに対してどのように「価値」を伝え、ボランティアの参加を促せるか、考えてみましょう。

16

厚生労働省 平成 28 年度老人保健健康増進等事業 研修会

## 食を通じた生活支援サービスの推進と 高齢者の地域参加をすすめるために

【東京会場】 平成 28 年 12 月 20 日（火）

ニッシーホール（日本消防会館）  
5階 大会議室  
港区虎ノ門 2-9-16

受付 9:15 開講 10:00 閉講 16:00

### プログラム

- I 高齢者の社会参加の意義について
- II 住民参加を促す生活支援サービスの取り組み
- III “食”をテーマに生活支援サービス推進のノウハウについてグループワーク  
「どうしたら新しいボランティアが参加できるのか」  
- 協議体メンバーで考えよう -」

【主 催】 一般社団法人 全国老人給食協力の会  
東京都世田谷区上用賀 6-19-21  
電話 03(5426)2547 FAX03(5426)2548

### －プログラム－

9:15	受付開始
10:00	ご挨拶 坂田 早苗さん 東京都福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課 課長
10:15	I 講義 「高齢者の社会参加の意義について」 講師 内藤 佳津雄 さん 日本大学文理学部 教授
11:00	II 取り組み事例 「住民参加を促す生活支援サービスの取り組み」 報告 秋山 由美子 さん 一般財団法人社会福祉研究所 研究員 北本 節代 さん NPO 法人地域たすけあいの会 業務執行責任者
12:30	昼食休憩
13:30	III “食”をテーマに生活支援サービス推進の ノウハウについてグループワーク 「どうしたら新しいボランティアが参加できるのか」 - 協議体メンバーで考えよう! -」 進行 内藤 佳津雄 さん 日本大学文理学部 教授 平野 覚治 一般社団法人全国老人給食協力の会専務理事
16:00	閉会

Ⅰ 講義

## 高齢者の社会参加の意義について

講師 内藤 佳津雄 さん  
日本大学文理学部教授

### 講師プロフィール

平成 9 年 厚生省老人保健福祉局老人福祉専門官  
平成 11 年 日本社会事業大学社会事業研究所講師  
平成 12 年 日本大学文理学部専任講師  
平成 14 年 日本大学文理学部助教授  
平成 19 年 日本大学文理学部教授 (現職)

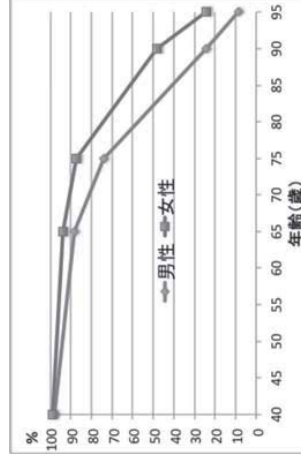
### その他の活動歴 (現在)

日本老年社会科学会 常任理事  
調布市高齢者福祉推進協議会 顧問  
稲城市介護保険運営協議会 会長  
練馬区介護保険運営協議会 会長代理  
東京都認知症対策推進会議 委員

## 高齢者の社会参加の意義について

日本大学 内藤佳津雄

生命表上の特定年齢まで生存する者の割合  
(平成27年度簡易生命表)



平均寿命  
男:80.79歳  
女:87.05歳

65歳平均余命  
男:19.46年  
女:24.31年

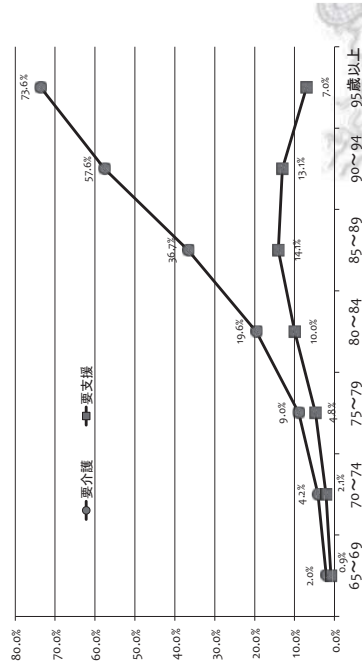
寿命中位数  
(左区の50%  
にあたる年齢)  
女89.79年  
男83.76年

年齢	40	65	75	90	95
男	98.2	88.8	74.6	25.0	9.0
女	99.0	94.2	87.7	49.1	24.9

年次	人口(1,000人)					割合(%)	
	総数						
	0~14歳	15~64歳	65歳以上	0~14歳	15~64歳		65歳以上
平成 22(2010)	128,057	16,839	81,735	29,484	13.1	63.8	23.0
23(2011)	127,753	16,685	81,303	29,764	13.1	63.6	23.3
24(2012)	127,498	16,493	80,173	30,831	12.9	62.9	24.2
25(2013)	127,247	16,281	78,996	31,971	12.8	62.1	25.1
26(2014)	126,949	16,067	77,803	33,080	12.7	61.3	26.1
27(2015)	126,597	15,827	76,818	33,952	12.5	60.7	26.8
32(2020)	124,100	14,568	73,408	36,124	11.7	59.2	29.1
37(2025)	120,659	13,240	70,845	36,573	11.0	58.7	30.3
42(2030)	116,618	12,039	67,730	36,849	10.3	58.1	31.6
47(2035)	112,124	11,287	63,430	37,407	10.1	56.6	33.4
52(2040)	107,276	10,732	57,866	38,678	10.0	53.9	36.1
57(2045)	102,210	10,116	53,531	38,564	9.9	52.4	37.7
62(2050)	97,076	9,387	50,013	37,676	9.7	51.5	38.8
67(2055)	91,933	8,614	47,063	36,257	9.4	51.2	39.4
72(2060)	86,737	7,912	44,183	34,642	9.1	50.9	39.9

国立社会保障人口問題研究所(平成24年1月推計):出生中位(死亡中位)推計

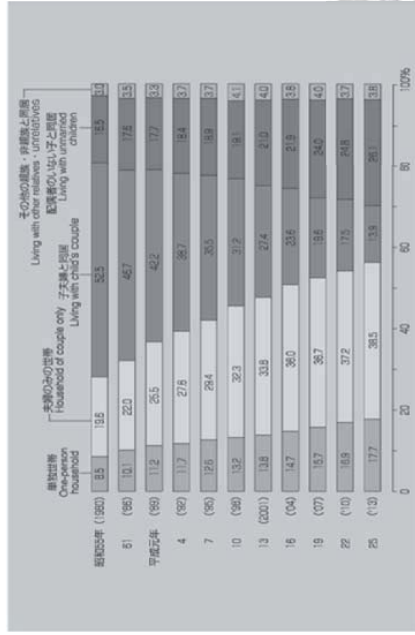
### 年齢層別の要介護認定率(推計)



社会保障人口問題研究所将来人口推計(平成27年10月)及び介護給付費要需調査(平成27年11月調査分)

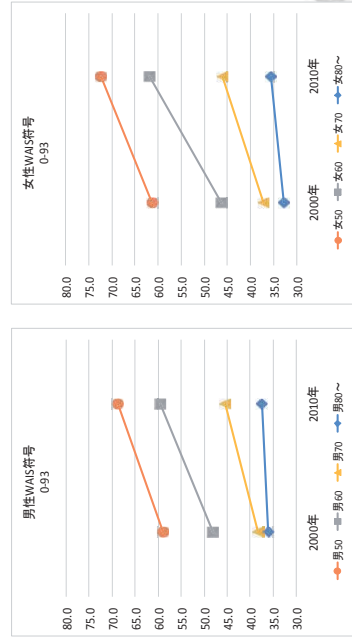
5

### 家族形態別にみた65歳以上の者の構成割合の年次推移



厚生省統計情報部「グラフで見る世帯の状況」  
国民生活基礎調査(平成25年)の結果から

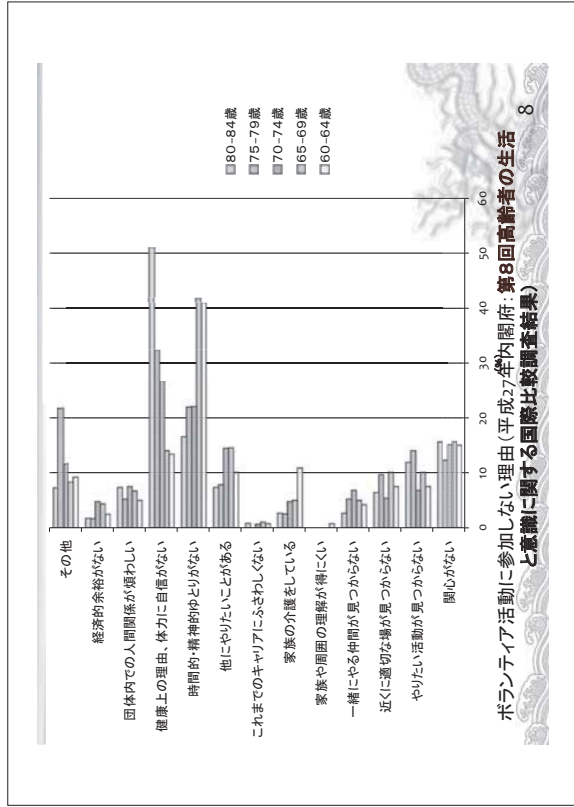
### WAIS-Rの「符号」問題の年齢別の平均得点:10年間の変化



国立長寿医療研究センター「老化に関する長期縦断疫学研究(National Institute for Longevity Sciences - Longitudinal Study of Aging: NLSLSA)」約2400名を対象とした縦断的調査の結果(10歳刻みでの集計結果:公表済)

7





ボランティア活動に参加しない理由(平成27年内閣府:第8回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果) 8

## プロダクティブ・エイジング

- 高齢になっても一様ではない(個人差)
- 老化の程度、疾病や障害、価値や経験の差
- 高齢者になっても、それ以前と急激な変化は少ない
- 知能、性格、価値観など
- 個人差に応じて自分の人生を選択できる
- 生産に寄与することもできる
- 社会参加を継続可能である
- 自分の人生を自分で決めることができる

◎プロダクティブ・エイジング(生産的な老化)  
 高齢者の就労環境整備, 社会参加(ボランティア, 生涯学習)  
 日常生活...「生活の継続性」「自己決定」

## プロダクティブ・エイジング運動の実例

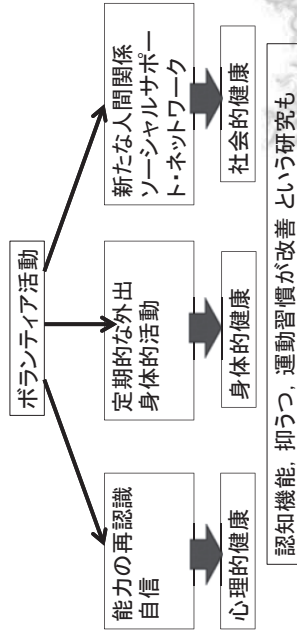
2012年 European Year for Active Ageing and Solidarity between Generations

高齢者の雇用, 社会参加, 生活の自立(自律)  
 社会の一員としての市民参加  
 生活の質(Quality of Life)の向上

※「自立」

...可能な限り, 自分自身の生活を自ら決め, 行うこと

## ボランティア活動の健康への効果



藤原・杉原・新開(2007) ボランティア活動が  
 高齢者の心身の健康に及ぼす影響 日本公衆  
 衛生雑誌, 52, 293-307

## 地域包括ケアシステムの構築

◆ 2025年＝団塊の世代が70代後半になるころを目標に、国、都道府県、市町村の「地域包括ケアシステム」を構築することを推進することに務める。

◆ 可能な限り、住み慣れた地域で有する能力に応じて自立した生活を営むことができるように包括的に支援する  
 → 介護、介護予防、日常生活支援、医療、住宅  
 → 公助・共助・互助・自助の組み合わせ  
 ……連携を図って総合的推進

### <日常生活支援>

※地域で暮らし続けるには日常生活支援が必要  
 ※これまでで生活支援を担っていた同居家族の不在  
 → 地域での日常生活支援の基盤構築が大きな課題  
 <介護予防>  
 ※疾病や要介護の予防が重要  
 ※身体的な機能向上→生活上の活動・参加による「生活機能」向上  
 → 地域での活動や参加の基盤構築が大きな課題

12

## 28年度老健事業による調査

- ◆ 食事サービス団体への調査(N=63)
- ◆ 高齢ボランティアの状況
- ◆ ボランティアの募集と定着への方策の工夫

14

## 活動と参加の場をつくる

◆ 元気高齢者…活動・参加の場

◎活動すること自体が介護予防につながる

※多くの人が参加できること→多様な活動(内容、グループ)

※長く活動できること→人間関係を継続できる活動

↓

※社会的価値がある活動として、「生活支援」とマッチできるのか？

↓

◎要介護者等向けの日常生活支援の互助基盤をつくる  
 生活支援、見守り、参加の場など

要支援者向け「総合事業」は要支援の人の生活支援から始めてみようという「経過」に過ぎない。将来的には、要介護の人への生活支援を準備しないと地域包括ケアは成功しない

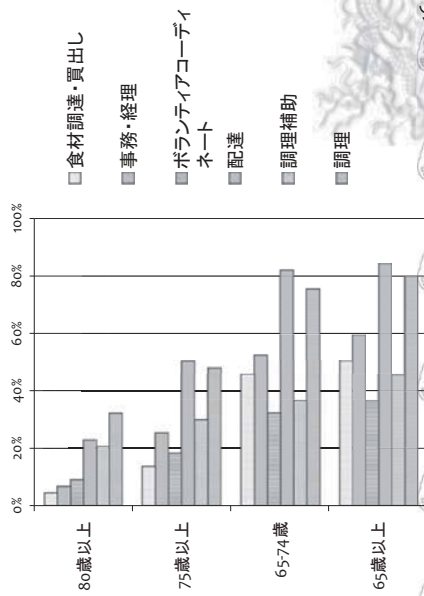
13

配食サービス団体：  
 高齢ボランティアの活動年数(最も人数が多い年数)

	活動歴	
	女性	男性
5年未満	2	8
5-9年	11	17
10-14年	20	10
15-19年	5	2
20年以上	1	0

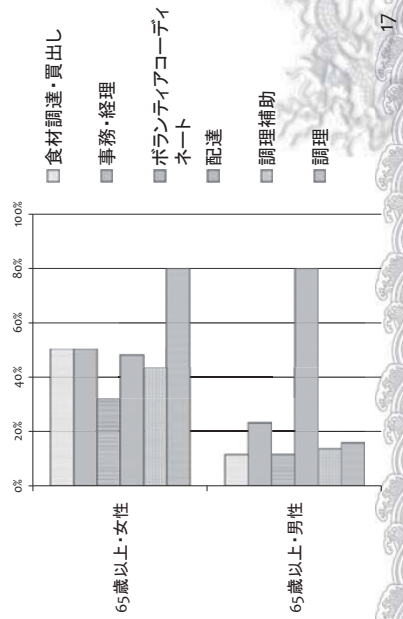
15

配食サービス団体(63団体)の高齢ボランティアの状況



16

配食サービス団体(63団体)の高齢ボランティアの状況



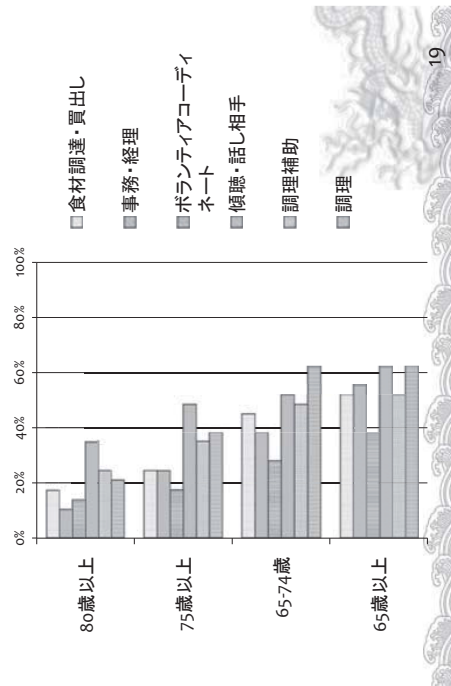
17

会食(サロン・ミニデイ)実施団体:  
高齢ボランティアの活動年数(最も人数が多い年数)

	活動歴	
	女性	男性
5年未満	12	7
5-9年	5	6
10-14年	7	6
15-19年	3	1
20年以上	2	1

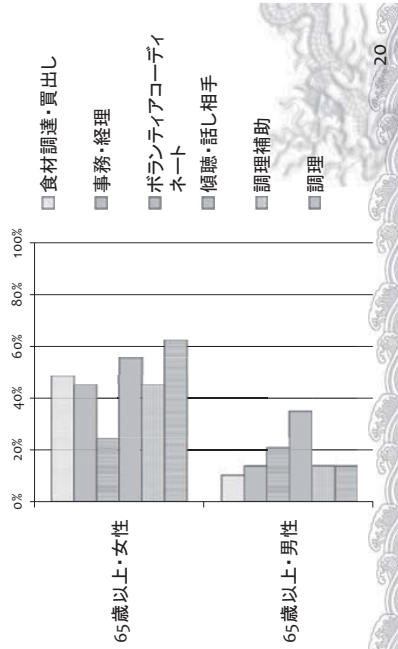
18

会食(サロン・ミニデイ)実施団体(29団体)の高齢ボランティアの状況

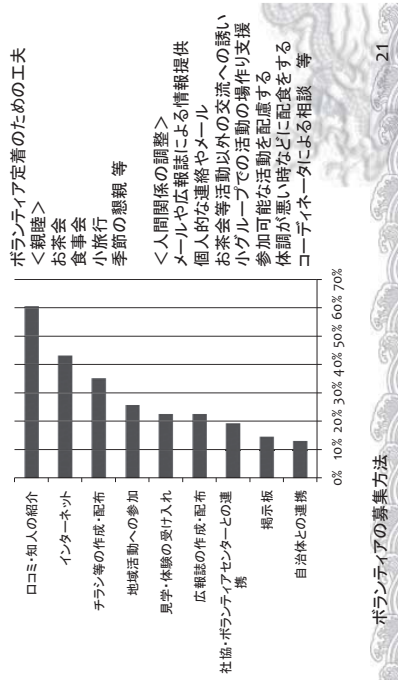


19

### 会食(サロン・ミニデイ)実施団体(29団体)の高齢ボランティアの状況



### ボランティアの募集と定着



### ボランティア定着のための工夫

- ＜モチベーションの維持向上＞
  - 大会で表彰
  - 他団体との交流
  - 利用者からの感謝の言葉を伝える
  - あなたが必要だということを折り返して言葉にする
  - 打ち合わせをこまめにする
  - 全員参加で運営会議を開催
  - 毎日の食事をHPで紹介
  - 行政からの表彰
  - 活動者の写真撮影・ポスター作成
  - フリーペーパー等への掲載
  - ボランティアの会報での紹介
  - 総会で目標を確認、活動を総括
  - 基本理念を常に確認する
  - ボランティアの意思を尊重
- ＜意見集約・会議運営＞
  - ◎ボトムアップ型
    - 部門別の会議を定期的(1、2月に1回)に開催する
    - ボランティアが参加できる会議で意見を出し合う
    - 日常的な顔合わせの中で意見交換できる
  - ◎トップダウン型
    - 定期的な理事会、運営委員会等で現場から上げられた問題について検討を行う
    - グループ(部門、曜日等)のリーダーの会議で問題を共有する

### まとめ

- ◎高齢者のボランティア活動・介護予防と生活支援基盤
  - ボランティアへの参加は健康の維持向上に寄与する
  - 地域での高齢者の参加の場を積極的に作っていくことを支援することが政策課題
  - (全ての活動が生活支援を必須としなくても良い(介護予防効果だけでなく分)…活動に対して、生活支援の活動も働きかけていく)
  - 多くの参加を得るために多様な活動が必要
  - ボランティアの募集について協議体で行なっていくことも有効
  - ボランティア定着への工夫を共有する
  - 食に関する活動は幅広い参加が可能であり、定着もよい
  - 高齢者だけを対象にするのではなく、他世代への支援も可能(参加への興味を広げる)

## II 取り組み事例

### 住民参加を促す生活支援サービスの取組み

#### 報告

秋山 由美子 さん 一般財団法人 社会福祉研究所 研究員

北本 節代 さん NPO 法人地域たすけあいの会  
常務理事・業務執行責任者

秋山 由美子さんプロフィール\*\*\*\*\*

昭和42年5月世田谷区役所入職、福祉事務所生活保護ケースワーカー、査察指導員、社会福祉協議会等を経て平成5年4月から高齢者福祉課長、特別区職員研修所講師、特別養護老人ホーム上北沢ホーム施設長、在宅サービス部長、保健福祉部長。

平成21年3月世田谷区退職後、社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団理事長。

平成23年5月から世田谷区副区長、平成27年5月退任。

現在一般財団法人社会福祉研究所 研究員

北本 節代さんプロフィール\*\*\*\*\*

先天性障害を持ち地域の養護学校を卒業する。その後、障害者の権利や男女共同の地域づくりや生協の食べ物環境の活動に参画。

1999年にNPO 法人地域たすけあいの会を設立 主に福祉人材を育成する初任者研修などを中心に活動を開始、2003年理事代表。

市民参加の選挙で無所属にて市議会議員へ出馬、3期12年間弱い立場の代弁者となって政策決定の場で奔走。

2014年 常務理事、業務執行責任者として活動。



## 世田谷区における 住民参加の取り組み支援

平成28年12月20日

一般財団法人社会福祉研究所研究員

秋山 由美子

## ■ 世田谷区の概要

東京23区の西南端に位置している

平成28年4月1日現在

■面積 58.08 Km<sup>2</sup>

■総人口 887,994人、世帯数464,939世帯

平成27年の国勢調査の人口 約90万人

■行政エリア

5地域（総合支所）

27地区（日常生活圏域）

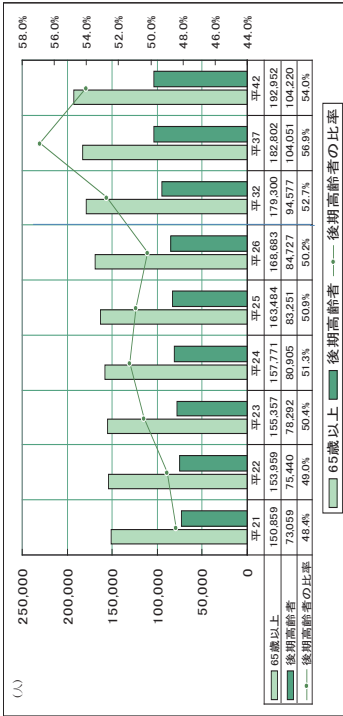
出張所・まちづくりセンター（行政）

あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）

（社会福祉法人、医療法人）

社会福祉協議会

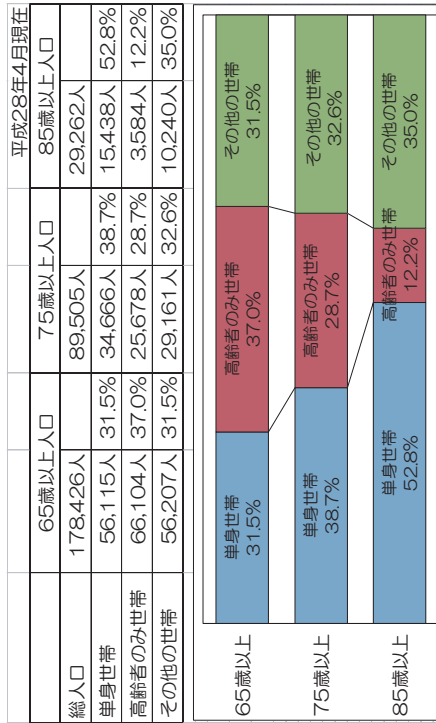
## ■ 高齢者人口の推移と将来推計



【参考】出生数と合計特殊出生率の推移 各年10月

	平成17年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
出生数(人)	6,210	7,272	7,433	7,731	7,969	8,022
合計特殊出生率	0.8	0.99	0.98	1.04	1.10	1.10

## ■ 世田谷区の高齢者の状況



## ■ 要介護・要支援認定者数

平成27年12月末 単位:人

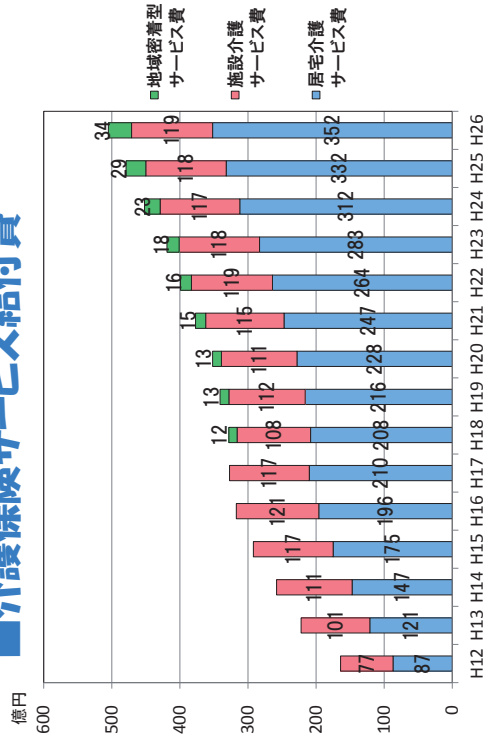
年齢	40~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~	65以上合計
被保険者	305,425	49,572	38,727	32,117	27,484	17,769	10,658	176,327
認定者	736	1,437	2,485	4,745	8,999	10,264	8,927	36,857
認定率(%)	0.24	2.9	6.4	14.8	32.7	57.8	83.8	20.9

年齢	40~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~	65以上合計
要支援1・2	134	373	736	1,569	2,920	2,832	1,287	9,851
要介護1	129	303	511	1,031	1,890	2,089	1,493	7,446
要介護2	173	262	434	769	1,564	1,843	1,593	6,638
要介護3	106	172	294	517	977	1,322	1,523	4,911
要介護4	69	147	270	451	900	1,127	1,566	4,530
要介護5	125	180	240	408	748	1,051	1,465	4,217

要介護・要支援認定者のうち何らかの認知症状のある方:約21,000人  
2008年度以降毎年平均1000人増加  
認定率は80歳以上から増

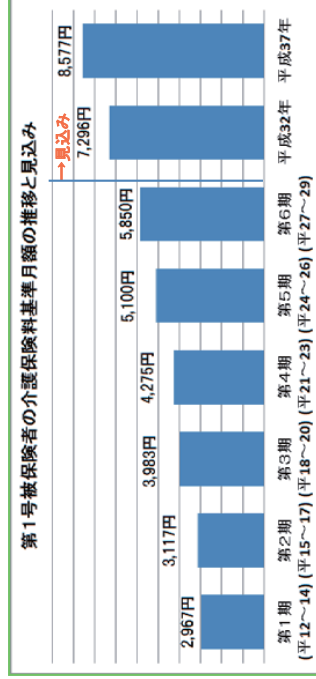
## ■ 介護保険サービス給付費





## 第1号被保険者の保険料の推移と見込み

超高齢社会の到来や後期高齢者の伸び等から、介護需要は今後ますます高まるものと想定されます。第6期の保険料段階設定のままで将来の保険料水準を推計すると、保険料の基準月額額は、平成32年(2020年)は7,296円、平成37年(2025年)には8,577円となる見込みです。



## 最近の国の動き①

- 新福祉ビジョン(平成27年9月)  
分野を問わない全世代・全対象型の新しい地域包括支援体制の確立
- ニッポン一億総活躍プラン(平成28年6月)  
女性も男性も、お年寄りも若者も、一度失敗を経験した方も、障害や難病のある方も、家庭で、職場で、地域で、あらゆる場で誰もが活躍できる、いわば全員参加型の社会である

## 最近の国の動き②

- 我が事・丸ごと共生社会実現本部(平成28年7月)  
福祉は与えるもの、与えられるものといったように「支え手側」と「受け手側」に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、公的な福祉サービスと協働し助け合いながら暮らすことのできる「地域共生社会」の実現

## 地域包括ケアの推進

- 高齢者、障害者、子育て家庭、生きづらさを抱えた若者、生活困難者など、誰もが
- 身近な日常生活の場で
- その人にあつた様々な支援が
- 切れ目なく、包括的、継続的に受けることができる
- 住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる
- 住まいの確保、生活支援・福祉サービス、介護・リハビリテーション、医療・看護・保健・予防が一体的に提供されること

## 地域包括ケアの取り組み

- 本人の選択と本人・家族の心構え
- 自助 自分のことは自分で行う(健康管理など)
- 互助 ボランティア活動、住民組織活動など
- 共助 介護保険などの社会保険制度
- 公助 生活保護、一般財源の福祉サービス

11

## ■世田谷区の地域包括ケアの全体の取り組み

- 地域の豊富な資源やネットワークを最大限活用し27の日常生活圏域を基本とし、地域包括ケアシステムの構築
- 身近な地区における相談体制の充実
- 24時間365日つながる安心のしくみ
- 認知症施策の総合的推進・認知症予防
- 介護予防
- 日常生活支援総合事業（新総合事業）の取り組み
- 区民の自主活動への支援
- 住まい
- 医療
- 癌患者の相談体制の整備
- グリープケアの相談体制の整備
- 生活困窮者自立支援

22

## 区を取り巻く外郭団体等

- 社会福祉協議会
- 社会福祉事業団
- 保健センター
- ボランティア協会
- シルバー人材センター
- NPO団体等

## ■参加と協働の地域づくりを目指して

世田谷区は、ふれあい・いきいきサロン、支えあいミニデイ等の活動、特技・経験を活かし、NPOやボランティアの活動などが盛ん

まちづくりセンター・地域包括支援センター・社会福祉協議会を一体化し、

- ①誰もが相談できる地区の福祉の相談窓口を整備
  - ②集いの場の確保や担い手とニーズをマッチングする人の育成、地域資源開発・発掘つなげるコーディネート機能の構築
- ⇒平成28年度より全27地区で実施

生き生きとした毎日を心豊かに送るためには、人と人とのつながりをつくり、活動に参加することで生きがい・やりがいを持つことが重要。健康づくり、体力づくり、認知症予防や介護予防にも効果的。

区は、介護保険サービスの充実を図る一方、地域の様々な活動への参加を支援し、参加と協働の地域づくりを目指す。ニーズにあった活動に参加して、地域の人達とともに活気に満ちた地域の構築を目指す。

14

23

## ■ 介護予防と認知症予防

### ○介護予防プログラム

- ・はつらつ介護予防講座：27のまちづくりセンターの活動フロア、軽い体操を中心にした講座
- ・まるごと介護予防講座：運動・口腔・栄養・認知症予防を組合せて6回で学ぶ講座
- ・お口の元気アップ講座：お口の機能を鍛える8回の教室

### ○認知症予防プログラム

- ・パソコン、料理、旅行計画などの知的活動とウォーキングなどの有酸素運動を組み合わせて18回で行う教室
- ・終了後自主活動 63グループ（この内PRしている団体が37か所）

## 介護予防のための活動支援①

- ・ふれあいいきいきサロン、支えあいミニデイ活動支援(700か所) 活動の場の確保、活動保険料等の支援、支えあい活動拠点23カ所、地区会館や区民会館等の優先利用
- ・体操を中心とした自主活動への支援
- ・介護予防のための自主グループ  
区の介護予防事業やあんしんすこやかセンターなどと関わりのある自主グループ→一覧表を作成し区民へPR、70グループ

## 介護予防のための活動支援②

- ・認知症カフェ 18地区25団体、5団体は社協のサロン活動、12団体は区の立ち上げ支援を受けている
- ・世田谷いきいき体操  
週1回以上の体操、当初3か月間6回まで保健指導、体方測定など  
1年後に活動の確認、指導、支援、指
- ・生涯大学、陶芸教室、シルバークラス、各種講座など  
生涯大学、陶芸教室、シルバークラス、各種講座など

## ■ 介護予防自主グループ・生涯現役の推進

- 介護予防自主活動グループ  
上北沢5丁目はつらつOB  
～体操クラブの活動の様子  
区内には、50を超える  
自主活動グループが活動



### ○生涯現役の推進

- ・生涯大学、陶芸教室、シルバークラス、各種講座など
- ・生涯大学 健康体育の授業の様子

18

## ■新しい総合事業の取り組み

- 平成28年4月から、予防給付(訪問介護・通所介護)を1年かけ新しい総合事業へ移行している
- 介護事業者に加えNPO法人や住民などの多様な主体による区独自のサービス
- 地域の実地把握、地域の支え合いの体制づくり
- 区民主体の介護予防活動の育成・支援
- 活動場所の確保 地区会館、特養、デイ事業所、**空き家**などの活用・開発

## ■ 自宅で活動…



### 《あかねこうぼう》

玄関ホール、アトリエで、染めや織り、手拵ぎ等の創作や発表。気軽に集い、豊かなふれあいを育む“地域の工房” 子ども対象ワークショップも大人



### 《あばらや春夏》

介護者がほっとひと息つける場を自宅で月1度開催  
地域包括支援センターの職員、ケアマネジャー、近隣の方々が訪れ、介護に関する気軽な情報交換の場  
家族会：区内に約30か所

## 新しい総合事業(訪問型)

- 一定の研修を受けたヘルパー等が掃除・洗濯・調理・買い物など60分以内の生活支援 1回257円(利用回数制限あり) 144事業所  
研修は社会福祉事業団が実施
- 住民参加型(支えあいサービス)買い物同行・掃除・布団干し・調理補助・ゴミ出しなど簡易な家事援助、30分以内 1回200円 活動者約300人

## 新しい総合事業(通所型)

- 運動器機能訓練を主とした3時間未満のデイサービス 1回355円(利用回数制限あり) 30事業所
- **地域デイサービス** 介護予防を目的とした定期的な通いの場、週1回食事を含む3時間程度の活動を住民が運営(有料老人ホームの例など)  
12カ所、活動運営経費の補助、10人まで1回8,500円、11人以上1回13,000円、会場費等500円まで、立ち上げ準備経費10万円まで

## ■総合事業(住民主体型地域サービス)



地域サービスの一つ「たまごの家」は高齢者、10歳未満、20代30代の若い孫たちの参加でオープン。多世代交流など、多様な活動の実施

週1回開催

行政は区内の歩いで通える範囲に地域サービスの開設を支援



23

## 支えあいサービスを支えるために

- ◎日常生活支援センター(社協)の立ち上げ
- 目的
  - ・様々な専門研修を連携団体と一緒に実施する
  - ・家事・介護・生活支援で区民の要望にこたえる
- 内容
  - ・ふれあいサービス(社協の自主事業)の提供
  - ・支えあいサービス(世田谷区の介護保険事業)の提供
  - ・連携団体と協働したサービス提供(シルバー人材センターや区内のNPO団体等)

28

## ■区民の様々な活動①

- ・ふれあいいきサロン・支えあいミニデイ
- ・介護予防・日常生活支援総合事業
- ・高齢者クラブ助成
- ・世田谷区生涯大学・市民大学
- ・せたがやシニアボランティア・ポイント
- ・区民成年後見人
- ・高齢者安心コール
- ・地域の絆ネットワーク支援事業
- ・配食・会食サービス

## ■区民の自主活動への支援

- 社会福祉協議会の地域支え合い活動
- ・ふれあいいきサロン事業補助
- ・支えあいミニデイ運営補助
  - 約700か所の活動支援
- ・活動場所の確保
  - 支えあい活動拠点：23か所
  - 区民会館・地区会館等の優先利用等
- ・活動保険料等の支援
- ・介護予防自主グループへの講師派遣等の支援

29



## ■介護保険外サービス ●支えあい活動(サロン・ミニデイ)

活動団体：約700団体 延利用者：約24万人  
 サロン・ミニデイ延参加者：約5万人  
 支えあい活動拠點：23箇所



サロン和光（体操の後はみんなでお茶です。）

27

## ●支えあい活動(サロン・ミニデイ)



サロン・楽々クラブ

ギター演奏は任せて・・・。  
 みんなで懐かしのメロディを歌います。

男性の参加が多い活動

ミニデイ・おとこの台所

男性が献立・調理・会食・片付けま  
 で。年1回は女性を招き食事会を  
 実施。区内に9か所

28

## せたがやシニアボランティアポイント1

- 高齢者の社会参加、地域貢献に踏み出すきっかけ
- 生きがいを持ち、自らの健康増進、介護予防に取り組む
- 介護や支援が必要な方を区民が相互に支え合う活動を育成、普及
- 地域住民との交流を通し、それぞれの事業所が地域から親しまれる存在となる

## せたがやシニアボランティアポイント2

- 世田谷区内在住65歳以上
- セタがやシニアボランティア研修受講者（年間5回実施、1回3時間、累計2,224人）
- 高齢者施設、あんしんすこやかセンター、障害者施設、児童館などの登録施設等でボランティア活動を行う（139施設）
- 区が傷害保険と賠償責任保険に加入、保険料（一人年額300円）は区が負担
- ボランティア活動1時間につき1ポイント、1日2ポイントまで（実績427人）
- 一人年間120ポイント（6,000円）まで



## 高齢者配食サービス

- 区内在住、65歳以上、ひとり暮らし、高齢者のみ世帯、毎日の食事の調理や買い物困難
- サービスを拒否するなど社会的に孤立し、見守りが必要な方を対象に加え、見守り機能の充実を図っている
- 月曜日から土曜日まで、社会福祉法人に委託(19か所)、協力が配達(現在125名)
- 利用者負担金一人500円

## 配食サービスの区の役割

- 区から1食529円支援、また配食事業者と情報・意見交換会を毎年実施
- あんしんすこやかセンターによる利用者の状況確認
- 利用者へのPR
- 配達員などのボランティア募集のPR、施設近辺の町会などに回覧板を回してボランティアを募る(区の事業であることを明確にして募る)

## 高齢者会食サービス

- 週1回から月1回 現在25団体、利用者520人程度
- 参加者 一人400円
- 区からの支援 一人暮らし高齢者参加は600円、一人暮らし以外の高齢者は250円
- 区は会食サービス協力員の連絡会の開催や、区民への事業のPRを行っている
- 他の自主グループとの協働も模索するが週1回は厳しいとの反応

## ■介護保険外サービス(会食サービス)



トマトの会  
スタッフが心を込めて食事作り。  
大勢でのお食事は、  
会話が弾みます。



会食会  
活動団体：26団体  
利用者：約700人  
月1～4回  
「会食とお楽しみ」

34

## 夕食会 ～食を共にする～（ボラ協）

- 多くの人と「おたがいさま」の関係をつくれる場の提供
- 「一緒に食べようの会」



## 夕食会 ～食を共にする～（ボラ協）

- しもままごはん会 平成25年～ 月1回
- 独りぼっちな食は寂しくてやりきれない



ふきのとう学習会にて  
ボランティア協会との連携

## ボランティア活動きっかけづくり①

- 社会福祉協議会  
特技ボランティアの登録（原則無報酬、実費や交通費は別途相談）  
地区サポーター登録者 地域福祉活動の企画準備や事業当日の支援（年4回程度）、研修受講（地区人材バンクに登録）、日常的なボランティアではなく、地域福祉活動のイベント支援
- 地域福祉アカデミーの開講、地域福祉関連14科目を学ぶ、5,000円

## ボランティア活動きっかけづくり②

- ・ 傾聴ボランティア（社会福祉協議会、ボランティア協会）社協、5回の研修、受講料5,000円、他にも子育て支援者養成研修など
- ・ 終了後、地域支えあい活動、NPO団体、配食協力員など活動場所は様々
- ・ まずやってみる、あせらずじっくり向き合ってみる、一度始めたら続けなくては・・・とは考えない、無理をしない、仲間とのつながりを大切に

## 傾聴ボランティアの養成（ボラ協）

- 傾聴ボランティア 67人、現在38人実施。  
他29人は、死去、入院・施設入所、転居などの理由で活動終了。
- ・ 平成21年度から養成と派遣を実施
- ・ 相手の話の内容を正しい、正しくないと評価しないこと、秘密は厳守、物や金銭は受け取らない、依頼者に頼まれても傾聴以外の活動はしない

## 区民の様々な活動②

- ・ 世田谷区生涯大学 60歳以上  
社会・福祉・生活・文化などのテーマと健康  
体操を組み合わせて2年間学ぶ  
(各コース30名程度) 卒業後は地域活動を行う
- ・ 地区高齢者見守りネットワーク  
地域活動団体が主体的にネットワークを作り、  
地区の高齢者を緩やかに見守る（主体は区民、社  
協、あんすこ、出張所・まちづくりセンターが支援）
- ・ **ご近所フォーラム**
- ・ **せたがや福祉区民学会**

## ご近所フォーラムの取り組み①

- ・ 砧地域で医師会、歯科医師会、  
薬剤師会、ケアマネ、介護事業  
者、社協、事業団、あんすこ、  
町会・自治会、民生・児童委員  
農業協同組合、大学、行政等  
が実行委員会を組織し、年1回  
フォーラムを行い、地域の様々  
な活動を区民に発信し、顔の見  
える関係づくりを目指している。



## ■ 近所フォーラムの取り組み②

- 今年度のテーマは「わたしから ひろげよう 地域のわ」
- 砧地域の5地区がそれぞれ地区の素晴らしき活動を発表・展示する
- 高齢者・障害者・子ども・若者に関する相談窓口の担当者同士が分野、世代、業種を超えてつながる場所もつくる
- 平成29年3月18日(土)12時30分～16時30分、成城ホール(第7回)

## ■ せたがや福祉区民学会

- 福祉活動実践の質を高め、活動内容が広く地域のの方々に共有されることを目的に平成21年12月に設立、団体会員97団体、個人会員52名
- 世田谷区の福祉施設・事業所・大学等で働き、学び、研究する者と区民、行政などが対等、平等な立場で実践活動の工夫や課題についての研究成果を発表し、学び合い区民福祉の向上を目指す。
- 会場は福祉系学科のある区内5大学の持ち回り

## ■ せたがや福祉区民学会第8回

- 「つなごう、そして育もう」～世代を超えてつながろう～せたがや福祉の実践～平成28年11月26日 東京都大学世田谷キャンパス(第9回は平成29年10月1日昭和女子大学)
- 実践研究発表(パネル型発表と教室型発表)56事例
- 子ども、多世代交流、生きがいづくり、社会参加、認知症とともに生きる、最後までその人らしく、一人ひとりに向き合った実践などテーマは多彩
- せたがやLink!(せたがや福祉区民学会学生会交流会) 大学生同士の連携：学会で発表

## ■ せたがや福祉区民学会

実践活動の発表・交流  
相互に学びあう場



46



## ■ 区民参加の広がり

地域におけるソーシャルキャピタル（目には見えない人と人とのつながり）が人々の健康に大きく影響を及ぼす

- ・ 主体は区民
- ・ 高齢者はサービスの受け手ではなくお互いに支え合う社会をつくること
- ・ 区民同士、行政と区民、多様な方々との交流、顔の見える関係の構築
  - ・ 継続的な集まりの場所があること
  - ・ 自由な意見交換ができる場所であること
  - ・ 中心的な役割を果たせる人の育成
  - ・ きっかけづくり
- ・ 区民の主体性を尊重しながらも行政の支援は欠かせない

## ★「いつまでも住み慣れた地域で暮らしたい」★

こうした思いをかなえるために、

私たち一人ひとりが地域活動への参加を目指していき



ご清聴ありがとうございました



平成28年度厚生労働省老人保健健康増進等事業研修会



## 食を通じた住民参加の広がり・団体支援のノウハウ

主催：一般社団法人全国老人給食協力会

「配食・サロン等を通じた支え合いのコミュニティ推進  
ボランティアの参加状況について」



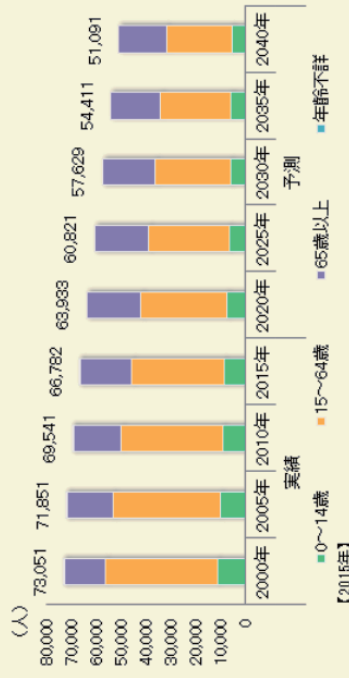
NPO法人 地域たすけあいの会（熊本県）

わたしたちの活動地域  
熊本県玉名市

# 熊本県玉名市



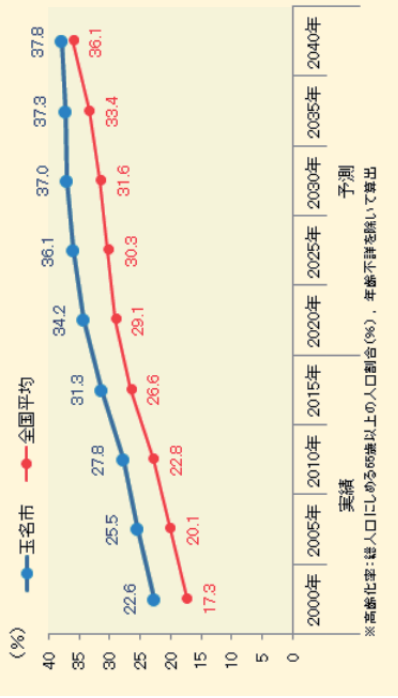
## 玉名市の人口推移



【2015年】  
 総面積(km<sup>2</sup>) 153  
 平均年齢(歳) 48.9  
 人口密度(人/km<sup>2</sup>) 437.6  
 ※昼夜間人口比率のみ2010年時点

【出所】総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

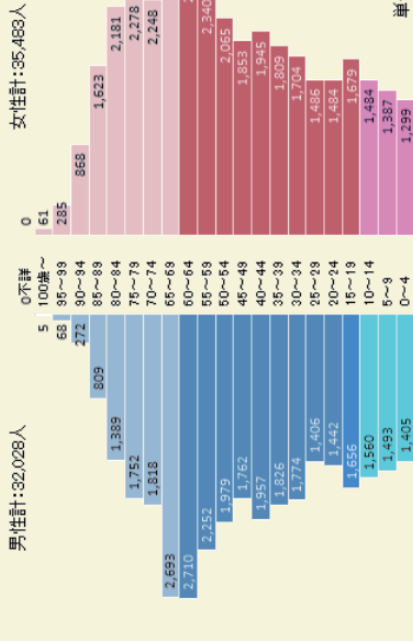
## 玉名市の高齢化率の推移



※高齢化率：総人口に占める65歳以上の人口割合(%), 年齢不詳を除いて算出

【出所】総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

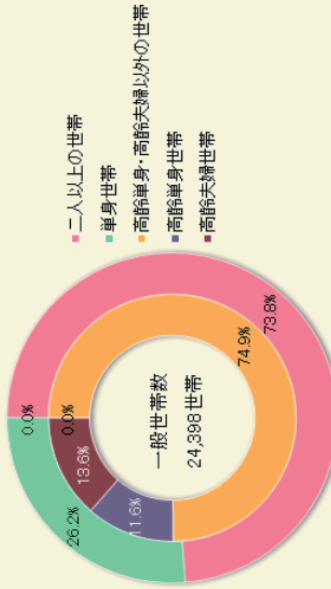
## 玉名市の2016年1月1日の人口構成(住民基本台帳ベース、総人口)



【出所】総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数



2015年 玉名市の世帯



※「高年齢単身世帯」とは65歳以上の一人のみの一般世帯  
 「高年齢夫婦世帯」とは夫65歳以上妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯

【出所】総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

## わたしたちの活動のかたち 活動の概要



## 団体概要

◆ **理念** 誰もが安心して暮らせる地域社会を目指して

◆ **設立** 1998年団体発足 1999年法人格取得

熊本県9団体のNPO法人格取得(県北初)

### ◆ 事業内容

- ・高齢者支援 (介護保険法事業(訪問・通所・居宅)・配食サービス・宅老所…)
- ・障がい者支援 (総合支援法事業(訪問・同行援護・就労)・日中一時支援…)
- ・子ども・子育て支援 (学童保育・シスバイト支援…)
- ・地域福祉活動 (たすけあい活動・地域の繋がりを福祉有難運送・人材育成・環境活動…)

◆ **拠点** 7か所

◆ **利用者** 約500名

◆ **担い手** 約130名超(正職員、パート、ボランティア)

◆ **財政規模** 約2億1,000万円/年(2016年予算ベース)



## わたしたちの想いと姿勢

**理念** (ミッション：私たちのめざしているもの)

「誰もが安心して暮らせる地域社会を目指して」

(解説)「障がいがあってもなくても、赤ちゃんからお年寄りまでお互いに(地域で生活する多様な関係性の中で)たすけあって暮らしたい」

### ノーマライゼーション

～みんなちがって、みんないい～

赤ちゃんからお年寄りまで、障がいがあろうがなかろうが、豊かさ・煩わしさすべてを含めて、「多様な存在を容れられる社会」の実現を目指す

### ソーシャルインクルージョン

～困ったときは、お互い様～

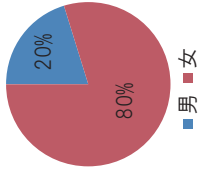
生活の中にある“生きづらさ”を個人の問題で済ませるのではなく、社会でうけとめ、「市民が主役となつて解決していく実践」を目指す

**当事者の視点・市民が主役の社会・顔の見えるネットワーク**

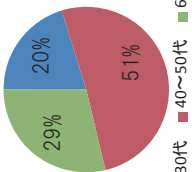


## 活動の担い手と参加の形

年代と性別

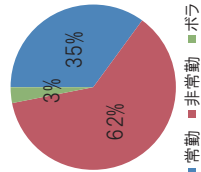


■ 男 ■ 女

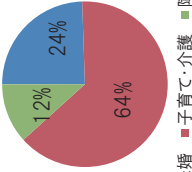


■ 20～30代 ■ 40～50代 ■ 60代～

スタッフの形態



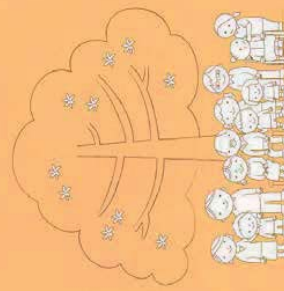
■ 常勤 ■ 非常勤 ■ ボラ



■ 未償 ■ 子育て・介護 ■ 障がい

「誰もが安心して暮らせる地域社会を目指して」

誰かの手がなくても、赤ちゃんと暮らさず、みんなが安心して暮らしていける社会を目指して



## 法人理念

当法人では、「誰もが安心して暮らせる地域社会づくり」を理念に皆が安心して暮らせるための生活支援と障害がある方や年配の方とともに働く場づくりに取り組んでいます。

### 生活支援センターささえあい

**ささえあいヘルパーステーション** (訪問介護)

高齢者の生活支援や介護保険事業を実施しています。

**ささえあい居宅** (高齢者福祉施設)

高齢者の生活支援や介護保険事業を実施しています。

**デイサービスささえあい風立斎場** (介護福祉施設)

高齢者の生活支援や介護保険事業を実施しています。

**デイサービスささえあいいんち** (介護福祉施設)

高齢者の生活支援や介護保険事業を実施しています。

## ささえあい事業

ささえあい事業は在宅の高齢者への生活支援や介護保険事業を実施しています。

現在は、ターミナルケアを専門的に取り組める事業所を目指しています。

- ・訪問介護
- ・小規模通所介護 (2事業所)
- ・居宅介護支援

### サポートセンターわかちあい

**わかちあいヘルパーステーション** (訪問介護)

高齢者の生活支援や介護保険事業を実施しています。

**アイステーション** (訪問介護)

高齢者の生活支援や介護保険事業を実施しています。

**わかちあい就労**

高齢者の生活支援や介護保険事業を実施しています。

## わかちあい事業

わかちあい事業では、障がい者への支援を専門的に取り組んでいます。

生活支援や外出支援と就労支援を実施しており、障がい者の人権を守る取り組みを実施しています。

- ・居宅介護
- ・重度訪問介護
- ・同行援護
- ・就労継続支援A型

## たすけあい事業

### (1)



たすけあい事業では、営利を目的としない事業を実施しています。

配食サービスや学童クラブ等を実施しています。

当法人では、住宅型有料老人ホームも実施していますが、人生の最終期までお付き合いする有料老人ホームとして取り組んでいます。

- ・ふれあい給食
- ・学童クラブまごくう
- ・学老所ホームよかとこ

## たすけあい事業

### (2)



たすけあい事業では、地域福祉を支える人材育成にも取り組んでいます。

ボランティア育成だけでなく、福祉専門職としてホームヘルパー2級の養成研修を27回実施し1000名超の人材を地域に送り出してきました。

現在は介護職員初任者研修として実施しています。

この他、地域の行事などに積極的に参加し地域のネットワークにも積極的に参加しています。

## 高齢分野

- ・ ホームヘルプサービス・在宅ターミナルケアチーム
- ・ 地域密着型サービス、通常規模サービス
- ・ ケアプランサービス
- ・ 宅老所としての宿泊サービス
- ・ 配食サービス

## 障がい分野

- ・ ホームヘルプサービス (居宅・重度訪問)
- ・ 同行支援
- ・ 就労支援A型 (農業-食堂運営・企業委託・革工芸)
- ・ 障がいグループホーム※設立準備中

## 子ども・子育て分野

- ・ 学童保育
- ・ レスバイト支援

## 共通分野

- ・ たすけあい活動・地域の縁がわカフェ
- ・ 福祉有償運送
- ・ 人材育成 (初任者研修・同行支援・ボランティア育成)

わたしたちのあゆみ  
活動20年目に向けて

## 地域たすけあいの会のあゆみ ～ 発 足 ～

1998年 「地域たすけあいの会」設立  
ボランティアグループの仲間6名でスタートしました。



## これまでの歩み (1)

1998年	「地域たすけあいの会」設立 (任意団体) 2月 給食宅配「みんなで食べる会」開始 4月 「地域たすけあいの会」設立総会 12月 「生活支援センターささえあい」発足
1999年	9月 特定非営利活動法人 認証 熊本県指定市民第非営利9号を授与 10月 法務局へ法人設立登記
2000年	1月 熊本県ホムヘルバ-2級養成研修 開始 ※ ホムヘルバ-2級修了生等が集って 「ふれあい給食」を5名で立ち上げる。
2001年	10月 玉名市高齢者宅配給食事業の受託
2006年	3月 法人本部事務所移転に伴い、ふれあい給食 を法人本部事務所に移転。

51

## これまでの歩み (2)

2008年	地域たすけあいの会設立10周年 10周年記念パーティー・ふれあいコンサート開催
2010年	わかちあいプロジェクト立ち上げ 障がい者支援の専門事業所立ち上げ準備
2012年	12月「サポートセンターわかちあい」立ち上げ 居宅介護・就労移行支援
2013年	地域たすけあいの会設立15周年 15周年記念パーティー・ふれあいコンサート開催 就労継続支援A型 開始 (農業・リサイクルプラザ派遣・皮工芸)

## これまでの歩み (3)

2014年	3月 みのり食堂 オープン (就労継続支援A型) 10月 みずほ教育福祉財団より電気自動車寄贈 現在に至る
2015年	3月 新拠点プロジェクト (愛知県視察) 8月 クッドシーズン/高瀬 オープン (サービス付き高齢者向け住宅 18床) キッチンのみり オープン 10月 農業生産法人ソーシャルファームのみり設立
2016年	3月 熊本震災 被災地支援スタート 県外のNPOよりの支援金を活用 12月 新拠点「たすけあいの社」竣工 (カフェ縁かや デイサービス等併設) 現在に至る

52



## わたしたちの食支援 ふれあい宅配給食・みのり食堂・キッチンみのり

## 「食」の自立支援事業(配食サービス)

## ふれあい給食献立表(2016年12月分)

2016 / 12 月分 献立表

ふれあい宅配給食  
05-2555

☆ 健康増進と栄養バランスの取れた献立です  
☆ 1食当分の献立です  
☆ 栄養成分の表示があります

5 (月)	6 (月)	7 (月)	8 (月)	9 (月)	10 (月)	11 (月)	12 (月)
<ul style="list-style-type: none"> <li>さのめそ煮</li> <li>煮汁うどん</li> <li>煮物の煮物</li> <li>おからの炒め入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さのめそ煮</li> <li>煮汁うどん</li> <li>煮物の煮物</li> <li>おからの炒め入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>梅の塩漬</li> <li>山菜とさのめそ煮</li> <li>白和</li> <li>おからの炒め入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手牛うどん</li> <li>さのめそ煮</li> <li>煮汁うどん</li> <li>煮物の煮物</li> <li>おからの炒め入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手牛うどん</li> <li>さのめそ煮</li> <li>煮汁うどん</li> <li>煮物の煮物</li> <li>おからの炒め入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手牛うどん</li> <li>さのめそ煮</li> <li>煮汁うどん</li> <li>煮物の煮物</li> <li>おからの炒め入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手牛うどん</li> <li>さのめそ煮</li> <li>煮汁うどん</li> <li>煮物の煮物</li> <li>おからの炒め入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手牛うどん</li> <li>さのめそ煮</li> <li>煮汁うどん</li> <li>煮物の煮物</li> <li>おからの炒め入</li> </ul>

※ 12月1日(土)は、お盆明けの特別献立です。お盆明けの特別献立は、お盆明けの特別献立です。

＜事業概要＞  
ひとり暮らしの虚弱な高齢者等に食関連サービスの利用調整と配食サービスを行うことにより、利用者の食生活の改善と健康増進を図り、在宅での自立した生活の支援や、安否の確認を行います。  
※月～金(5日間)の昼夜(2回)、計10食のうち2食(補助対象)を選択

＜サービス利用できる人＞  
おおむね65歳以上のひとり暮らしの方や高齢者のみの世帯に属する方で、ADLの低下や認知症などで、買い物や調理において自立した生活が困難な方。  
＜費用(自己負担額)＞ 1食あたり400円を負担。  
＜利用方法＞  
市役所または包括支援センターへ利用、相談。  
身体状況や生活状況などを検討(サービス判定会議)した上で利用の可否を決定します。

＜委託事業所＞  
玉名地区：ふれあい給食 杵明地区：たいめい苑  
横島・天水地区：有明ホーム

**食事に強もりな**  
**ふれあい宅配給食**



手作りお弁当をご自宅に配達  
【今月の献立をお知らせいたします】

---

【活動内容】  
◇営業日 月～土曜日(昼食・夕食)  
◇定休日 日曜祝祭日  
◇料金 一食 800円～ 送料別途  
◇配達地域 旧玉名市近隣  
◇その他 地域活動等、随時ご参加いただけます

◎玉名市内にお住まいの65歳以上の方は、公的な補助が適用される場合があります。  
お気軽にお問合せ、ご相談ください。

NPO法人 地域たすけあいの会  
ふれあい宅配給食  
〒862-0004 旧玉名市五中町108-1  
TEL (0968) 71-0026 FAX (0968) 71-0337

## ふれあい給食 立ち上げ初期の調理風景



## ふれあい給食の危機

- 配食サービスの弁当25個
- $500 \times 25 = 12500$  一日25000円
- 月 50万 家賃光熱費 8万
- 材料費250円 25万
- 最賃  $670円 \times 7h = 93800円$
- 400万の赤字

55

## 2006年 法人本部移転時に給食も移転



## 本部1階に調理室設置



56



助成金を活用して弁当箱用食洗機設置



コメの寄贈（大俵祭）



食洗機



おせち料理も毎年だしてます。



注文に応じて作る季節のお弁当



## みのり食堂

みのり食堂は就労継続支援A事業の一つとして運営。

サポートセンター わかちあい(※障がい専門の事業所)

- ・居宅介護
- ・同行援護
- ・就労継続支援A型
- ・日中一時預かり

農業(なす・アスパラ・白米・黒米等)  
リサイクル業者での作業  
みのり食堂での接客・配膳等

## 朝、朝礼時のその日の作業の確認



## 2012年12月9日 障害者の日に開所



## 市場への出荷準備





## みのり食堂 本年3月21日オープン



## 日替わりマダムの食堂



## 調理スタッフシフト表

2014年 みのり食堂 12月のシフト表						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
		仲田	加藤	仲田	坂口	加藤
7	8	9	10	11	12	13
給食	仲田	情野	仲田	坂口	加藤	
14	15	16	17	18	19	20
給食	情野	坂口	仲田	坂口	加藤	
21	22	23	24	25	26	27
給食	仲田	情野	仲田	坂口	加藤	
28	29	30	31	1	2	3
情野	仲田	加藤	みのり休み ちやぶ台外注	みのり休み	ちやぶ台外注 みのり休み	



※ 献立の変更や仕入れにはよりメニュー内容の変更になることもあります。

日	月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

肉じゃがの煮物	豆腐ハンバーグ	豆乳ハンバーグ	コロッケ	おでん	カレーの日 (チキンカレー)		
こぼれおの白飯	はちまの白飯	はちまの白飯	はちまの白飯	はちまの白飯	はちまの白飯	はちまの白飯	はちまの白飯
煮物の物	煮物の物	煮物の物	煮物の物	煮物の物	煮物の物	煮物の物	煮物の物
おでん	ナポリタン	すり身天ぷら	メンチカツ	から揚げ	カレーの日 (ビーフカレー)		
白和え	大根の煮物	大根の煮物	大根の煮物	大根の煮物	大根の煮物	大根の煮物	大根の煮物
大根ます	大根ます	大根ます	大根ます	大根ます	大根ます	大根ます	大根ます
チキンカツ	南魚じゃがいも煮	焼きそば	大根の田楽	うま煮	カレーの日 (ビーフカレー)		
白和え	大根ます	山芋とモロコシの煮物	大根の煮物	大根の煮物	大根の煮物	大根の煮物	大根の煮物
ロール白飯	煮物フライ	煮物フライ	煮物フライ	煮物フライ	煮物フライ	煮物フライ	煮物フライ
煮物	煮物	煮物	煮物	煮物	煮物	煮物	煮物
金平ごぼう	金平ごぼう	金平ごぼう	金平ごぼう	金平ごぼう	金平ごぼう	金平ごぼう	金平ごぼう
白身黒フライ	白身黒フライ	白身黒フライ	白身黒フライ	白身黒フライ	白身黒フライ	白身黒フライ	白身黒フライ
大根田楽	大根田楽	大根田楽	大根田楽	大根田楽	大根田楽	大根田楽	大根田楽
煮物の物	煮物の物	煮物の物	煮物の物	煮物の物	煮物の物	煮物の物	煮物の物

ご注文は当日10:30までにお願いたします。みのり食堂 0968-72-1185

## 接客の様子



## テーブルセッティング



テーブルセッティングや配膳は障がいを持っているスタッフも意欲的にされています。



## 電気自動車 100万円



## 快適です・・・べんととう50個入ります



2014年10月

みずほ教育福祉財団より  
配食サービス用電気自動車の助  
成を受けました。

当日、ケーブルテレビ・新聞4社  
取材にられました。





## キッチンみなのり グッドシーズン高瀬内



### 担い手としての高齢者の参加状況(食関係)

- × 宅配給食 調理・配達
- × みなのり食堂 拠点食調理(4拠点分)  
障がい就労支援
- × キッチンみなのり 高齢者住宅(18床)調理<sup>365日/毎食</sup>
- × 地域の会食会構想
- × カフェ縁がわ 交流拠点
- ・ 食関係以外にも... 障がい者日中一時支援  
宅老所支援員

69

## 活動を支える工夫 ～その①～



- ・ やれる人ががんばる(\*^^)v  
「頑張り方はそれぞれ違う」  
「休んでいいよ」が合い言葉  
無理をしない

区役・孫守り・旅行等々、いくつになっても忙しいっ！  
→ **求められる役割がそれぞれに存在している♡**

このことを働く場として大切にしています！

## 活動を支える工夫 ～その②～

- ・ **学びの機会が人を元気にさせるっ！！**  
視察や見学の機会を設ける

自分たちの活動を振り返る機会  
他の地域で活躍する仲間との出会いと張り合い(笑)  
新たな発想や新メニュー開発

→ **色んな意味で元気になって帰ってくる♡**

70

## 活動を支える工夫 ～その③～

### ・ 同世代・異世代の仲間の存在

様々な人生経験を共有できる仲間の存在  
異世代だから困ったことがカバーし合える

子育て・介護…

夫がステージ5のガンに… 本人が肺ガン？？

手術・入院の経験

元気になって戻ってこれる場所がある

→ **へこたれないっ！社会復帰は当たり前っ！！**

## 活動を支える工夫 ～まとめ～

- ・ 無理をしない（夫の病気、本人の病気・・・）
- ・ 見学・視察で元気になって帰ってくる
- ・ 何のために活動しているか（意味づけを大切にする）
- ・ 自分のペースで働ける 一日1時間でもOK
- ・ 労働の対価はきちんと評価される
- ・ 働きやすい環境づくり 勤務時間・同じ職場スタッフの理解

71

## 助成金を活かす・・・

- ・ 建物の増改築
- ・ フライヤー
- ・ 冷蔵庫・炊飯器・
- ・ 生命保険
- ・ エプロン チラシ
- ・ 赤い羽根共同募金
- ・ お年玉年賀
- ・ 委託を受ける
- ・ A型事業所の給食
- ・ デイサービス
- ・ グループホーム
- ・ 会社の弁当
- ・ 総会時の弁当
- ・ うまいと必ず勝つ

## 人と人とのつながりが地域・・・

- ・ 食べることは生きる事 平等の考え方の違い
- ・ 一人ががんばってやる 弱い立場の人には優しく  
ことではなく
- ・ みんなで少しずつやれ  
ることを出し合う
- ・ 無理な時は立ち止まる  
温かい  
あたたかい・・・

72

新拠点「たすけあいの杜」2017年1月オープン



地域の交流拠点 カフェ縁がわ



デイサービス併設型の地域拠点  
福祉大学に隣接しており、現在学生との協働プロジェクトを検討中

Ⅲ ”食”をテーマに  
生活支援サービス推進のノウハウについてグループワーク  
どうしたら新しいボランティアが参加できるのか  
- 協議体メンバーで考えよう -

進行

内藤 佳津雄 さん 日本大学文理学部 教授

平野 覚治 一般社団法人全国老人給食協会の専務理事



MEALS ON WHEELS JAPAN

## 全国老人給食協会の

できるだけ早く、住み慣れた地域で、  
安心感をもって自分らしく暮らし続けられるしくみを

1985年設立

コミュニティに暮らす人自らが参加して行う地域の高齢者等のための食生活支援活動を、高齢社会に対応できる食事サービスとして育てていくことを目的に、全国各地で活動する団体や個人がつくる連絡組織です。

【事務局所在地】〒159-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21

☎03-5426-2547 (担当：平野) FAX 03-5426-2548

<http://www.mow.jp>

1

## 福祉の増進と地域福祉コミュニティ形成のため、 ボランティアな食支援活動の普及推進と、運営支援の事業を行います

普及・推進事業 交流・研修事業	調査研究・ 政策提言	環境整備
<ul style="list-style-type: none"> <li>全国セミナー</li> <li>地方セミナー</li> <li>ネットワーク形成支援リーダー養成</li> <li>教材開発</li> <li>アロボ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>助成制度</li> <li>①みずほ教育福祉財団 配食用小型電気自動車 寄贈事業</li> <li>②明治安田生命 地域支え合い活動助成プログラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動把握と分析</li> <li>効果測定</li> <li>アトボカシー</li> </ul>



MEALS ON WHEELS JAPAN  
全国老人給食協会

75

## 配食利用者及び二次予防事業参加者の栄養状態

・18.5kg/m<sup>2</sup>未満のやせの者が配食利用者で21.5%、この6 か月で2~3 kg以上の体重減少のあった者は全体で15.9%  
・食事量か強度または中程度に減少した者が24.9%、食事療法が必要となる者が31.0%  
※低栄養予防や栄養改善等の介入が必要と思われる者がどの程度かを見てもらい、動機から見ても3 割程度みられ、食支援において低栄養予防や栄養改善の機会の必要性も認められた。

出典：平成25(2013)年3月独立行政法人国立健康・栄養研究所（地域高齢者の食生活支援の質及び体制に関する調査研究事業）・7 県140事業所からアンケート調査を実施。対象者は配食利用者2,018名、二次予防事業参加者1,298名

栄養評価（MSA-SF）の結果

	低栄養	低栄養のおそれあり	低栄養のおそれあり計	栄養状態良好	計
男性（人）	126	135	261	108	369
	34.1%	36.6%	70.7%	29.3%	100%
女性（人）	230	200	430	152	582
	39.5%	34.4%	73.9%	26.1%	100%
計	356	335	691	260	951
	37.4%	35.2%	72.7%	27.3%	100%

3

## 栄養状態と要支援・要介護度

	低栄養		低栄養のおそれあり		栄養状態良好	
	n	%	n	%	n	%
自立要支援1-2	8	2.3%	35	10.7%	38	15.4%
要介護1	22	6.3	32	9.8	45	18.2
要介護2	34	9.8	67	20.5	67	27.1
要介護3	43	12.4	59	18	38	15.4
要介護4	64	18.4	58	17.7	36	14.6
要介護5	177	50.9	76	23.2	23	9.3
合計	348	100	327	100	247	100

合計 59.4% (1.8% + 4.1% + 4.4%)

出典：国立長寿医療研究センター（平成24年度老人保健健康増進等事業在宅療養患者の現状・栄養状態の把握に関する調査研究報告書・調査対象者：男性384名、女性606名、計990名・対象者の年齢：男性81.1±7.9歳、女性84.7±8.3歳

4

76

## 高齢者を取り巻く状況

- 後期高齢者（75歳以上）が増える  
2055年には25パーセントを超える見込み
- 認知症の高齢者が増える  
予備軍を合わせると全高齢者の1/4に関係
- 単身高齢者世帯、夫婦のみ世帯が増える  
1世帯あたり平均 1.9名
- 低栄養対策が必要



## 見守り・昼間過ごす居場所・食事のニーズの増大

5

## 私たちの取り組み、食事サービス

### 会食サービス

- 集まって一緒に食事と会話を楽しむスタイルで、食を通じてコミュニケーションの場をつくることを目的としています。
- コミュニティカフェとして、常設型、子育て・高齢者施設との併設型など様々なかたちがあります。

■ 地域社会との交流を促す会食形式の「会食サービス」と食事の配達を通じて在宅生活を支える「配食サービス」の2つの形態があります。

### 配食サービス

- 食事を利用者の自宅まで配達し、家事の負担軽減や栄養バランスの改善を目的としています。
- 訪問を通じた会話や安否の確認も重要な目的となっています。

7

## 会員団体のコミュニティでの取り組み

【会員数】1.18（2016年現在）  
個人会員40  
団体会員78  
（活動団体・研究者・支援者等）

### 地域食業

配食・買物支援・サロン  
登別市：ゆめかへる



### 配食

「お探りないですか?」  
高崎市：じゅんはなぼん



### 料理教室

健康づくりは自分で



### 会食会

稲城市：支え合う会のみり



### コミュニティ喫茶

安心できる居場所



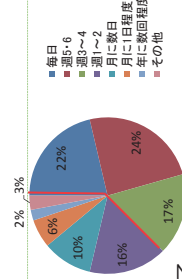
### 食とまちづくり

明石市：NPO法人の会

6

## 配食サービス団体のプロフィール

- 活動エリアは区市町村内
- 約6割の活動が週に3日以上活動
- 9割程度の団体が公的な補助や委託を受けている
- 65歳以上の1日平均利用者美数 100名程度



出典：「高齢者の相互扶助を促す、住民参加型食事サービス活動の推進に向けた調査研究事業」（20年度老健事業・全国老人給食協会の調査資料）より

出典：「市民参加による生活支援サービスを活用した地域包括ケアを推進する体制の整備に関する調査研究事業」（25年度老健事業・市民協）より

8



## 配食サービスのご案内

1982年に徳田各団地で高齢者を始め、高齢者向けに、食生活を通じて健康の改善を目的とした活動がスタートしました。以来、高齢者の健康増進を目的とした活動が展開されています。ぜひ一度お話しください。

●一人暮らしや高齢者世帯の方  
●口角の悪い顔や交差の不安定な歩行など  
●口角の悪い顔や交差の不安定な歩行など  
●必ずお電話でご予約ください



※お食事の時間：月曜～日曜、11時～12時、13時～14時、15時～16時、17時～18時、19時～20時



※食材の仕入れ先  
●お肉：お肉屋さん（お肉屋さん）  
●魚：お魚屋さん（お魚屋さん）  
●野菜：お野菜屋さん（お野菜屋さん）  
●果物：お果物屋さん（お果物屋さん）



●お弁当やお弁当箱の準備が完了したら、お弁当箱を回収していただきます（空弁当箱は回収しません）  
●お弁当やお弁当箱の準備が完了したら、お弁当箱を回収していただきます（空弁当箱は回収しません）  
●お弁当やお弁当箱の準備が完了したら、お弁当箱を回収していただきます（空弁当箱は回収しません）

●お弁当やお弁当箱の準備が完了したら、お弁当箱を回収していただきます（空弁当箱は回収しません）  
●お弁当やお弁当箱の準備が完了したら、お弁当箱を回収していただきます（空弁当箱は回収しません）  
●お弁当やお弁当箱の準備が完了したら、お弁当箱を回収していただきます（空弁当箱は回収しません）

●お弁当やお弁当箱の準備が完了したら、お弁当箱を回収していただきます（空弁当箱は回収しません）  
●お弁当やお弁当箱の準備が完了したら、お弁当箱を回収していただきます（空弁当箱は回収しません）  
●お弁当やお弁当箱の準備が完了したら、お弁当箱を回収していただきます（空弁当箱は回収しません）

●お弁当やお弁当箱の準備が完了したら、お弁当箱を回収していただきます（空弁当箱は回収しません）  
●お弁当やお弁当箱の準備が完了したら、お弁当箱を回収していただきます（空弁当箱は回収しません）  
●お弁当やお弁当箱の準備が完了したら、お弁当箱を回収していただきます（空弁当箱は回収しません）

9

## 食事サービスのニーズ

- 公的サービスの利用条件や頻度では足りない
- 身体的な理由で買い物や調理ができない
- 調理ができない
- 経済的な理由や近隣に店がないなどで十分な食べ物が入りづらい
- 調理する気・食べる気にならない（意欲がない）
- 嚥下障害や口腔の問題があって一般の食事が食べられない

11

## 食事サービスのニーズ

- さまざまな地域の状況
- 高齢化率、独居高齢者の割合
- 高齢者の交通の足がない／ある
- 住宅が密集している／住宅が点在／団地
- 食料品の店がない／商店街がある
- 高齢者が集まる場所がない／ある
- 階段や坂道が多い

10

## コミュニティによる食事サービスの効果

- 1日に1食でもバランスが取れた食事が確保できるので安心感が持てる
- ひとり暮らしの生活に、誰かが声を掛けてくれる安心感
- 担い手として参加出来ることで、地域での出会いを創り出す
- 地域での絆が強まることで、見守りや地域防災力も高めることが出来る

12

【参考】「通所型サービスB」と「地域介護予防活動支援事業」の比較

事業	介護予防・生活支援サービス事業 通所型サービスB (住民主体による支援)	地域介護予防活動支援事業 (通いの場関係)
サービス種別	住民主体による要支援者を中心とする自主的な通いの場づくり ・体操、運動等の活動 ・趣味活動等を通じた日中の居場所づくり ・定期的な交流会、サロン、会食等	介護予防に集まる住民運営の通いの場づくり ・体操、運動等の活動 ・趣味活動等を通じた日中の居場所づくり ・交流会、サロン等
対象者とサービス提供の考え方	要支援者等	主に日常生活に支障のない者であって、通いの場に行くことに 約介護予防が促進されるケース
実施方法	運営費補助/その他補助や助成	委託/運営費補助/その他補助や助成 人数等に応じて月・年ごとの包括払い /運営のための間接経費を補助 /家賃、光熱水費、年定額 等
市町村の負担方法	あり	なし
ケアマネジメント	サービス提供主体が設定 (補助の条件で、市町村が設定することも可)	地域住民主体
利用者負担額	ボランティア(利用費用)	
サービス提供者(例)	各事業所などの運営は通所の対象外(利用費用) ※一般介護予防事業で行うサロン・駅か、要支援者等を中心とした定期的な利用が可能な形態を想定 ※利用の場には、事業者や子ども、要支援者以外の高齢者なども加わることもできる。(住生活)	※各事業所などの運営は通所の対象外(利用費用) ※通いの場には、事業者や子どもなどにも加わることもできる。(住生活)
備考		

1. さまざまなニーズに対応する新しい地域包括支援体制の構築

② 地域の実情を踏まえた支援の総合的な提供

○ 地域において、誰もが支え合う共生型社会を実現し、人口減少下における効率的で柔軟な事業運営を提供するため、昨らつりの一つの方針として、**高齢、障害、児童等の福祉サービスを総合的に提供できる仕組み**を推進する。  
○ このため、モデル的な事業を実施する中で、そのような手法によるサービス提供のあり方やこれを担うべき規制の緩和等を検討するとともに、ノウハウの情報提供を行う。

○ 福祉サービスを総合的に提供する仕組みを可能とするためのノウハウの情報提供(今年度)  
今年度から、対象者を問わずに誰もが通い、暮らしやすい居場所とする「小でも拠点(多世代交流、多機能型福祉拠点)」など、福祉サービスを総合的に提供する取組が広がったところ。  
このように、地域の実情を踏まえながら、こうした取組が可能となるよう、モデル的な事業運営の中で、サービス提供のあり方や運営等を検討するとともに、ノウハウの情報提供を行う。

○ 規制の緩和  
(1) 各制度の人員配置基準、施設基準に係る検討  
(1) 現行制度の規制等について、運用上対応可能な事項に係るガイドラインの策定、周知を行う。【今年度】  
(2) 各制度の人員配置基準、施設基準の緩和の検討を行う。【今年度】  
(2) 福祉サービスの活用に係る補助金支給方法の革新(今年度)  
補助金により整備した福祉施設を他の福祉事業に転用する場合には、補助金返還を要しないこととする案件の拡大や転用手続きの簡素化を図ることを検討する。

新しい福祉の提供ビジョン  
厚生労働省  
2015年9月

14

..「多世代が集う共生の居場所づくり」とは..

近隣住民  
同士の  
つながり

高齢者

地域の  
子ども達

見守る  
大人

東京稲城市 支え合う会のみり  
高齢者が集う会食会では、  
夏休みには近隣の子どもも集まり、  
多世代の空間へ

「広がり」子ども食堂の輪！全国ツアー実行委員会

15

「食」を基盤とした地域づくりへ

地域への愛着・理解

子どもからお年寄りまで多様な人達が集まること  
により、地域住民が地域のことを理解する

通いの場

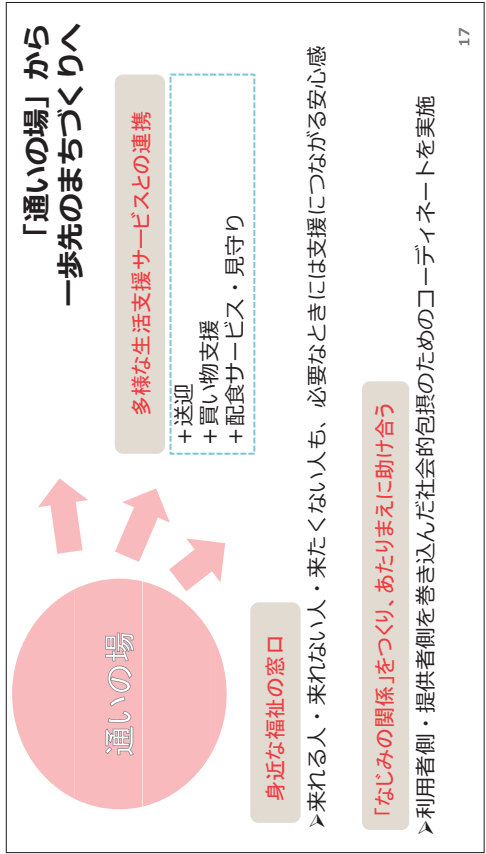
危機意識・当事者意識

➢ 支援が必要な人・提供できる人が自発的に  
結びつき、地域の支え合いが生まれる

“人”の資源発掘

➢ 地域住民が持っている能力を発揮できる場を提供

82



食を通じた生活支援サービスの推進と高齢者の地域サービスをすすめるために

どうしたら新しいボランティアが参加できるのか

講義IIIの流れ

13:30～14:00 ガイダンス

「ボランティア」に参加してほしい人々を理解する  
「自分たち」を理解する:食を通じた活動の「価値」とは

14:00～グループ演習

食を通じた生活支援の活動の価値を確認して、新たなボランティアの参加を促す方法について考えてみよう。

### 午前の講義の振り返り(1) 活動への多様な関わり方

- 「食を通じた生活支援サービスの推進」には、担い手づくりが必要です。
- 担い手(地域参加・社会参加のかたち)には多様なかたちがあります。
  - 無償ボランティア
  - 有償ボランティア
  - パート・アルバイト
  - 職員
  - 担い手
- 多様な関わり方ができることが、市民活動の強みです。

3

### 午前の講義の振り返り(2) 活動の多様なかたち

- 「食を通じた生活支援サービス」には、いろいろなかたちがあります。
  - 配食
  - 会食
  - ミニデイ
  - サロン
  - 居場所
  - コミュニティカフェ
- 地域のニーズや、活動条件などをふまえて、新しいサービスを創出したり、現行のサービスのあり方を見直してみることも必要です。

4

85

### 午前の講義の振り返り(3) 役割の多様なかたち

- サービスの種類によって必要な役割は異なります。
- それぞれの活動で、いろいろな人が、いろいろな役割を通じて活動に関われるようになっています。
- 〔活動〕 〔役割〕
  - 調理 調理、盛り付け、洗浄、献立作り、コーディネート
  - 配達 運転、配達、見守り、お手紙づくり、コーディネート
  - 会食・サロン 話し相手、プログラム実施、調理...
- 役割を小さく切り分けことができ、その人の体力や志向に応じていろいろな人が参加できます。

5

### 講義Ⅲのポイント

- (潜在的な)ボランティアとは誰か、について理解する
- ボランティアの理解にもとづいて、提供する活動を設計する
- ボランティアが活動に参加するためのコスト・障壁を理解する
- 自分たちが提供する価値とは何か、について理解する
- ボランティアに対して、自分たちの価値をどのように伝えるか理解する
- 価値を提供することを通して、ボランティアを獲得する
- 地域とのつながり(ネットワーク)を考える
- 地域とのつながりを通して、ボランティアを確保する

6

86

## ボランティアの参加・活動の動機を考える

- ・ 外発的動機：他人や社会のために
- ・ 内発的動機：自分のために
- ・ 7つの動機モデル
  - ① 「自分探し」動機
  - ② 「利他心」動機
  - ③ 「理念の実現」動機
  - ④ 「自己成長と技術習得・発揮」動機
  - ⑤ 「レクリエーション」動機
  - ⑥ 「社会適応」動機
  - ⑦ 「テーマや対象への共感」動機  
(桜井政成)

7

社会への貢献	困っている人の助けがしたいから 地域社会をよりよくしたいから 社会への不正や矛盾に怒りを感じるから 社会への問題解決に知識・技術・学問を役立てたい
自分の発見	新しい人と出会いたいから 自分の経験や技術などを生かしたいから 新しく感動できる体験がしたいから 自分のやりたいことを発見したいから
キャリアづくり	授業や仕事として位置づけられているから 大学や職場で活動を要請しているから 単位取得や資格取得のために必要だから 進学・就職・昇進に有利にしたいから
癒しセラピー	自分自身を戻っているような不安や喪失感から 自分自身の生き方に自信がもてないから 不安な気持ちや傷ついた心を癒したいから 人とのコミュニケーションや集団での生活に自信がもてないから

出典：興梠寛著『希望への力』(2003年、光生館)より

8

## 対象を具体化する方法(1) 対象者をイメージする

### ペルソナ(Persona)

- ・ 対象者の具体的なイメージ
  - 氏名
  - 年齢・職業・家族構成
  - 居住地
  - ライフスタイル、価値観、趣味など
- ・ イメージされた対象者がとりそうな行動にもとづいて、モノ・サービスを企画する

**赤堤 はるおさん**  
66歳、昨年、企業を定年後、あまり出かけなくなった。東京郊外の一軒家で妻と二人暮らし。趣味はとくにない。家事は妻任せ。



**上川 賀なつさん**  
60歳、主婦、東京近郊のマンションに夫と二人暮らし。子どもが独立し、自由な時間ができた。これから、自分の時間を楽しみたい。

## 対象を具体化する方法(2) “まとまり”として考える

参加ニーズや選好の異なるグループ(まとまり)を特定し、その特徴を明らかにする(マーケティングの考え方を参考に)

- ・ 地域の特徴や変化(地理的変数、人口動態変数)
  - 人口、人口密度、人口の変化
  - 年齢、性別、所得、世帯規模、家族のライフサイクル(子育て中など)、仕事、教育水準など
- ・ 地域住民の志向性や行動パターン(心理的変数、行動変数)
  - ライフスタイル(志向)、パーソナリティ(〇〇的)、価値観など
  - 利用場面、使用量、使用頻度、ロイヤルティの程度、準備段階、製品・サービスに対する態度など

10



### 事例調査から(1) 団体の工夫・配慮

- ハードル(敷居)の高い活動
  - 頻度が高い、時間が長い、技術・熟練、体力
- 参加し易い活動
  - 楽しみ・生きがいの場(支え合う会みのり/東京都稲城市)
  - 自己実現の場(いふりたすけ愛/北海道登別市)



11

### 事例調査から(2) 人材募集の場

- 活動団体による取り組み
  - 口コミ
  - バンフレットの配布、掲示
  - 活動紹介
  - 講座・学習会
  - ボランティア体験の受け入れ
- 他の団体・機関による取り組み
  - 社会福祉協議会
  - 生涯学習、社会教育
  - 市民活動支援センター

12

89

### 事例調査から(3) 地域のネットワーク

- 自治会どうしのつながり
  - 地域食堂(ゆめみ〜る/北海道登別市)
- 地域と活動との橋渡し
  - 市との協働事業によるモデルハウス(実家の茶の間/新潟市)
  - 市との協働事業による連続講座「茶の間の学校」

13

### 演習1

あなたは、どんな活動ならば、ボランティアとして参加したいと思いますか？

- ボランティア活動に参加されている方は現在参加している活動の良いところ、参加への意欲が高まることをあげてみましょう。
  - 今、ボランティア活動に参加されていない方は、どんな活動だったら、参加への意欲が高まるか、考えてみましょう。
- ①付箋紙1枚に1つ、1人3つの意見を書いてみましょう(3枚)
  - ②順番に発表して共有しましょう。
  - ③グループで出された意見の中からみなさんで価値があると共有できる意見を3つ選んでみましょう。

14

90

## 演習2

では、今度は、「食を通じた生活支援サービス」が持っている「価値」を考えてみましょう。

- 現在、参加している方は、自分たちが感じている価値をもう一度考えてみましょう。
  - 現在、参加していない人は、「食を通じた活動」に対する自分自身が感じる価値やメリットを考えてみましょう。
- ①付箋紙1枚に1つ、1人3つの意見を書いてみましょう(3枚)
  - ②順番に発表して共有しましょう。
  - ③グループで出された意見の中からみなさんと価値があると共有できる意見を3つ選んでみましょう。

15

## 演習3

今、皆さんのチームで価値があると共有できた6枚のカードが目の前にあると思います。皆さんがチームだとしたら、どうすればこんな活動を作ることができるか考えてみましょう

・皆さんの現在の立場に応じて、できそうなことを考えてみましょう。

- 場所はどこなところ？
- 担い手を集める方法は？
- 機器や什器は？
- 食事の材料はどうしよう？
- どのくらいの頻度で運営する？(最初は……、将来は……)

16

厚生労働省 平成 28 年度老人保健健康増進等事業 研修会

## 食を通じた生活支援サービスの推進と 高齢者の地域参加をすすめるために

【愛知県・長久手会場】 平成 29 年 1 月 25 日 (水)  
長久手市福祉の家 2 階 集会室  
愛知県長久手市前熊下田 171

受付 9:15 開講 10:00 閉講 16:00

### プログラム

- I 高齢者の社会参加の意義について
- II 食を通じた生活支援サービスについて
- III 住民参加を促す生活支援サービスの取り組み
- IV “食”をテーマに生活支援サービス推進のノウハウについてグループワーク  
「どうしたら新しいボランティアが参加できるのか」  
- 協議体メンバーで考えよう -

【主 催】 一般社団法人 全国老人給食協会の  
東京都世田谷区上用賀 6-19-21  
電話 03(5426)2547 FAX03(5426)2548

### ープログラムー

9:15	受付開始
10:00	開会挨拶
10:05	I 「高齢者の社会参加の意義について」 講師 内藤 佳津雄 さん 日本大学文理学部 教授
10:50	II 「食を通じた生活支援サービスについて」 講師 平野 寛治 一般社団法人全国老人給食協会の 専務理事
11:20	III 取り組み事例 「住民参加を促す生活支援サービスの取り組み」 報告 長久手市 福祉部福祉施策課 成瀬 拓 さん 日進市 健康福祉部地域福祉課 中根 太地 さん みよし市 福祉部長寿介護課 若佐 高明 さん 生活支援コーディネーター 深谷 由美子 さん 東郷町 福祉部長寿介護課 井上 五郎 さん
12:30	昼食休憩
13:30	IV “食”をテーマに生活支援サービス推進の ノウハウについてグループワーク 「どうしたら新しいボランティアが参加できるのか」 - 協議体メンバーで考えよう! - 講師 清水 洋行 さん 千葉大学文学部 教授
16:00	閉会

Ⅰ 講義

## 高齢者の社会参加の意義について

講師 内藤 佳津雄 さん  
日本大学文理学部教授

### 講師プロフィール

平成 9年 厚生省老人保健福祉局老人福祉専門官  
平成 11年 日本社会事業大学社会事業研究所講師  
平成 12年 日本大学文理学部専任講師  
平成 14年 日本大学文理学部助教授  
平成 19年 日本大学文理学部教授 (現職)

### その他の社会的活動歴 (現在)

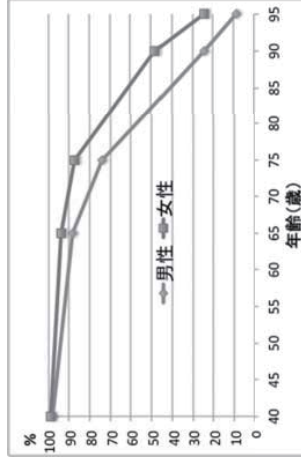
日本老年社会科学会 常任理事  
調布市高齢者福祉推進協議会 顧問  
稲城市介護保険運営協議会 会長  
練馬区介護保険運営協議会 会長代理  
東京都認知症対策推進会議 委員

## 高齢者の社会参加の意義について

日本大学 内藤佳津雄

1

生命表上の特定年齢まで生存する者の割合  
(平成27年度簡易生命表)



平均寿命  
男:80.79歳  
女:87.05歳

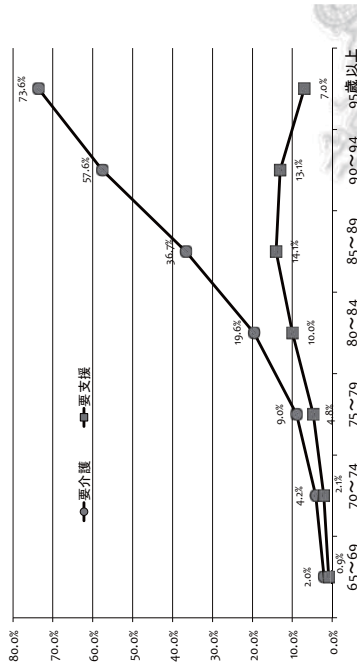
65歳平均余命  
男:19.46年  
女:24.31年

寿命中位数  
(左図の50%  
にあたる年齢)  
女89.79年  
男83.76年

年次	人口(1,000人)					割合(%)	
	総数						
	0~14歳	15~64歳	65歳以上	0~14歳	15~64歳		65歳以上
平成22(2010)	128,057	16,839	81,735	29,484	13.1	63.8	23.0
23(2011)	127,753	16,685	81,303	29,764	13.1	63.6	23.3
24(2012)	127,498	16,493	80,173	30,831	12.9	62.9	24.2
25(2013)	127,247	16,281	78,996	31,971	12.8	62.1	25.1
26(2014)	126,949	16,067	77,803	33,080	12.7	61.3	26.1
27(2015)	126,597	15,827	76,818	33,952	12.5	60.7	26.8
32(2020)	124,100	14,568	73,408	36,124	11.7	59.2	29.1
37(2025)	120,659	13,240	70,845	36,573	11.0	58.7	30.3
42(2030)	116,618	12,039	67,730	36,849	10.3	58.1	31.6
47(2035)	112,124	11,287	63,430	37,407	10.1	56.6	33.4
52(2040)	107,276	10,732	57,866	38,678	10.0	53.9	36.1
57(2045)	102,210	10,116	53,531	38,564	9.9	52.4	37.7
62(2050)	97,076	9,387	50,013	37,676	9.7	51.5	38.8
67(2055)	91,933	8,614	47,063	36,257	9.4	51.2	39.4
72(2060)	86,737	7,912	44,183	34,642	9.1	50.9	39.9

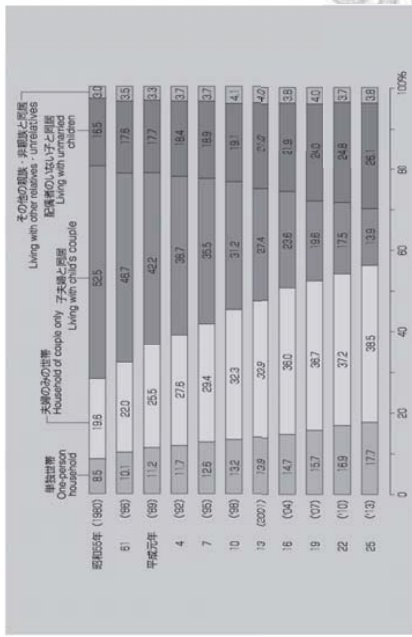
国立社会保障人口問題研究所(平成24年1月推計):出生中位(死亡中位)推計

### 年齢階層別の要介護認定率(推計)



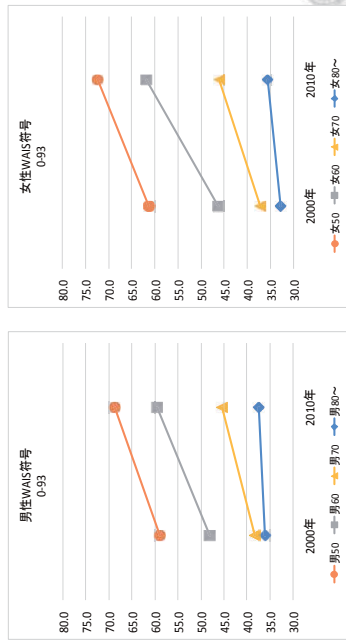
社会保障人口問題研究所推定人口推計(平成27年10月)及び介護給付実態調査(平成27年11月調査分)

### 家族形態別にみた65歳以上の者の構成割合の年次推移



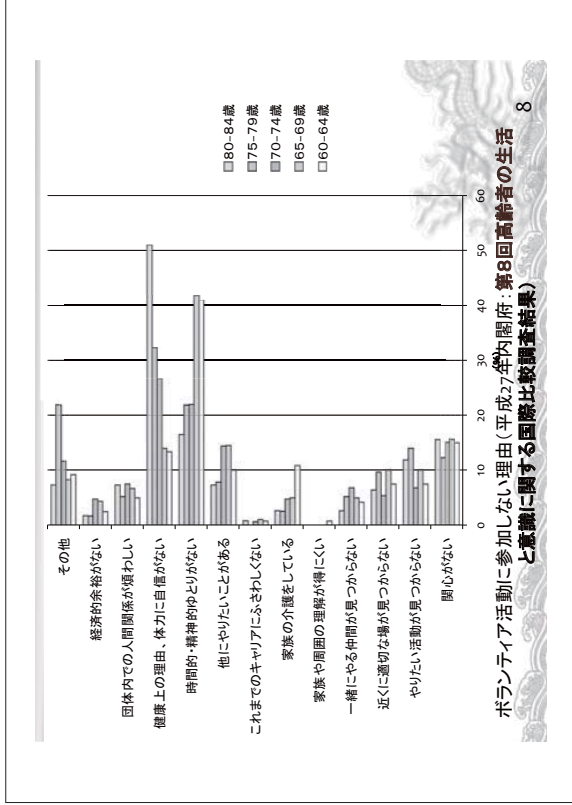
厚労省統計情報部「グラフで見る世帯の状況」国民生活基礎調査(平成25年)の結果から

### WAIS-Rの「符号」問題の年齢別の平均得点:10年間の変化



国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断疫学研究(National Institute for Longevity Sciences - Longitudinal Study of Aging: NILS-USA) 約2,400名を対象とした縦断的調査の結果(10歳刻みでの集計結果:公表済)





ボランティア活動に参加しない理由(平成27年内閣府:第8回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果) 8

## プロダクティブ・エイジング

高齢になっても一様ではない(個人差)  
 老化の程度、疾病や障害、価値や経験の差  
 高齢者になっても、それ以前と急激な変化は少ない  
 知能、性格、価値観など

個人差に応じて自分の人生を選択できる  
 生産に寄与することもできる  
 社会参加を継続可能である  
 自分の人生を自分で決めることができる

◎プロダクティブ・エイジング(生産的な老化)  
 高齢者の就労環境整備、社会参加(ボランティア、生涯学習)  
 日常生活・・・「生活の継続性」「自己決定」

## プロダクティブ・エイジング運動の実例

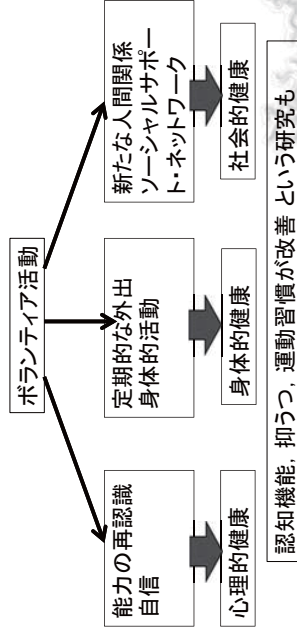
2012年 European Year for Active Ageing  
 and Solidarity between Generations

高齢者の雇用、社会参加、生活の自立(自律)  
 社会の一員としての市民参加  
 生活の質(Quality of Life)の向上

※「自立」

・・・可能な限り、自分自身の生活を自ら決め、  
 行うこと

## ボランティア活動の健康への効果



藤原・杉原・新開(2007) ボランティア活動が  
 高齢者の心身の健康に及ぼす影響 日本公衆  
 衛生雑誌, 52, 293-307.

## 地域包括ケアシステムの構築

◆ 2025年＝団塊の世代が70代後半になることを目標に、国、都道府県、市町村の「地域包括ケアシステム」を構築することを推進することに努める。

◆ 可能な限り、住み慣れた地域で有する能力に応じて自立した生活を営むことができるように包括的に支援する  
 →介護、介護予防、日常生活支援、医療、住宅  
 →公助・共助・互助・自助の組み合わせ  
 ……連携を図って総合的推進

### <日常生活支援>

※地域で暮らし続けるには日常生活支援が必要  
 ※これまでで生活支援を担っていた同居家族の不在  
 →地域での日常生活支援の基盤構築が大きな課題  
 <介護予防>  
 ※疾病や要介護の予防が重要  
 ※身体的な機能向上→生活上の活動・参加による「生活機能」向上  
 →地域での活動や参加の基盤構築が大きな課題

12

## 活動と参加の場をつくる

◆ 元気高齢者…活動・参加の場

◎活動すること自体が介護予防につながる

※多くの人が参加できること→多様な活動(内容、グループ)

※長く活動できること→人間関係を継続できる活動

↓

※社会的価値がある活動として、「生活支援」とマッチできるのか？

↓

◎要介護者等向けの日常生活支援の互助基盤をつくる  
 生活支援、見守り、参加の場など

要支援者向け「総合事業」は要支援の人の生活支援から始めてみようという「経過」に過ぎない。将来的には、要介護の人への生活支援を準備しないと地域包括ケアは成功しない

13

## 28年度老健事業による調査

- ◆ 食事サービス団体への調査(N=63)
- ◆ 高齢ボランティアの状況
- ◆ ボランティアの募集と定着への方策の工夫

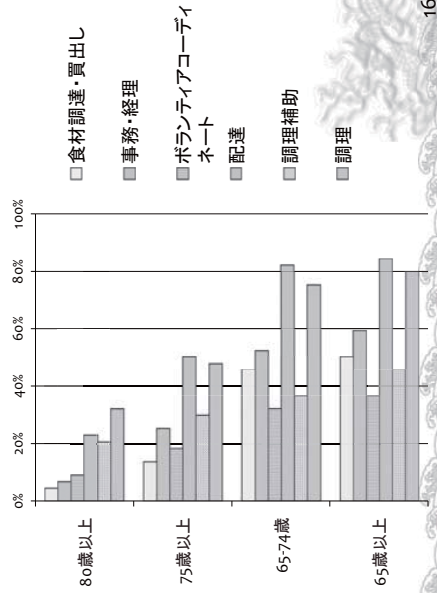
14

配食サービス団体：  
 高齢ボランティアの活動年数(最も人数が多い年数)

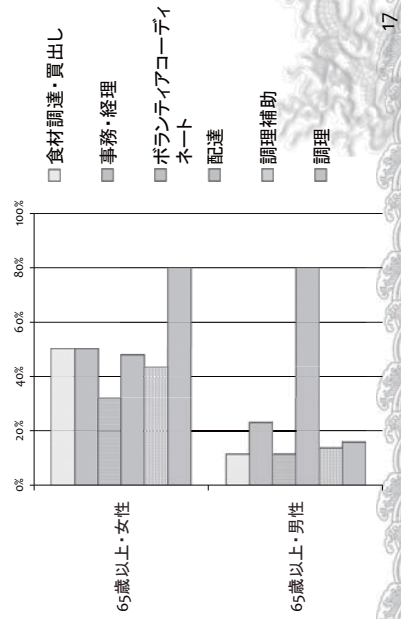
	活動歴	
	女性	男性
5年未満	2	8
5-9年	11	17
10-14年	20	10
15-19年	5	2
20年以上	1	0

15

配食サービス団体(63団体)の高齢ボランティアの状況



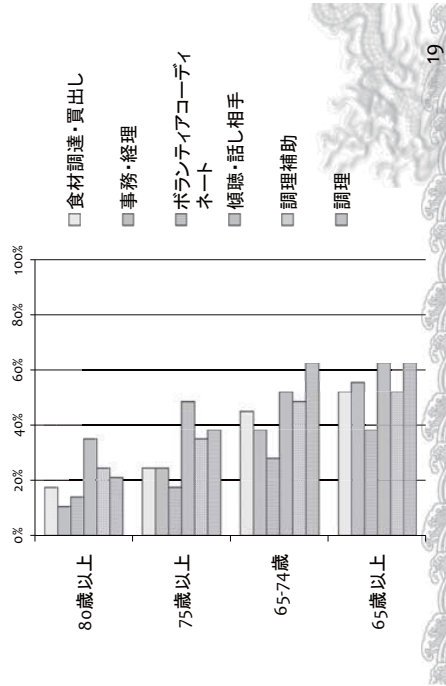
配食サービス団体(63団体)の高齢ボランティアの状況



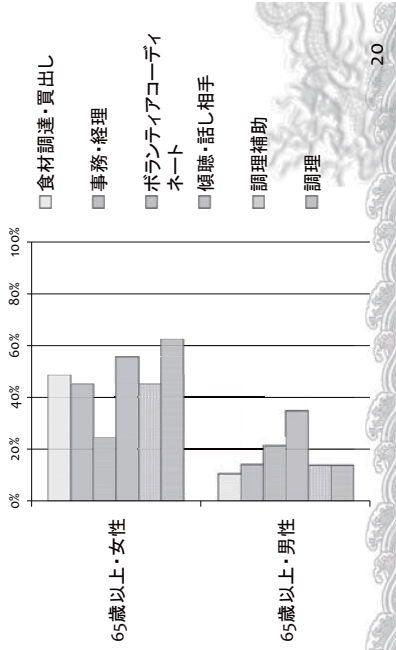
会食(サロン・ミニデイ)実施団体:  
高齢ボランティアの活動年数(最も人数が多い年数)

	活動歴	
	女性	男性
5年未満	12	7
5-9年	5	6
10-14年	7	6
15-19年	3	1
20年以上	2	1

会食(サロン・ミニデイ)実施団体(29団体)の高齢ボランティアの状況



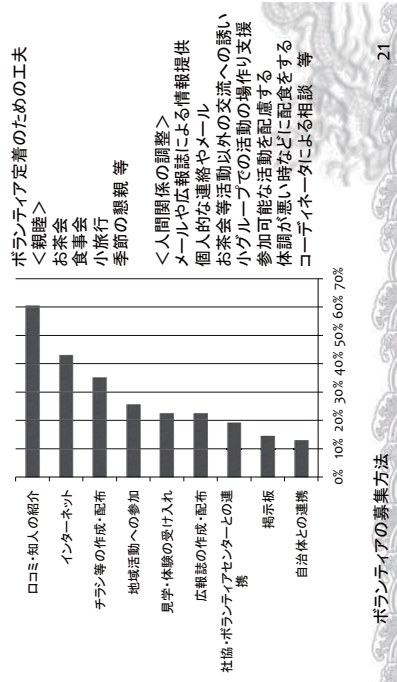
### 会食(サロン・ミニデイ)実施団体(29団体)の高齢ボランティアの状況



### ボランティア定着のための工夫

- ＜モチベーションの維持向上＞
- ◆ 大会で表彰
  - ◆ 他団体との交流
  - ◆ 利用者からの感謝の言葉を伝える
  - ◆ あなたが必要だということを折りをみて言葉にする
  - ◆ 打ち合わせをこまめにする
  - ◆ 全員参加で運営会議を開催
  - ◆ 毎日の食事をHPで紹介
  - ◆ 行政からの表彰
  - ◆ 活動者の写真撮影・ポスター作成
  - ◆ フリーペーパー等への掲載
  - ◆ ボランティアの会報での紹介
  - ◆ 総会で目標を確認、活動を総括
  - ◆ 基本理念を常に確認する
  - ◆ ボランティアの意思を尊重
- ＜意見集約・会議運営＞
- ◎ポトムアップ型
- ◆ 部門別の会議を定期的(1、2月に1回)に開催する
  - ◆ ボランティアが参加できる会議で意見を出し合う
  - ◆ 日常的な顔合わせの中で意見交換できる
- ◎トップダウン型
- ◆ 定期的な理事会、運営委員会等で現場から上げられた問題について検討を行う
  - ◆ グループ(部門、曜日等)のリーダーの会議で問題を共有する

### ボランティアの募集と定着



### まとめ

- ◎高齢者のボランティア活動・介護予防と生活支援基盤
- ボランティアへの参加は健康の維持向上に寄与する
- ◆ 地域での高齢者の参加の場を積極的に作っていくことを支援することが政策課題
  - ◆ (全ての活動が生活支援を必須としなくても良い(介護予防効果だけでも十分)・・・活動に対して、生活支援の活動も働きかけていく)
  - ◆ 多くの参加を得るために多様な活動が必要
  - ◆ ボランティアの募集について協議体で行なっていくことも有効
  - ◆ ボランティア定着への工夫を共有する
  - ◆ 食に関する活動は幅広い参加が可能であり、定着もよい
  - ◆ 高齢者だけを対象にするのではなく、他世代への支援も可能(参加への興味を広げる)

## 食を通じた生活支援サービスについて

講師 平野 覚治  
 一般社団法人全国老人給食協力の専務理事



MEALS ON WHEELS JAPAN  
 一般社団法人

### 全国老人給食協力の会

できるだけ早く、住み慣れた地域で、  
 安心感をもって自分らしく暮らし続けられるしくみを

平野 覚治

1985年設立

コミュニティに暮らす人自らが参加して行う地域の高齢者等のための生活支援活動を、高齢社会に対応できる食事サービスとして育てていくことを目的に、全国各地で活動する団体や個人がつくる連絡組織です。

【事務局所在地】〒159-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21  
 ☎03-5426-2547 FAX 03-5426-2548  
<http://www.mow.jp>

1

## 全国老人給食協力の会活動実績



### 【平成27年度】

- 厚生労働省老健局 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）指導者養成事業委員

### 【平成28年度】

- 厚生労働省健康局 「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理の在り方検討会」 構成員
- 全国社会福祉協議会 - 「新地域支援構想会議」 構成委員
- 厚生労働省老健事業「生涯現役社会の構築に向けた、高齢者の社会参加や健康生きがいづくりのあり方に関する調査研究事業」
- 長久手市生活支援体制整備アドバイザーの受託
- 関東信越厚生局地域包括ケア推進課「生活支援」データ活用推進等支援事例説明会」 10月
- 「広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー」実行委員会副代表
- 兵庫県移動・配食サービス等配食サービス等生活支援サービス提供に向けた市町村職員研修会の開催（2月1日※予）、山梨県配食サービス従事者養成研修（3月26日※予）

2



国の歳入：約58兆円（一般会計総額：約9.6兆）

…・**税収6割程度、4割弱国債**（2016年3月予算）

国の借金：残高1053兆円（2016年6月末時点）

▶ 国民1人当たり約830万円の借金を抱えている計算

▶ 社会保障費110.6兆（平成25年度 介護・福祉21.1兆、医療36兆、年金53.5兆）

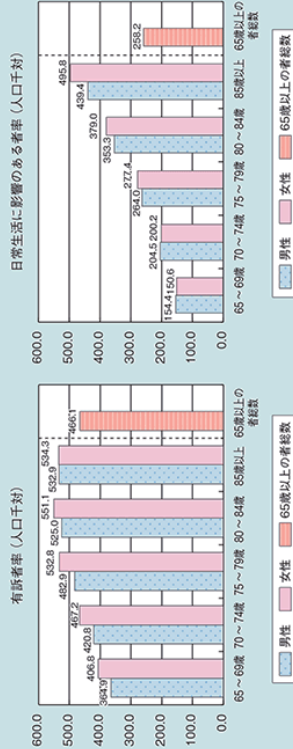
▶ 将来の勤労者世代の割合減少 = 将来世代の負担増加

このままでは  
危ない…！

○高齢者の健康

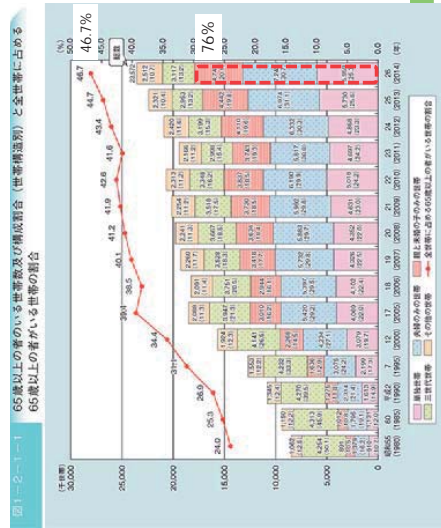
高齢者の半数近くが何らかの自覚症状を訴えているが、日常生活に影響がある人は約4分の1

図1-2-3-1 65歳以上の高齢者の有訴者率及び日常生活に影響のある者率（人口千対）



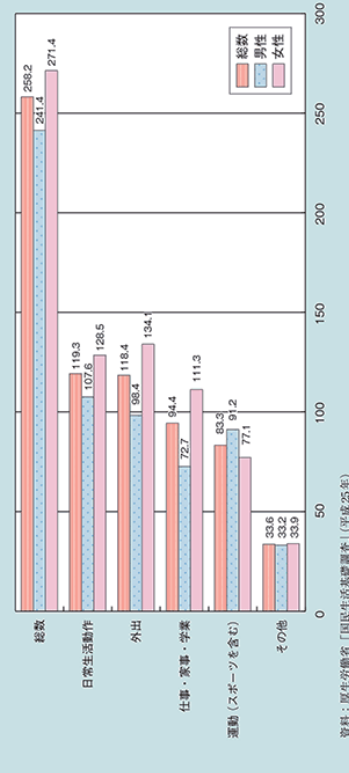
資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成25年)

○世帯について  
高齢者のある世帯は全世帯の約半分、「単独世帯」「夫婦のみ世帯」が全体の過半数



「日常生活動作」（起床、衣服着脱、食事、入浴など）が人口1,000人当たり119.3  
「外出」が同118.4と高くなっており、次いで「仕事・家事・学業」が同94.4

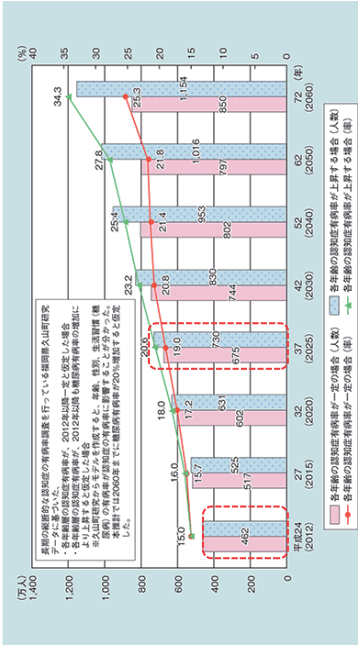
図1-2-3-2 65歳以上の高齢者の日常生活に影響のある者率（複数回答）(人口千対)



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成25年)

## 平成37（2025）年には65歳以上の認知症患者数が約700万人に増加

図1-2-3-3 65歳以上の認知症患者数と有病率の将来推計



資料：「日本における認知症の高齢人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働省研究費助成特別研究事業 九州大学二宮成仁）より引用制作

## 配食利用者及び二次予防事業参加者の栄養状態

・18.5kg/m<sup>2</sup>未満のやせの者が配食利用者で21.5%・この6か月で2〜3kg以上の体重減少のあった者は全体で15.9%

・食事が摂れずまたは中程度に減らした者が24.9%・食事療法が必要な者が31.0%  
 ※低栄養予防や栄養改善の介入が必要と思われる者とその把握から見ても3割程度みられ、食支援において低栄養予防や栄養改善の機能の必要性も認められた。

出典：平成25(2013)年3月独立行政法人国立健康・栄養研究所（地域高齢者の食生活支援の質及び体制に関する調査研究事業）・7県140事業所からアンケート調査を実施。対象者は配食利用者2,018名、二次予防事業参加者1,298名

	栄養評価 (MSA-SF) の結果			計
	低栄養	低栄養、 おそれあり	栄養状態良好	
男性 (人)	126	135	108	369
	34.1%	36.6%	29.3%	100%
女性 (人)	230	200	152	582
	39.5%	34.4%	26.1%	100%
計	356	335	260	951
	37.4%	35.2%	27.3%	100%

8

## 栄養状態と要支援・要介護度

	低栄養			低栄養のおそれあり			栄養状態良好			
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
自立要支援 1,2	8	2.3%	35	10.7%	38	15.4%				
				1.8・4%+4.1%	合計59・4%					
要介護1	22	6.3	32	9.8	45	18.2				
要介護2	34	9.8	67	20.5	67	27.1				
要介護3	43	12.4	59	18	38	15.4				
要介護4	64	18.4	58	17.7	36	14.6				
要介護5	177	50.9	76	23.2	23	9.3				
合計	348	100	327	100	247	100				

出典：国立長寿医療研究センター（平成24年度老人保健健康増進等事業在宅療養患者の摂取状況・栄養状態の把握に関する調査研究報告書・調査対象者：男性384名、女性606名、計990名・対象者の年齢：男性81.1±7.9歳、女性84.7±8.3歳

9

## 高齢者を取り巻く状況

- ・後期高齢者（75歳以上）が増える  
2055年には25パーセントを超える見込み
- ・低栄養対策が必要
- ・単身高齢者世帯、夫婦のみ世帯が増える
- ・日常生活支援＋外出支援が必要
- ・認知症の高齢者が増える  
予備軍を合わせると高齢者の1/4に関係

## 見守り・昼間過ごす居場所・食事のニーズの増大

10

福祉の増進と地域福祉コミュニティ形成のため、  
ボランティアな食支援活動の普及推進と、運営支援の事業を行います

<p><b>普及・推進事業 交流・研修事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全国セミナー</li> <li>●地方セミナー</li> <li>●ネットワーク形成支援リーダー養成</li> <li>●ネットワーキング形成支援リーダー養成</li> <li>●教材開発</li> <li>●プロボノ</li> </ul>	<p><b>調査研究・ 政策提言</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●助成制度</li> <li>①みずほ教育福祉財団 配食用小型電気自動車 寄贈事業</li> <li>②明治安田生命 地域支え合い活動助成プログラム</li> </ul>	<p><b>環境整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●活動把握と分析</li> <li>●効果測定</li> <li>●アドボカシー</li> </ul>
--	---	---



会員団体のコミュニティでの取り組み

**【会員数】118 (2016年現在)**  
個人会員 40  
団体会員 78  
(活動団体・研究者・支援者等)

- 地域食卓 配食・買物支援・サロン** 豊洲市：ゆめかへる
- 配食** 「お家もないですか？」 高崎市：じやんけんぼん
- 料理教室** 健康づくりは島分て 稲城市：ええ台つ会のみ
- 会食会** 稲城市：ええ台つ会のみ
- 食とまちづくり** 明石市：NPOUまがわ会
- コミュニティ喫茶** 安心できる居場所 大阪市：フカスモテ

私たちの取り組み、食事サービス

会食サービス

- 集まって一緒に食事と会話を楽しむスタイルで、食を通してコミュニケーションの場をつくることを目的としています。
- コミュニティカフェとして、常設型、子育て・高齢者施設との併設型など様々なかたちがあります。

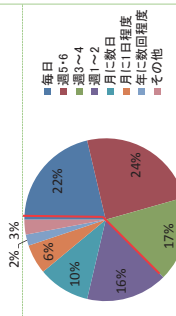
配食サービス

- 食事を利用者の自宅まで配達し、家事の負担軽減や栄養バランスの改善を目的としています。
- 訪問を通じて会話や安否の確認も重要な目的となっています。

■地域社会との交流を促す会食形式の「会食サービス」と食事の配達を通して在宅生活を支える「配食サービス」の2つの形態があります。

配食サービス団体のプロフィール

- 活動エリアは区市町村内
- 約6割の活動が週に3日以上活動
- 9割程度の団体が公的な補助や委託を受けている
- 65歳以上の一日平均利用者実数 100名程度



出典：「高齢者の相互扶助を促す、住民参加型食事サービス活動の推進に向けた調査研究事業」  
(20年度高齢者健康・全国老人給食協会の調査資料) より

出典：「市民参加による生活支援サービスを活用した地域包括ケアを推進する体制の整備に関する調査研究事業」  
(25年度高齢者健康・市民協) より

## 配食サービスのご案内

1003年に世田谷区役所で高齢者を始め、以来、高齢者を通じて地域の交流や活動を大切にしています。地域料理の経験豊富な主婦たちによる手作りの優しい味の弁当です。ぜひ一度お試しいただきたい。

- 一人暮らしや高齢者世帯の方
- 自宅の調理が難しい方
- 高齢者健診の方、お仕事を休む方
- 高齢者健診の方、お仕事を休む方
- 高齢者健診の方、お仕事を休む方



～対象者の内容～  
 高齢者、高齢者の配偶者、高齢者の同居家族、高齢者の同居家族、高齢者の同居家族、高齢者の同居家族



- お一人暮らしや高齢者世帯の方
- 自宅の調理が難しい方
- 高齢者健診の方、お仕事を休む方
- 高齢者健診の方、お仕事を休む方
- 高齢者健診の方、お仕事を休む方

- 料金 1食 100円/年費 3,000円 (印刷月券も有り)
- 配達日 週1回からご利用いただけます
- 配達時間 月曜 11:00～13:00 / 夕食 16:00～18:00
- お支払 1ヵ月分のご利用料を翌月 現金でお支払い下さい (現金での受け渡しが可能です)

★入金前に配達のお試しができます(行先500円、3回まで)  
 〒151-8501 世田谷区北沢3-1-1

電話 3706-2545 Fax 5426-2548  
 老人給食協力会ふきのとう  
 〒151-8501 世田谷区北沢3-1-1 電話 3706-2545 Fax 5426-2548

15

## 食事サービスのニーズ

- 公的サービスの利用条件や頻度では足りない
- 身体的な理由で買い物や調理ができない
- 調理ができない
- 経済的な理由や近隣に店がないなどで十分な食べ物が購入できない
- 調理する気・食べる気にならない (意欲がない)
- 嚥下障害や口腔の問題があつて一般の食事が食べられない

17

## 食事サービスのニーズ

- さまざまな地域の状況
- 高齢化率、独居高齢者の割合
- 高齢者の交通の足がない/ある
- 住宅が密集している/住宅が点在/団地
- 食料品の店がない/商店街がある
- 高齢者が集まる場所がない/ある
- 階段や坂道が多い

16

## コミュニティによる食事サービスの効果

- 1日に1食でもバランスが取れた食事が確保できるので安心感が持てる
- ひとり暮らしの生活に、誰かが声を掛けてくれる安心感
- 担い手として参加出来ることで、地域での出会いを創り出す
- 地域での絆が強まることで、見守りや地域防災力も高めることが出来る

18



【参考】「通所型サービスB」と「地域介護予防活動支援事業」の比較

事業	介護予防・生活支援サービス事業	地域介護予防活動支援事業 (通いの場関係)
サービス種別	通所型サービスB (住民主体による支援)	一般介護予防事業
サービス内容	住民主体による要支援者を中心とする自主的な通いの場づくり ・体操、運動等の活動 ・趣味活動等を通じた日中の居場所づくり ・定期的な交流会、サレシ、会食等	介護予防に資する住民運営の通いの場づくり ・体操、運動等の活動 ・趣味活動等を通じた日中の居場所づくり ・交流会、サレシ、会食等
対象者やサービス提供の考え方	要支援者等	主に日常生活に支障のない者であって、通いの場に行くことにより介護予防が促されるケース
実施方法	運営費補助/その他補助や助成	委託/運営費補助/その他補助や助成
市町村の負担方法	運営のための事業経費を補助 /家賃、光熱水費、年定額 等	人数等に依りて月・年ごとの包託払い /運営のための間接経費を補助 /家賃、光熱水費、年定額 等
ケアマネジメント	あり	なし
利用者負担額	サービス提供主体が設定 (補助の条件で、市町村が設定することも可)	市町村が適切に設定(補助の場合はサービス提供主体が設定することも可)
サービス提供者(例)	ボランティア主体	地域住民主体
備考	※市町村などの実施は補助の対象外(利用者負担) ※ボランティア主体(ボランティア等)による要支援者等を中心とする活動は補助の対象外(利用者負担) ※市町村の補助は、限られた範囲で実施される ※市町村の補助は、限られた範囲で実施される	※市町村などの実施は補助の対象外(利用者負担) ※市町村の補助は、限られた範囲で実施される

1. さまざまなニーズに対応する新しい地域包括支援体制の構築

② 地域の実情を踏まえた支援の総合的な提供

○ 地域において、誰もが生きやすい社会を実現し、人口減少下における効率的で柔軟な事業運営を確保するため、様々なニーズに対応し、高齢者、障害者、子育て世代など、幅広い世代にサービスを提供する。今年度から、対象者を問わずに誰もが強い福祉サービスを享受し、居場所をもつ「小さな拠点、多機能型福祉拠点」など、福祉サービスを総合的に提供する拠点の整備が進められる。  
○ このため、モデル的な事業を実施する中で、どのような手法によるサービス提供のあり方やこれを阻害する規制の緩和等を検討するとともに、ノウハウの情報提供を行う。



モデル事業の実施、ノウハウの情報提供等  
○福祉サービスを総合的に提供する仕組みを可能にするためのノウハウの情報提供(今年度)  
今年度から、対象者を問わずに誰もが強い福祉サービスを享受し、居場所をもつ「小さな拠点、多機能型福祉拠点」など、福祉サービスを総合的に提供する拠点の整備が進められる。  
このような中、地域の実情を踏まえながら、こうした取組が可能となるよう、モデル的な事業運営の中で、サービス提供のあり方や留意点等を検討するとともに、ノウハウの情報提供を行う。

規制の緩和  
(1)各制度の人員配置基準、施設基準に係る検討  
(2)現行制度の規制等について、運用上対応可能な事項に係るガイドラインの策定、周知を行う。【今年度】  
(3)各制度の人員配置基準・施設基準の緩和の検討を行う。  
【可能なものについては今年度、前年度に比べて平成30年度まで】  
(4)福祉施設の新用に係る補助金支分方式の見直し【今年度】  
【可能なものについては今年度、前年度に比べて平成30年度まで】  
補助金により整備した福祉施設を他の福祉事業に転用する場合に、補助金減額を要しないこととする事件の拡大や転用手段の簡便化を図ることを検討する。

平成28年度 老人保健健康増進等事業

「生涯現役社会の構築に向けた、高齢者の社会参加や健康生きがいづくりのあり方に関する調査研究事業」

《調査の目的》

- ・ 元氣高齢者が健康や生きがいづくりの一環として継続的に活動する実践例として、住民参加による食事サービス(配食・会食)に着目する。
- ・ 高齢になっても地域で人と関わりながら、出番と役割をもって生活するため実践的手法の普及啓発をねらい、食事サービスを通じた介護予防・社会参加モデルの実践に係る好事例を収集し、ノウハウを整理・分析する。
- ・ 得られた知見をもとに生活支援サービス提供団体および自治体を対象にした研修を行い、関係者間の連携や体制整備のあり方方を共有するとともに、事業の成果を広く伝播する。

調査の概要

アンケート調査

- ・ 高齢ボランティアの状況、ボランティアの募集し定着への方策の工夫
- ・ 発送133件 回収64件 (回収率48%)

先進団体へのヒアリング調査

- ・ 対象エリア：9都市12団体
- ・ 対象者：管理者およびボランティアリーダー

研修会の開催

- ・ アンケート調査、聞き取り調査の結果にもとづく研修カリキュラムの開発
- ・ 全国3ヶ所(仙台・東京・愛知・長久手市)で協議体関係機関を対象に実施

報告書の作成

- ・ 生活支援サービス提供組織、地域福祉サービス団体、自治体他 500部 作成・配布
- ・ 調査結果を活用した「運営の手引き」のリーフレットをHPで公開



NPO法人支え合う会みのり/東京都稲城市



23



25

配食サービス 月～金までの週5回



24

会食会 コミュニティセンターなど9会場での月11回



26

28

29

カフェいしださんち 月1回 自宅を開放して



27

グループリビング



29

NPO法人いぶりたすけ愛/北海道登別市 グループリビングと地域共生拠点



28

ともかな 長生き寄席



30

子育てサロン



31

フリーマーケット



33

男性料理教室



32

工房 遊木 (ゆうぎ)



34

32

33



ちよいぽら・・・できる時にできる事をボランティア  
3つの「かえる」・・・自分を変える。地域を変える。未来を変える。隔りたくなくなる街に

35

多目的スペース あらいびが



37

NPO法人さっぽろ福祉支援ネットあらいび/北海道札幌市



36

ふじのカフェ



38

34

35

東灘こどもカフェ/兵庫県神戸市



39

子ども・親子・昔の子ども・ごなたでもどうぞ (月・火・水・木・土 11~16時)



おかず寺子屋 (食育)



おもちゃ病院

40



手づくり給湯器



会食 (一般500円 会員300円)

41

「食」を基盤とした地域づくりへ

地域への愛着・理解

▶子供からお年寄りまで多様な人達が集まることにより、地域住民が地域のことを理解する

通いの場

危機意識・当事者意識

▶支援が必要な人・提供できる人が自発的に結びつき、地域の支え合いが生まれる

“人”の資源発掘

▶地域住民が持てる能力を発揮できる場を提供

42



..「多世代が集う共生の居場所づくり」とは..

近隣住民  
同士の  
つながり

高齢者

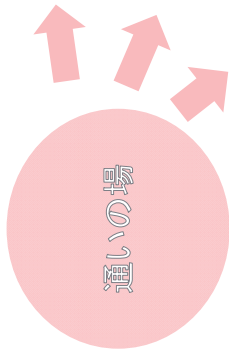
地域  
子ども達

見守る  
大人

東京稲城市 支え合う会みどり  
高齢者が集う会食会では  
夏休みに近隣の子どもが集ま  
り、多世代の空間へ

「広がり、こども食堂の輪」全国ツアー実行委員会

「通いの場」から  
一歩先のまちづくりへ



多様な生活支援サービスとの連携

- + 送迎
- + 買い物支援
- + 配食サービス・見守り

身近な福祉の窓口

➢ 来れる人・来れない人・来たくない人も、必要なきには支援につなげる安心感

「なじみの関係」をつくり、あたりまえに助け合う

➢ 利用者側・提供者側を巻き込んだ社会的包摂のためのコーディネートを実施

楽しみ・  
生きがいづくり

高齢者の  
活躍の場

札幌市 さつぽろ福祉支援ネットあいなび  
地域のおじいちゃん、おばあちゃんが  
子どもたちのために活躍しています！

地域サロン「くろみな」

### III 取組み事例

#### 住民参加を促す生活支援サービスの取組み

報告

長久手市 福祉部福祉施策課 成瀬 拓 さん  
日進市 健康福祉部地域福祉課 中根 太地 さん  
みよし市 福祉部長寿介護課 若佐 高明 さん  
生活支援コーディネーター 深谷 由美子 さん  
東郷町 福祉部長寿介護課 井上 五郎 さん

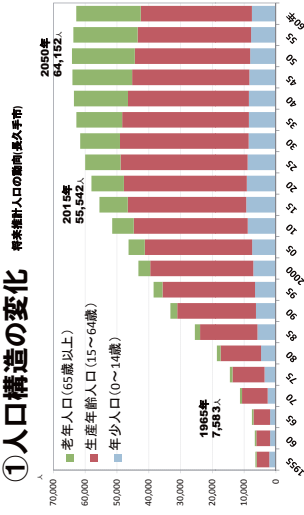
## 長久手市における 生活支援体制整備事業の 取組状況

平成29年1月25日

長久手市福祉部福祉施策課

### 2050年頃の長久手市 ～超高齢・人口減少社会の到来～

#### ①人口構造の変化



資料：人口問題調査の統計に基き、より30歳未満(0～29)を仮定

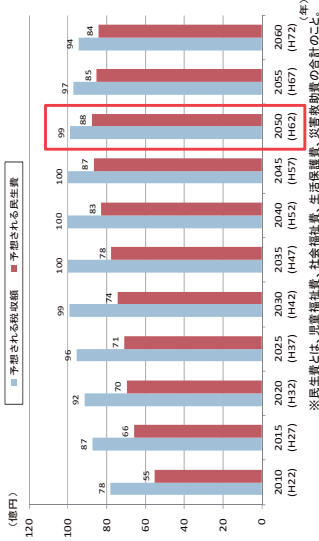
- 長久手市人口のピークは、2050年頃 約64,000人
- 2015年と2050年を比較すると年少人口と生産年齢人口は、**微減となるが、老年人口は1万人以上増加する。**

**老年人口の割合が約2倍となる!**

2050年頃の長久手市 ～超高齢・人口減少社会の到来～

②市の財政への影響

予想される税収額と民生費の推移



○2050年頃には、税収額に占める民生費の割合が約9割となる。

2

長久手市のまちづくり わずらわしい まち ～まざって暮らす まちづくり～

人口増加の時代	人口減少の時代 ～2050年に向けて～
<ul style="list-style-type: none"> <li>牧野・学識者・コンサルタント (専門家主体)</li> <li>ハコモアづくり・仕組みづくり・仕事・職務感</li> <li>法律・福利通理(当てはめ)、効率的に</li> <li>何でもお金で解決・行政にお任せ →燕で快適だが、厳選</li> <li>分業化・専門化・縦割り</li> <li>化学肥料・促成栽培・工場生産 ・早くできる ・効率がよい ・単年産予定向き ・画一的 ・一か所ですべて ・一目に見える</li> <li>職掌線を作って終わり(一人一人が説明できない)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民 (地域住民主体)</li> <li>人づくり・まちづくり・生きがい・やりがい・達成感</li> <li>手作り、一人一人を見る、融通無碍(自由へのびのび)</li> <li>市民同士の話し合いで解決を目指す・おせっかい →<b>わずらわしい</b>こともあるが、<b>絆・つながり</b>がある</li> <li>小さい単位(目が行き届く・助け合える)</li> <li>天然酵母・無肥料・自然栽培 ・手間がかかる ・マメが必要 ・単年度予定には合わない ・分割ができる</li> <li>失敗、通回りもある</li> <li>自分の言葉で贈ることができる(物語がある)</li> </ul>

まちづくりも完成  
時期のかわらば変わる

3

生活支援体制整備事業の取組

○生活支援コーディネーターの配置

平成27年2月 公募により委託事業者を決定  
2名のコーディネーターを配置  
→ 生活支援サポーターの養成  
→ 地域における資源の開発、ネットワーク構築 など

○協議体の設置

協議体については、平成27年2月から関係者による協議体設置に向けた意見交換会を開催し、平成28年9月末に要綱上の協議体を設置

○生活支援体制整備アドバイザーの配置

生活支援体制整備の導入に向け、全国的な動向を踏まえた職員・事業者向け勉強会の開催、協議体設置に向けた職員交換会における講演、関連事業の洗い出し(ヒアリング)などについて助言・提案を得るため、一般社団法人 全国老人給食協会の(東京)とアドバイサー業務委託契約を締結。

平成29年度に向けて  
・生活支援コーディネーターの増員  
・協議体の開催

4

生活支援サポーターの養成について

担い手となる人材を市民の中から育成することを目的として、「生活支援サポーター」の養成を実施。

これまでに、計5回の養成研修会を実施し、48人の生活支援サポーターが誕生。

年度	回数	開催月	修了者数
H27	3回	7月・11月・2月	27名
H28	2回	7月・11月	21名
計	5回		48名

このほか、生活支援サポーターに対するフォローアップ研修を実施。

開催時期	内容	参加者
H28.11	終活講座(エンディングノートの手書き方)	18名
H29.2	消防による成急手当講習	
H29.3	先進地視察	

今後の課題

- ・担い手(受講者)の確保
- ・生活支援サポーターの活動機会の確保
- ・サポーターの在り方(担い手から地域リーダーへ)

5

### 生活支援ボランティア養成研修の内容

日時	内容
11月21日(月) 10:00～12:00	・介護保険制度 ・生活支援ボランティア
11月21日(月) 13:00～15:00	・高齢者の病気 ・緊急時対応
11月22日(火) 10:00～12:00	・訪問ワナー
11月22日(火) 13:00～15:00	・訪問Q&A(グループワーク) ・修3式
11月26日(土)	・実習(市内のサービス)



実習  
みんなで作るゲームなど  
で利用者と交流

訪問について00&A(グループワーク)  
修3式、サポーター登録

訪問ワナー  
介護の基礎知識  
(履1式、履2の体験)

6

### 生活支援コーデイネーターの活動



廃業した喫茶店を借り上げ、ボランティアによる「憩いの場」として運営。



ボランティアの皆さんの笑顔が、  
暖かい空間を演出しています。

なないろカフェ/パルパは地域の

- ★ つどい場
- ★ 食事処
- ★ 馴染の顔
- ★ 業歩のコーヒー
- ★ 困りごとの相談
- ★ 介護予防教室

など多機能なカフェです。皆さん、ゆったりした時間を過ごしています。



折り紙教室、編み物教室、体操教室などの  
介護予防教室を定期開催しています。



本日はハイオールの生演奏が楽しみ

7

### 協議体の開催に向けて

#### ○協議体設置に向けた意見交換会

開催日	内容
平成27年2月17日	制度説明 協議体設置に向けた流れなど
平成27年9月11日	市役所関係各課・事業者から、所管事業の紹介
平成28年3月14日	関連事業ヒアリング結果及び体制整備に関する提案(ワドハイザー) 協議体設置委組について

【参加者】 市役所  
事業者  
長寿課、福祉課、たつせがある課  
社会福祉協議会、地域包括支援センター、社会福祉法人  
シルバー人材センター、消費生活協同組合 など

#### ○協議体 3つの協議体として研究会等の設置が可能

- ・ 全体会議 → 市全体の生活支援サービスについての基盤整備を検討
- ・ 専門部会代議者会議 → 生活支援サービス等の種別ごとに生活支援サービスについての基盤整備を検討
- ・ 地区代表者会議 → 市内の地域ごとに生活支援サービスの基盤整備について検討

#### ○今後の課題

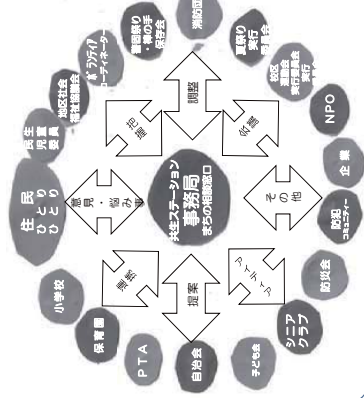
要綱上の協議体を設置したが、具体的にどのように開催していくか。  
既存の組織や会議は活用できないか。

8

### 協議体の開催に向けて

- ・ 身近な福祉を自分達で考える「地区社会福祉協議会」 小学校区単位で設置(3/4設置)
- ・ 福祉ではなく市民協働部門が手掛ける「まちづくり協議会」 小学校区単位で設置(0/6設置)

西小学校区まちづくり協議会のイメージ



地域での住民同士の交流が減少している現状の中、子どもや高齢者のこと、地域のことを行政や専門家に任せっぱなしにしておいてはならない。このような時代だからこそ一度立ち止まり、私たちのまちに目を向けてひとりどりが考えていくことが大切ではないでしょうか。そして、「まち」のことを知るために、考えるために「皆が集える場」が必要だと考えました。

それが「まちづくり協議会」です。

※ K2.4 設置予定  
(H27.2～設立準備)

9

生活支援体制整備アドバイザーについて

生活支援体制整備を円滑に進めるためには、庁内関係課及び事業者の協力が不可欠であることから、アドバイザーの協力を得て、  
 ①名簿、事業者に対するヒアリングを行い、関連しそうな事業の洗い出し  
 ②同時に、生活支援体制整備事業についての理解を深めてもらうための勉強会を実施。

①ヒアリング結果

	生活支援 WG	介護支援 WG	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	連携先 WG (連携先)
名称	生活支援 WG	介護支援 WG	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	連携先 WG (連携先)
目的	生活支援 WG	介護支援 WG	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	連携先 WG (連携先)
メンバー	生活支援 WG	介護支援 WG	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	連携先 WG (連携先)
連絡先	生活支援 WG	介護支援 WG	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	連携先 WG (連携先)

生活支援体制整備アドバイザーについて

②勉強会開催状況

開催月	内容	参加者
第1回	①アドバイザーによる事業説明 ②外部講師による講義 「地域包括ケアの方向性と課題」	職員 20名
第2回	①アドバイザーによる講義 「食のある地域の拠点づくりに取り組みませんか」 ②グループワーク	職員 16名 事業者 15名
第3回	①グループワーク	職員 事業者

生活支援体制整備アドバイザーについて

生活支援体制整備アドバイザーについて

	生活支援 WG	介護支援 WG	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	連携先 WG (連携先)
名称	生活支援 WG	介護支援 WG	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	連携先 WG (連携先)
目的	生活支援 WG	介護支援 WG	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	連携先 WG (連携先)
メンバー	生活支援 WG	介護支援 WG	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	連携先 WG (連携先)
連絡先	生活支援 WG	介護支援 WG	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	介護支援 WG (連携先)	連携先 WG (連携先)





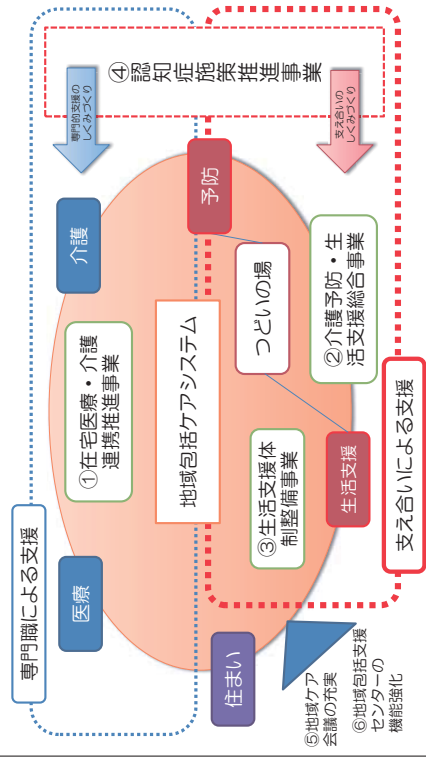
## 日進市における生活支援体制整備事業について

平成29年1月25日  
日進市地域福祉課

1



## 日進市の地域包括ケアシステム



2



## 高齢者の生活支援ニーズ



### 高齢者の生活をうまく営む「5つのこと」

「安心」の確保	自分のことを気にかけてくれている人がいる	最も重要な基盤
「日常的な家事」	買い物や掃除、調理、布団干し等	
「外出」	通院や買い物	
「交流」	友人や知人とのコミュニケーション	
「非日常的な家事」	蛍光灯等の交換等、日常生活で不意に起こること	

※生活支援ニーズは、上記5つのことのとれかが上手がなくなっていく時に生じる。



見守り活動・サービス「安心」の確保につながるために、「早期発見」「危機管理」「情報支援」の要素を意識した取り組みが必要

出典：生活支援コーディネーター養成研修教材（愛知県）

3



## 介護予防・日常生活支援総合事業と生活支援体制整備事業

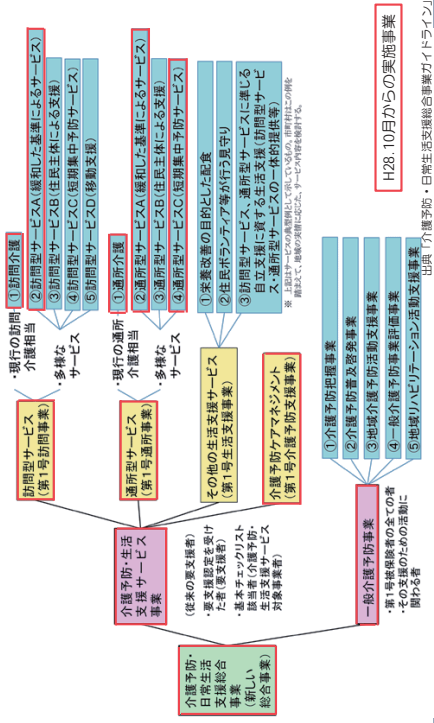
＜図表8：ガイドラインの種類から考える「サービスづくり」と「地域づくり」＞



出典：新しい総合事業の移行戦略（三麗UIF・リサーチ＆コンサルティング）

4

# 介護予防・日常生活支援総合事業について



5

# 生活支援体制整備事業について

## (1) 生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)の配置

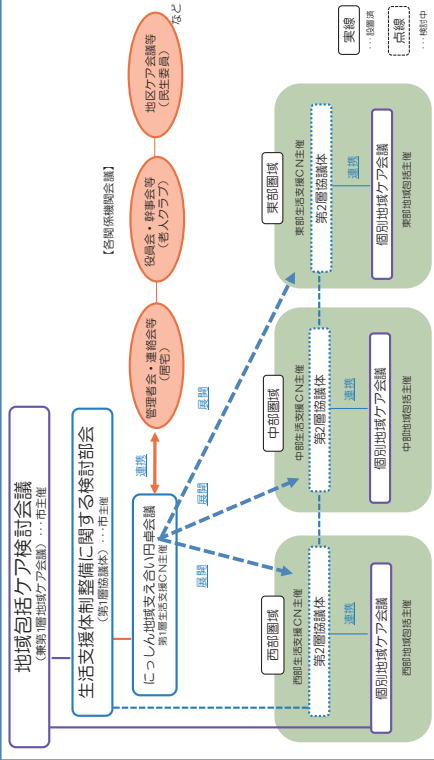
- 第1層生活支援コーディネーター**  
市全域への生活支援サービスの開発・普及や基盤整備を推進する役割  
【時期】平成28年7月～  
【団体】日連 市民社会福祉協議会(天野、中川)
- 第2層生活支援コーディネーター**  
各日常生活圏域の生活支援サービス提供団体間の連携協力を促進する役割  
【団体】中部地区：(船はじめの一歩(栗川))  
西部地区：(特非)介護サービスくら(村居)  
池谷地区：(協)アンジュ(池谷)  
【時期】平成28年10月～

## (2) 協働体の設置

- 第1層協働体**(地域包括ケア検討会議の部会として設置予定)  
【役割】市全域でのサービス・資源の開発や基盤整備  
【時期】平成29年11月31日(予定)  
※にっしん地域支え合い円卓会議も継続。
- 第2層協働体**  
【役割】サービスを提供するための日常的な連携や調整  
【時期】検討中

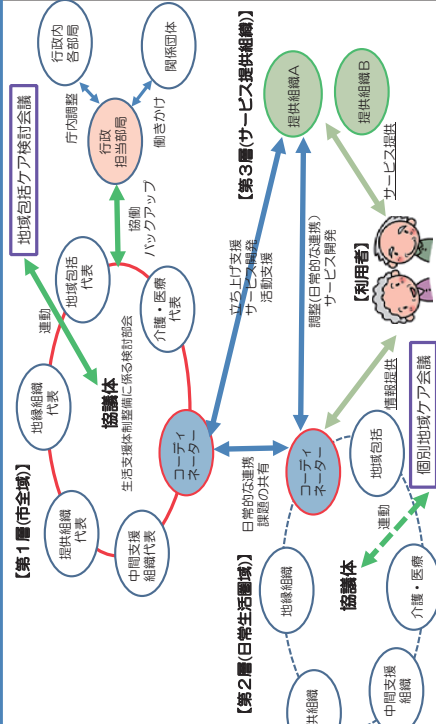
6

# 生活支援体制整備事業について(検討組織等)



7

# 生活支援体制整備事業について(検討組織等)



8



## 生活支援コーディネーターの取組みについて



### (1) 資源開発

- 生活支援サポーター養成講座（第1層）
- 訪問型サービスAの従事者資格となる養成研修として、指定事業所の従事者等を対象に開催。  
【日程】平成28年9月26日(月)・28日(水)2日間研修 ※第2回講座をH29.3月に予定
- 【受講者】先
- 【内容】①介護予防・日常生生活支援総合事業について ②権利擁護と守秘義務について  
③生活支援活動の心得について ④高齢者の心身の特性と暮らしについて  
⑤利用者への接し方について ⑥生活支援と家事援助の技術について  
※受講者のフォローアップとして別に現場研修（デイサービス）及び認知症サポーター養成講座を実施。

### (2) ネットワーク構築

- 生活支援コーディネーター定例会（第1層・第2層）
- 地域包括支援センター定例会参加（第1層）
- 居宅介護支援事業所管理者会、民生委員・民生児童委員役員会等参加
- にっしん幸せまちづくりプラン行政区域地域座談会参加（第1層・第2層）※

### (3) 地域包括支援センター主催による個別地域ケア会議への参加（第1層・第2層）

### (4) 協議体の設置・検討

- 生活支援本部座談会に係る検討部会の開催（第1層）：平成29年1月31日(予定)
- にっしん地域支え合い円卓会議の開催（第1層）※：平成29年1月18日

9



## 各行政区へのアプローチについて



### (1) にっしん幸せまちづくりプラン行政区域地域座談会

各行政区（19区）を対象に、高齢化背景を踏まえた地域づくりについて座談会を実施。

- ①内容：「にっしん幸せまちづくりプラン（地域福祉計画・地域福祉活動計画）について」  
「2025年を目標とした地域における支え合いについて」

- ・高齢化の進展について
- ・地域における生活支援について
- ・地域における認知症支援について

「わたしのまちの支え合い（GW）」

- ②日程：平成28年11月7日～同年12月27日
- ③参加者：236名

行政：日進市地球福祉課、日進市社会福祉協議会  
生活支援コーディネーター（管轄）  
地域包括支援センター（管轄）  
生活支援コーディネーター（第1層・管轄第2層）  
行政区：区長、自治会長、民生委員、老人クラブ役員等

### (2) にっしん地域支え合い円卓会議

地域関係者を中心に、高齢化背景を踏まえた地域づくりについて勉強会を開催。

- ①内容：「地域生活支援の在り方について（講演）」

講師：鶴山芳子氏（公益財団法人きやわか福祉財団理事）

- ②日程：平成29年1月18日 ③参加者：〇〇名

人口：60,761人<sup>(H29.1.現在)</sup>

高齢者人口：10,309人

高齢化率：16.97%

面積：32.11Km<sup>2</sup>

主要産業：製造業(50%)

気候：平均気温16℃



## みよし市の概要

平成28年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業 研修会  
食を通じた生活支援サービスの推進と高齢者の地域参加をすすめるために

みよし市長寿介護課  
社会福祉法人みよし市社会福祉協議会

### みよし市の相談支援体制(現在)



### みよし市の相談支援体制 (H29.4月から)



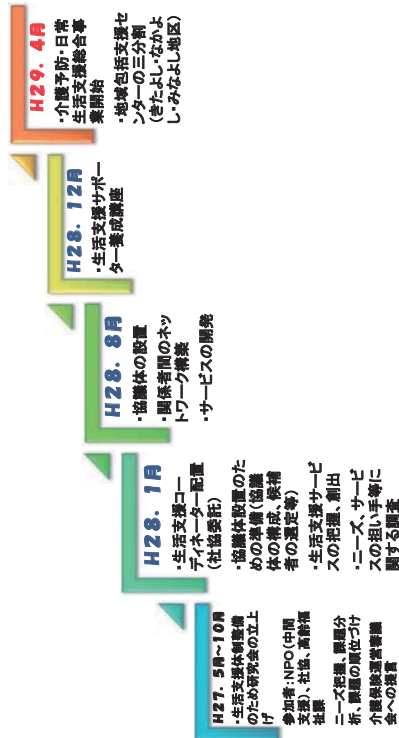
### みよし市の地域資源

- ・ 包括支援センター 1か所
- ・ 社会福祉協議会 1か所
- ・ シルバー人材センター 1か所
- ・ 老人クラブ 23地区 3,632名
- ・ 老人憩いの家 12か所
- ・ ボランティア団体 72団体  
(うち高齢福祉に関する支援団体なし)
- ・ 医療機関 26機関

### みよし市の地域資源

- ・ 特別養護老人ホーム 2か所
- ・ 老人保健施設 1か所
- ・ ケアハウス 1か所
- ・ 有料老人ホーム 4か所
- ・ 訪問介護 5か所
- ・ 通所介護 12か所

## スケジュール



## 生活支援体制整備事業目的

単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症の高齢者が増加する中、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要となる様々な主体による生活支援サービスの提供体制を構築するため、支援ニーズとサービスのコーディネート機能を担い、サービスを提供する事業主体と連携して支援体制の充実・強化を図ることを目的とします。

## 経緯

- ・みよし市では、平成27年5月から生活支援サービス構築研究会を発足し、第6期高齢者福祉計画兼介護保険事業計画の策定にあたっての基礎資料としてのアンケートを基に、高齢者の生活支援についての課題やニーズを把握・分析し、既存の地域資源の整理・確認をし、市の課題の順位付けを行った。
- ・生活支援サービス構築研究会より提出された優先して取り組む課題として次のとおり提示された。

## 協議体での検討内容

### 市の状況について（第6期高齢者福祉計画より）

#### ひとり暮らしや高齢者夫婦への支援

- ・日中独居(7割を超える)や老々介護が多い。
- ・家族や友人以外の相談相手がない(約4割)

#### 心身に対するケアの支援

- ・心身が疲労している方(3割強)
- ・外出減が2割、うち半数が足腰に痛みあり
- ・通院している方(7割超)
- ・買い物週1回未満(1割超)
- ・移動手段が徒歩(4割近く)



## 研究会での検討内容

- サービスの内容や利用方法等の分かりやすい情報支援**
- ・サービスを利用していない認定者(45%)
  - ・グループホーム等、サービス・施設のイメージがつかめていない人も多い。
  - ・介護介助が必要だが受けていない状況あるのでは？
- 元気な高齢者の社会参加の機会づくり**
- ・趣味や生きがいづくりの支援の希望割合高い(女性)
  - ・身近な地域活動、老人クラブ活動、スポーツ活動の充実の希望割合が高い(男性)

## 研究会での検討内容

### 課題について

- ① 新しい総合事業の全体的な仕組みをどうつくるか。
- ② 高齢者の状況を把握し、解決へとつなぐ相談事業
- ③ 必要なサポートを実施できる生活支援サービスの充実とニーズとのマッチング
- ④ ボランティア活動・地縁組織が、介護予防や生活支援サービス等で力を発揮して、地域が支えあっている環境づくり
- ⑤ 居場所づくりの担い手／リーダーの発掘・確保・育成

59

## 協議体設置に向けて (平成28年1月～)

構成員を決めるにあたり、現在ある社会資源の活用とメンバー構成のために、長寿介護課・福祉課・協働推進課・防災安全課・社会福祉協議会職員で事前協議を行った。



しかし

行政では、どの事業も他方優先ではなしがままらず、災害時の対応を交えたまちづくりはできなかった。だが、話の中で行政では多くのボランティアが活躍していることがわかった。

## 協議体設置に向けて

行政と共に活躍するボランティア団体及び福祉団体の調査をおこなった。⇒50ヶ所  
この50ヶ所から、構成員を14名抽出

種別	構成員
地縁組織	商工会
社会福祉法人	高齢者施設、障がい者施設
NPO法人	高齢者事業所、障がい者事業所
協働組合	農業協働組合
民間企業	接骨院
ボランティア団体等	ボランティア連絡協議会
多様なサービス提供主体等	ヘルスパートナー、老人クラブ連合会、シルバー人材センター、在宅介護支援センター(3ヶ所)

60

## 協議体

- 構成員の中から代表者は作らず、平等な立場で検討
- 課題を「居場所」という観点から協議・検討



## 生活支援サポーター養成講座

- 市民の主体性に運営される新たな生活支援の担い手として生活支援サポーターを養成
- 参加者 34名
- 感想では、自発的に活動をしたいたいという人は少なかったが、お手伝いならすぐにもしたい



61

## 対象者の位置確認

- 市内介護保険認定区分要支援者のサービス利用状況を地図に表記



## マッチング



62

## 東郷町「食」の自立支援事業（配食事業）の概要

【東郷町概要】(H28.3.31)  
面積：18.03 km<sup>2</sup>  
人口：42,878人（65歳以上人口9,286人）  
          (75歳以上人口3,784人)

### ＜対象者＞

身体等が虚弱で日常生活に支障がある65歳以上のひとり暮らしの高齢者及び高齢者のみの世帯

### ＜配食日＞

月～日（週7日）以内で希望する日の夕食

### ＜金額＞

6,700円（内、利用者負担3000円）

### ＜特別食＞

さざみ食、減塩食、糖尿食、糖尿病食、腎臓病食などに対応

### ＜安否確認＞

業者が手渡すことによる安否確認

### ＜配食業者＞

民間配食業者4社と委託契約。配食日や対応特別食に違いがあり、利用者が業者を選択できる。

### ＜事業運営状況＞

- 年間延べ利用者数  
1,373人（平成27年度）
- 年間延べ配食数  
26,006食（平成27年度）
- 予算関係

介護保険の地域支援事業として実施。利用者の増加による事業費の負担が大きく、他の事業を圧迫してしまっている。



## 東郷町 地域サロン等への助成

### ＜協働によるまちづくり提案事業＞

町が定めたテーマに関連した企画や取組で、具体的な効果や成果が期待できるものに対して町が委託料を交付する事業

【担当】

東郷町役場 生活部 くらし協働課

【申込方法】

事前協議の上、応募書類を担当まで提出。事業が認められれば担当と委託契約を行う。

【助成額】

区分	内訳
事業の初年度	150,000円以内
// の2年目	100,000円以内
// の3年目	50,000円以内

【対象経費】

人件費、報償費、旅費、消耗品費、役務費、使用料・賃借料、その他

### ＜地域福祉活動助成金（ふれあいせいざサロン）＞

非営利目的である地域の住民組織に対して、定額助成を行う事業。

【担当】

東郷町社会福祉協議会

【申込方法】

申請書を担当まで提出。事業が認められれば助成金を交付する。

【助成額】

対象団体	助成金額
地区公民館等で行う団体	20,000円
会員の自宅で行う団体	5,000円
役場等で行う団体	10,000円
他の補助金を受けている団体	10,000円

### ＜高齢者思い出しの語り場づくり支援事業＞

地域団体が自主的に運営する地域福祉活動に対して、対象経費を補助する事業。

【担当】

東郷町役場 福祉部 長寿介護課

【申し込み方法】

申請書を担当まで提出。事業が認められれば助成金を交付する。

【助成額】

対象経費	上限額
会場使用料	60,000円
備償保険料	30,000円

町が把握している高齢者サロンの状況

地区	団体名	活動場所	活動曜日等
諸輪	JAさわやか東郷茶話会	諸輪公民館	毎月第3火曜日(8月と1月は除く) 9:30~11:30 曜日変更もあり
	郷の会	諸輪公民館	毎月5日 8:30~11:30
和合	JAさわやか東郷茶話会	和合公民館	毎月第3金曜日(8月と1月は除く) 9:30~11:30
傍元本	JAさわやか東郷茶話会	傍元本公民館	毎月1回(8月と1月は除く) 9:30~11:30
祐椿寺	JAさわやか東郷茶話会	祐椿寺公民館	毎月第2月曜日(8月と1月は除く) 9:30~11:30
	JAさわやか東郷茶話会	部田コミュニティセンター	毎月第3月曜日(8月と1月は除く) 9:30~11:30
白土	白土健康づくり	白土コミュニティセンター	毎月第2・第4金曜日 10:00~11:30
	白エグランパ	白土コミュニティセンター	月1回
	白土ペンポン同好会	西部児童館	月9回
	白エガンキクラブ	町民グラウンド	月5回
西白土	なかよし	白土コミュニティセンター	月3回
	笑って楽しく	西白土ふれあいセンター	毎週金曜日 13:30~15:30
	和話の会	和合ヶ丘集会所	毎月第2木曜日 10:00~13:00
和合ヶ丘	サロンひだまり	和合ヶ丘1-2-10 育英学院	毎週火曜日 10:00~15:00
	ふらっとカフェ	和合ヶ丘1-3-9	毎週金曜日 13:00~16:00
	認知症を地帯でまえる御褒団 いざいさカフェ	ギャラリ-悠遊 1階	毎月第2・第4火曜日 11:00~14:00
	さわやかゆうゆう	和合ヶ丘悠遊	毎月第1・第3火曜日 11:00~14:00
諸輪住宅	諸輪住宅茶話会	諸輪住宅集会所	月6回
白鳥	いまいき「笑い」体操教室	白鳥コミュニティセンター	毎月第1・3木曜日 10:00~12:00
	いざいさ郷の会	白鳥コミュニティセンター	毎月第1金曜日 14:00~15:30
御岳	遊心ひろば	御岳コミュニティセンター	毎月第2火曜日 13:30~15:30
	おしゃべり会	香木台第2コミュニティセン ター	毎月第1・第3水曜日 9:00~16:00
香木台	ときめきリメイク	香木台第2コミセン	毎月第2・第4水曜日 13:00~16:00
	健康づくり体操	北山台コミュニティセンター	月1回 毎月第4火曜日 9:30~11:00
押草団地	おしくさサロン	押草団地集会所	偶数月第1木曜日 13:30~15:30
	JAさわやか東郷茶話会	部田山コミュニティセンター	毎月第4金曜日(8月と1月は除く) 9:30~11:30
部田山	西山フォークダンス教室	部田山コミュニティセンター	毎月第1・3火曜日 13:30~15:30

IV ”食”をテーマに  
生活支援サービス推進のノウハウについてグループワーク

どうしたら新しいボランティアが参加できるのか  
- 協議体メンバーで考えよう -

講師  
清水 洋行 さん 千葉大学文学部 教授

食を通じた生活支援サービスの推進と  
高齢者の地域サービスをすすめるために  
どうしたら新しいボランティアが参加できるのか

#### 講義Ⅳの流れ

13:30～14:00 ガイダンス

「ボランティア」に参加してほしい人たちの理解から活動を考える  
:食を通じた活動の「価値」とは

14:00～グループ演習

食を通じた生活支援の活動の価値を確認して、新たなサービス  
(活動の場)を創出する方法について考えてみよう。

2

69

#### はじめに:活動への多様な関わり方

- 「食を通じた生活支援サービスの推進」には、担い手づくりが必要です。
- 担い手(地域参加・社会参加のかたち)には多様なかたちがあります。
  - 無償ボランティア
  - 有償ボランティア
  - パート・アルバイト
  - 職員
  - 担い手
- 多様な関わり方ができることが、市民活動の強みです。

3

#### はじめに:役割の多様なかたち

- サービスの種類によって必要な役割は異なります。
- それぞれの活動で、いろいろな人が、いろいろな役割を通じて活動に関われるようにしています。
- 【活動】
  - 調理
  - 配達
  - 会食・サロン
- 【役割】
  - 調理、盛り付け、洗浄、献立作り、コーディネート
  - 運転
  - 配達、見守り、お手紙づくり、コーディネート
  - 話し相手、プログラム実施、調理...
- 役割を小さく切り分けることができ、その人の体力や志向に応じていろいろな人が参加できます。

4

70



### 講義Ⅲのポイント

- (潜在的な)ボランティアとは誰か、について理解する
- ボランティアの理解にもとづいて、提供する活動を設計する
- ボランティアが活動に参加するためのコスト・障壁を理解する
- 自分たちが提供する価値とは何か、について理解する
- ボランティアに対して、自分たちの価値をどのように伝えるか理解する
- 価値を提供することを通して、ボランティアを獲得する
- 地域とのつながり(ネットワーク)を考える
- 地域とのつながりを通して、ボランティアを確保する

5

### ボランティアの参加・活動の動機を考える

- 外発的動機：他人や社会のために
- 内発的動機：自分のために
- 7つの動機モデル
  - ① 「自分探し」動機
  - ② 「利他心」動機
  - ③ 「理念の実現」動機
  - ④ 「自己成長と技術習得・発揮」動機
  - ⑤ 「レクリエーション」動機
  - ⑥ 「社会適応」動機
  - ⑦ 「テーマや対象への共感」動機  
(桜井政成)

6

困っている人の手助けがしたいから	社会への貢献
地域社会をよりよくしたいから	
社会への不正や矛盾に怒りを感じるから	
社会への問題解決に知識・技術・学問を役立てたい	
新しい人と出会いたいから	
自分の経験や技術などを生かしたいから	自分の発見
新しく感動できる体験がしたいから	
自分のやりたいことを発見したいから	
授業や仕事として位置づけられているから	
大学や職場で活動を奨励しているから	キャリアづくり
単位取得や資格取得のために必要だから	
進学・就職・昇進に有利にしたいから	
自分自身を見失っているような不安や喪失感から	
自分自身の生き方に自信がもてないから	
不安な気持ちや傷ついた心を癒したいから	癒しセラピー
人とのコミュニケーションや集団での生活に自信がもてないから	

出典：興沼寛著『希望への力』(2003年、光生館)より

7

### 対象を具体化する方法(1) 対象者をイメージする

#### ペルソナ(Persona)

#### 対象者の具体的イメージ

- 氏名
- 年齢・職業・家族構成
- 居住地
- ライフスタイル、価値観、趣味など
- イメージされた対象者がとりそうな行動にもとづいて、モノ・サービスを企画する



赤堤はるおさん  
66歳、昨年、企業を定年後、あまり出かけたくなかった。仙台市郊外の一軒家で妻と二人暮らし。趣味はとくにない。家事は妻任せ。



上用賀なつさん  
60歳、主婦、東京近郊のマンションに夫と二人暮らし。子どもが独立し、自由な時間ができた。これから、自分の時間を楽しみたい。

## 対象を具体化する方方法(2) “まとまり”として考える

参加ニーズや選好の異なるグループ(まとまり)を特定し、その特徴を明らかにする(マーケティングの考え方を参考に)

- 地域の特徴や変化(地理的変数、人口動態変数)
  - 人口、人口密度、人口の変化
  - 年齢、性別、所得、世帯規模、家族のライフサイクル(子育て中など)、仕事、教育水準など
- 地域住民の志向性や行動パターン(心理的変数、行動変数)
  - ライフスタイル(〇〇志向)、パーソナリティ(〇〇的)、価値観など
  - 利用場面、使用量・使用頻度、ロイヤルティの程度、準備段階、製品・サービスに対する態度など

9

## 事例調査から(1) 団体の工夫・配慮

- ハードル(敷居)の高い活動
  - 頻度が高い、時間が長い、技術・熟練、体力
- 参加し易い活動
  - 楽しみ・生きがいのある場(NPO法人 支え合う会みのもり/東京都稲城市)
  - 自己実現の場 (NPO法人 いぶりたすけ愛/北海道登別市)

10

73

## NPO法人 支え合う会みのもり(東京都稲城市)

- 1983年設立
- 配食サービス
- 会食会
- ミニ・デイ「たまりば」
- 製本たまり場
- コミュニティ・カフェ  
ほか



11

## NPO法人 いぶりたすけ愛(北海道登別市)

- 1995設立
- グループリビング
- 福祉有償運送サービス(移送サービス)
- 配食サービス
- 会食会
- コミュニティ・カフェ
- 訪問家事援助
- とまかな



12

74

## 事例調査から(2) 人材募集の場

- 活動団体による取り組み
  - 口コミ
  - パンフレットの配布、掲示
  - 活動紹介
  - 講座・学習会
  - ボランティア体験の受け入れ
- 他の団体・機関による取り組み
  - 社会福祉協議会
  - 生涯学習、社会教育
  - 市民活動支援センター

13

## 事例調査から(3) 地域のネットワーク

- 自治会どうしのつながり
  - 地域食堂(NPO法人 ゆめみ〜る/北海道登別市)
- 地域と活動との橋渡し
  - 市との協働事業によるモデルハウス(実家の茶の間/新潟市)
  - 市との協働事業による連続講座「茶の間の学校/新潟市」
- 活動団体のネットワーク
  - 食事サービスネットワークみやぎ(仙台市)
  - 「NPO福祉社と宮城」と「ほっとサロン将監」(仙台市)

14

75

● 台所以外ではエプロンをしない。

● 座席は固定しない。

● 時間厳守。(始める時間、終了の時間を守る。時間内は出入り自由。)

● 配膳、下膳、戻そうじ、除雪などを含めて、出来る人が自発的に行う。(当番が全てやるのではない。)

河田珠子著「河田方式「地域の茶の間」ガイドブック」(2016年)より抜粋



河田節子は茶間に参加し、誰もが居るようしてゆく

15

## 地域に支え合いの拠点を「茶の間の学校」が開校

6月3日、石山地区公民館で「茶の間の学校」が開校しました。

これは「地域の茶の間」＝囲み＝を立ち上げる人材をさらに増やそうと実施するもの。6月3日～7月8日に全6回の講座を、地域の茶の間の創設者・河田珠子さんが代表を務める団体「実家の茶の間」と市が協働で行います。校長は実家の茶の間の運営委員である清水義晴さんが務めます。

当日は、清水さんや河田さんが茶の間の意義などを、エピソードを交えながら紹介。参加者52人は熱心に話を聞きながらメモを取っていました。

開校式で篠山市長は「地域づくりを実践している熱意とノウハウのある講師から茶の間のづくりを学んで、地域で実践してほしい。行政や地域が能力を挙げて、地域の新しい支え合いの仕組みづくりを新潟市全域で進めていきたい」と話しました。

「茶の間の学校」は秋にも開校する予定です。

▲地域の茶の間について…地域包括ケア推進課(☎025-226-1281)

▷茶の間の学校について…石山地区公民館(☎025-250-2930)

『市報にいがた』2016年6月19日 2573号

16

76

## 食事サービスネットワークみやぎ(仙台市)

- 1996年5月に5団体で結成
- 現在7団体が参加
- 月1回会議
- 調理講習会、施設見学、お弁当交流会、研修会(年1回)
- 献立表、レシピの交換
- 仙台市への要望ほか

17

## ほっとサロン将監(仙台市泉区)

(2015年6月～)

- NPO福祉ねっと宮城
- けやきグループ
- 市社協、区事務所
- 地区社協
- 地区老人憩の家運営委員会
- 地域包括支援センター
- 各町内会

- 毎週木曜
- 10時30分～14時30分



厚生労働省 平成 28 年度老人保健健康増進等事業  
「生涯現役社会の構築に向けた、高齢者の社会参加や健康生きがいづくりのあり方に関する調査研究事業」

77

## 演習1

「食を通じた生活支援サービス」が持っている「価値」を考えてみましょう。

- 新たに参加する人に伝えることができる良いところを探してみよう。
- ✓ 現在、参加している方は、自分たちが感じている価値をもう一度考えてみましょう。
- ✓ 現在、参加していない人は、「食を通じた活動」に対する自分自身が感じる価値やメリットを考えてみましょう。

19

## 演習2

皆さんがチームだとしたら、どうすればそのような価値がある「食を通じた生活支援の活動」を創ることができるでしょうか。

まずは「週1回の会食会」を創ることを考えてみましょう。

- 皆さんのできそうなことを考えてみましょう。
  - 現在の立場に応じて
  - 個人として
- ✓ 元気な高齢者に参加してもらうためにどのような工夫が必要でしょうか？
  - < 高齢者の中のどんな人たちに、どんな方法で働きかけますか？ >
- ✓ 人材育成はどのようにしますか？
- ✓ 場所はどのようなところをどのように確保したらいいでしょうか？
- ✓ 高齢ボランティアが長く参加できるためにはどのような工夫が必要でしょうか？<sup>20</sup>

78



# 食

# を通じた生活支援活動を 始めよう！ 参加してみよう！

## 一般社団法人 全国老人給食協力会

平成 28 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「生涯現役社会の構築に向けた、高齢者の社会参加や健康生きがいつくりのあり方に関する調査研究事業」の成果に基づき作成したものです。

### 1 高齢者の社会参加の意義

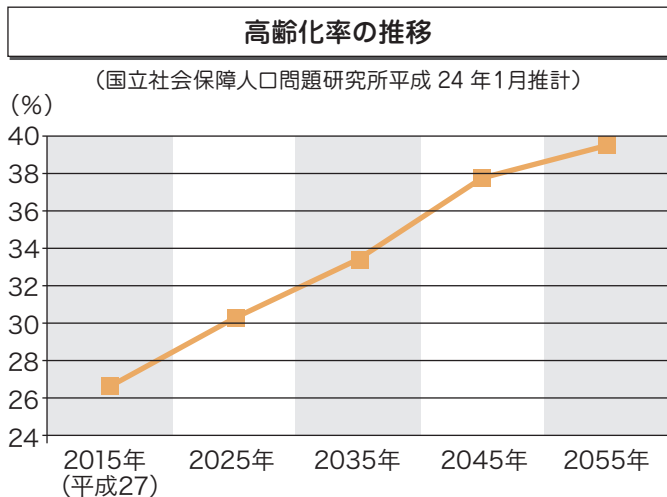
少子高齢化の進行によって、日本は世界のなかでも最も高齢化率（人口の中で高齢者が占める割合）が高い国となりました。2025（平成37）年には高齢化率は30%を越えると予想されています。今後、地域社会のなかで、高齢者が元気に活動することが高齢者自身の生活の面でも、多世代が暮らす地域の活性化のためにもたいへん重要です。

地域社会に関わりながら暮らしていくために、趣味やスポーツ、健康づくりなどの活動に参加することも一つの方法です。さらにもう一歩進ん

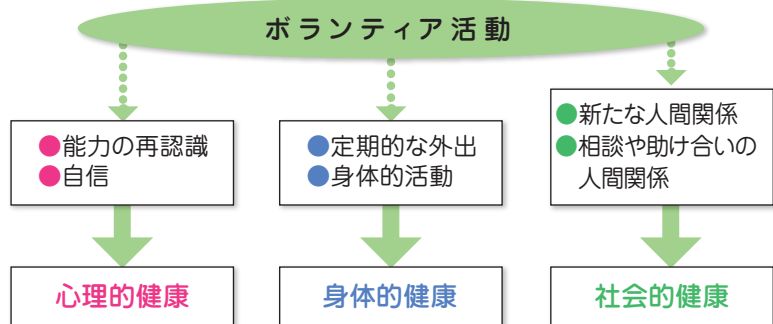
で、「人のために何かをする」ボランティア活動への参加は、自分自身にとっても健康を高める効果が期待

できます。

ボランティア活動への参加は身体面、心理面、社会面のそれぞれにおいてよい効果があるという研究が多く発表されています。新しい人間関係が作られる社会面の効果はもちろん、定期的な外出や活動は身体面の健康を促進します。さらに、心理面では、自分の持っている力を再確認できる機会となり、自信ややる気が高まるという効果が多数の研究で示されています。



### ボランティア活動は健康に効果がある



認知機能 抑うつ 運動習慣が改善という研究も



## 2 食を通じた生活支援の実際

食は人間の生活の根幹です。栄養の補給はもちろんですが、おいしさ、見た目の楽しさ、季節感などは食べる人の心を豊かにしてくれます。食事の場は、会話も弾み、新しい人間関係ができるきっかけができ、悩んでいること、困っていることを話したり相談したりする場ともなります。このようないろいろな価値をもつ食を通じた支援や居場所づくりが、ボランティア中心の活動によって全国で行われています。どの活動にも65歳以上の方が多く参加しています。70代後半～80代の方も参加できる活動です。

### 1 配食

調理した食事を支援が必要な人のお家まで配達する活動です。1回あたり10名分の活動から200名分以上の活動まで規模はさまざま、頻度も週1回から毎日までさまざまですが、ボランティアは自分の希望のペースに応じて参加しています。調理や配達の役割を担うボランティアが多いですが、盛り付け、洗浄、献立作り、食事に添える手紙を書く、調理の補助といったいろいろな役割もあり、広く参加できる活動です。



### 2 会食会(ミニデイサービス、サロンという名称の場合もあります)



登録しているメンバーが集まって、いっしょに食事をする会です。月に1回から週に5・6回まで頻度はいろいろです。規模は10～30名くらいのところが多いようです。食事だけでなく、体操、趣味の活動、講座などを行っている活動もあります。ボランティアの方は調理や話し相手などの役割を担っています。公共の場所を借りたり、自宅を使ったりして行われています。

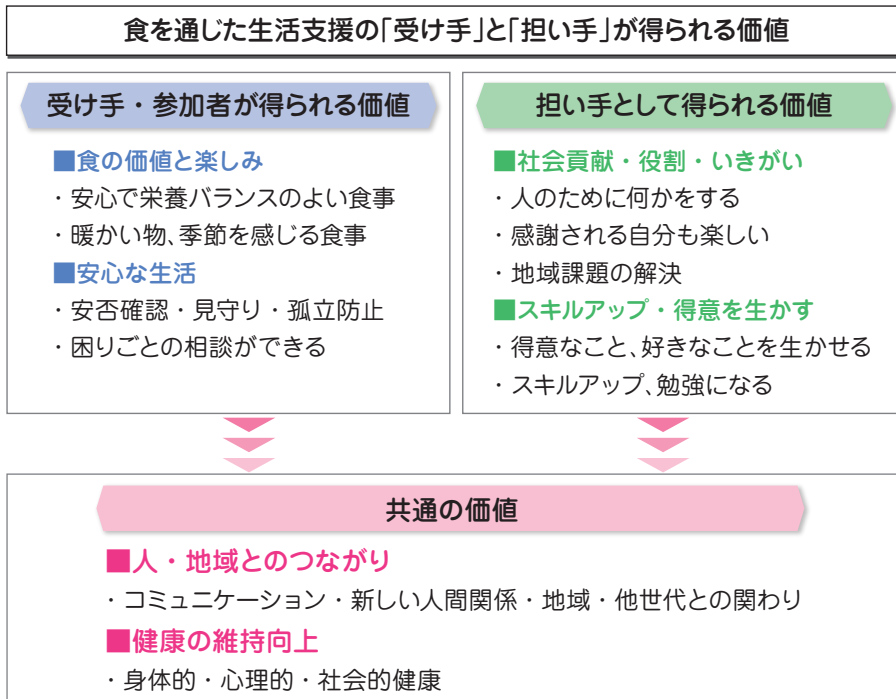
### 3 コミュニティカフェ・コミュニティレストラン

誰でも気軽に立ち寄れる場で食事や飲み物を提供する活動です。高齢者向けだけでなく、子どもが参加できる場も増えています。イベントや講座などを行っている活動もあります。1回あたりは10～30名程度で、週5・6回から月1回まで開催頻度はいろいろです。ボランティアは調理やフロアスタッフなどの役割を担っています。右の写真は、活動の1つとして、男性料理教室を行っているところです。



### 3 ボランティア活動を広げていくために

どんなにいい活動でも、その価値に共感してボランティアとして参加する人がいなければ続けることはできません。地域でボランティア活動を広げていくには、活動の価値を多くの人に伝えていく必要があります。

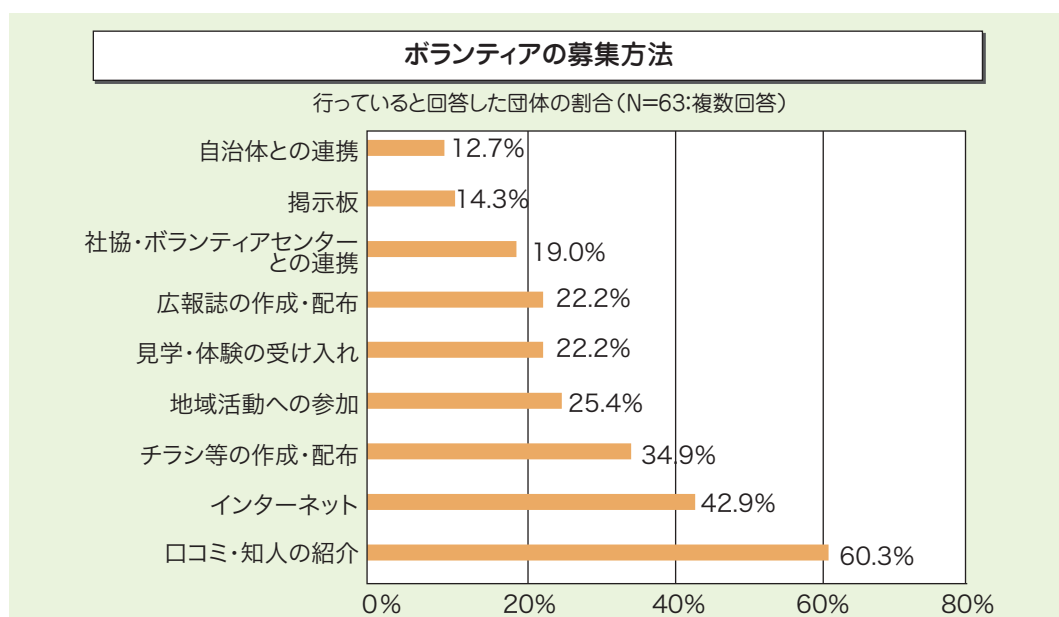


左の図は「食を通じた生活支援」にボランティア活動として参加する「価値」について、150名以上の人々がグループに分かれて話し合いをして、出し合った内容です。

皆さんも自分が参加したい活動の価値はどんなものか、考えたり話しあったりしてみてください。

ボランティア募集の多くは団体で、口コミ・知人の紹介で行われています。知っている人からの直接の誘いが、一番効果

があるという声も聞かれます。しかし、新しいボランティアが入らないと口コミの枠は広がりません。最近ではインターネットを使った広報も多くなってきました。Webページやブログに加え、フェイスブック、ツイッターなどの利用も広がっているようです。今後、地域で生活支援へのボランティア参加を広げていくには、地域で協働してボランティア活動の価値を伝えることで、参加希望者を募集し、個人の希望に沿った活動を紹介したり体験したりできるような取り組みが必要です。



## 4 ボランティア活動を長続きさせるために

せっかく始まったボランティアを長続きさせるためには、活動の運営に工夫が必要です。これまで活動を長く続けてきた団体は、参加したボランティアが長く活動を続けられるようにいろいろな工夫をしています。その取り組みの例を紹介します。

### ■活動が円滑にできるように希望や参加可能な活動に配慮し、学習機会を設ける

- ・ハードルの高さ(難易度)を変えたさまざまな役割を設け、個々のペースや希望に応じた活動に参加できるようにする
- ・ゆとりをもって活動できるように人数等を配慮する
- ・その人の身体状況に応じた作業ができるように配慮する(立ち仕事、重いものを持つ作業など)
- ・活動日については本人の希望を重視し、無理を言わない
- ・役割に応じて有償スタッフ・有償ボランティア・無償ボランティアを選べる
- ・活動に関係する内容(調理、運転、食品衛生など)を学べるようにする。
- ・関連する知識(認知症、救急救命、介護など)の理解を深める講座を受講できる

### ■モチベーションをあげるような働きかけを積極的にする

- ・継続年数に応じて表彰する
- ・広報紙等で紹介する
- ・感謝を積極的に伝える
- ・利用者からの感謝の声を伝える
- ・活動の目標・理念を共有する機会を定期的に作る

### ■経済的な負担をできる限り軽減する

- ・仕事に応じて、有償ボランティアとして採用する
- ・交通費、保険、ガソリン代といった必要経費の支払いを明確にする
- ・エプロン、マスク、帽子などの必要な物品は一括購入して配布する

### ■会議を行い、ボランティアの意見を反映する

- メンバーの意見を集約して運営責任者に伝える会議を開催する
  - ・ボランティアの意見を定期的に聞く
  - ・意見が言えるように配慮する(小さい単位で話し合いを行うなど)
- 意見を反映して、運営方針を決定する会議を行い、メンバーに伝える
  - ・現場から上げられた問題を定期的に検討して、必ず答えを返す

### ■親睦を深め、人間関係づくりに配慮する

- ・「お茶会」「食事会」「小旅行」「季節の懇親」などを行う
- ・都合や体調によって活動の間隔が空くときに連絡を絶やさない



一般社団法人 全国老人給食協力会

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀 6-19-21

TEL 03-5426-2547 FAX 03-5426-2548

<http://www.mow.jp/>

平成 28 年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

「生涯現役社会の構築に向けた、高齢者の社会参加や健康生きがいがづくりのあり方に関する調査研究事業」報告書

平成 29 年 3 月発行

内容照会先 一般社団法人全国老人給食協力会

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀 6-19-21

TEL 03-5426-2547 FAX 03-5426-2548

E-mail [infomow@mow.jp](mailto:infomow@mow.jp)

URL <http://www.mow.jp>